クボタトラクタ

取扱説明書

F-5809改

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

 注意マーク

 火気厳禁

 ディーゼル軽油

 燃料（残量）

 電圧計

 エンジン予熱

 エンジンオイル圧力

 エアークリーナ

 エンジン停止

 水温計

 ホーン

 方向指示器表示

 ハザードランプ

 パーキングスイッチ

 ライトスイッチ

 ヘッドライト（上向）

 作業灯

 油圧ブレーキオイル

 高速又は高

 低速又は低

 油圧補助コンシリンダ（縮み）

 油圧補助コンシリンダ（伸び）

 ＰＴＯ（切）

 ＰＴＯ（入）

 トランスミッションオイル圧力

 トランスミッションオイルフィルタ

 油水分離器

 バッテリ液面

 ワイパ

 シガライタ

 デフォッガ

は じ め に

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安 全 第 一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただきました購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

33760-9971-2

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警　告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注　意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重　要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補　足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明はM1-85を基本とし，M1-85と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- インテキャブスーパーデラックス付き ……… “Q2仕様”
- インテキャブデラックス付き ………………… “Q1仕様”
“SQ1仕様”
- インテキャブカスタム付き …………………… “Q仕様”
- 安全フレーム付き ……………………………… “ROPS仕様”
- 電子シャトル付き ……………………………… “ES仕様“
- デュアルスピード付き ………………………… “D仕様”
- 倍速ターン付き ………………………………… “B仕様”
- 前輪駆動付き …………………………………… “4WD仕様”
- モンローマチック付き
（スーパードラフト付き含む） ………………… “M仕様”
- ターフタイヤ付き ……………………………… “ターフ仕様”
- 前後輪アジャスタブルトレッド付き ………… “AT仕様”

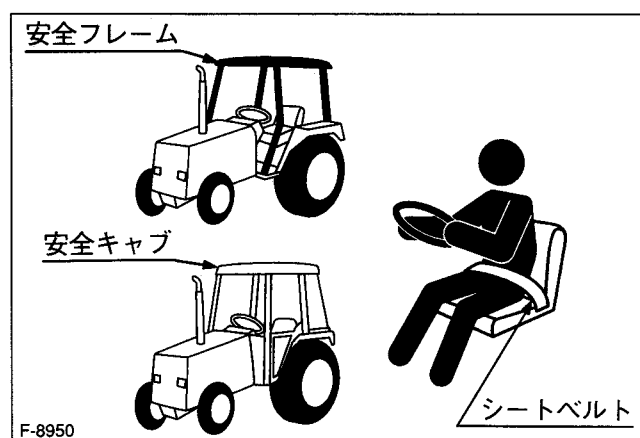
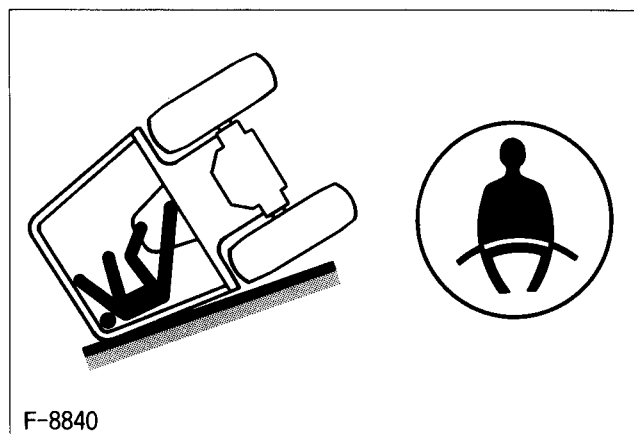
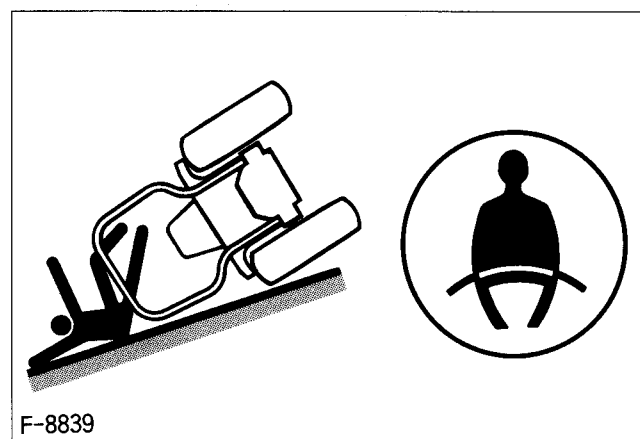
目　次

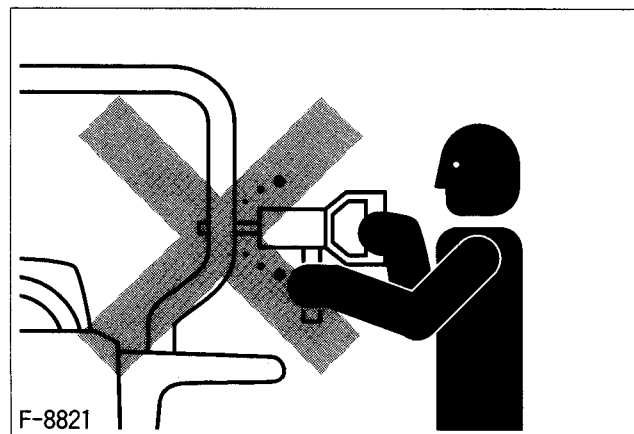
⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全キャブ，安全フレームについて

安全キャブ，安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

(1)運転時は安全キャブ又は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。

(2)安全フレームを取外して運転しないでください。

(3)安全キャブ又は安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

安全に作業するために

2．運転前に

(1)トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある▲表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。

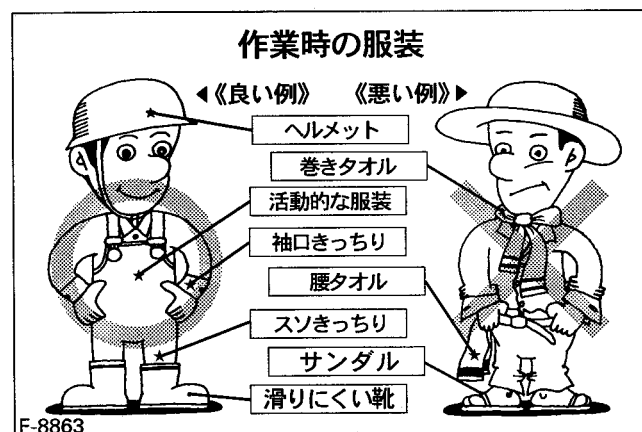
(2)トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。

(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

F-8822

(4)飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

(5)ダブダブやかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。

F-8863

(6)トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

(7)安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は **“トラクタの簡単な手入れと処置”** の章参照)

(8)トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

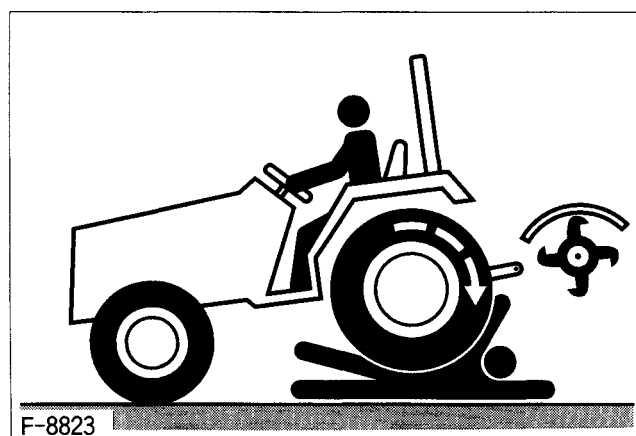
3．始動時に

(1)エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やＰＴＯ変速レバーが **"中立"** かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
　ＰＴＯクラッチコントロールレバーも **"OFF"**（切）にしてください。

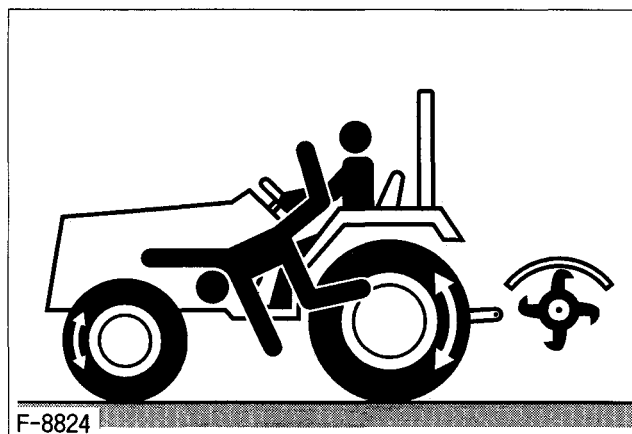
(2)地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
トラクタが突然動き出すおそれがあります。

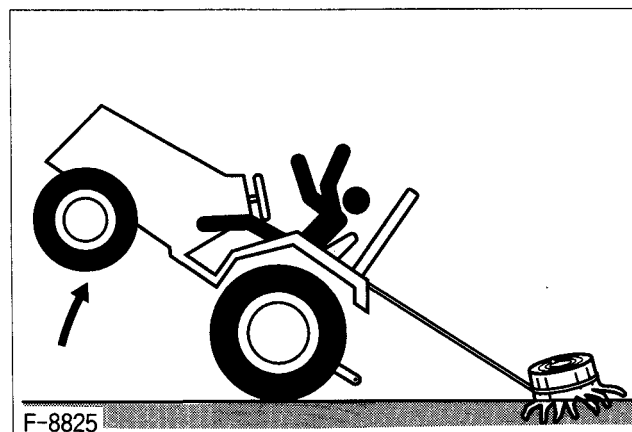
F-8861

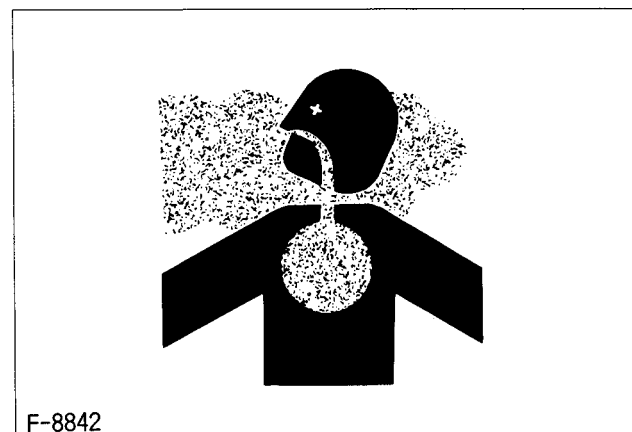
(3)トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。又，キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

F-8823

4．運転時に

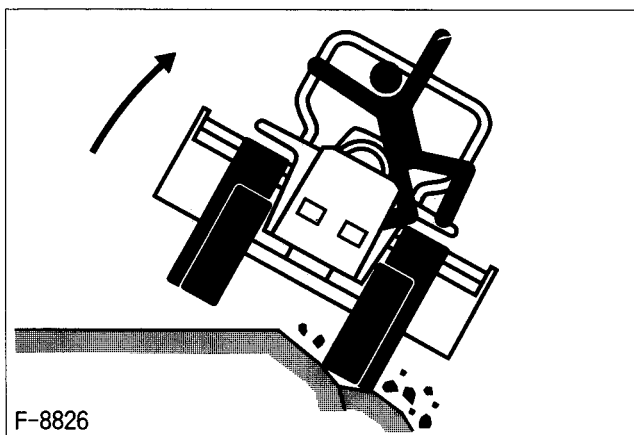
(1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。

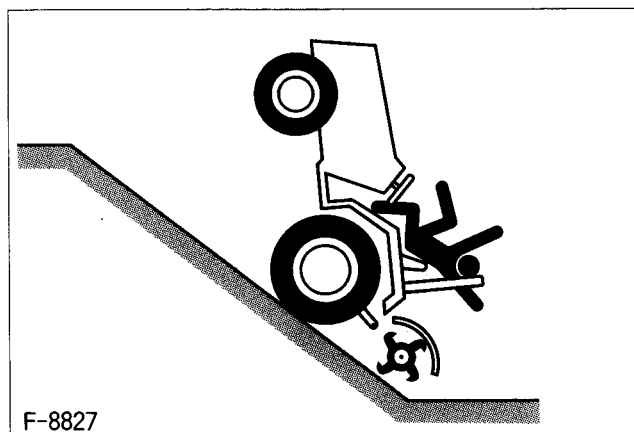
F-8824

(2)けん引作業には，けん引ヒッチを用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。

F-8825

(3)換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

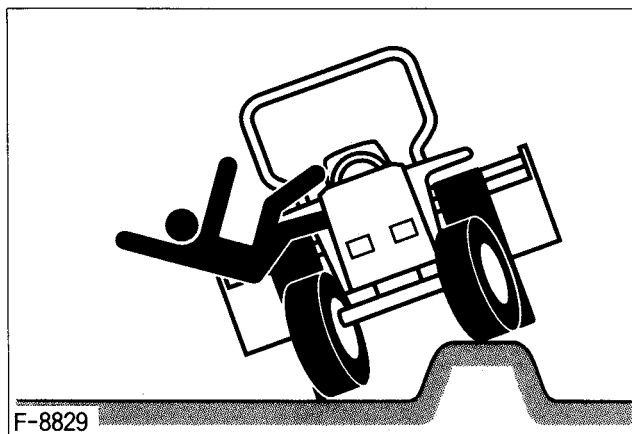
F-8842

安全に作業するために

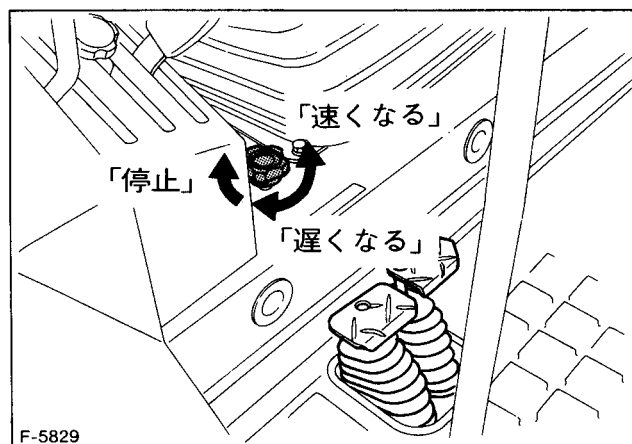
(4)溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。

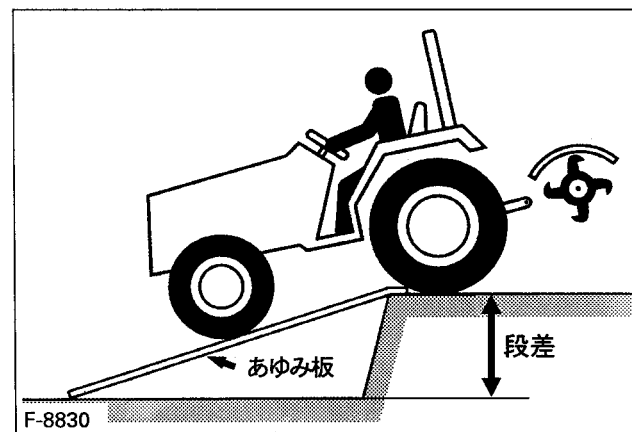
F-8826

(5)溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。

F-8827

(6)共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。

(7)ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。

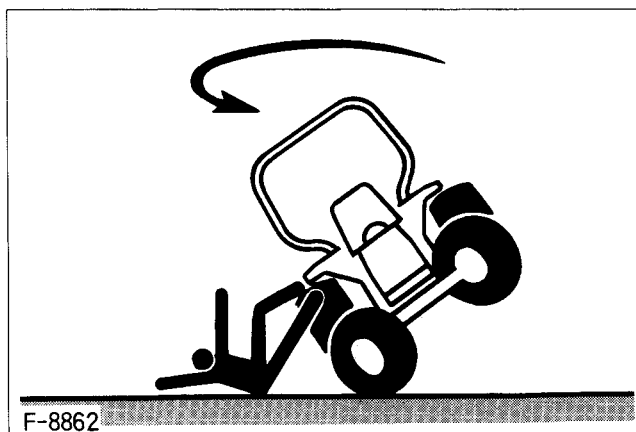
F-8829

(8)ほ場外では，油圧ロックをして作業機の落下を防止してください。

F-5829

(9)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。

F-8830

あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。

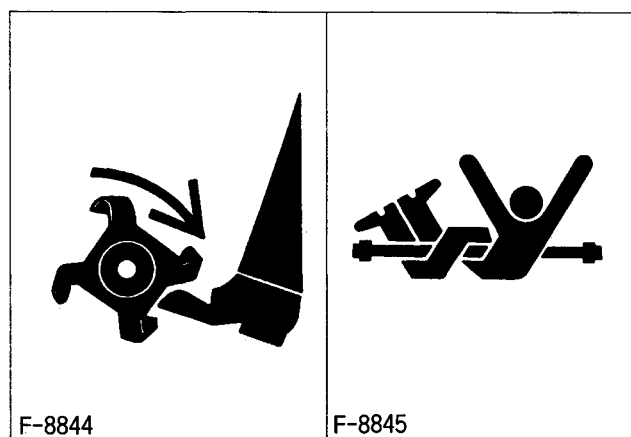
⑽急な坂道・車両への積込み積降し・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

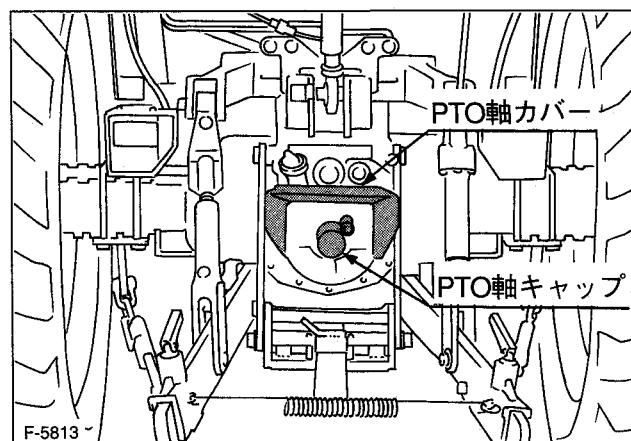
⑾倍速ターンはほ場以外では **“切り”** にし，使用しないでください。又，高速では倍速ターンを使用しないでください。

F-8862

5．作業機使用時に

(1)作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。

(2)トラクタから降りるときや，ロータリなどＰＴＯ作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。

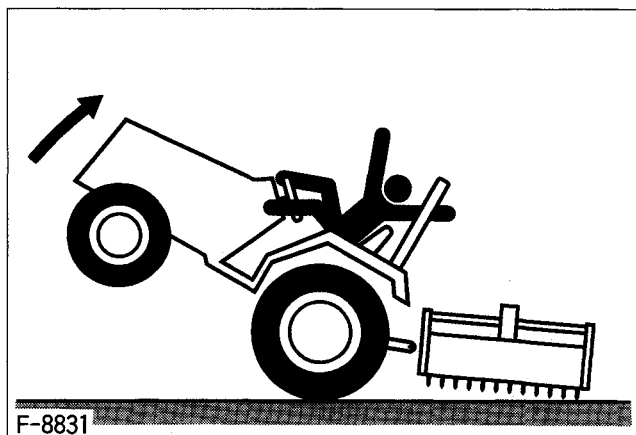
F-8844　F-8845

(3)ＰＴＯを使用しないときは，ＰＴＯ軸キャップを装着しておいてください。

F-5813

(4)ＰＴＯ軸カバーは常に取付けておいてください。

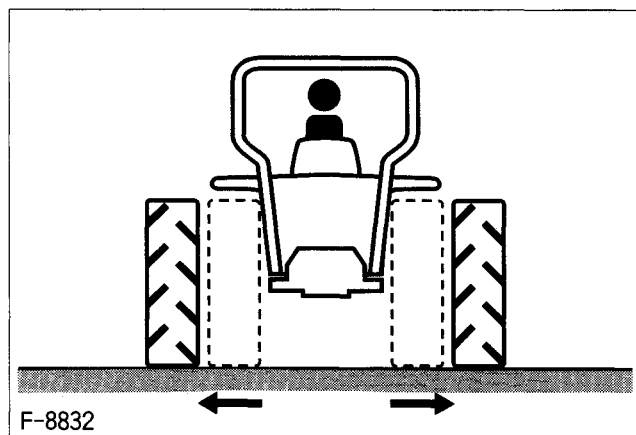
(5)ＰＴＯ作業機は，その作業機で定められたＰＴＯ回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故のおそれがあります。

安全に作業するために

(6)３点リンク用作業機を使用するときは，必要に応じトラクタ前部に適正なウエイトを取付けてください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。

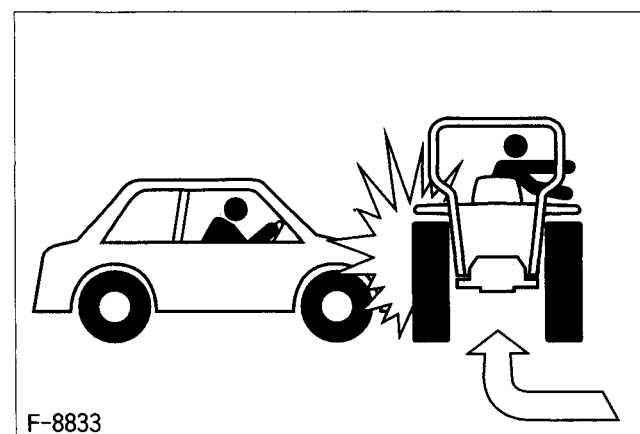
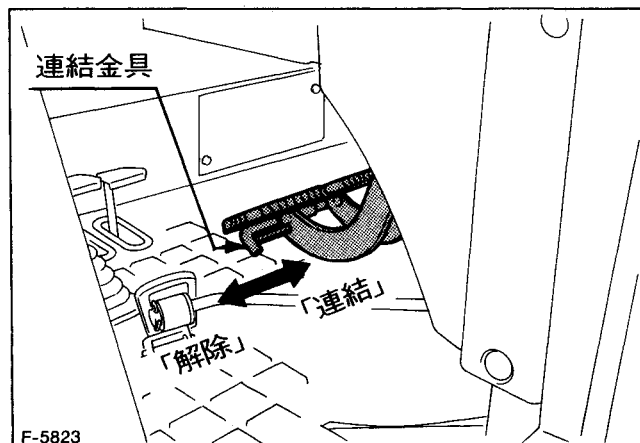
F-8831

(7)作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

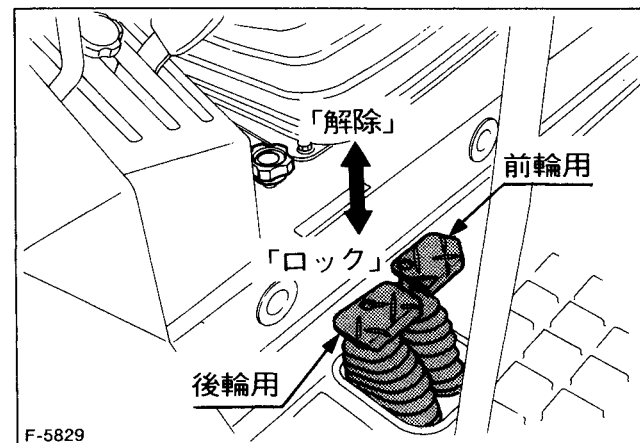
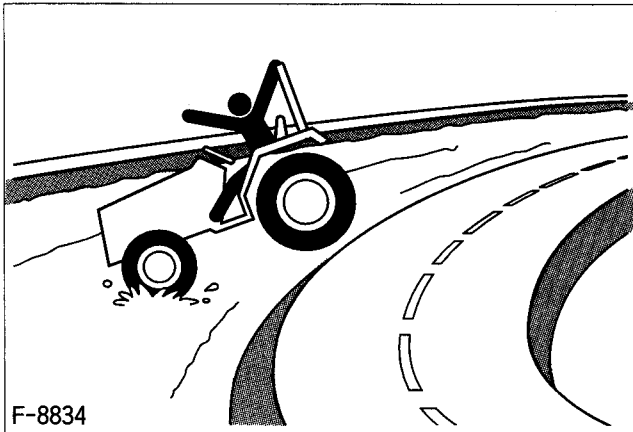
(8)傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。

F-8832

6．道路走行時に

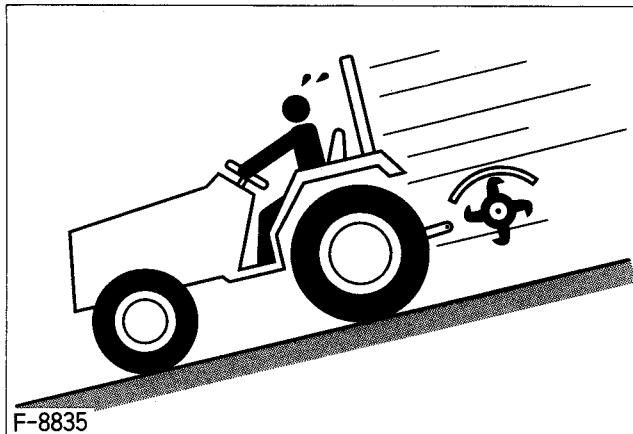
(1)道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や交通事故のおそれがあります。

F-5823

F-8833

(2)道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
ハンドル操作が出来なくなります。

F-5829

F-8834

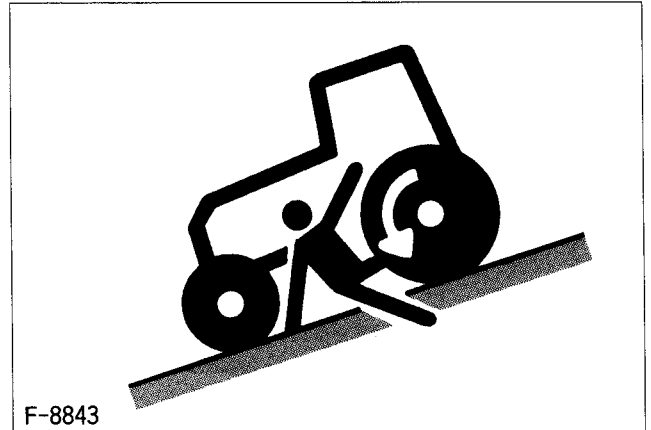
(3)旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。

(4)坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなるおそれがあります。

F-8835

(5)トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。（道路運送車両法の保安基準）
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

(6)交通や安全規則を守ってください。
ナンバプレートを付け，運転免許証は携行してください。

7．駐車，格納時に

(1)駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，ＰＴＯを**"切"**，作業機を**"下げ"**，変速レバーを**"中立"**，駐車ブレーキを**"掛け"**，エンジンを**"停止"**してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。

F-8843

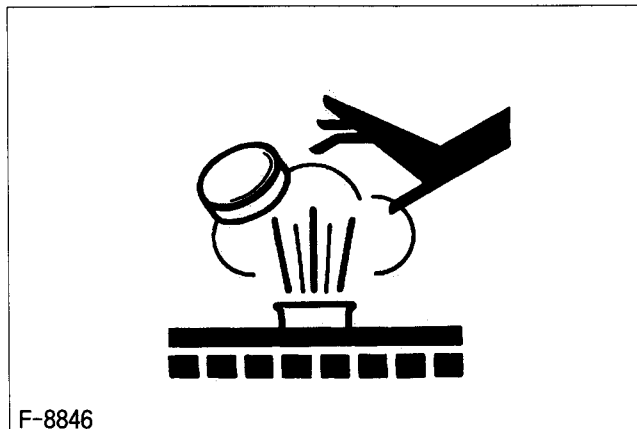
(2)乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。

(3)格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行ってください。火災の原因になります。

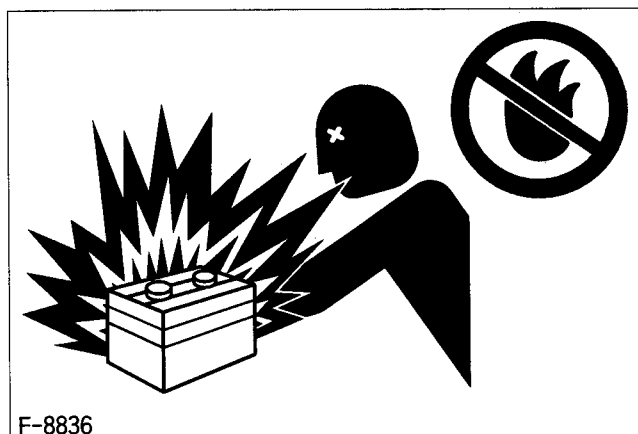
安全に作業するために

8．点検・給油・整備時に

(1)平たんな場所に駐車し，作業機を**“下げ”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，変速レバーを**“中立”**にし，そしてエンジンを停止してください。

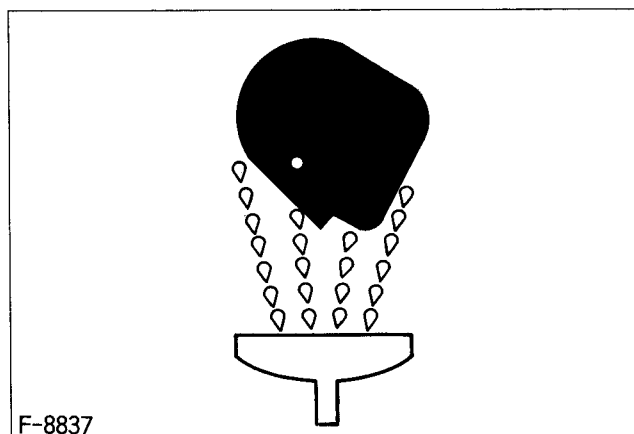
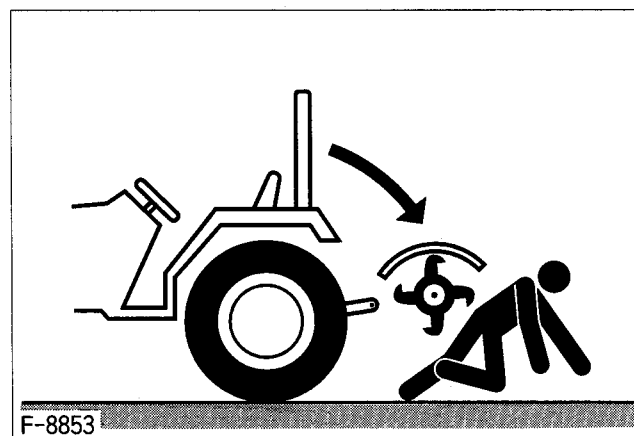
(2)エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドのおそれがあります。

F-8846

(3)燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

F-8836

(4)放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(上手な運転のしかたの章**“バッテリあがりの処置”**を参照)

(5)バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。

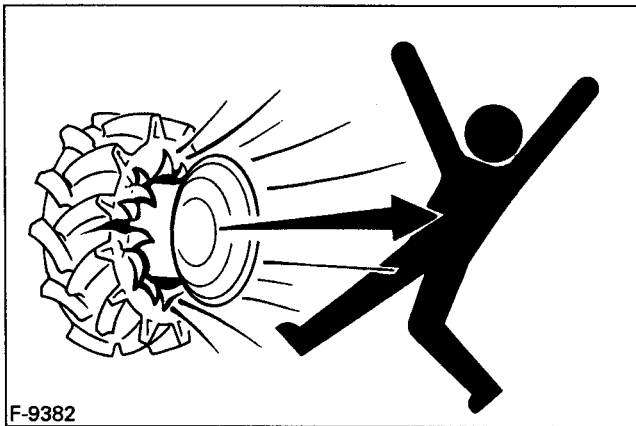
(6)バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。

F-8837

(7)３点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行う場合，シート下部にある油圧ロックを締めて落下防止を行なってください。

F-8853

⑻タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

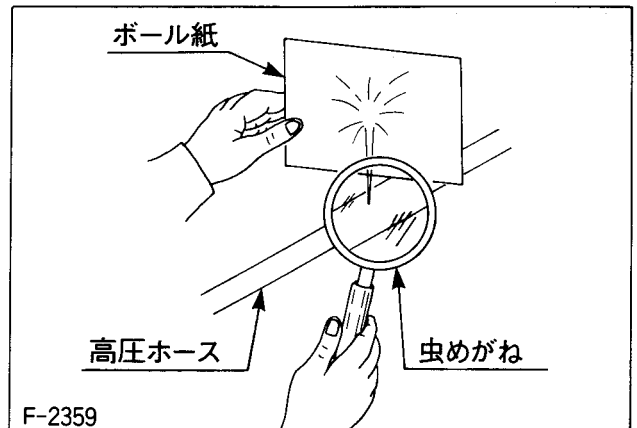
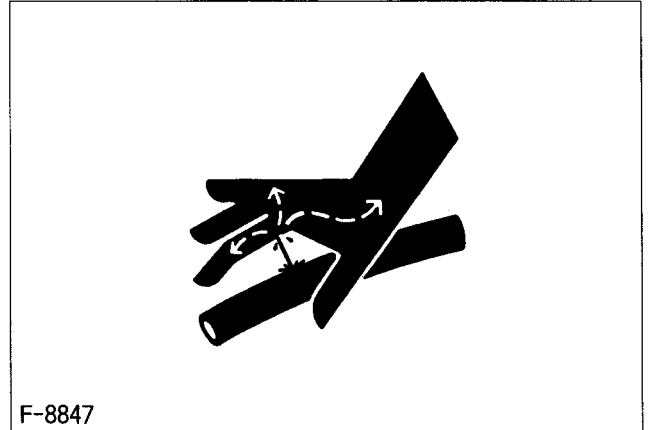
⑼タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。

⑽タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。）

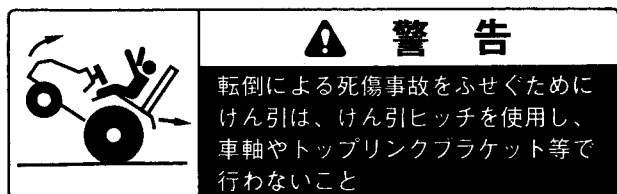
F-9382

⑾圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

⑿見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こすおそれがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。

F-8847

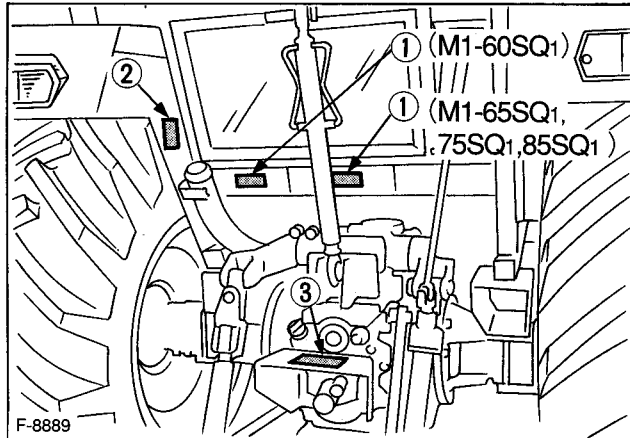
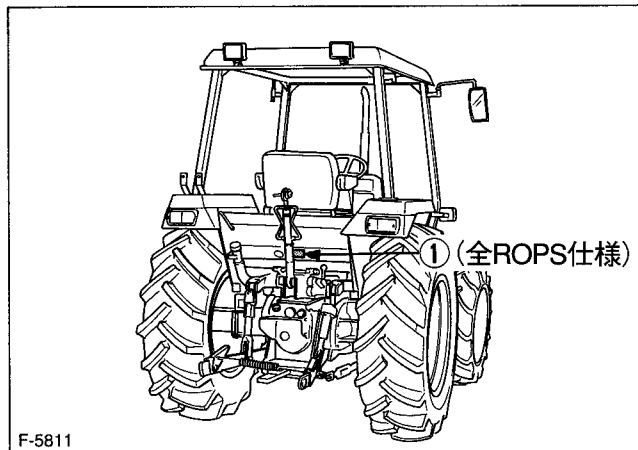
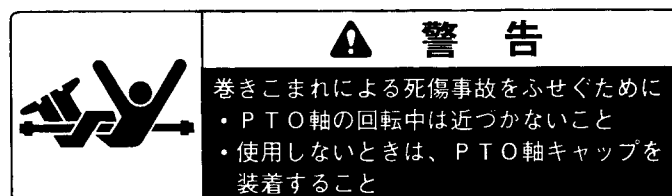
F-2359

安全に作業するために

9. ▲表示ラベルと貼付け位置

① 品番　T0180-4904-1

② 品番　3F740-9828-2

③ 品番　T0180-4959-1

F-5811

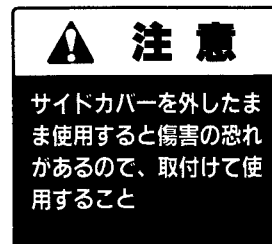
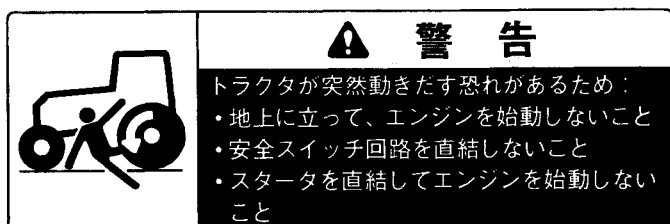
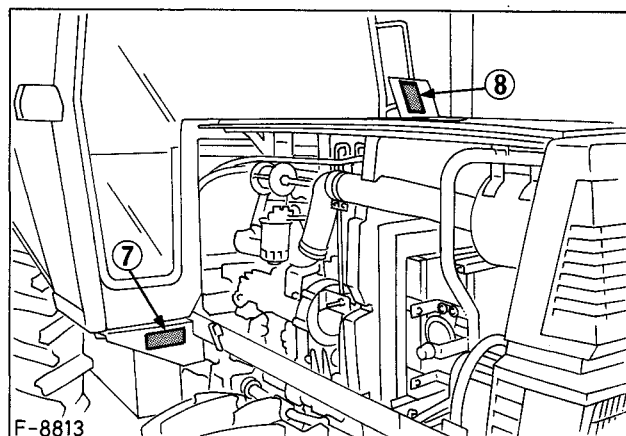
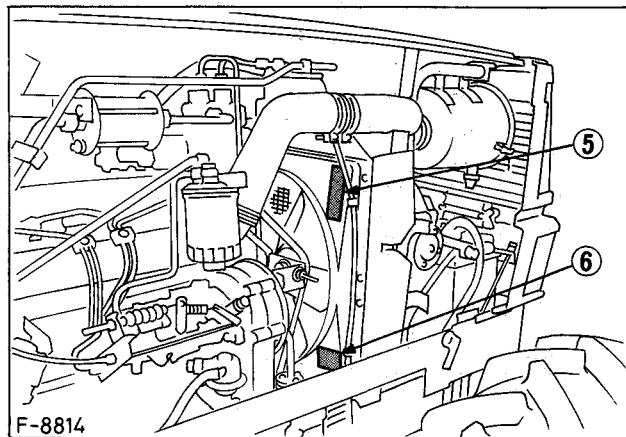
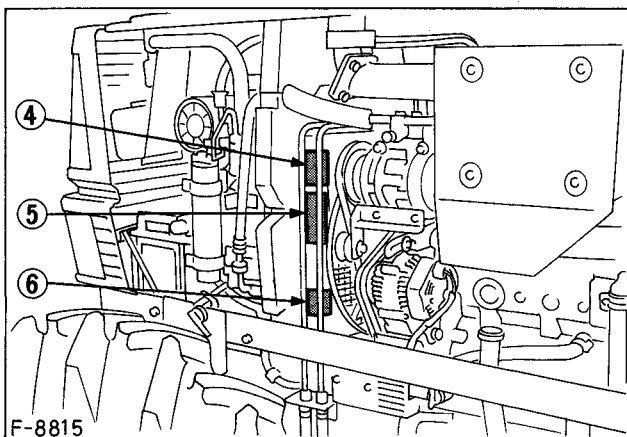
F-8889

④ 品番　T0180-4958-1

⑤ 品番　T0180-4957-1

⑥ 品番　T0180-4955-1

⑧ 品番　T0180-4954-1

⑦ 品番　T0180-4965-2

警 告
トラクタが突然動きだす恐れがあるため：
・地上に立って、エンジンを始動しないこと
・安全スイッチ回路を直結しないこと
・スタータを直結してエンジンを始動しない
　こと

安全に作業するために

⑩ 品番　3F760-3489-1

注　意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、ＰＴＯを切り、変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- ＰＴＯを切り、変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

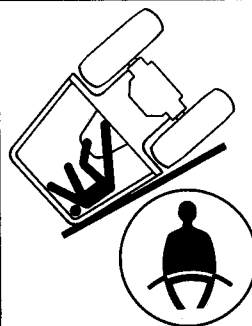
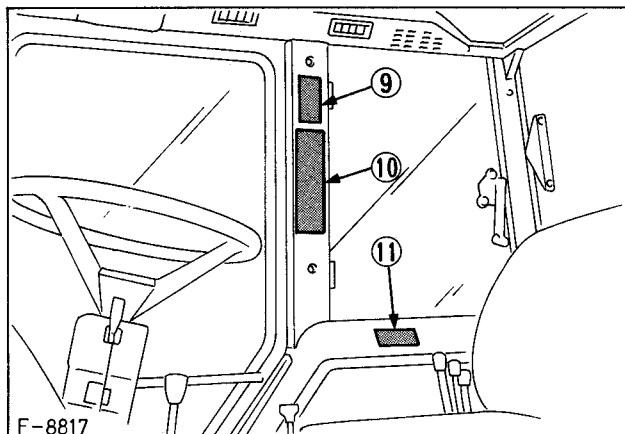
点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- ３点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

⑪ 品番　33718-9858-1

注意

道路走行時の事故防止のために：
- トレッドは必らず左右同じ位置になるように調整すること。
- トレッド調整後は、切替レバーを必らず「トレッド固定」の位置にすること。

⑨ 品番　T0180-4902-2

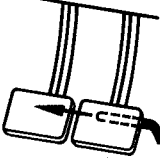
警　告

転倒、転落による死傷事故軽減のために、運転時には必ずシートベルトを着用すること

⑫ 品番　3F740-9857-1

警告

傾斜地での前、後進切替時、一時的に中立になることにより、トラクタの自重による自走を防止するため、ブレーキ及びクラッチを使用し切替完了後クラッチで発進すること。

⑭ 品番　T0180-4905-1

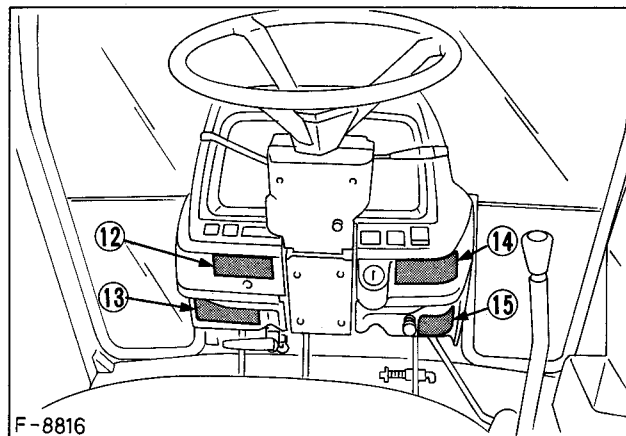
転倒による死傷事故を防ぐために：
- 倍速ターンは圃場以外で使用しないこと
- 高速で使用しないこと

⑬ 品番　3F740-9890-1

⚠ 警　告

4輪駆動「入」で駐車ブレーキをかけてもエンジンを停止すると、ブレーキは後輪しか効きません。
タイヤがスリップする恐れがあるので、傾斜地での駐車はしないこと。

⑮ 品番　3F760-9847-1

⚠ 警　告

転倒や衝突による死傷事故をふせぐために、道路走行時は左右のブレーキペダルを連結すること。

▲ 安全に作業するために

⑯ 品番　3F740-3489-1

▲ 注意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

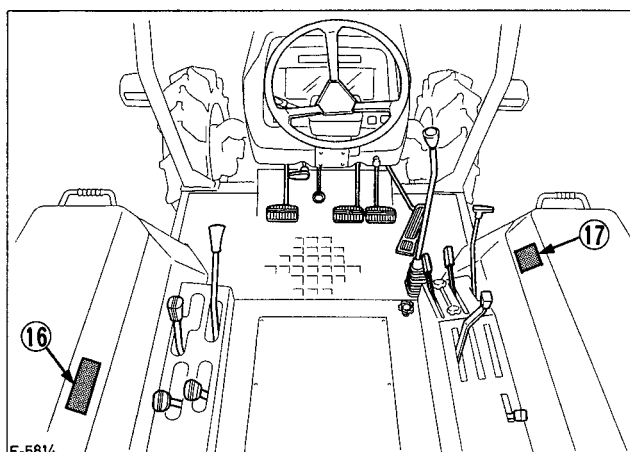
始動時
・シートにすわり、PTOを切り、変速レバーを中立にすること
・前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
・運転者以外に人を乗せないこと
・排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
・溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
・急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと

運転時
・道路走行時はデフロックを使用しないこと
・道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
・PTOを切り、変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
・エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
・3点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

⑰ 品番　T0170-4932-2

10. ▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹼水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(3)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

サービスと保証について

この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際 (1)トラクタ名称と車台番号
(2)エンジン名称とエンジン番号
を併せてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警 告

＊機械の改造は危険ですので,改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

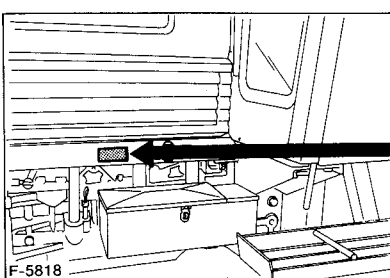
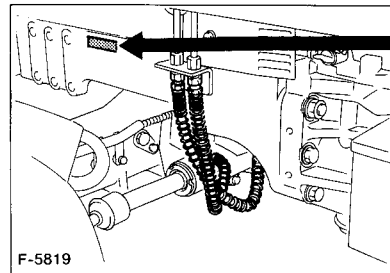
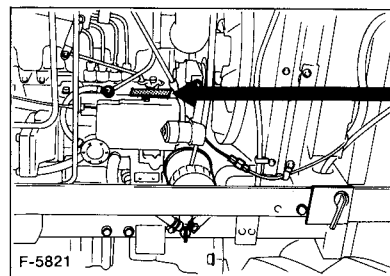
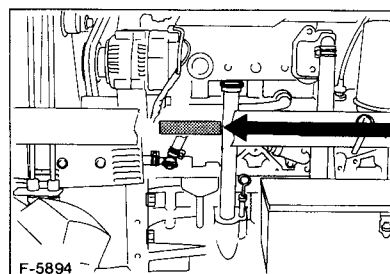
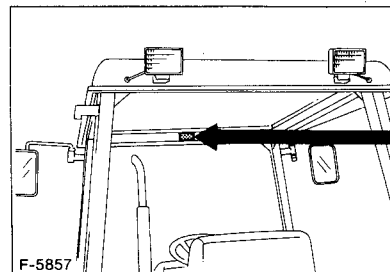
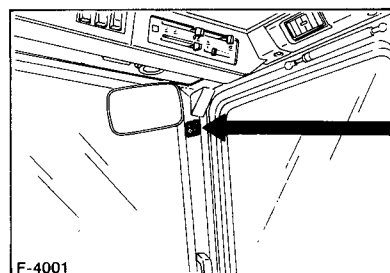
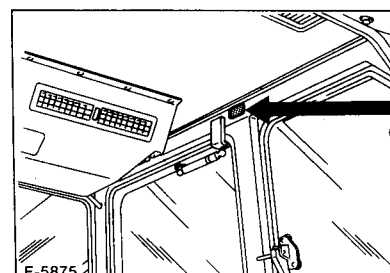
◆新型自動車登録番号

クボタM46DT ……………新型自動車　第91541号
クボタM55DT ……………新型自動車　第91540号
クボタM60SDT……………新型自動車　第91986号
クボタM65DT ……………新型自動車　第91539号
クボタM75DT ……………新型自動車　第91538号
クボタM85DT ……………新型自動車　第91537号
クボタM100DT …………新型自動車　第91694号
クボタM115DT …………新型自動車　第91695号
クボタM85HDT…………新型自動車　第91862号
(M1-100SDT含む)

◆型式検査(国検)合格番号

クボタM_1-46DT ….. 88032
クボタM_1-55DT ….. 88033
クボタM_1-60DT ….. 申請中
クボタM_1-65DT ….. 88034
クボタM_1-75DT ….. 88035
クボタM_1-85DT ….. 88036
クボタM_1-100DT …. 90031
クボタM_1-115DT …. 90032
クボタIC60 ………… 96043
クボタIC65 …… 88040
クボタIC85 …… 88041
クボタIC115…… 90037
クボタSF55 …… 88042
クボタSF65 …… 88043
クボタSF85 …… 88044
クボタCQ55 …… 89013
クボタCQ65 …… 89014
クボタCQ85 …… 89015

◆安全鑑定番号

クボタM_1-60SDT … 21086
＊検査成績表は巻末をご覧ください。

銘板
トラクタ名称
エンジン名称

車台番号
【M_1-46仕様以外】
(フロント
ブラケット)
【M_1-46仕様】
(前車軸フレーム)

【M_1-46仕様】
エンジン番号
(エンジンクランクケース右側)

【M_1-46仕様以外】
エンジン番号
(エンジンクランクケース左側)

【ROPS仕様】
安全フレーム
銘板

【Q_1, Q_2仕様】
キャブ銘板

【Q仕様】
キャブ銘板

小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは、道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出とナンバプレートの取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得を市町村役所に届け、ナンバプレートの交付を受けなければなりません。

手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、購入先にご相談ください。

❶小型特殊自動車取得の証明書など(購入先で発行)に、軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。

❷届出が済むとナンバプレートが交付されます。

❸ナンバプレートを車体の取付け位置に取付けてください。

■免許

重　要

＊このトラクタは道路運送車両法上の小型特殊自動車に該当しますが、道路交通法では、大型特殊自動車に該当します。

従って、公道を走行する場合は、

大型特殊自動車の運転免許証が必要です。

必ず所持してください。

■損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

重　要

＊エンジンで封印されている所はさわらないでください。(封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。)

補　足

＊インプルメントを装着した状態では“道路運送車両法の保安基準”を満足しませんので，道路走行することはできません。

＊作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において,“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

■輪距

公道走行は、必ず指定の輪距で走行してください。指定輪距は下表のとおりです。この輪距どおりでない場合は**“道路運送車両の保安基準”**違反になり、道路を走行することができません。

◆前後輪タイヤ組合わせ表

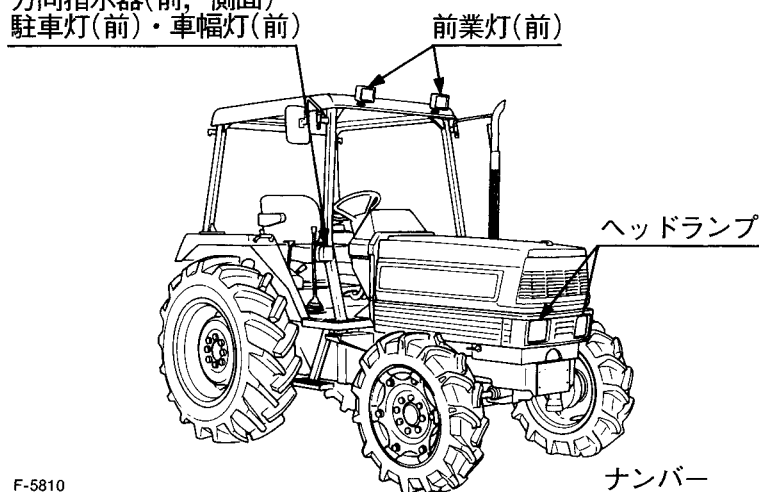
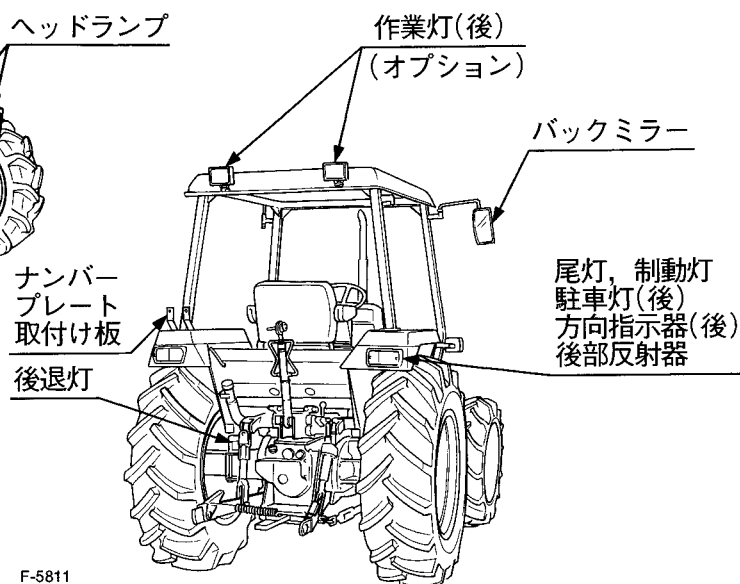
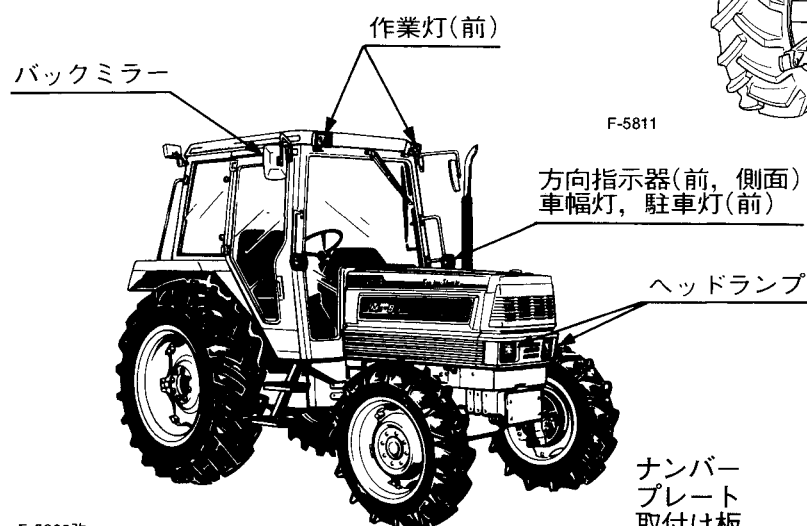
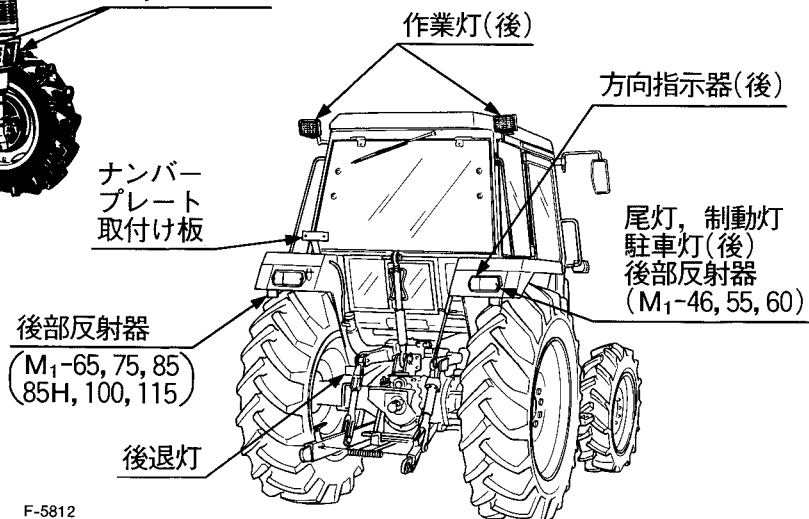
形式		前輪		後輪	
		タイヤサイズ	輪距(mm)	タイヤサイズ	輪距(mm)
M_1-46	標準	8.3-20-6PR	1400	12.4-28-6PR	1420
	K1, L	8.3-20-6PR		13.6-28-6PR	
		8.3-22-6PR		12.4-32-6PR	
M_1-55 M_1-60	標準	8.3-22-6PR	1400	12.4-32-6PR	1420
	K1, L	9.5-20-6PR		14.9-28-6PR	
		9.5-22-6PR		16.9-28-6PR	
	L2	9.5-20-6PR		12.4-32-6PR	
M_1-65	標準	8.3-24-6PR	1400	12.4-36-6PR	1420
	L2	9.5-22-6PR		12.4-36-6PR	
	K2	9.5-24-6PR		13.9-36-6PR	
	K3, L	9.5-24-6PR		16.9-30-6PR	
M_1-75	標準	9.5-24-6PR	1400	12.4-36-6PR	1420
	K1	9.5-24-6PR		13.9-36-6PR	
		11.2-24-6PR	1520	13.6-38-6PR	1520
	R2	★11.2R24		★13.6R38	
		11.2-24-6PR		18.4-30-6PR	1570
	K4, L	9.5-24-6PR	1400	16.9-30-6PR	1520
	K7	9.5-24-6PR		12.4-38-6PR	

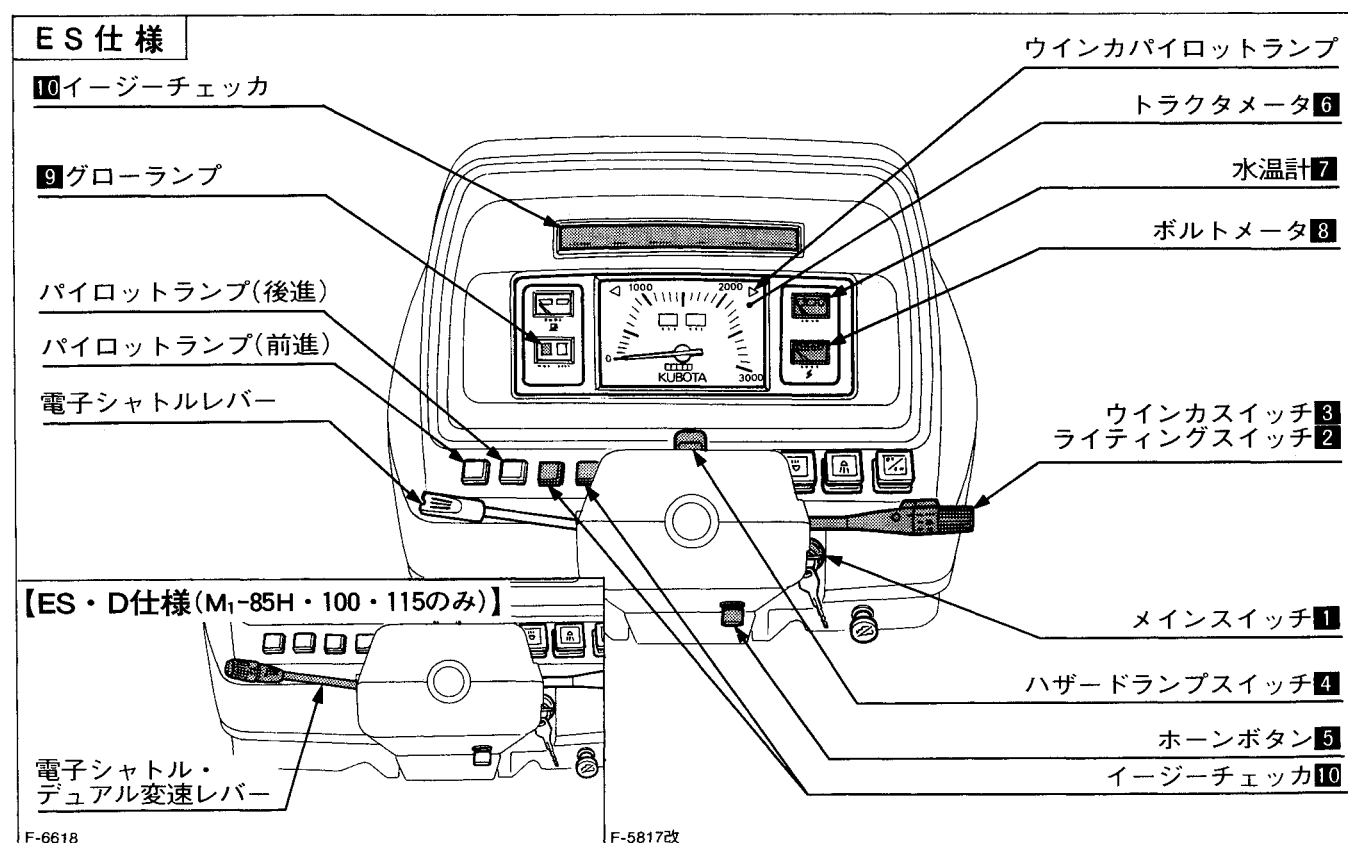
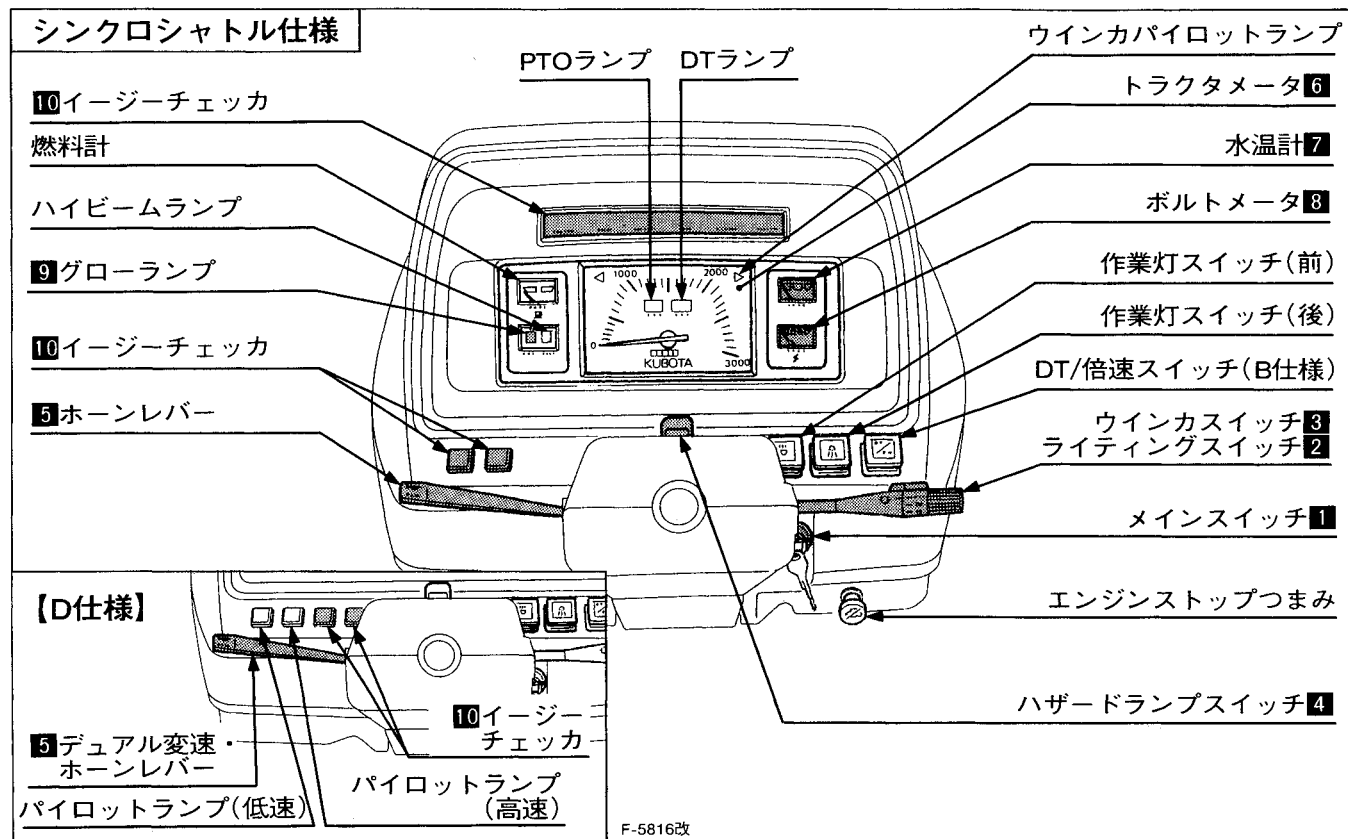
形式		前輪		後輪	
		タイヤサイズ	輪距(mm)	タイヤサイズ	輪距(mm)
M_1-85	標準	9.5-24-6PR	1510	13.9-36-6PR	1520
	K1	9.5-24-6PR		13.6-38-6PR	
	K2, L	11.2-24-6PR		13.6-38-6PR	
	R2	★11.2R24		★13.6R38	
	K3	11.2-24-6PR		16.9-34-6PR	1530
	R3	★11.2R24		★16.9R34	
	K4	11.2-24-6PR		18.4-30-6PR	1520
	K5	11.2-24-6PR		14.9-38-6PR	
	K7	9.5-24-6PR		12.4-38-6PR	
M_1-85H	標準	9.5-24-6PR	1510	13.9-36-6PR	1520
	RO	★9.5R24		★13.6R36	
	K2	11.2-24-6PR		13.6-38-6PR	
	R2	★11.2R24		★13.6R38	
	K3	11.2-24-6PR		16.9-34-6PR	1530
	R3	★11.2R24		★16.9R34	
	K4	11.2-24-6PR		18.4-30-6PR	1520
	K5	12.4-24-6PR	1530	16.9-34-6PR	1530
	R5	★12.4R24		★16.9R34	
	K6	12.4-24-6PR		18.4-30-6PR	1520
M_1-100S	標準	12.4-24-6PR	1640	16.9-34-6PR	1510
	K1	13.6-24-6PR		18.4-34-6PR	
	K2	13.6-24-6PR		16.9-38-6PR	

形式		前輪 タイヤサイズ	前輪 輪距(mm)	後輪 タイヤサイズ	後輪 輪距(mm)
M_1-100	標準	11.2-24-6PR	1640	16.9-34-6PR	1550
	RO	★11.2R24		★16.9R34	
		12.4-24-6PR		18.4-34-6PR	
	K2	13.6-24-6PR		18.4-34-6PR	
	K3	13.6-24-6PR		16.9-38-8PR	
	K5	12.4-24-6PR		14.9-38-6PR	
		11.2-24-6PR		13.6-38-6PR	

形式		前輪 タイヤサイズ	前輪 輪距(mm)	後輪 タイヤサイズ	後輪 輪距(mm)
M_1-115	標準	11.2-24-6PR	1640	16.9-34-6PR	1550
	RO	★11.2R24		★16.9R34	
		12.4-24-6PR		18.4-34-6PR	
	K2	13.6-24-6PR		18.4-34-6PR	
	K3	13.6-24-6PR		16.9-38-8PR	
	K4	14.9-24-6PR		18.4-38-8PR	
	R4	★14.9R24		★18.4R38	
		12.4-24-6PR		14.9-38-6PR	

表中のタイヤは標準出荷と部品採用のものを併記しています。★印はラジアルタイヤを示します。

■保安装備品

運転に必要な装置の取扱い

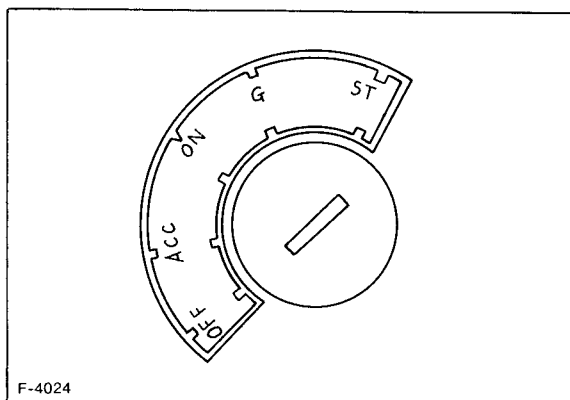
スイッチとメータの取扱い

1 メインスイッチ

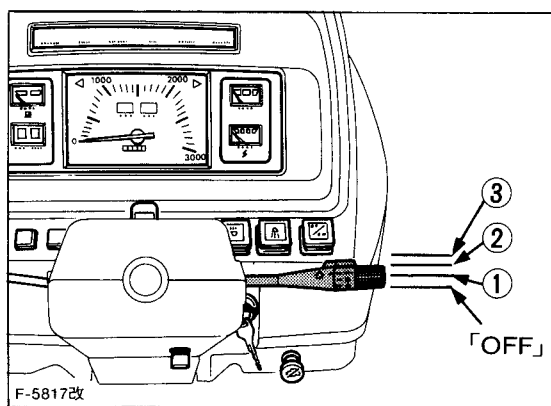
OFF ………キーが抜き差しできる位置。"OFF"の位置にすると，自動的にエンジンが停止します。

ACC ………エンジン停止中，ラジオ，時計，送風ファン，ワイパ，ウオッシャ，シガーライタ，作業灯などのアクセサリーがすべて"ON"になります。

ON …………エンジン回転中の位置，すべての電気装置が使えます。

G ……………燃焼室内が予熱される位置。

ST …………エンジンを始動する位置。

2 ライティングスイッチ

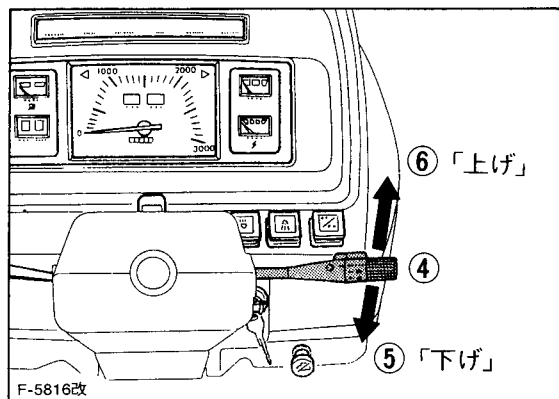
ノブを回すとスイッチが入り，位置によって次のランプが点灯します。

点灯ランプ ＼ 操作位置	①	②	③
ヘッドランプ	—	○≣	—
テールランプ	○≣	○≣	○≣
車幅灯	○≣	○≣	○≣

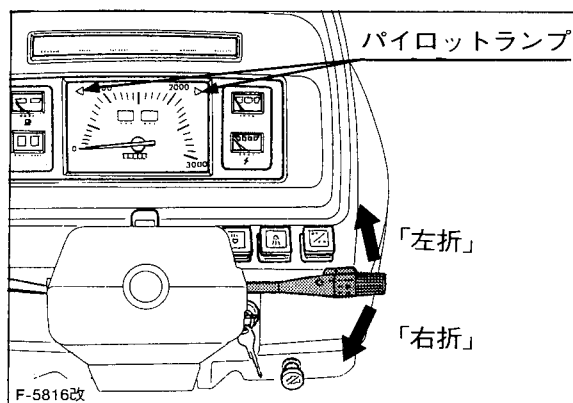
◆ヘッドランプの切換え

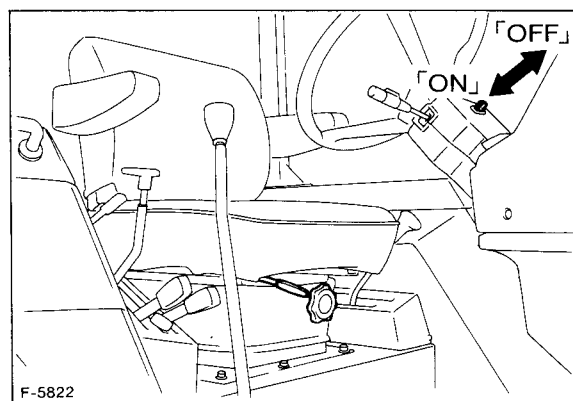
④下向き

⑤上向き

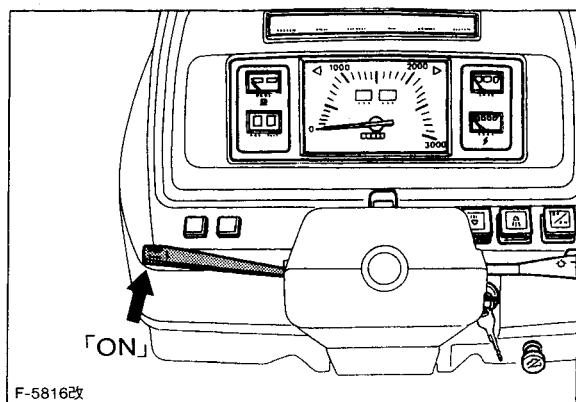
（計器板のハイビームランプが点灯します。）

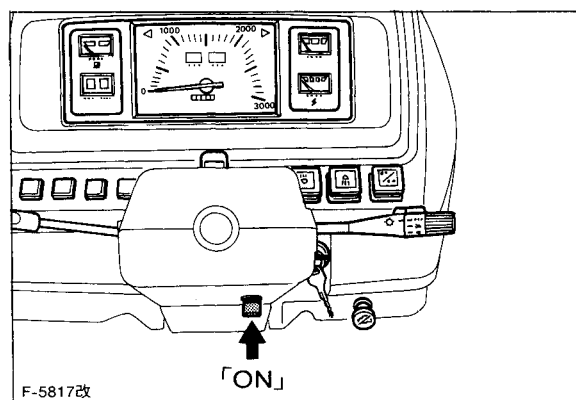
⑥パッシング（先行車に合図するときに使います。）

3 ウインカスイッチ

スイッチが入っているときは，計器板のウインカ作動パイロットランプが点滅します。

4 ハザードランプスイッチ

非常停止した場合，事故を防止するために使用します。スイッチを押すと，方向指示器前後及び計器板のウインカ作動パイロットランプが点滅し，非常停止中を知らせます。

5 ホーン

【ES仕様以外】
メインスイッチが**"ON"**の状態でホーンレバーを上げるとホーンが鳴ります。

F-5816改

【ES仕様】
メインスイッチが**"ON"**の状態でホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

F-5817改

6 トラクタメータ

エンジン回転速度，PTO軸回転速度，及び使用積算時間を示します。

(1)針はエンジン回転速度と，それに対応するPTO回転速度を示します。
(2)積算時間計は5桁になっており，最後の１桁は$\frac{1}{10}$時間を示します。

7 水温計

メインスイッチが**"ON"**の状態で冷却水の温度を示します。**"C"**は低温，**"H"**は高温です。
指針が**"H"**(レッドゾーン)を示すときは，オーバヒート状態ですから60ページ**"◆オーバヒートしたときの処置"**をご参照のうえ点検してください。

8 ボルトメータ

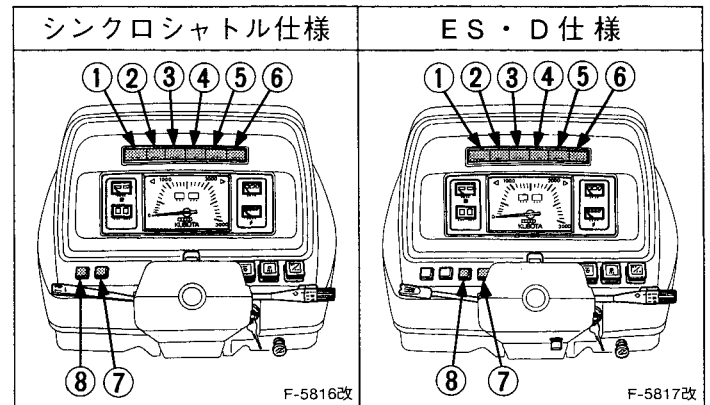
メインスイッチが**"ON"**の状態でエンジンが停止時はバッテリの電圧を示します。エンジン運転時は発電電圧を示します。

9 グローランプ

エンジン燃焼室内の**予熱状態**を示します。予熱が完了するとランプが消灯します。

10イージーチェッカ

補　足

＊日常点検はイージーチェッカのみで済ませないで仕業点検に準じた確実な点検を行なってください。

① **油圧オイルフィルタの目詰まり警告灯**

油圧オイルフィルタの目詰まりが多くなったとき点灯して警告します。
点灯したままのときは，油圧オイルフィルタの交換をしてください。

② **バッテリ液量警告灯**

バッテリ電解液が**“LOW LEVEL”**以下になったとき点灯して警告します。
点灯したままのときは、電解液を補給してください。

③ **エアークリーナの目詰まり警告灯**

エアークリーナの目詰まりが多くなったとき，点灯して警告します。
点灯したままのときは，エアークリーナエレメントを清掃または交換してください。

④ **燃料残量警告灯**

燃料の残量が約14ℓ以下になったとき点灯して警告します。
点灯したままのときは，燃料を補給してください。

⑤ **セディメンタ(燃料フィルタ水分)警告灯**

燃料フィルタに水分が約100ccたまると点灯して警告します。
点灯したままのときは燃料フィルタ下部のドレーンプラグ(センサ兼用)より水を排出してください。(約150cc)実施後，エアー抜きを行なってください。
(65ページ参照)

⑥ **ブレーキオイル・駐車ブレーキ警告灯**

ブレーキオイルの量が規定量以下になったとき，又は駐車ブレーキを引いているとき点滅して警告します。
点滅したままのときは，ブレーキオイルの補給とブレーキ系統の油漏れの有無，又は駐車ブレーキが引いた状態になっていないか確認してください。

⑦ **ミッションオイル油圧警告灯**

ミッションオイルの圧力が規定圧力以下になったらイージーチェッカのランプが点灯して運転者に危険を知らせます。ランプが点灯したまま使用しますとミッションの損傷につながります。ランプが点灯したままのときは，ミッションオイル量またはクラッチ油圧系統を点検してください。

⑧ **エンジンオイル油圧警告灯**

エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは，直ちにエンジンを止めてエンジンオイル量及び潤滑油系統を点検してください。

【チャージランプ】

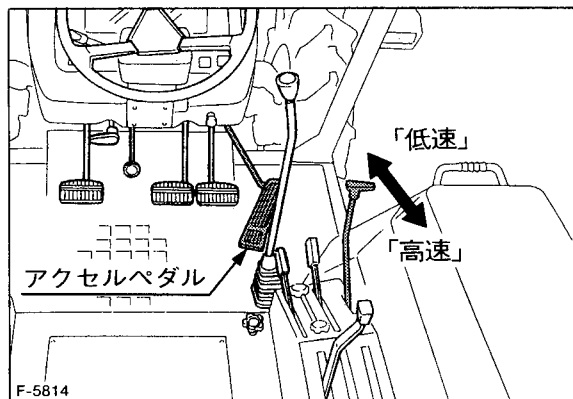
①～⑤がチャージランプと兼用になっており，充電系統に異常があればエンジン回転中に点灯して警告します。

運転装置の取扱い

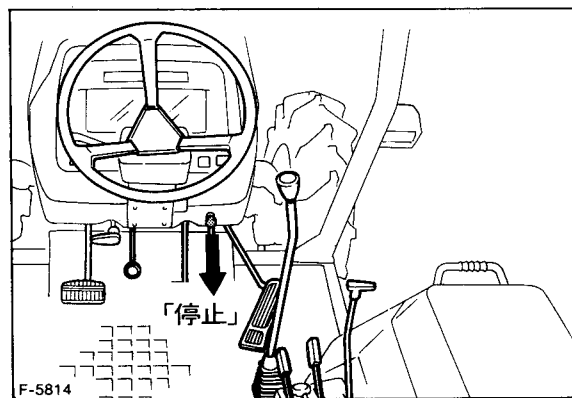
シンクロシャトル・D仕様
DTスイッチ(M1-100・115　4WD仕様)
DT/倍速スイッチ(B仕様)
9 デュアル変速レバー(D仕様)
エンジンストップつまみ 2
3駐車ブレーキレバー
主変速レバー 6
4 クラッチペダル
アクセルペダル 1
8 シンクロシャトルレバー
ドラフトレバー
ポジションレバー
7 副変速レバー
アクセルレバー 1
補助コントロールレバー
前輪駆動レバー
(M1-100・115を除く
4WD仕様)
グランド・ライブ
PTO切換えレバー
落下速度調整つまみ
PTOクラッチ
操作レバー
チルトハンドル操作ペダル
ブレーキペダル(左右) 5
F-5814改
ES仕様，ES・D仕様(M1-85H・100・115のみ)
エンジンストップつまみ 2
主変速レバー 6
10電子シャトルレバー(ES仕様)
11電子シャトル・
デュアル変速レバー(ES・D仕様)
アクセルペダル 1
アクセルレバー 1
3駐車ブレーキレバー
4クラッチペダル
8副変速レバー
ブレーキペダル(左右) 5
F-5815改

1 アクセルレバーとアクセルペダル

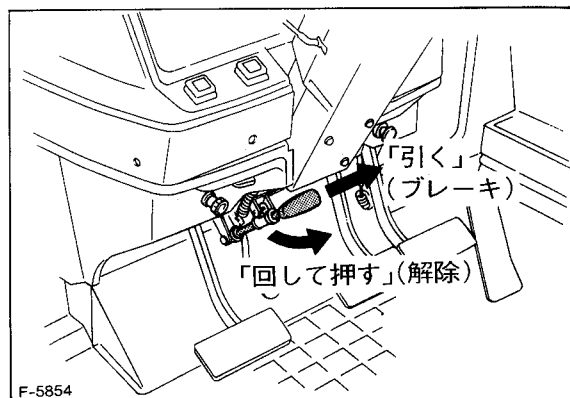
アクセルレバー………主に農作業時に使用します。
アクセルペダル………主に道路走行時に使用します。
アクセルペダルは，アクセルレバーと連動しており，
ペダルを踏込む………エンジン回転が上がります。
ペダルから足を離す…アイドリング状態になります。

F-5814

2 エンジンストップつまみ

メインスイッチを**"OFF"**にすると，エンジンが自動的に**"停止"**します。
万一停止しないときは，
(1)エンジンストップつまみをいっぱい**"引く"**とエンジンが**"停止"**します。
(2)停止後は，必ず元どおり押戻しておいてください。戻し忘れるとエンジンは始動しません。

F-5814

3 駐車ブレーキ

レバーを引くと駐車ブレーキがかかり，メインスイッチ**"ON"**の位置では，イージーチェッカの駐車ブレーキ警告灯が点滅します。
反時計方向へ回して押すと，解除されます。

F-5854

4 クラッチペダル

ペダルを踏込む…………クラッチが切れます。
ペダルから足を離す……クラッチがつながります。

注 意

＊急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。ゆっくり行なってください。
＊クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

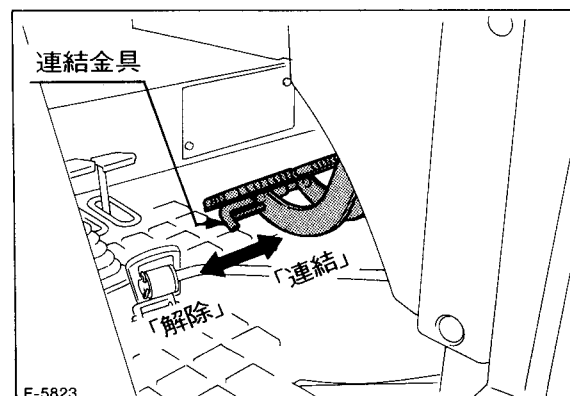
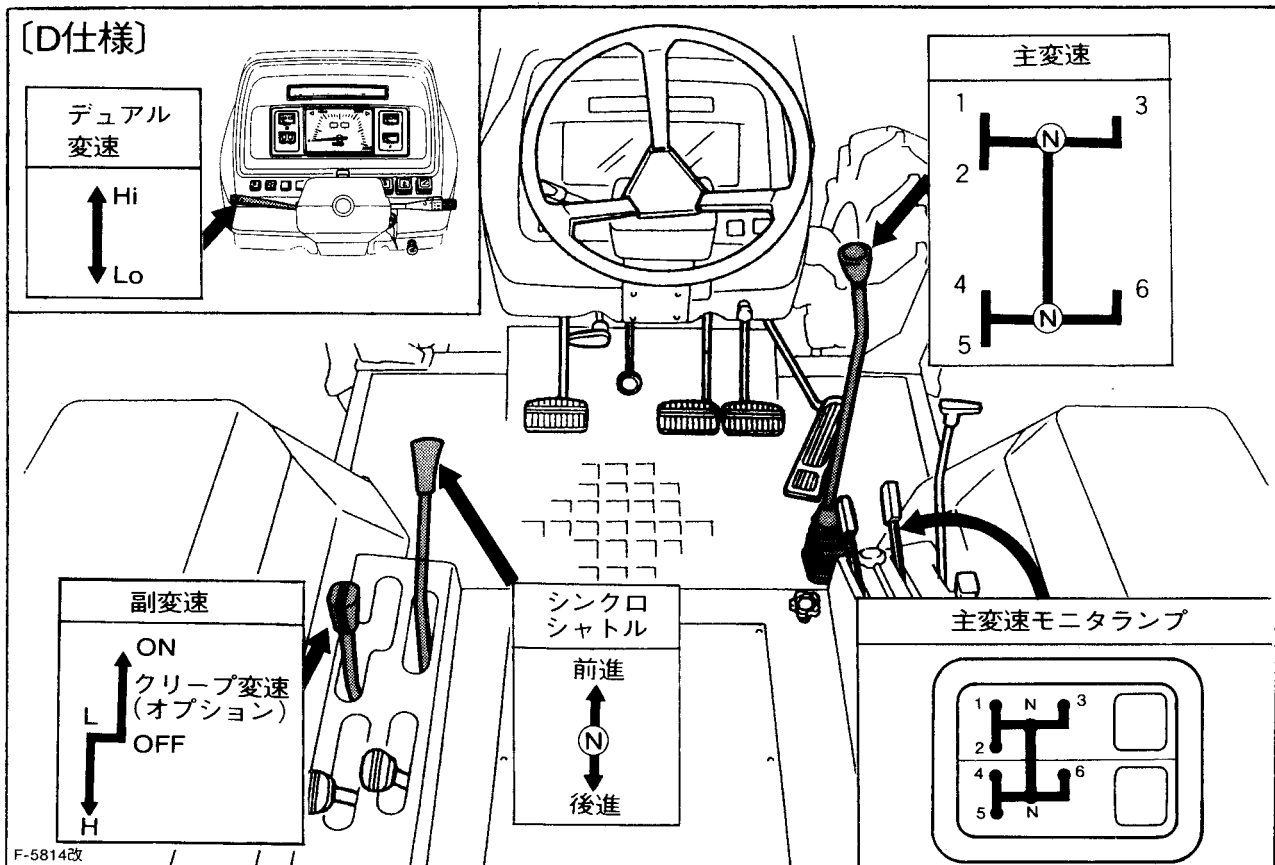
5 ブレーキペダル

警 告

＊道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

ブレーキは，一般の自動車などと異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片方だけブレーキをかけることができます。

- 連結金具を**"連結"**状態
  （左右同時にブレーキがかかる）……**道路走行時。**
- 連結金具を**"解除"**状態
  （左右片輪ずつブレーキがかかる）……**農作業時。**

F-5823

〔シンクロシャトル・D仕様〕

6主変速レバー
7副変速レバー
8シンクロシャトルレバー

３本のレバー操作を組合せることにより前進12段，後進12段の車速が得られます。またオプションのクリープを装備しますと前進18段，後進18段になります。

◆主変速レバー

(1)レバー１本で６段の車速が選択できます。

(2)６段ともシンクロメッシュ付きですので走行時クラッチを切るだけで変速できます。

◆副変速レバー

(1)"L"位置で低速，"H"位置で高速が得られます。

(2)操作はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

◆シンクロシャトルレバー

(1)シンクロメッシュ付きですのでクラッチを切るだけで前進・後進の切換えができます。

(2)前進・後進の急な変速はミッションの寿命の低下や損傷の原因になります。

 警　告

＊高速で前進・後進の切換えを行なうとたいへん危険です。必ずエンジン回転を低速にしてから切換えてください。

■主変速モニタランプ

主変速モニタランプは，主変速レバーの変速位置をランプ表示し，容易に変速できるようにしたモニタ装置です。

主変速レバーの位置

N－Nの中間……モニタランプは消灯

1.2.3速…………モニタランプの前半分が点灯(緑色)

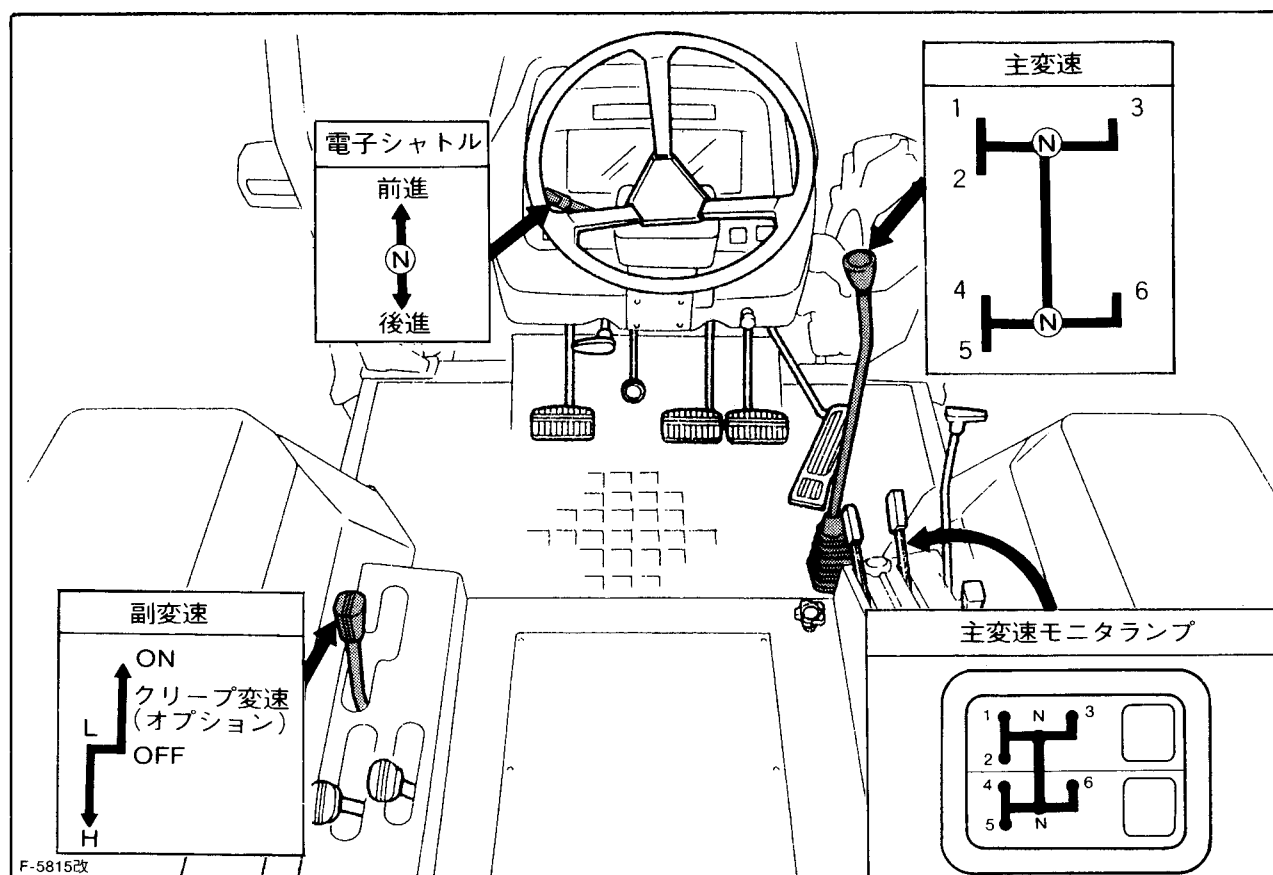
4.5.6速…………モニタランプの後半分が点灯(黄色)

9デュアル変速レバー【D仕様】

(1)デュアル変速レバーを"Hi"から"Lo"に操作しますとスピードが25％ダウンします。

(2)クラッチペダルを踏まなくてもデュアル変速レバーの操作でHi・Loの切換えができます。

(3)主変速レバー，副変速レバー，シンクロシャトルレバーとの組合せにより前進24段，後進24段の変速ができます。またオプションのクリープを装備しますと前進36段，後進36段になります。

〔ES仕様〕

6主変速レバー
7副変速レバー
10電子シャトルレバー

◆**電子シャトルレバー**

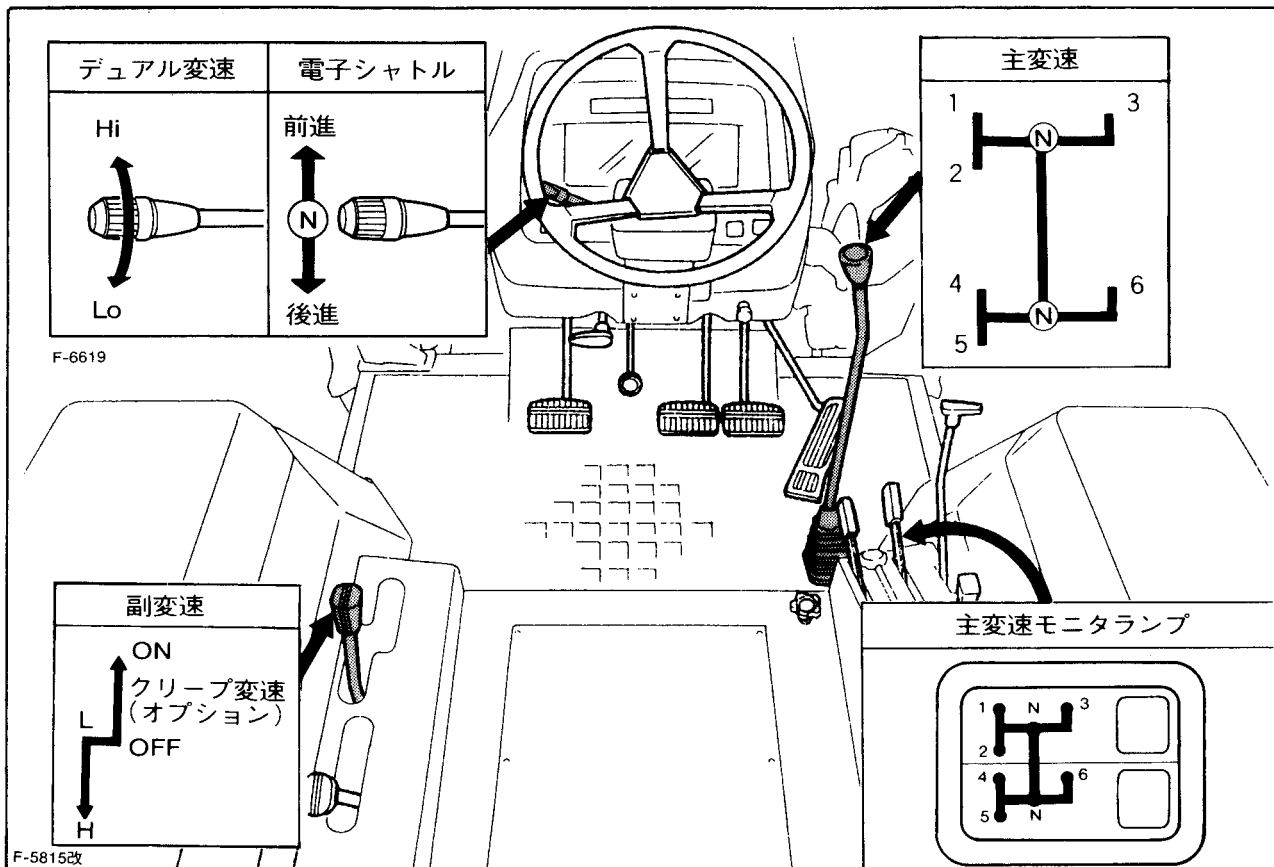
(1)電子シャトルレバーを前進(後進)から後進(前進)に操作しますと電子コントロールでスムーズな切換えを行ない前進(後進)と同じスピードで後進(前進)します。(切換え時のショックが少なく,タイヤがスリップしないので草地作業にも適しています。)

(2)クラッチペダルを踏まなくても電子シャトルレバーの操作で前進・後進の切換えや発進ができます。

(3)坂道で前進・後進の切換えを行なうときは,必ずブレーキペダルを踏み込んでトラクタが停止してから行なってください。ブレーキを使用しないで前進・後進の切換えを行なうとシャトルクラッチの寿命の低下や損傷の原因になります。

 警告

* **高速(約11km/h以上)で前進・後進の切換えを行なうとエンジンがストップする安全装置を設けていますが,10km/h前後のスピードでもたいへん危険です。必ずエンジン回転を低速にしてから切換えるようにしてください。**
* **急傾斜地で前進・後進の切換えを電子シャトルレバーのみの操作で行なうと,前進・後進が切換わる時トラクタの自重で自走し,危険な場合が予想されます。必ずクラッチペダル・ブレーキペダルを踏み込んで切換えを行ない,クラッチペダルで発進してください。**
* **エンジンを回転させたまま座席を離れる時は必ず主変速レバー・電子シャトルレバーを中立にし,駐車ブレーキレバーを引いてください。電子シャトルレバーだけを中立にして座席を離れると,傷害事故につながるおそれがあります。**
* **電子シャトルはトランスミッションの走行系に油圧クラッチを使用しており,エンジンを停止すると油圧クラッチが切れる構造になっています。従ってエンジン停止時は,エンジンブレーキが効きません。駐車するときは必ず駐車ブレーキをかけてください。又,坂道での駐車はしないでください。**
* **ミッション油温が低温の場合に前後進の急激な切換えを行なうとショックが大きくなることがありますので避けてください。**

〔ES・D仕様【M1-100･115のみ】〕

6主変速レバー
7副変速レバー
11電子シャトル・デュアル変速レバー

◆電子シャトルレバー・デュアル変速レバー

1本のレバーで，電子シャトルとデュアル変速操作が行なえます。

(1)レバーを前後に操作することにより，電子シャトル操作が行なえます。

(2)レバー先端部を回すことにより，デュアル変速が行なえます。

(3)各レバーの操作方法は，前ページを参照してください。

警　告

＊高速(約11km/h以上)で前進・後進の切換えを行なうとエンジンがストップする安全装置を設けていますが，10km/h前後のスピードでもたいへん危険です。必ずエンジン回転を低速にしてから切換えるようにしてください。

＊急傾斜地で前進・後進の切換えを電子シャトルレバーのみの操作で行なうと，前進・後進が切換わる時トラクタの自重で自走し，危険な場合が予想されます。必ずクラッチペダル・ブレーキペダルを踏み込んで切換えを行ない，クラッチペダルで発進してください。

＊エンジンを回転させたまま座席を離れる時は必ず主変速レバー・電子シャトルレバーを中立にし，駐車ブレーキレバーを引いてください。電子シャトルレバーだけを中立にして座席を離れると，傷害事故につながるおそれがあります。

＊電子シャトルはトランスミッションの走行系に油圧クラッチを使用しており，エンジンを停止すると油圧クラッチが切れる構造になっています。従ってエンジン停止時は，エンジンブレーキが効きません。駐車するときは必ず駐車ブレーキをかけてください。又，坂道での駐車はしないでください。

＊ミッション油温が低温の場合に前後進の急激な切換えを行なうとショックが大きくなることがありますので避けてください。

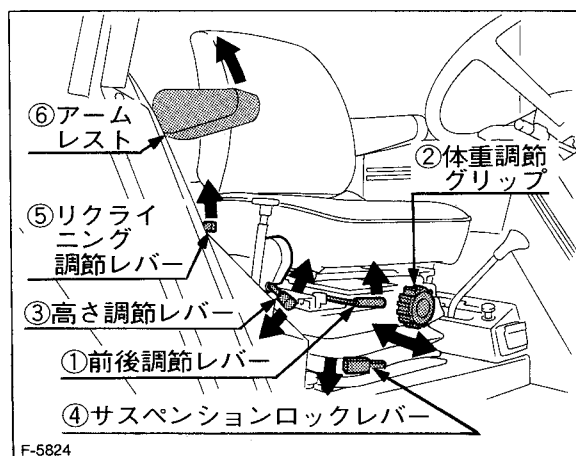
シート・ハンドルの取扱い

■シート

◆調節箇所

調節箇所	仕様		
	Q_2	Q_1	ROPS·Q·SQ_1
①前後調節	○	○	○
②体重調節	○	○	○
③高さ調節	○	○	
④サスペンションロック	○		
⑤リクライニング調節	○		
⑥アームレスト	○	○	○

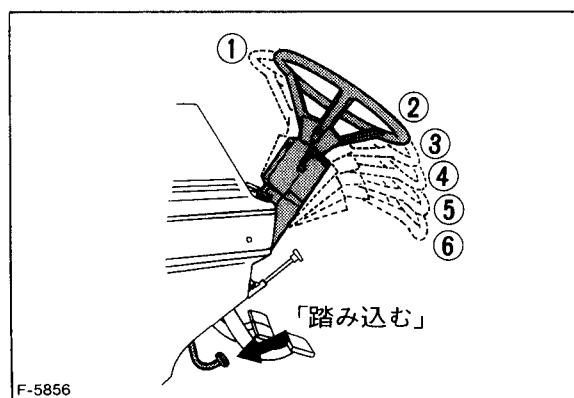
◆調節方法

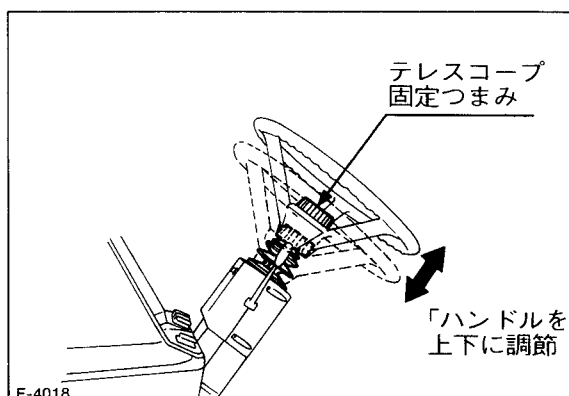
①前後調節レバーを**“上げる”**と，シートが前後７段階に調節できます。
②体重調節グリップを**“回す”**と，クッションの強さが調節できます。
③高さ調節レバーを引出し**“上下に操作”**すると，シートの高さが調節できます。
④シートにすわって、サスペンションロックレバーを**“下げる”**とシートのサスペンションがロックできます。
⑤リクライニング調節レバーを**“上げる”**と，背もたれの角度が調節できます。
⑥左右のアームレストは,自由に後方へ向けられます。

■ハンドル

◆チルトハンドル

チルトハンドルの操作はチルトハンドル操作ペダルを踏み込んで②～⑥の適当な位置でペダルをはなして位置を決めてください。
①……………乗り降り時の位置
②～⑥………運転操作位置

注　意

＊調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。
＊走行中の調節はしないでください。

◆テレスコープ【Q_2仕様】

テレスコープ固定つまみを反時計方向に回し，ロックを解除後，ハンドルを上下に調節できます。調節後は固定つまみをしっかりと回してロックしてください。

前輪駆動・倍速ターンの取扱い

■前輪駆動レバー

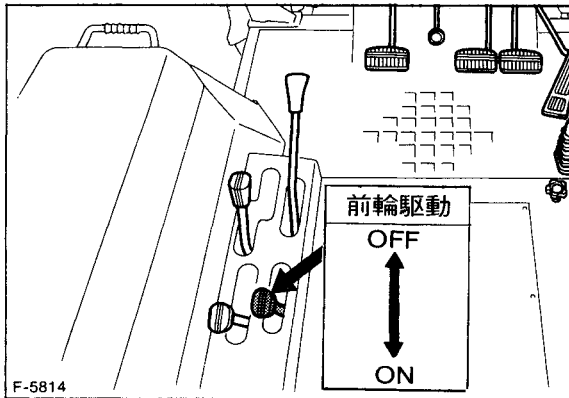
【M_1-100･115を除く4WD仕様】

前輪駆動を断続するレバーで，クラッチペダルを踏込み，

レバーを後に押す……四輪駆動になります。

レバーを前に引く……二輪駆動になります。

四輪駆動にすると，計器板のDT表示ランプが点灯します。

F-5814

重　要

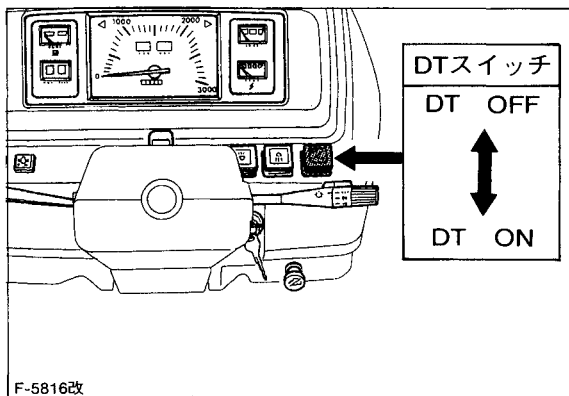
＊前輪駆動レバーは，"ON"か"OFF"の位置にしてください。中間の位置で運転すると故障の原因になります。

■前輪駆動スイッチ

【M_1-100･115の4WD仕様】

スイッチを押す………DT表示ランプ及びスイッチランプが点灯し，４輪駆動になります。

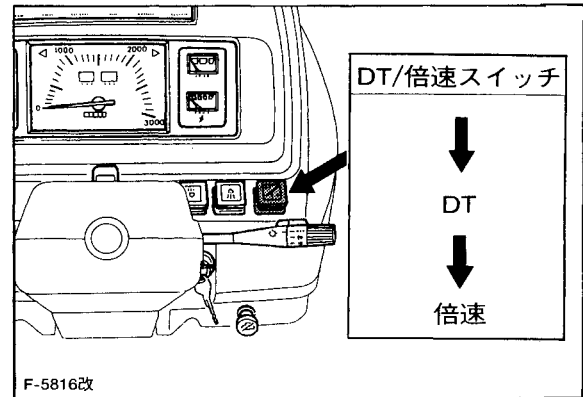
スイッチを再度押す…ランプが消灯し，２輪駆動になります。

F-5816改

■DT/倍速スイッチ【B仕様】

スイッチを１回押す………DT表示ランプが点灯し四輪駆動になります。

スイッチを２回押す………スイッチランプが点灯し倍速ターンになります。

スイッチを３回押す………二輪駆動に戻ります。

F-5816改

 警　告

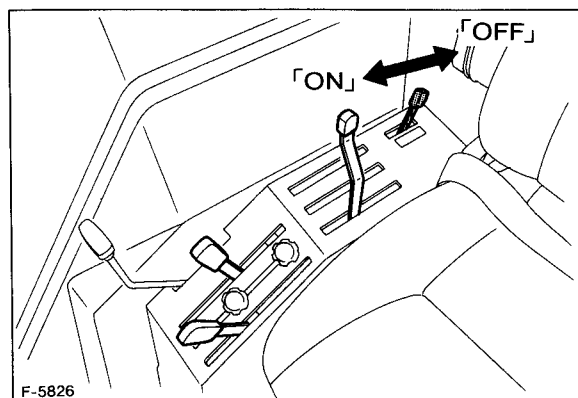
＊フロントローダ作業中は倍速DTを絶対に使用しないでください。

PTO装置の取扱い

■PTOクラッチ操作レバー

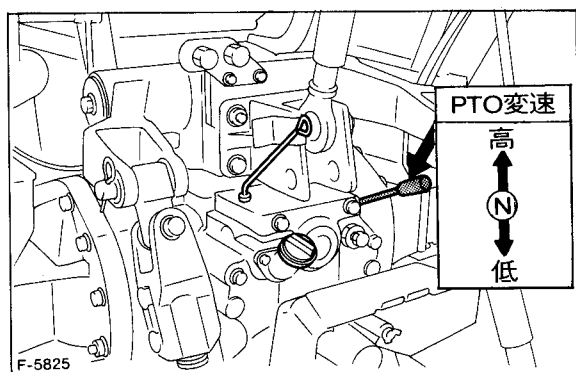
PTOクラッチ操作レバーを**“ON”**にすると計器板のPTOランプが点灯し，PTOクラッチが接続されます。

重　要

＊PTOクラッチ操作レバーが“OFF”の位置でないとエンジンが始動できません。

■PTO変速レバー

注　意

＊作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。
低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

PTOクラッチ操作レバーを**“OFF”**にして変速します。
(低)540rpmになります。
(高)1000rpmになります。

■グランド・ライブPTO切換えレバー

◆ライブPTO

PTOクラッチ操作レバーを**“OFF”**にしてから数秒後，PTO切換えレバーを**“ライブPTO”**の位置にし，PTOクラッチ操作レバーを**“ON”**にすると，ライブPTOが使えます。
ライブPTOはトラクタ停車中でもPTOが使用できます。

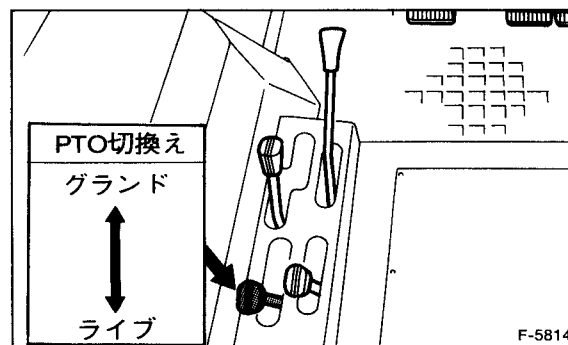
重　要

＊変速が入りにくいときは，PTOクラッチ操作レバーを“ON”“OFF”し，スムーズに入る位置を探してください。
無理に変速を入れようとすると故障の原因になります。

◆グランドPTO

クラッチペダルを踏込みトラクタを停止し，PTOクラッチ操作レバーを**“OFF”**にしてから，PTO切換えレバーを**“グランドPTO”**の位置にするとグランドPTOが使えます。

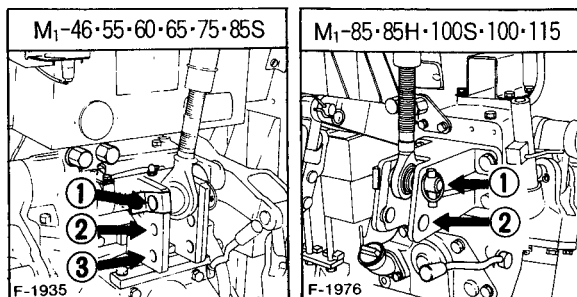
重　要

＊グランドPTOは，ロータリ耕うん，フォーレージハーベスタなど負荷の大きい作業には使用しないでください。

三点リンクの取扱い

■上部リンクの取付け穴

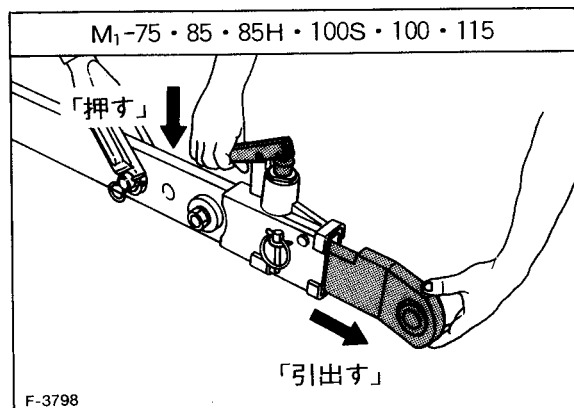
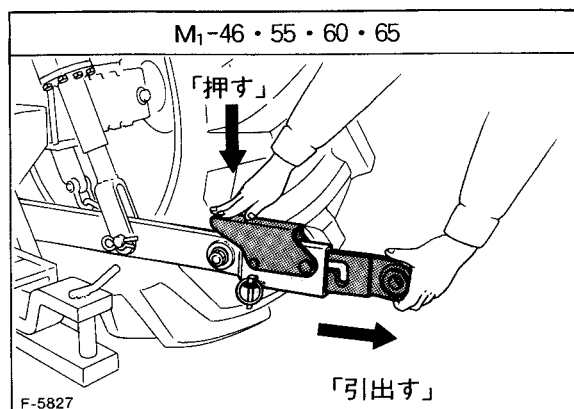
油圧装置がドラフトコントロールとして作動しているときは，上から下にいくほど敏感になります。

【M_1-46・55・60・65・75・85S仕様】

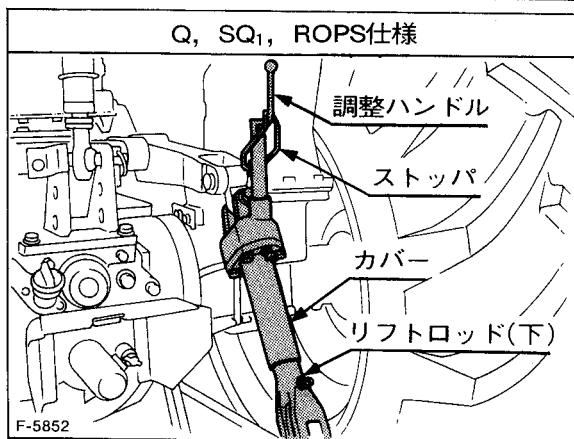
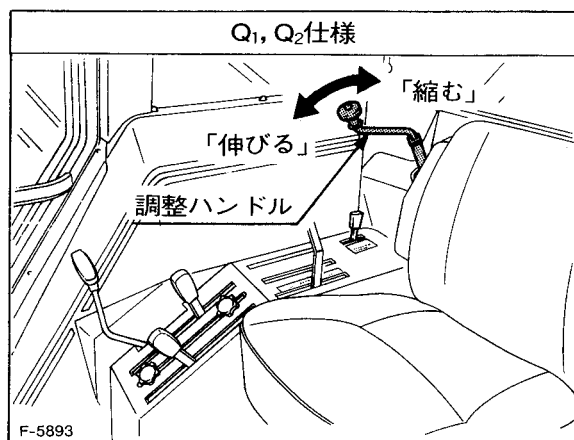
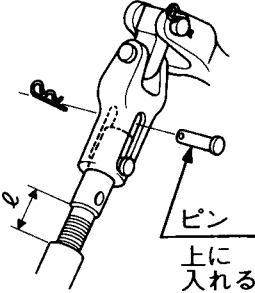
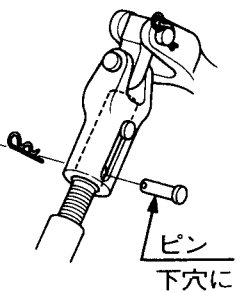
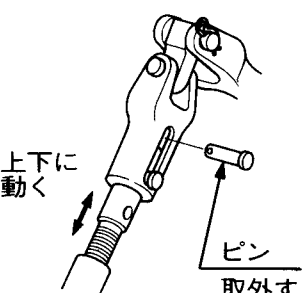
原則として，ドラフトコントロールを使用しない場合は①の穴を使用してください。

■クイックジョイント

ロアーリンクの先端部が上下・左右に少し動くので，作業機の取付けが容易にできます。

①レバーを押して先端部を引き出し，作業機を取付けます。

②作業機取付け後，トラクタを少しバックさせると，先端部が元に戻って固定されます。

■リフトロッドの調整

(1)右側の調整ハンドルで，作業機の傾きを調整してください。

(2)調整後は,ハンドルをストッパで固定してください。

＊リフトロッド(右)を伸ばしたときはリフトロッド(下)の上端がカバーから出ないようにしてください。伸ばしすぎるとネジが外れることがあります。

■フローティング機構

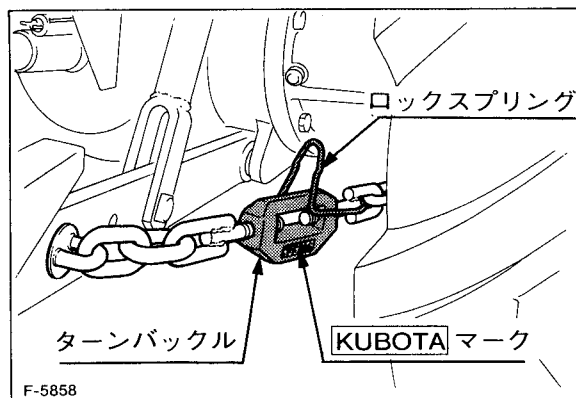
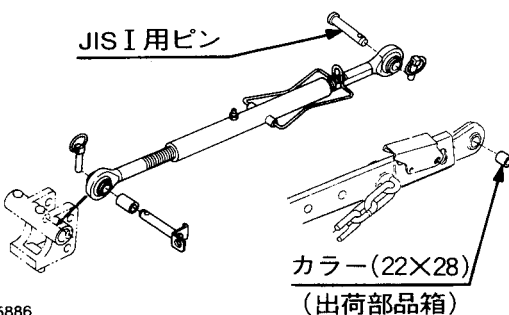
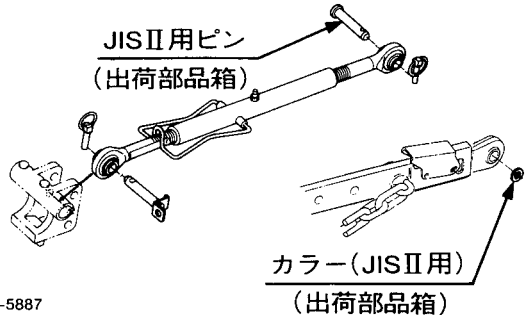
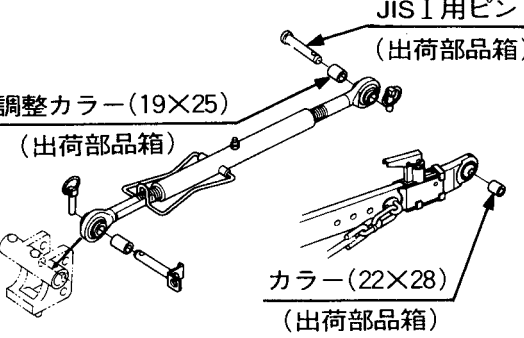
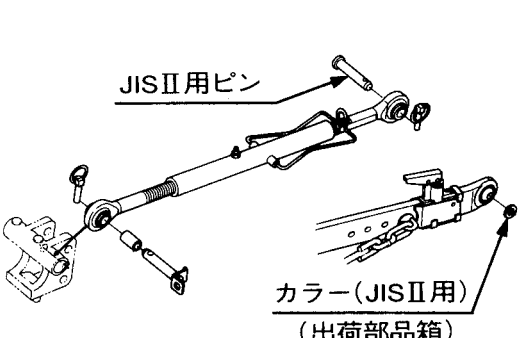
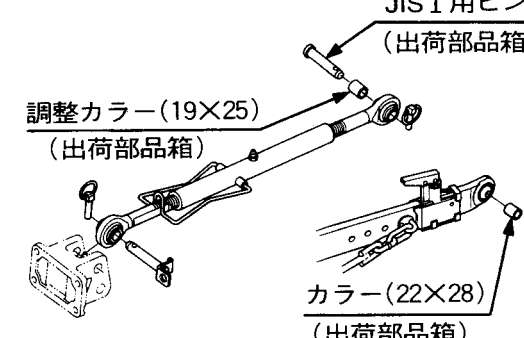
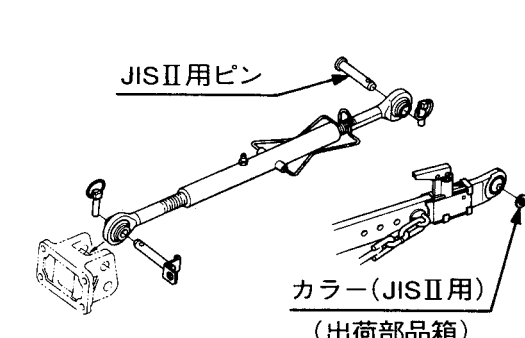
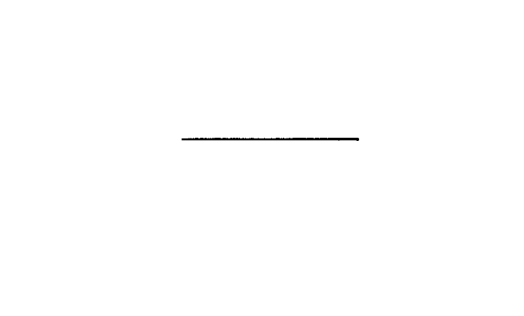
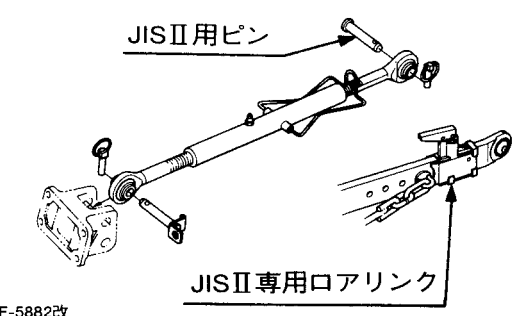
フローティング機構を働かすと，作業機が地面や耕地の状況に応じて自由に追随します。トラクタより幅の広い作業機での作業に便利です。

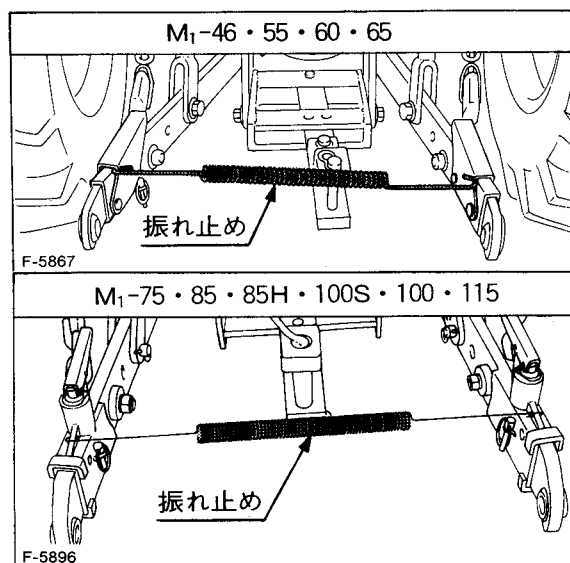
◆リフトロッド(左)の取扱い

■チェックチェーンの取扱い

調整後はロックスプリングでターンバックルを固定してください。

重 要

＊ターンバックルの KUBOTA マーク側を下向きにしてからロックスプリングで固定してください。逆向きにするとロックスプリングが変形してしまいます。

■作業機を取付けないときの注意

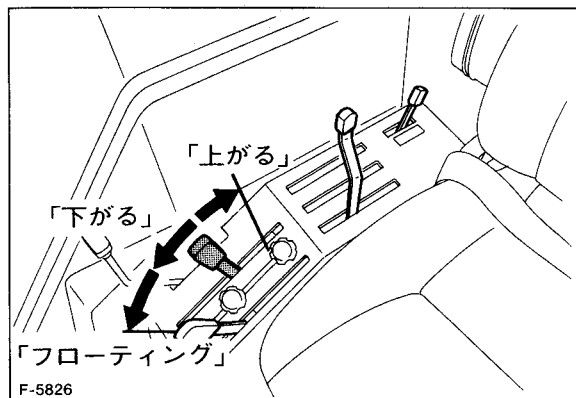
作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように,左右に振れ止めをしておいてください。

■3点リンクの取扱い

	JISⅠとして使用する場合	JISⅡとして使用する場合
M_1-46 M_1-55 M_1-60 M_1-65	JISⅠ用ピン カラー(22×28) (出荷部品箱) F-5886	JISⅡ用ピン (出荷部品箱) カラー(JISⅡ用) (出荷部品箱) F-5887
M_1-75	JISⅠ用ピン (出荷部品箱) 調整カラー(19×25) (出荷部品箱) カラー(22×28) (出荷部品箱) F-5879	JISⅡ用ピン カラー(JISⅡ用) (出荷部品箱) F-5880
M_1-85 M_1-85H	JISⅠ用ピン (出荷部品箱) 調整カラー(19×25) (出荷部品箱) カラー(22×28) (出荷部品箱) F-5881	JISⅡ用ピン カラー(JISⅡ用) (出荷部品箱) F-5882
M_1-85S M_1-100S M_1-100 M_1-115	――	JISⅡ用ピン JISⅡ専用ロアリンク F-5882改

作業機昇降装置の取扱い

■ポジションコントロールレバー

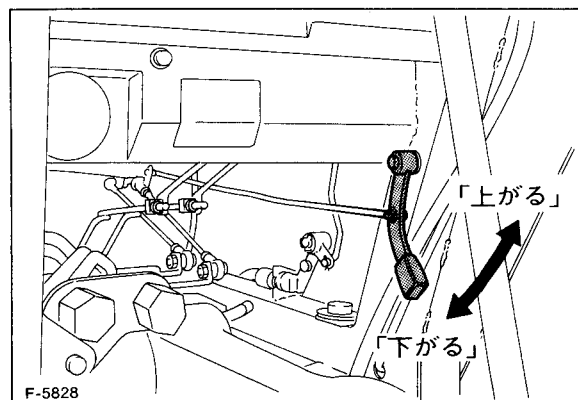
(1)ポジション範囲では，作業機が任意の位置に保たれます。

(2)フローティング範囲では，作業機はいっぱいに下がります。

■ポジション外部操作レバー

【Q_1，Q_2仕様】

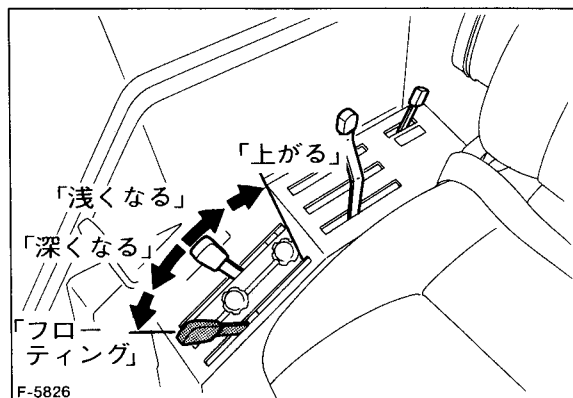
レバーによりポジションコントロールの操作が行なえます。

注　意

＊インプルメント装着時は特に機械に巻き込まれるおそれがありますので操作しないでください。

■ドラフトコントロールレバー

(1)ドラフト範囲では，負荷を感知して自動的に作業機を上下に調整します。レバーを**"上がる"**方向に近付けるほど，負荷に対する作業機の動きが敏感になります。

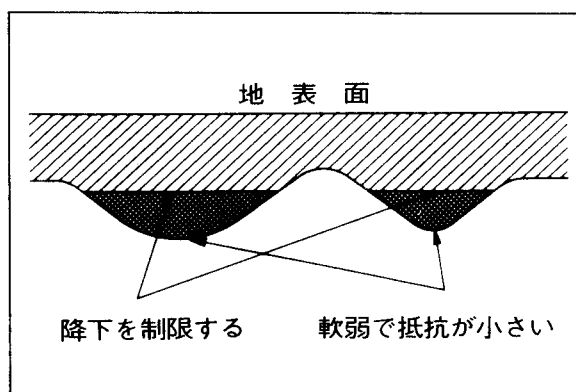
(2)フローティング範囲では，作業機はいっぱいに下がります。

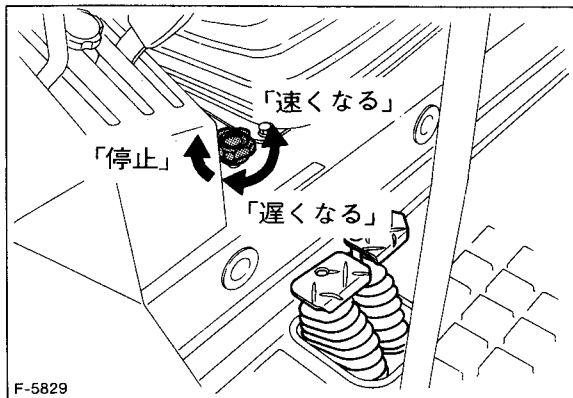
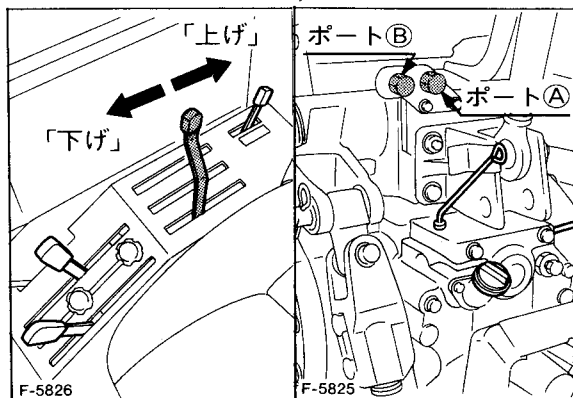
(3)レバーを**"上げ"**位置にすると，作業機はいっぱいに上がります。

◆ミックスコントロール

ポジションコントロールで作業機の降下位置を規制し，ドラフトコントロールでけん引抵抗に応じた制御をするという二つのコントロールをします。

軟弱な土質でのプラウ，サブソイラ，ハローなどの作業に適しています。

■作業機落下速度の調整

注　意

＊ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下調整グリップで，作業機が落下しないようにロックしてください。
落下調整グリップでロックした後，ポジションコントロールレバーを“下がる”の方向に動かして，作業機が落下しないことを必ず確認してください。

落下調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。

F-5829

■油圧補助コントロールレバー

補助コントロールバルブ単複切換えつまみにより，**“単動”“複動”**2種類の操作ができます。

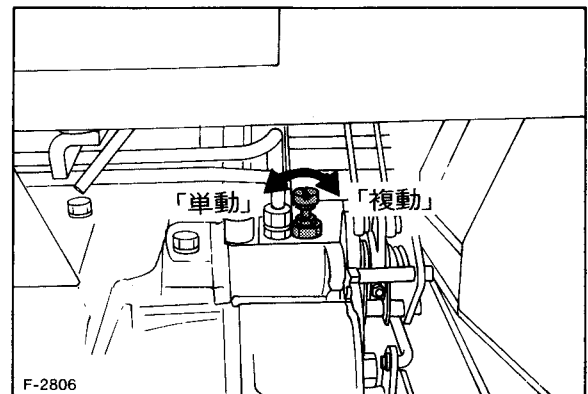
F-5826　F-5825

	複　動		単　動	
油圧補助 コントロールレバー	ポートⒶ	ポートⒷ	ポートⒶ	ポートⒷ
↑　上げ	➡ 吐出	⇦ 戻り	➡ 吐出	
↓　下げ	⇦ 戻り	➡ 吐出	⇦ 戻り	

	パイプ側ネジサイズ
ポートⒶ	PT1/2 雄
ポートⒷ	

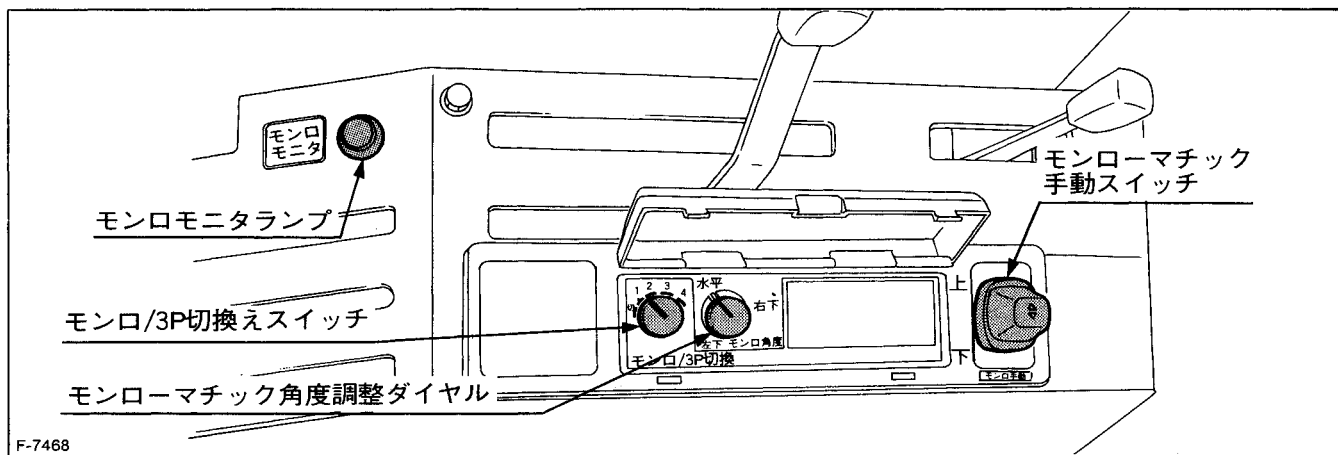
■補助コントロールバルブ単複切換えつまみ

単動……左に回しゆるめる
複動……右に回し締込む

F-2806

重　要

＊“単動”の作業機を“複動”の位置で使用するとトラクタの故障の原因になります。
ご使用になる作業機に合わせて，切換えてください。
＊“複動”使用時，単複切換えつまみの締込みが不足するとバルブが“複動”で作動しません。

モンローマチック【M仕様】(M_1-46,55,60,65,75)の取扱い

■スイッチの取扱い

◆モンロ/３P切換えスイッチ

１，２，３，４の切換えは，作業機によって定まる３点リンクの取付け状態(３Pカテゴリ及びロアーリンク穴位置)に応じて選択してください。

モンローマチック	３P切換えスイッチ	3Pカテゴリ（ロアリンクの幅）	ロアリンク穴位置
自動（モンロモニタランプ点灯）	1 2 3 4 切	２形（広）	中・後
	1 2 3 4 切	２形（広）	前
	1 2 3 4 切	１形（狭）	中・後
	1 2 3 4 切	１形（狭）	前
手動	1 2 3 4 切	モンローマチックの自動制御が解除され，**“手動”**になります。	

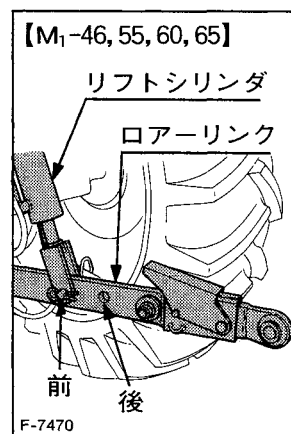
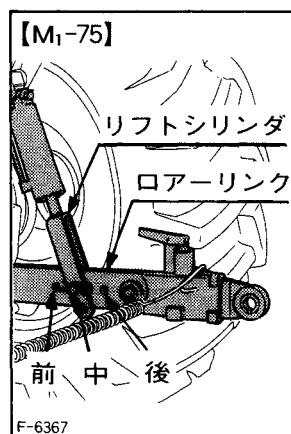
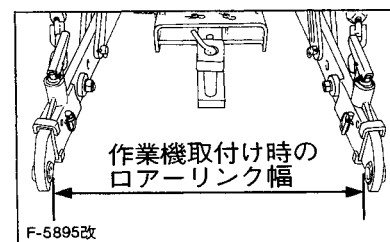
補　足

＊道路走行時は，必ず 切 にして走行してください。
＊モンローマチックが不要な場合には， 切 で作業してください。
＊チェックチェーンを張りすぎると，モンローマチック作動時に３点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

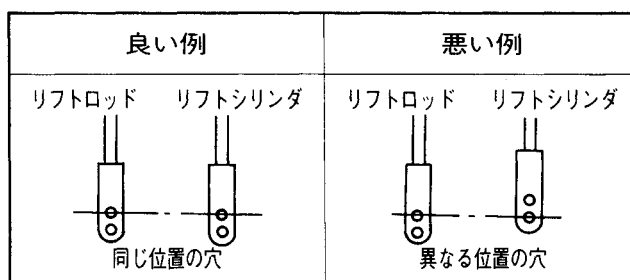
【M_1-75】

リフトシリンダ
ロアーリンク
前　中　後
F-6367

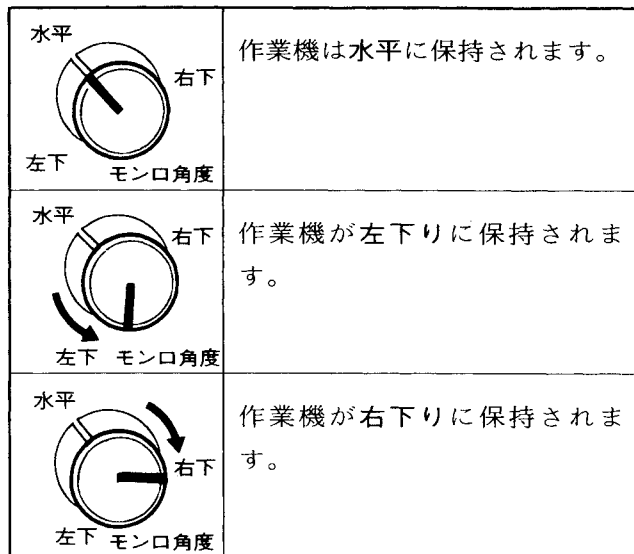
【M_1-46, 55, 60, 65】

リフトシリンダ
ロアーリンク
前　後
F-7470

3Pカテゴリ
（ロアーリンクの幅）
２形(広)…825㎜
（JIS）
１形(峡)…683㎜
（JIS）

補　足

＊リフトロッドとシフトシリンダの先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。

良い例	悪い例
リフトロッド　リフトシリンダ	リフトロッド　リフトシリンダ
同じ位置の穴	異なる位置の穴

◆モンローマチック角度調節ダイヤル

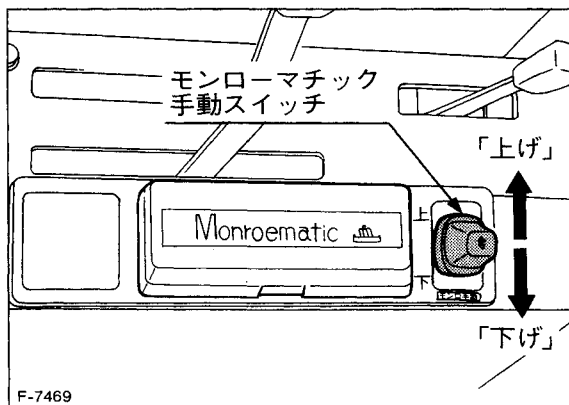
モンロ/3P切換えスイッチが1，2，3，4の場合，作業機の姿勢を調節するときに使用します。

ダイヤル	説明
水平 右下 左下 モンロ角度	作業機は水平に保持されます。
水平 右下 左下 モンロ角度	作業機が左下りに保持されます。
水平 右下 左下 モンロ角度	作業機が右下りに保持されます。

F-6366

なお作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は車体と平行に保持されます。

■モンローマチック手動スイッチ

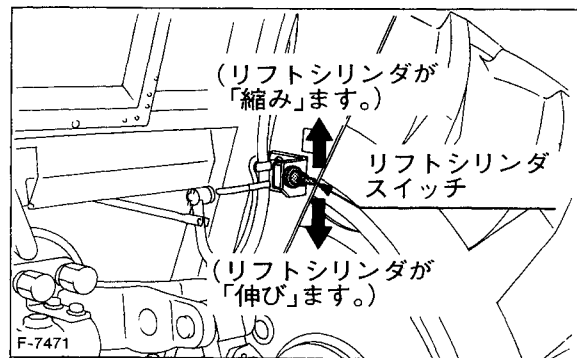
モンロ/3P切換えスイッチが［切］の場合，作業機を左右に傾斜させるときに使用します。

F-7469

(1)**"上げ"**方向へレバーを押している間，作業機の右側が上がります。
(2)**"下げ"**方向へレバーを押している間，作業機の右側が下がります。

重　要

＊スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

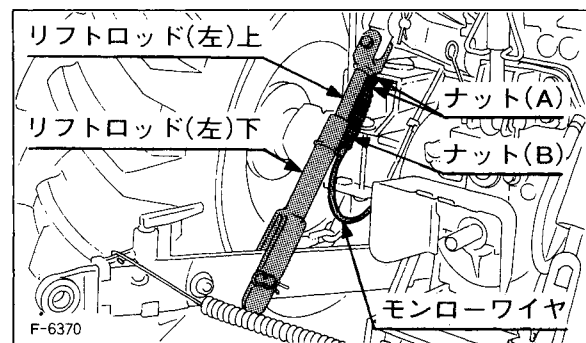
■外部操作スイッチの取扱い

◆リフトシリンダスイッチ

F-7471

注　意

＊インプルメント装着後は特に機械に巻込まれるおそれがありますので操作しないでください。

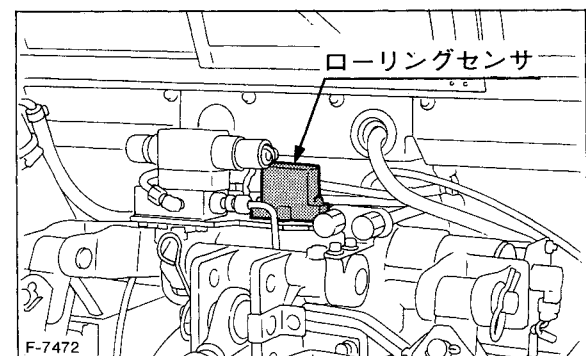
■リフトロッド(左)の取扱い

F-6370

リフトロッドの長さを調整する場合は**"Bのナット"**をゆるめ，**"モンローワイヤ"**を取外してから**"リフトロッド下"**を回してください。

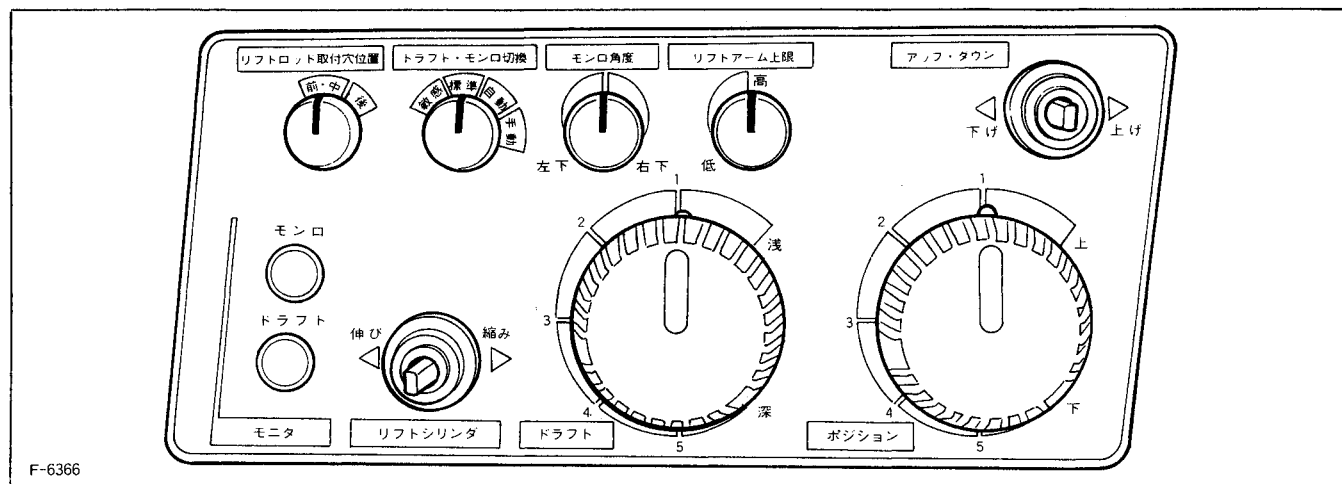
重　要

＊Aのナットをゆるめ，リフトロッド(左)上からモンローワイヤを取外さないでください。
Aのナットの位置をずらした場合はモンローマチックのストロークセンサの再調整が必要になります。

■ローリングセンサの取扱い

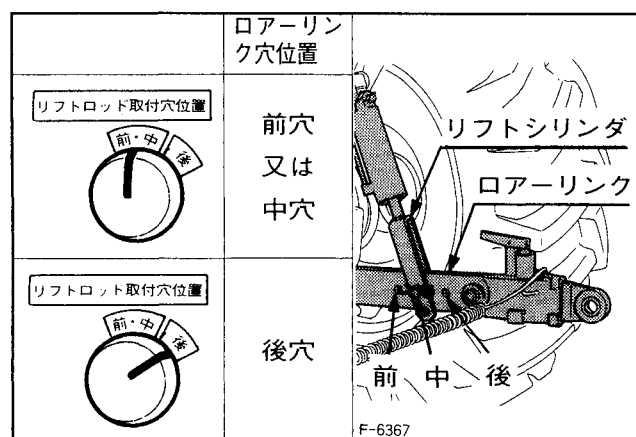
F-7472

ローリングセンサは車体の傾きを感知する電子部品です。たたいたり衝撃を与えると機能が低下しますので，取扱いには注意してください。

スーパードラフト・モンローマチック【M仕様】(M₁-85,100,115)の取扱い

■スイッチの取扱い

F-6366

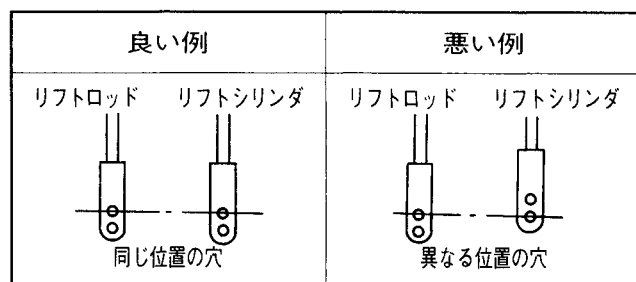
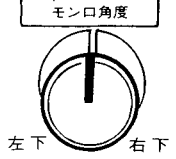
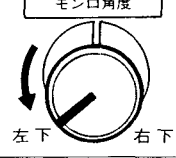
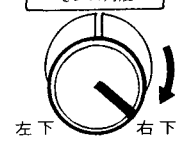
◆リフトロッド取付け穴位置スイッチ

3点リンクの取付け状態に合せて，リフトシリンダ(ロッド)取付け穴位置スイッチを切換えてください。

	ロアーリンク穴位置	
リフトロッド取付穴位置 (前・中／後)	前穴 又は 中穴	リフトシリンダ ロアーリンク 前 中 後
リフトロッド取付穴位置 (前・中／後)	後穴	F-6367

F-6366

補　足

＊リフトロッドとリフトシリンダの先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。

良い例	悪い例
リフトロッド　リフトシリンダ 同じ位置の穴	リフトロッド　リフトシリンダ 異なる位置の穴

F-6368

◆ドラフト・モンローマチック切換えスイッチ

ドラフト・モンロ切換		
(手動)	モンローマチック 手動 ドラフト 切	
(自動)	モンローマチック 自動 ドラフト 切	モニタランプ**“モンロ”**点灯
(標準)	ドラフト 標準 モンローマチック 切	一般的なけん引作業はすべてこの位置で行ないます。(ドラフトダイヤルがドラフト範囲に入るとモニタランプ**“ドラフト”**点灯)
(敏感)	ドラフト 敏感 モンローマチック 切	軽い土壌など，けん引負荷の小さい作業はこの位置で行ないます。(ドラフトダイヤルがドラフト範囲に入るとモニタランプ**“ドラフト”**点灯)

補　足

＊道路走行時は，必ず 手動 にして走行してください。

＊モンローマチックが不要な場合には，手動 で作業してください。

＊チェックチェーンを張りすぎると，モンローマチック作動時に3点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

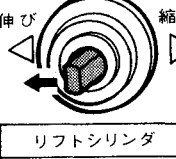
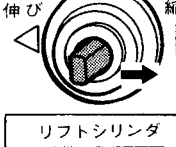
◆モンローマチック角度調節ダイヤル

ドラフト・モンローマチック切換えスイッチが［自動］の場合，作業機の姿勢を調節するときに使用します。

F-6366

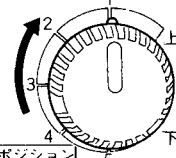
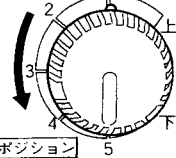
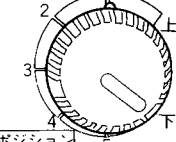
なお，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は車体と平行に保持されます。

◆リフトアーム上限規制ダイヤル

リフトアームの上限位置を変えるときに使用します。通常は**“高”**方向にいっぱい回した位置で使用します。

F-6366

補　足

＊リフトアーム上限規制は，ロータリなどでジョイント角がつきすぎるのを防止する場合などに使用します。

＊ポジションダイヤル，ドラフトダイヤル，アップダウンスイッチを操作しても，上限規制ダイヤルで設定した高さ以上には上昇しません。

◆リフトシリンダスイッチ

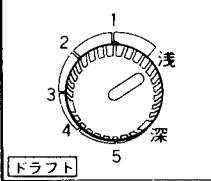
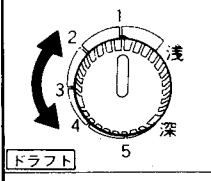
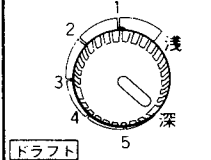
ドラフト・モンローマチック切換えスイッチが［手動］の場合，作業機を左右に傾斜させるときに使用します。

F-6366

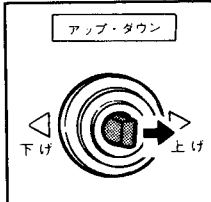
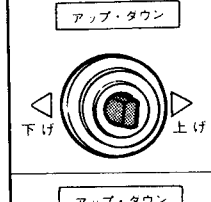
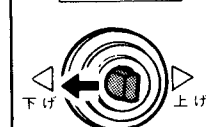
◆ポジションダイヤル

F-6366

◆ドラフトダイヤル

ドラフト・モンローマチック切換えスイッチが[標準]又は[敏感]の場合，ドラフトダイヤルをドラフト範囲にセットすると，けん引負荷を感知して，自動的に作業機を上下させます。

	作業機はいっぱいに上がります。
	ドラフト範囲 ダイヤルを**“浅”**方向に近づけるほど，けん引負荷に対する作業機の動きが敏感になります。
	フローティング状態 作業機はいっぱいに下がります。

F-6366

ドラフト範囲に入るとモニタランプ**“ドラフト”**が点灯します。

◆ミックスコントロール

ポジションダイヤルとドラフトダイヤルによりミックスコントロールを行なえます。

ミックスコントロールについては19ページをご参照ください。

◆アップ・ダウンスイッチ

土壌の状態が比較的一定なほ場では，他のダイヤルをいったんセットすれば，アップダウンスイッチの操作だけで作業することができます。

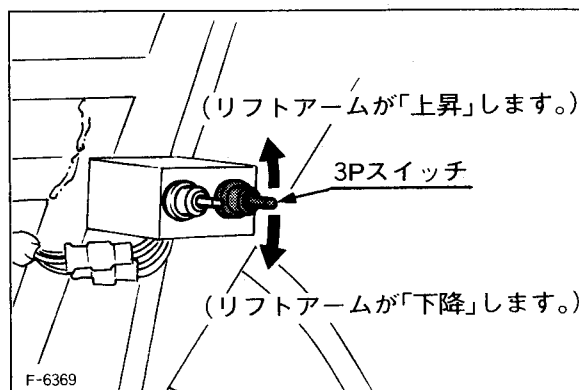
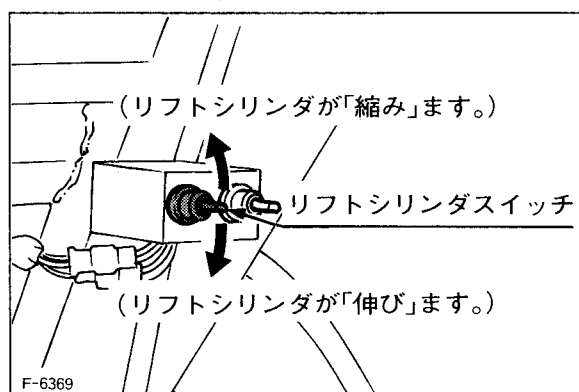
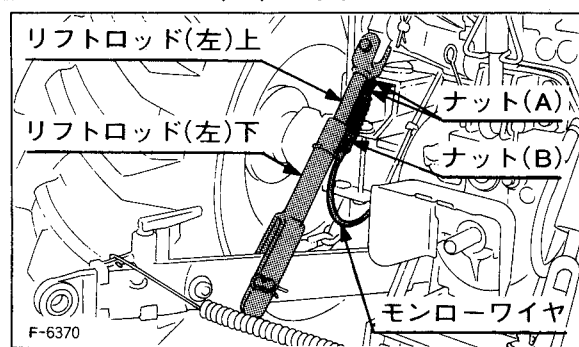
	リフトアームが上昇します。 〔アップ・ダウンスイッチは**“上げ”**位置でのロック機能がついていますので，手を離しても**“上げ”**位置で保持されます。枕地旋回の場合に使用すると有効です。〕
	ドラフトダイヤル及びポジションダイヤルで設定した状態でコントロールします。
	フローティング状態になります。 （プラウ作業のスキ込み時に使用すると有効です。）

F-6366

■外部操作スイッチの取扱い

◆3Pスイッチ

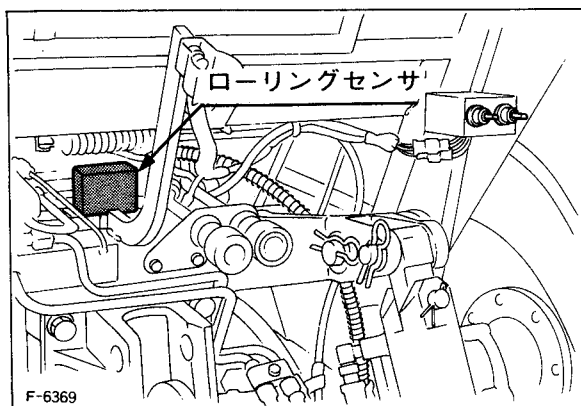
◆リフトシリンダスイッチ

 注　意

＊インプルメント装着後は特に機械に巻込まれるおそれがありますので操作しないでください。

■リフトロッド(左)の取扱い

リフトロッドの長さを調整する場合は**“Bのナット”**をゆるめ，**“モンローワイヤ”**を取外してから**“リフトロッド下”**を回してください。

[補　足]

＊Aのナットをゆるめ，リフトロッド(左)上からモンローワイヤを取外さないでください。
　Aのナットの位置をずらした場合はモンローマチックのストロークセンサの再調整が必要になります。

■ローリングセンサの取扱い

ローリングセンサは車体の傾きを感知する電子部品です。たたいたり衝撃を与えると機能が低下しますので，取扱いには注意してください。

■安全機能について

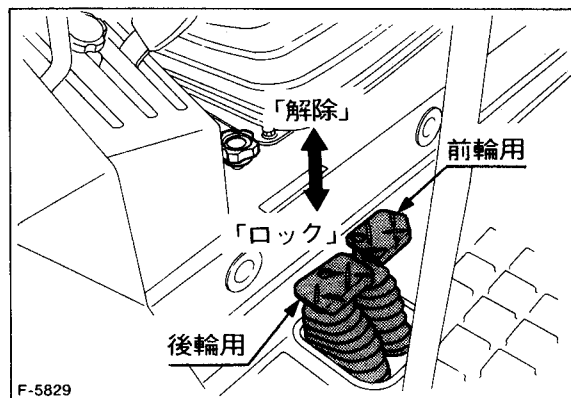
(1)エンジンが停止中(メインスイッチ**"OFF"**)は，室内のパネルボードのスイッチ及び，ダイヤルを操作してもスーパードラフト・モンローマチックは作動しません。
但し，外部操作スイッチ，アップダウンスイッチ，ポジションダイヤル，ドラフトダイヤルは，エンジン停止中でもメインスイッチが**"ON"**になっていれば**"下"**方向に作動します。

(2)エンジンを始動しても，いったん，アップダウンスイッチを**"上"**にしてからでないとスーパードラフト・モンローマチックは作動しません。
(アップダウンスイッチのかわりにポジションダイヤル又はドラフトダイヤルを**"上"**方向に動かしても，スーパードラフトの安全装置が解除できます。)

デフロックペダルの取扱い

(1)前・後輪の片側がスリップしたときにペダルを踏込むと，左右の車輪がいっしょに回り，スリップを防止します。

(2)ペダルを踏込んでいるときだけデフロックされ，離すと外れます。

(3)前輪用ペダルを踏込むと，前輪だけデフロックされますが，後輪用ペダルを踏込むと，前・後輪ともデフロックされます。

補 足

＊デフロックが外れないときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏むと外れます。

 注 意

＊デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。

＊道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

輪距の調節

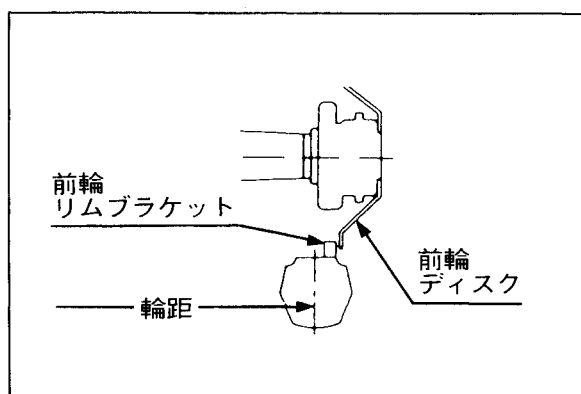
注　意

＊けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

■前輪

リムとディスクの取付け位置変更により，２～８段階に変えられます。(タイヤの仕様により異なります。)

重　要

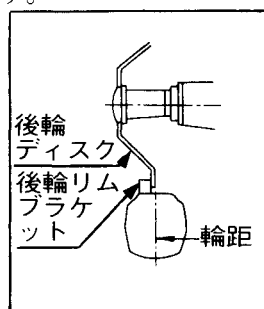
＊決められた輪距以外では使用しないでください。

■後輪

後輪輪距は機種により６～８段に変えられます。

輪距の変更は，

❶ジャッキで，左右の後輪を浮かす。

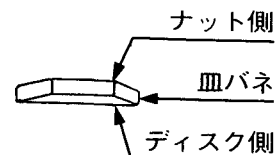
❷No.(1)～No.(4)又はNo.(5)～No.(8)は，後輪ディスクを取外すことなく，後輪リムの移動又は左右を交換することによってできます。

但し，**“12.4-28RC仕様”，“12.4-32RC仕様”，“12.4-36RC仕様”，“13.9-36RC仕様”**のタイヤは，リムブラケットがダブル構造になっていますので，後輪リムの移動のみでできます。

※次に示す輪距は標準出荷及び部品採用のタイヤによるものです。

補　足

＊タイヤは側面の矢印が，前進時の回転方向に合うように取付けてください。

＊後輪ウエイトは，(1)～(4)の輪距で取付けられます。

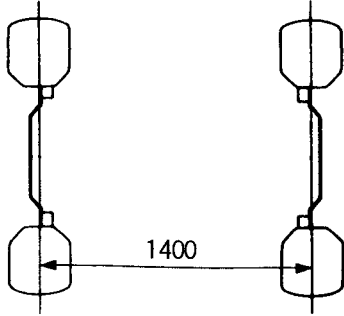
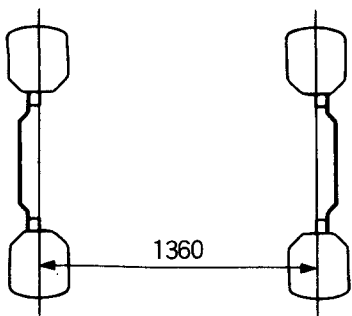
＊皿バネの取付け方向には十分注意し，右図のようにしてください。

＊フロントローダ作業など重作業時，タイヤのボルト，ナットは規定トルクで十分締めあげ，締め忘れのないよう注意してください。また，しばらく作業した後，再度トルクチェックを行ない，増し締めを行なってください。

＊ボルト，ナット，スタッド，サラバネやリム，ディスクの締付け面に油やグリースが付着していると，規定トルクまで締まりあがりませんので，シンナー等で油分をふきとってください。

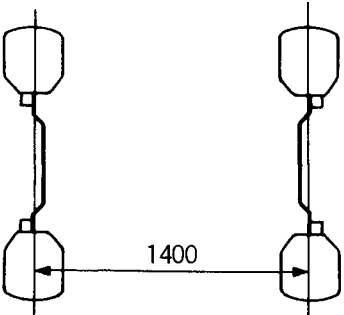
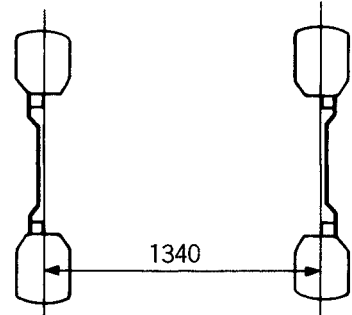
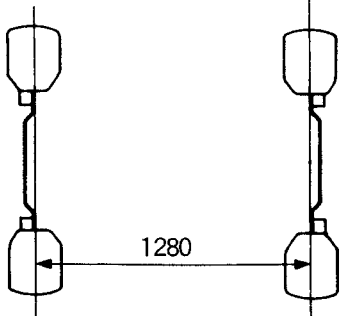
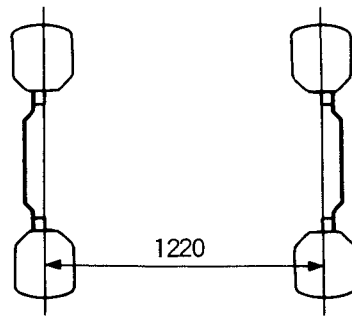
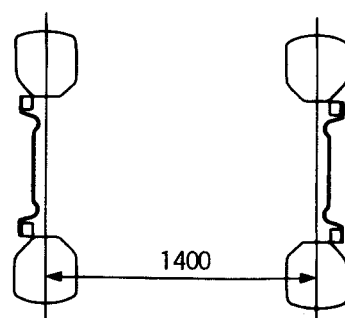
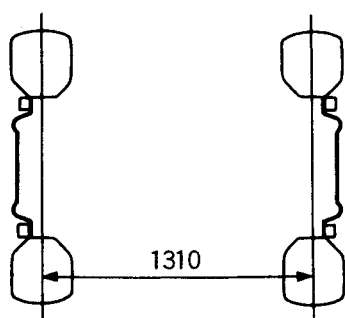
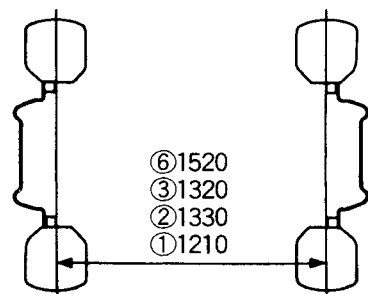
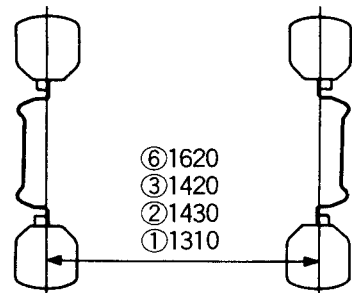
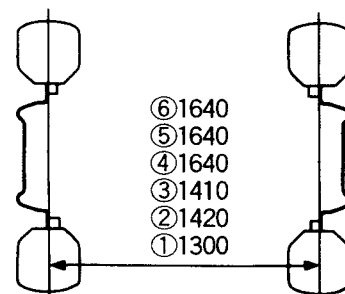
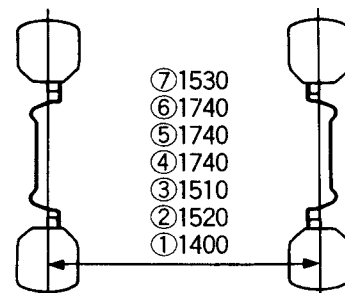
前輪輪距

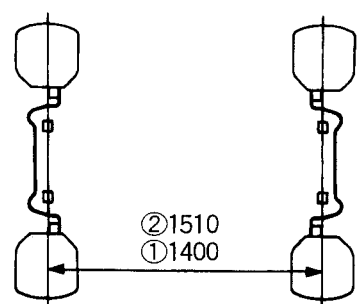
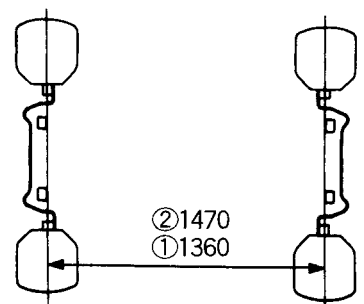
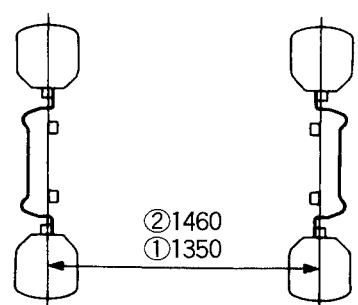
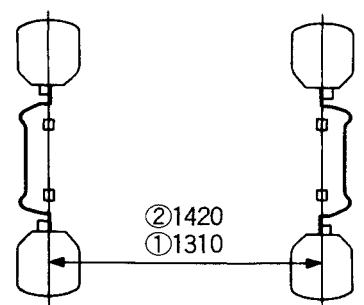
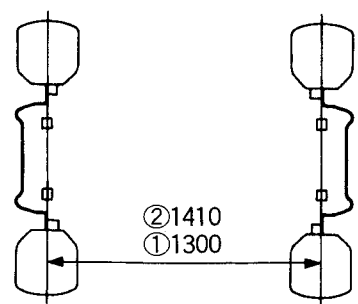
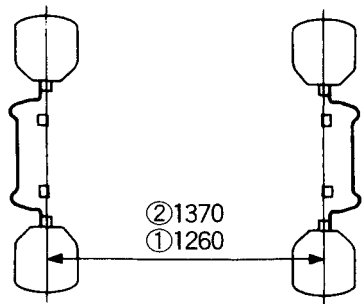
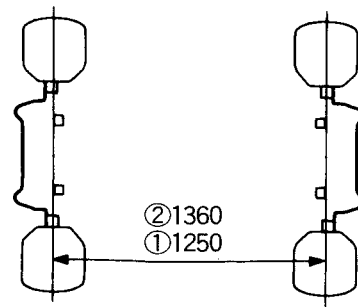
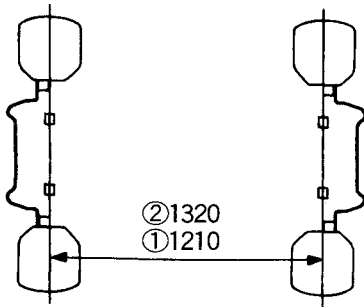
形　式	バイアスタイヤ	出荷時の輪距(mm)	備　　　考
M_1-46	8. 3-20	1400	
	8. 3-22		
M_1-55	8. 3-22		
M_1-60	9. 5-20		

(単位mm)

1360

形　式	バイアスタイヤ	出荷時の輪距(mm)	備　　　考
M_1-46	8. 3-20RC仕様	1400	
M_1-55	8. 3-22RC仕様		
M_1-60			

(単位mm)

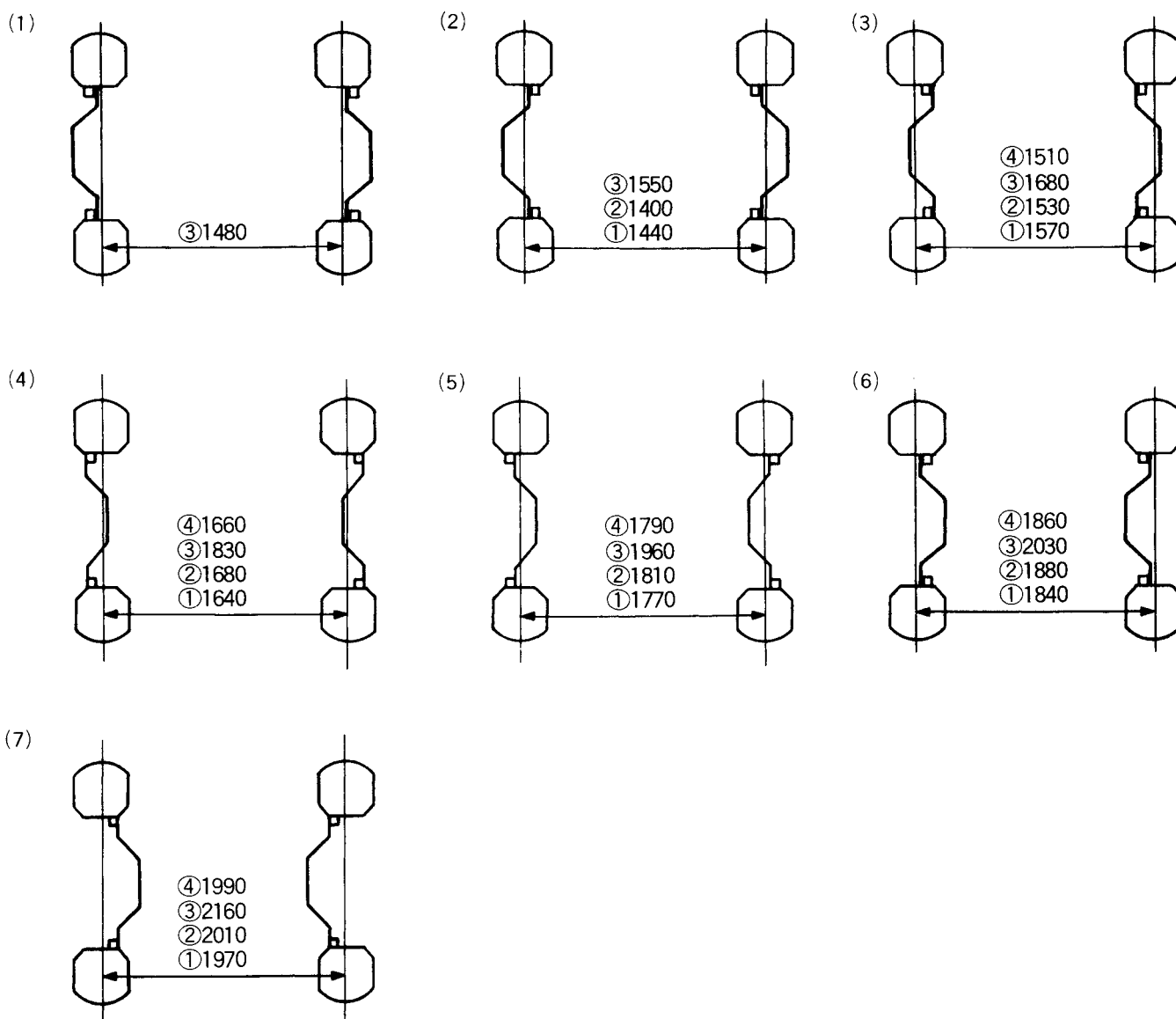
1280

形　式	バイアスタイヤ	出荷時の輪距(mm)	備　　考
M_1-55	9.5-22	1400	
M_1-60 M_1-65	9.5-22		

形　式	バイアスタイヤ	ラジアルタイヤ	出荷時の輪距(mm)	備　　考
M_1-65	8.3-24		1400	輪距は①を参照
	9.5-24			
M_1-75	9.5-24			
	11.2-24	11.2R24	1520	輪距は②を参照
M_1-85	9.5-24		1510	輪距は③を参照
	11.2-24	11.2R24		
M_1-85H	9.5-24	9.5R24		
	11.2-24	11.2R24		
	12.4-24	12.4R24	1530	輪距は⑦を参照
M_1-100S	12.4-24		1640	輪距は⑥を参照
	13.6-24			輪距は⑤を参照
M_1-100	11.2-24	11.2R24		輪距は④を参照
	12.4-24			輪距は⑥を参照
	13.6-24			輪距は⑤を参照
M_1-115	11.2-24	11.2R24		輪距は④を参照
	12.4-24			輪距は⑥を参照
	13.6-24			輪距は⑤を参照
	14.9-24	14.9R24		

形　式	バイアスタイヤ	出荷時の輪距(mm)	備　　　考
M_1-65	8.3-24RC仕様	1400	輪距は①を参照
M_1-75	9.5-24RC仕様		
M_1-85	9.5-24RC仕様	1510	輪距は②を参照

（単位mm）

後輪輪距

形　式	バイアスタイヤ	ラジアルタイヤ	出荷時の輪距(mm)	備　考
M_1-46	12.4-28		1420	
	13.6-28			(1)の輪距には調節できません。
M_1-55 M_1-60	12.4-32			Q_1仕様は(1)の輪距には調節できません。
	14.9-28			(1)の輪距には調節できません。 Q_1仕様は(1)(2)の輪距には調節できません。
	16.9-28			(1)(2)の輪距には調節できません。
M_1-65	12.4-36			Q_1仕様は(1)の輪距には調節できません。
	13.9-36			(1)の輪距には調節できません。
	16.9-30			(1)(2)の輪距には調節できません。
M_1-75	12.4-36			Q_1, Q_2仕様は(1)の輪距には調節できません。
	13.9-36			(1)の輪距には調節できません。
	13.6-38	13.6R38	1520	(1)の輪距には調節できません。
	12.4-38			
	16.9-30			(1)(2)の輪距には調節できません。
M_1-85	13.6-38	13.6R38		(1)の輪距には調節できません。 Q_1, Q_2仕様は(1)(2)の輪距には調節できません。
	12.4-38			
	13.9-36			
	18.4-30			
M_1-85H	13.9-36	13.6R36		(1)(2)の輪距には調節できません。
	13.6-38	13.6R38		
	18.4-30			

（単位mm）

形　式	バイアスタイヤ	ラジアルタイヤ	出荷時の輪距(mm)	備　　　考
M_1-75 （鋳物ディスク）	18.4-30		1570	輪距は①を参照 Q_1, Q_2仕様は(3)の輪距には調節できません。
M_1-85 M_1-85H （鋳物ディスク）	16.9-34	16.9R34	1530	輪距は②を参照
M_1-100S （鋳物ディスク）	16.9-34		1510	輪距は④を参照
	18.4-34			
	16.9-38			
M_1-100 （鋳物ディスク）	14.9-38		1550	輪距は③を参照 14.9-38タイヤ以外(1)の輪距には調節できません。
	16.9-34	16.9R34		
	16.9-38			
	18.4-34			
M_1-115 （鋳物ディスク）	14.9-38			
	16.9-34	16.9R34		
	16.9-38			
	18.4-34			
	18.4-38	18.4R38		

（単位mm）

形　式	バイアスタイヤ	出荷時の輪距(mm)	備　　　考
M_1-46	12.4-28RC仕様	1420	
M_1-55 M_1-60	12.4-32RC仕様		
M_1-65	12.4-36RC仕様		Q_1仕様は(1)の輪距には調節できません。
M_1-75	12.4-36RC仕様		Q_1, Q_2仕様は(1)の輪距には調節できません。
M_1-85	13.9-36RC仕様	1520	(1)の輪距には調節できません。

（単位mm）

(1)

(2)

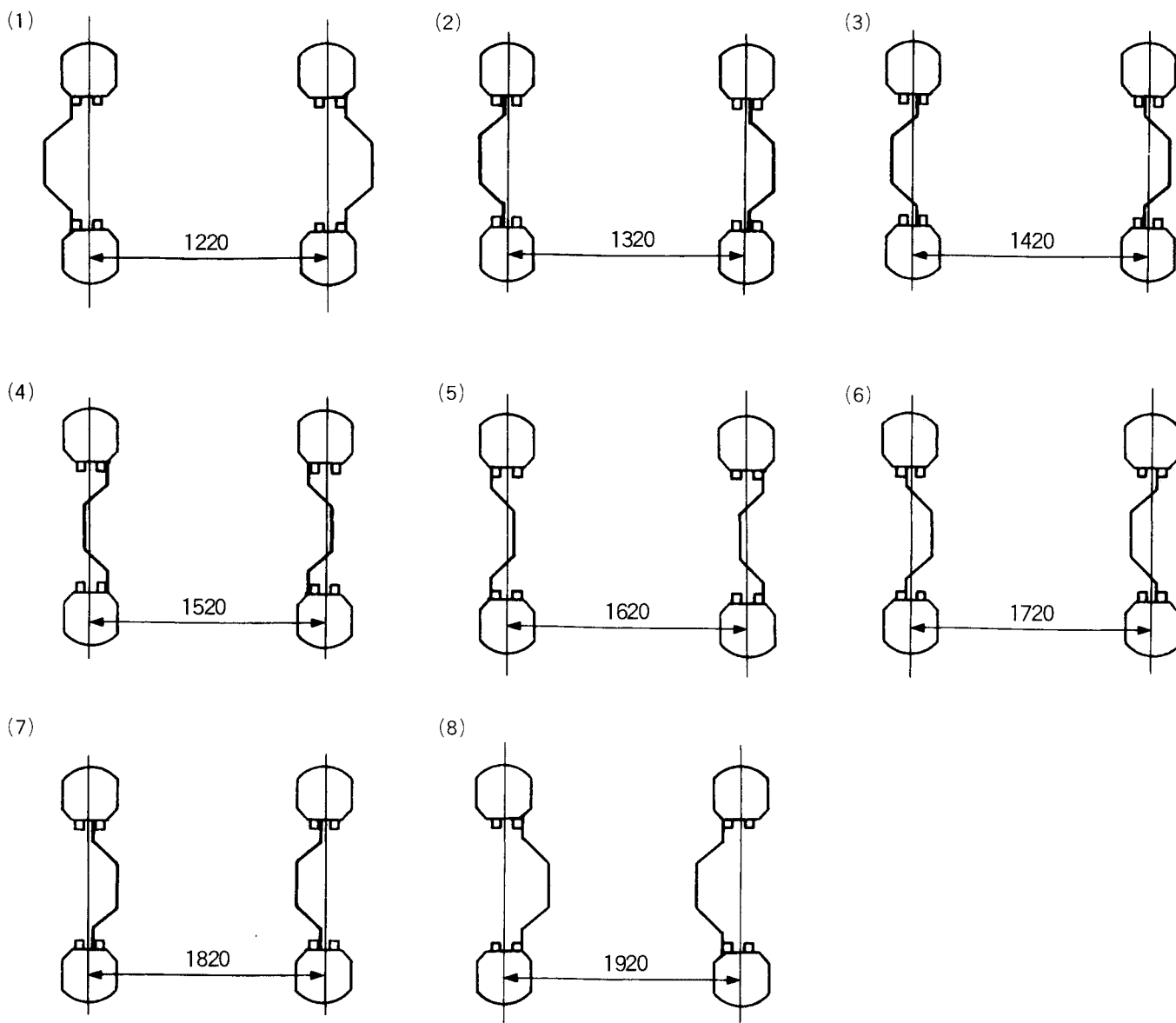
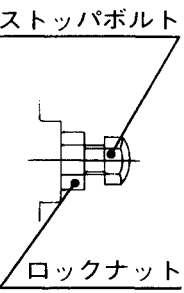
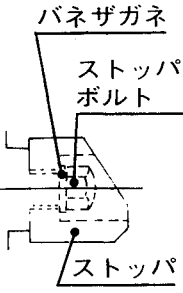
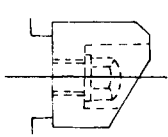
(3)

(4)

(5)

(6)

(7)

(8)

前輪切れ角の調整

【M_1-46・55・60・65・75】

●輪距を狭く(1310～1210㎜)して使用することができる機種においては，旋回時タイヤが本体に接触することがありますから，次の要領で切れ角を調整してください。

F-5888

Ⓧ部ボルトの調整要領		
Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ
ストッパボルト ロックナット	バネザガネ ストッパボルト ストッパ	
＊この間の輪距時は調整不要	＊左側に取付けた状態	＊左側に取付けた状態

(単位：㎜)

輪距 / タイヤサイズ	1210～1260	1280～1310	1340～1360	1400～1430	1500以上	備考
8.3-20	Ⓑ	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	——	
8.3-22	Ⓒ	Ⓑ	Ⓐ	Ⓐ	——	
9.5-20	Ⓒ	Ⓒ	Ⓑ	Ⓐ	——	
9.5-22	Ⓒ	Ⓒ	Ⓑ	Ⓐ	——	
8.3-24	Ⓒ	Ⓒ	Ⓑ	Ⓐ	——	
9.5-24	Ⓒ	Ⓒ	Ⓑ	Ⓑ	——	
11.2-24 ★11.2R24	——	Ⓒ	Ⓒ	Ⓑ	Ⓐ	M_1-75

★印はラジアルタイヤを示します。

■ストッパ交換要領

❶従来のストッパボルトとロックナットを取外し，上図のようにストッパを取付け，ストッパボルトを軽く締めてください。

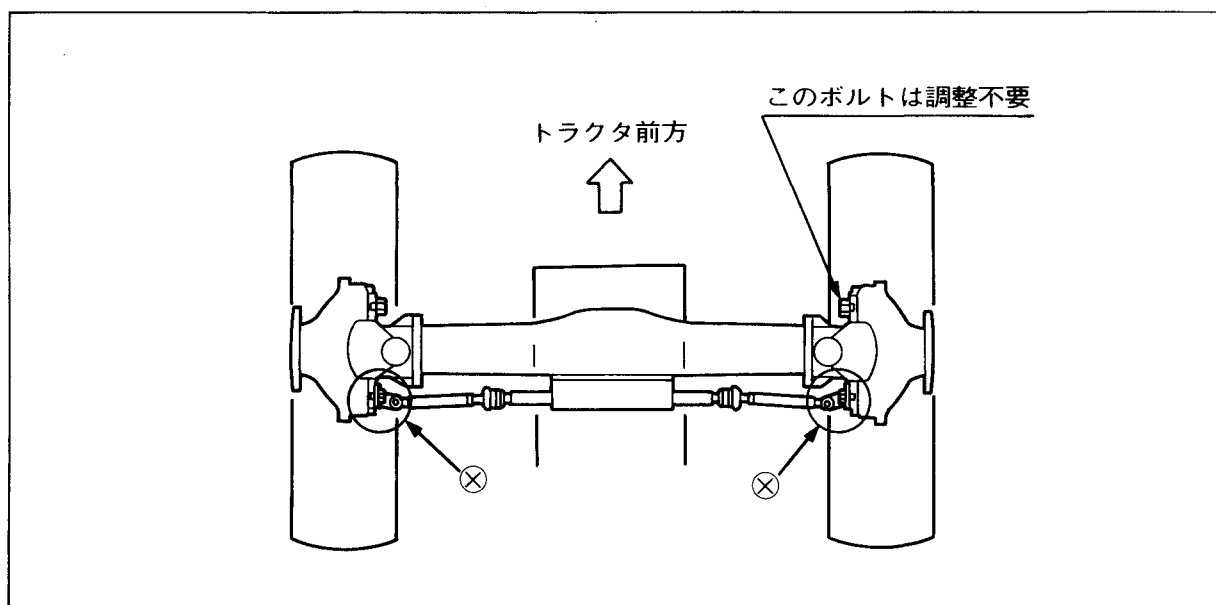
❷エンジンを回転させステアリングハンドルを回してストッパを２～３回ベベルギヤーケースに接触させてください。(ストッパの接触面の位置決めをするため)

❸その後，ストッパボルトを締込みますが，ストッパの位置がずれないようにするため，付属のモンキーレンチでストッパの回り止めをしてからストッパボルトを強く締込んでください。

補　足

＊取外したロックナットは紛失しないでください。

＊Ⓑ又はⒸで使用後，Ⓐに交換して使用する場合，ストッパボルトの調整は前側ボルト(上図の『このボルトは調整不要』)と同時当り又は１～２㎜の隙間になるようにセットしてください。

【M_1-85・85H・100・115】

Ⓧ部ボルトの調整要領	
Ⓐ M_1-85H以外の出荷状態	Ⓑ
カラー(厚さ7mm) ボルト シム	カラー(厚さ12.5mm) カラーを厚さ12.5mmのカラーに組替えボルトを締付ける
Ⓒ M_1-85Hの出荷状態	
カラー(厚さ12.5mm) カラー(厚さ7mm) カラー(厚さ12.5mm)を追加してボルトを締付ける	

(単位：mm)

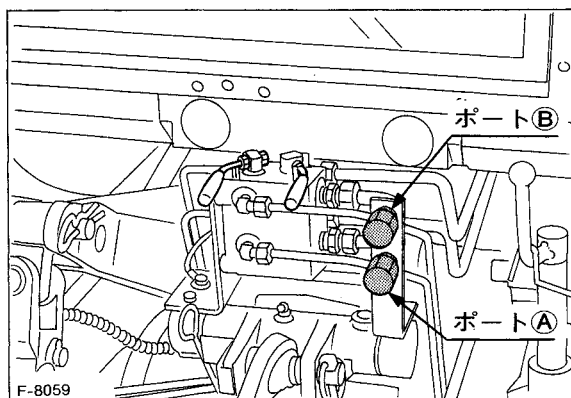
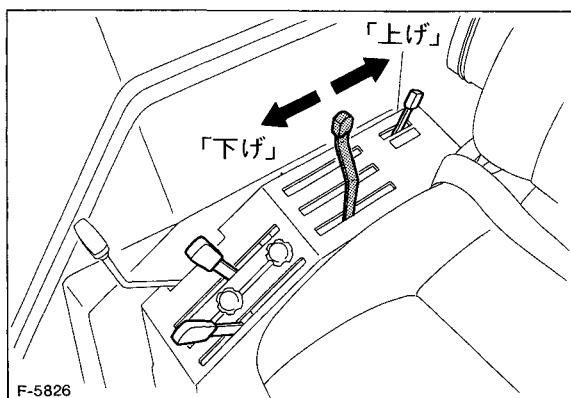
	タイヤサイズ	輪　距	調節ボルト
M_1-85	9.5-24	1400以上	Ⓐ
		1320～1370	Ⓑ
	11.2-24 ★11.2R24	1410～1510	Ⓐ
		1320～1370	Ⓒ
M_1-85H	9.5-24 ★9.5R24 11.2-24 ★11.2R24	1320～1510	Ⓒ
	12.4-24 ★12.4R24	1530	Ⓒ
M_1-100S	12.4-24	1520～1740	Ⓐ
	13.6-24	1640～1740	Ⓐ
M_1-100 115	11.4-24 ★11.2R24	1540～1640	Ⓐ
	12.4-24	1520～1740	Ⓐ
	13.6-24 14.9-24 ★14.9R24	1640～1740	Ⓐ

★印はラジアルタイヤを示します。

前後輪アジャスタブルトレッドの取扱い(AT仕様)

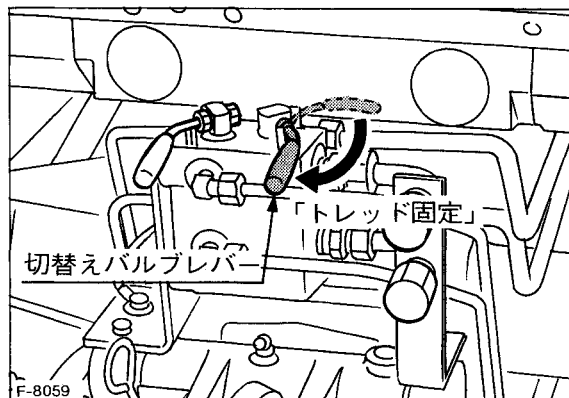
作業機昇降装置の取扱い

■油圧補助コントロールレバー

補助コントロールバルブ単複切換えつまみにより,**“単動”“複動”**2種類の操作ができます。
AT仕様機の油圧取出しポート位置は下図のようになります。

	複動		単動	
油圧補助 コントロールレバー	ポート Ⓐ	ポート Ⓑ	ポート Ⓐ	ポート Ⓑ
↑ 上げ	➡ 吐出	⇦ 戻り	➡ 吐出	
↓ 下げ	⇦ 戻り	➡ 吐出	⇦ 戻り	

	パイプ側ネジサイズ
ポートⒶ	PT1/2 雄
ポートⒷ	

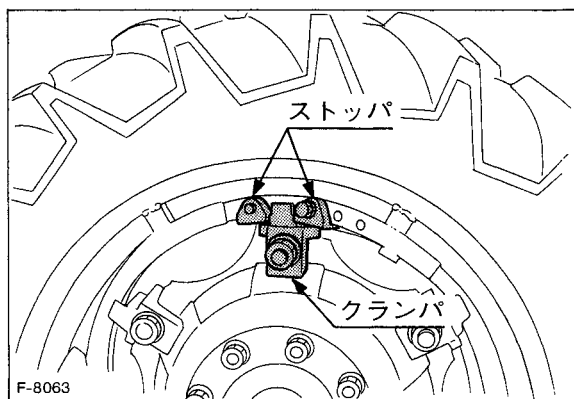
補 足

＊補助コントロールレバーを操作するときは，必ず切替えバルブレバーを“トレッド固定”位置にしてください。

前輪パワーアジャストホイールの取扱い

■前輪輪距

前輪輪距は，右図のようにクランパの取付位置を変更してパワーアジャストにより５段階に調節できます。

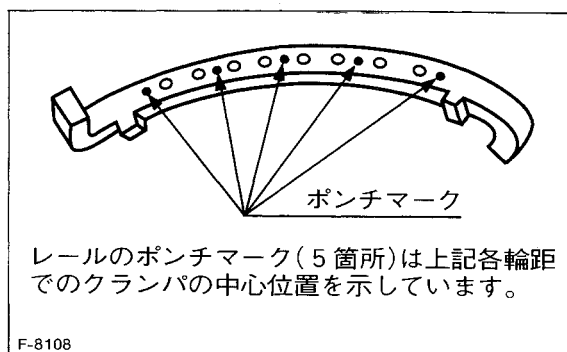
重　要

＊輪距の調整は，平たんな広い場所で行なってください。
＊調整は必ず片輪ずつ行なってください。
＊クランパのナットをゆるめる際は，必ずナットがボルトの先端面からネジ２～３山出る位置までゆるめてください。（６箇所とも）
　▶もしそれ以上ゆるめると……
　前輪が外れるおそれがあります。
＊始業前には，ナットのトルクを必ず点検してください。

輪距（mm）	クランパ取付位置
1220	
1280	取付け穴　クランパ
1340	☆　ストッパ　ストッパ
1400	☆
1460	☆

F-8065

☆印ストッパのボルトはタイヤの内側から入れてください。

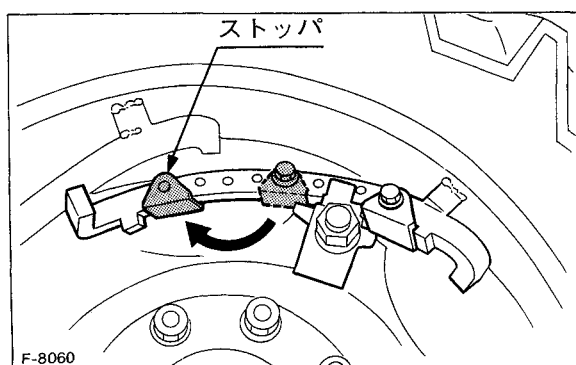
レールのポンチマーク（５箇所）は上記各輪距でのクランパの中心位置を示しています。

F-8108

■調整手順

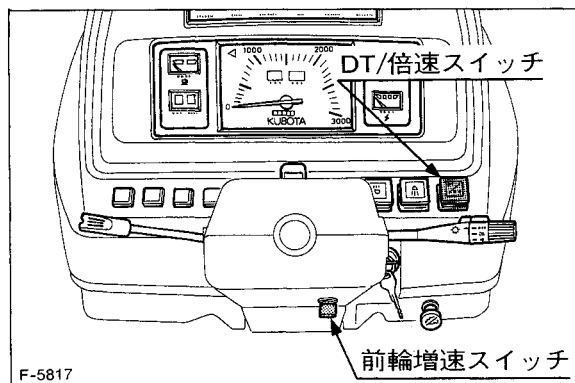
次の手順に従って，片輪ずつ直進状態で行なってください。

重 要

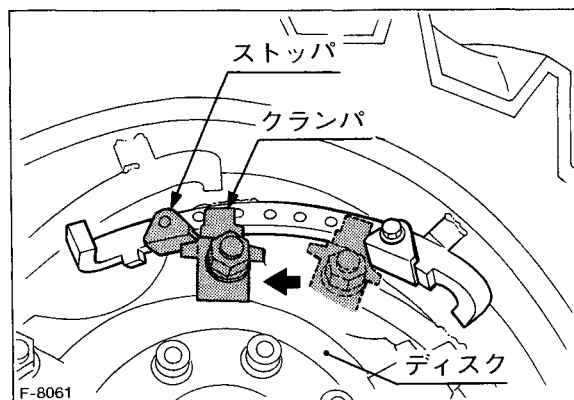
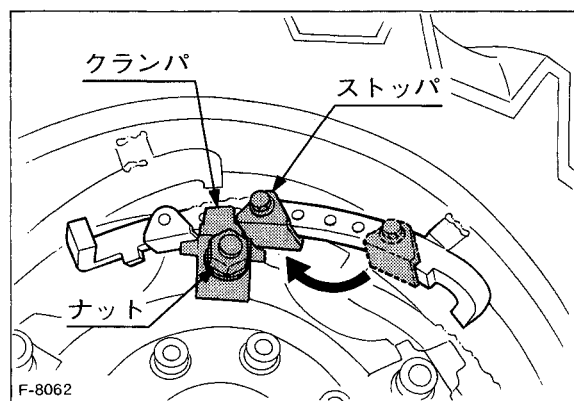
＊トレッドを調整するときに，クランパのボルトのネジ部を清掃してください。
（土やほこりが付着した状態でトレッド調整を行なうとネジ部を傷める原因になります。）

❶ストッパを希望する輪距位置まで移動し，ボルトを締付けます。但し，輪距を最大または最小位置に換えるときは，ストッパを外します。
（外したストッパは紛失しないよう適当な穴位置に取付けておいてください。）

❷クランパのナットを6箇所ともボルトの先端面からネジ2～3山出る位置までゆるめます。

❸エンジン始動後アイドリング状態にし，DT/倍速スイッチを**"倍速DT"**に切換え，駐車ブレーキレバーを**"解除"**します。

❹主変速レバーを**"1～3速"**にし，
＊右タイヤを広げる場合，シンクロシャトルレバーを**"後進"**位置にした後，前輪増速スイッチを押しながら後進します。
＊左タイヤを広げる場合，シンクロシャトルレバーを**"前進"**位置にした後，前輪増速スイッチを押しながら前進します。

補 足

＊前輪増速スイッチは，前輪の輪距を調節するときのみ使用してください。

❺クランパが❶で移動したストッパに当るところまで移動したことを確認し，エンジンを停止します。

❻もう一つのストッパを，移動したクランパに当るところまで移動し，ボルトを締付けます。

❼クランパの6個のナットのうち，下方に位置する1個を最初に1000～1200kgf･cmの締付けトルクで締込み，次に他のナットも対角に徐々に締込みます。（ボルトのナットからのネジの出代が6箇所ともほぼ同じになることを目安にしてください。）

❽低速度で前進・後進を10m程3回繰返してください。その後，再度下方に位置する1個のナットを2000～2200kgf･cmの締付けトルクで締込み，次に他のナットも対角に（ボルトの出代が6箇所ともほぼ均等になるよう）徐々に締込みます。

❾最後にすべてのナットを3000kgf･cmの締付けトルクで均等に締付けます。

❿作業開始約1時間後にクランパの6個のナットを必ず増締めしてください。
（締付けトルク3000kgf･cm）

⓫調整後は，走行時，タイヤが振れていないか点検してください。もし，タイヤの振れが大きい場合は，次の手順で再調整してください。
手順：
①タイヤの外側への振れが一番大きい部分が上側になるようにトラクタを停止させてください。

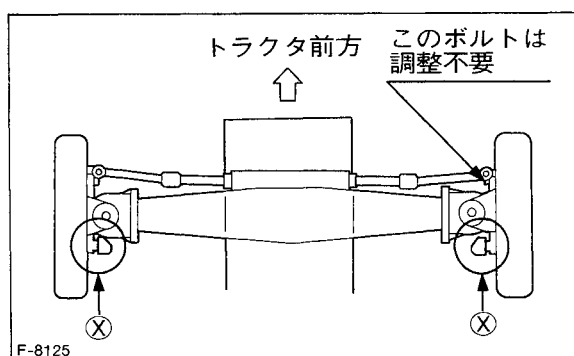
②クランパの6個のナットのうち，下方に位置する2～3個を少しゆるめ，低速度で前進・後進を10m程3回繰返し，その後，残りのナットを均等に3000kgf·cmの締付けトルクで締付けてください。

③次に，先にゆるめた2～3個のナットを均等に3000kgf·cmの締付けトルクで締付けてください。その後，再度走行してタイヤの振れを点検してください。
必要ならば上記の手順を繰返してください。
(最終的にボルトの出代が等しくならない場合もあります。)

前輪切れ角の調整

輪距を狭く(1220～1340mm)して使用するときは，旋回時タイヤが本体に接触することがありますから，次の要領で切れ角を調整してください。

 注　意

＊輪距を狭くすると前輪切れ角が小さくなるため旋回半径が大きくなりますので注意してください。

F-8126

輪距 / タイヤサイズ	1220mm	1280mm	1340mm	1400mm 1460mm
9.5-24	Ⓓ	Ⓒ	Ⓑ	Ⓐ

■ストッパ調整要領

❶従来のボルトとストッパを取外し，左図又は上図のようにストッパ及びカラーを取付け，ボルトを軽く締めてください。

❷エンジンを回転させステアリングハンドルを回してストッパを2～3回ベベルギヤーケースに接触させてください。(ストッパの接触面の位置決めをするため)

❸その後，ボルトを締込みますが，ストッパの位置がずれないようにするため，モンキーレンチでストッパの回り止めをしてからボルトを強く締込んでください。

補　足

＊Ⓑ又はⒹで取外したボルトは紛失しないでください。

＊Ⓑ，Ⓒ又はⒹで使用後，Ⓐに戻して使用する場合，前側ボルト(左図の『このボルトは調整不要』)と同時当り又は前側が1～2mmの隙間になることを確認してください。

後輪油圧アジャスタブルトレッドの取扱い

注　意

＊トレッド調整は，必ず1920mmを越えないようにしてください。

＊トレッド調整後は，切替えバルブレバーを必ず"トレッド固定"位置にしてください。

▶もし怠ると……

誤操作による傷害事故を引起すおそれがあります。

■後輪輪距

後輪輪距はリムとディスクの取付け位置変更により7段階に調節できます。更に油圧により41ページに示す油圧調節範囲において無段階に調節できます。

■調整手順

❶エンジンを始動し，エンジン回転をアイドリング状態にします。

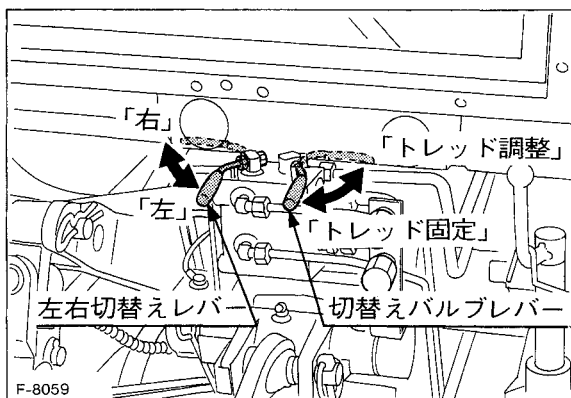
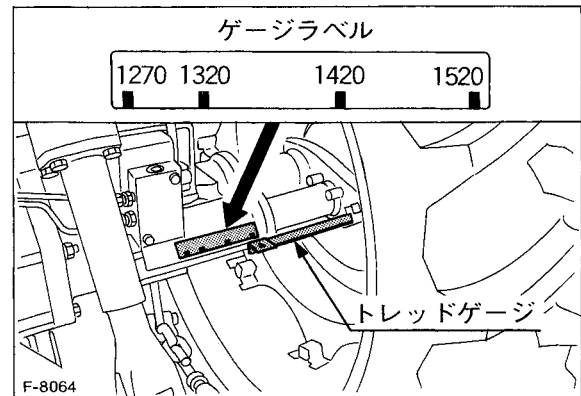
❷補助コントロールバルブ単複切替えつまみを，**"複動"**位置にします。(別冊取扱説明書参照)

❸切替えバルブレバーを**"トレッド調整"**位置にします。

❹左右切替えレバーを**"右"**又は**"左"**に切替え，低速で進みながら，補助コントロールレバーで操作してください。

補助コントロールレバーを，

"上げ"……トレッドが広くなる。

"下げ"……トレッドが狭くなる。

❺トレッドゲージを見ながら希望する位置に調整してください。

❻片側の調節が終わったら，反対側を調節する前にエンジンを停止して，補助コントロールレバーを前後に数回動かしてください。

❼左右切換えレバーを反対側(右または左)に切換えて，エンジンを始動してください。

❽❹，❺，❻の操作で，もう一方のトレッドも同じ位置に調整してください。(41ページ参照)

トレッド No.	ゲージラベル(mm)			
	①1270	②1320	③1420	④1520
(1)	1270	1320	1420	1520
(2)	1370	1420	1520	1620
(3)	1470	1520	1620	1720
(4)	1570	1620	1720	1820
(5)	1670	1720	1820	1920
(6)	1770	1820	1920	—
(7)	1870	1920	—	—

❾トレッド調整後は，切替えバルブレバーを**"トレッド固定"**位置にしてください。

重　要

＊トレッドを調整する前に，車軸のメッキ部分を水洗いしてください。(土が付着した状態でトレッド調整を行なうと，オイルシールの寿命が低下する原因になります。)

＊エンジン回転は，必ずアイドリング状態で調整してください。

■ミッションオイル

◆点検

オイル量は，後輪油圧アジャスタブルトレッドを最も狭くした状態で点検してください。

(適量はオイルゲージ上限と下限の中間)

前後輪輪距表

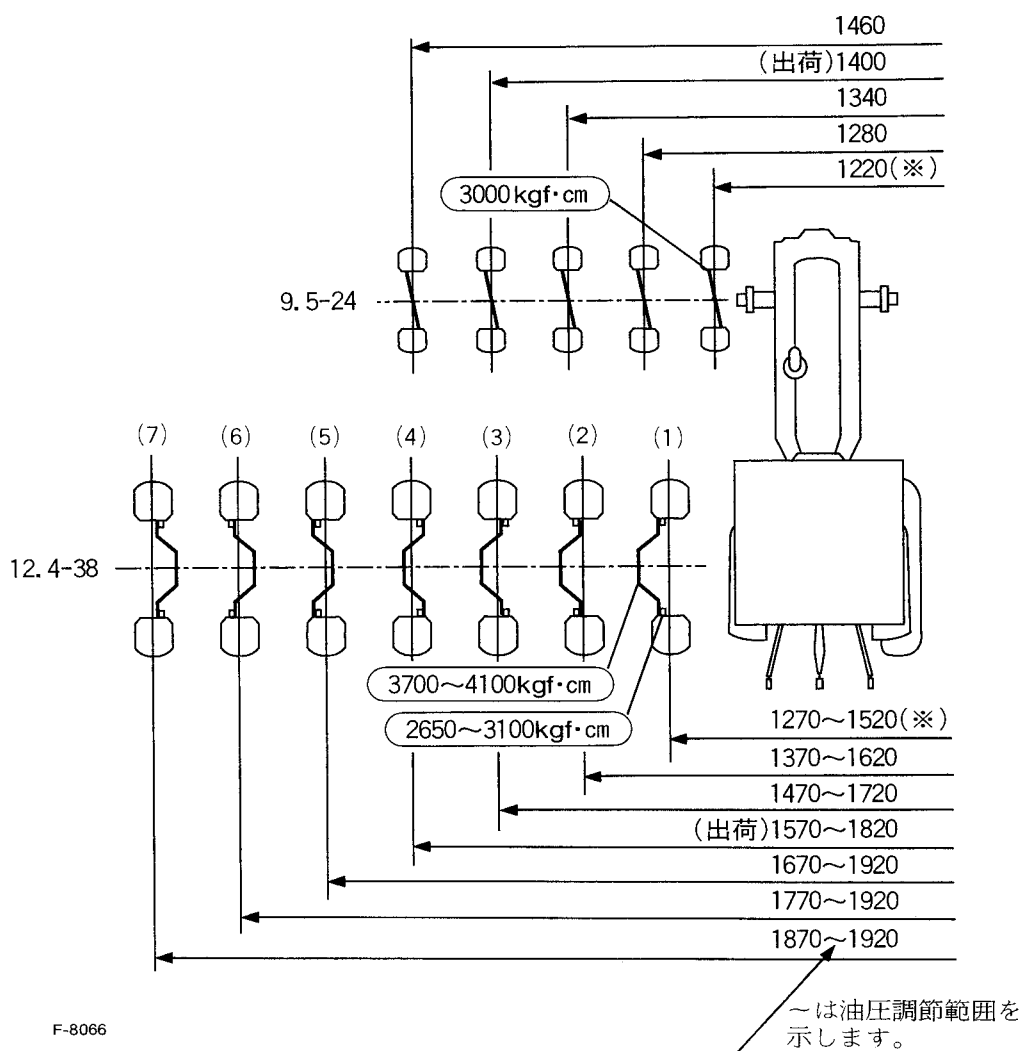
＊トレッド調整は，必ず1920㎜を越えないようにしてください。
＊トレッドは，必ず左右同じ位置になるように調整してください。
＊最小輪距で傾斜地作業する場合は転倒に十分注意してください。（※印）

補　足

＊輪距の調整は“前輪パワーアジャストホイール”又は“後輪油圧アジャスタブルトレッド”の取扱いを参照してください。

（　　）内数値は締付けトルクを示します。

1460
（出荷）1400
1340
1280
1220（※）
3000 kgf・cm
9.5-24
(7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)
12.4-38
3700～4100kgf・cm
2650～3100kgf・cm
1270～1520（※）
1370～1620
1470～1720
（出荷）1570～1820
1670～1920
1770～1920
1870～1920
～は油圧調節範囲を示します。

F-8066

キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック

 注　意

＊リヤウィンド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウィンドの開閉に注意してください。（開放時，頭などを打つおそれがあります。）

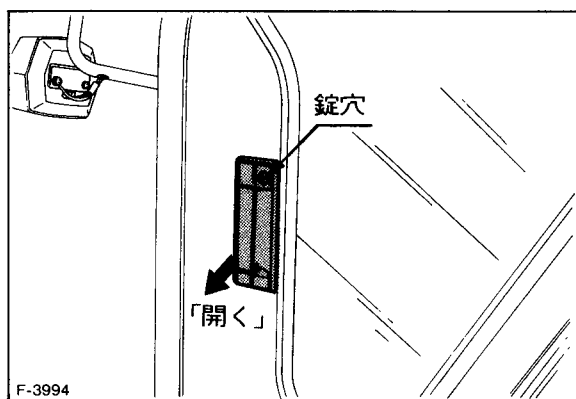
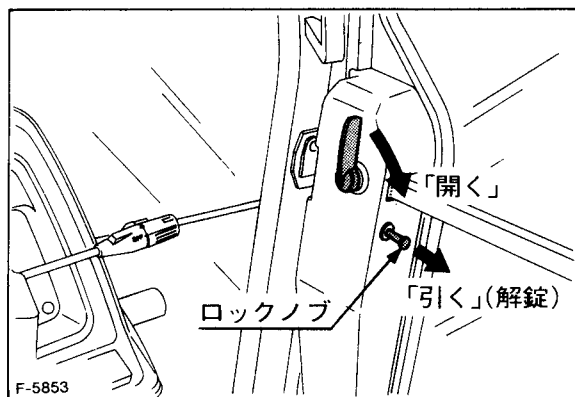
＊ガラスを破損させるおそれがありますのでキャブ内には物を載せないでください。

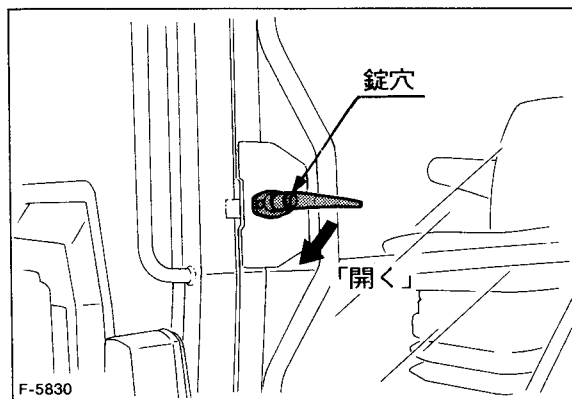
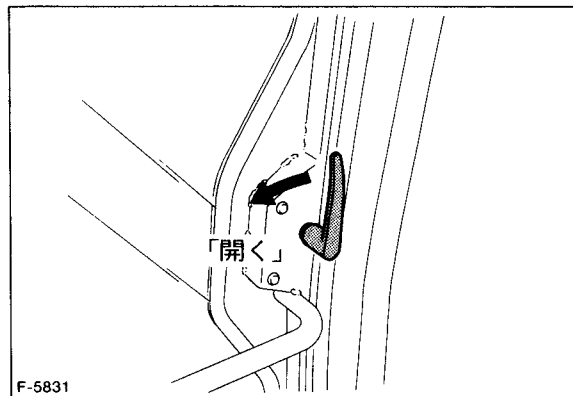
＊ガラスの取扱いはていねいに行なってください。

■ドア

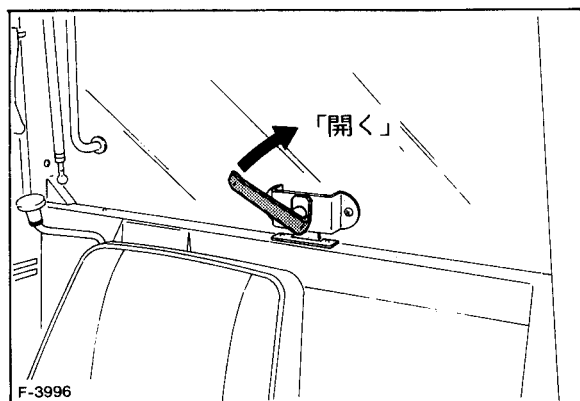
◆ドアの開閉とロック

【Q_1，Q_2仕様】

車外から……●キー（メインスイッチと兼用）を回すと施錠・解錠されます。
●ドアアウタハンドルを引き，開けます。

車内から……●ロックノブを押込むと施錠，引くと解錠されます。
●インナハンドルを引き，開けます。

【Q仕様】

車外から……●キー（専用キー）を回すと施錠・解錠されます。
●ドアアウタハンドルを下げ，開けます。

車内から……●インナハンドルを引き，開けます。

■リヤウインド

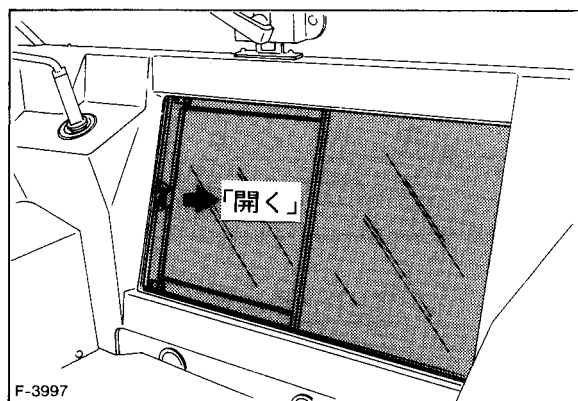
◆リヤウインド(上)

リヤウインドハンドルを時計方向に回し，垂直の位置でそのまま押すと,ダンパの作用で自動的に開きます。

 注 意

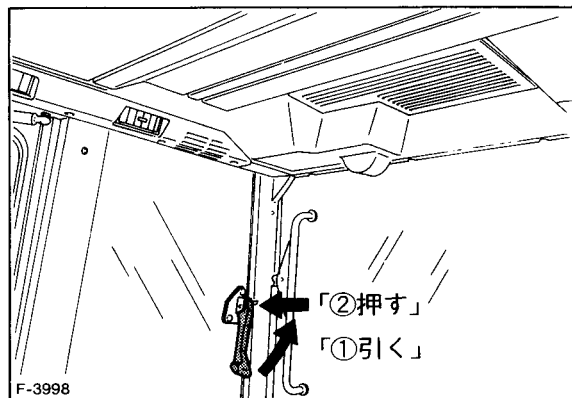
＊リヤウインド(上)を開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

◆リヤウインド(下)

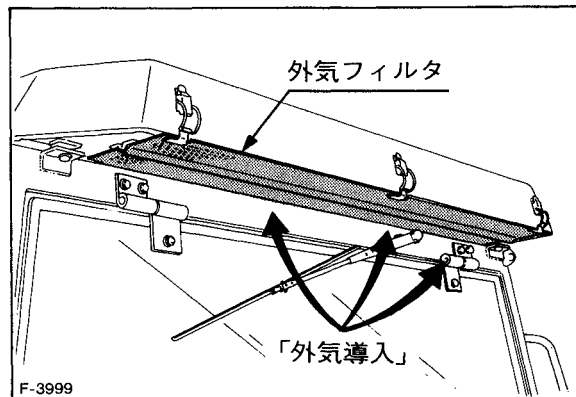
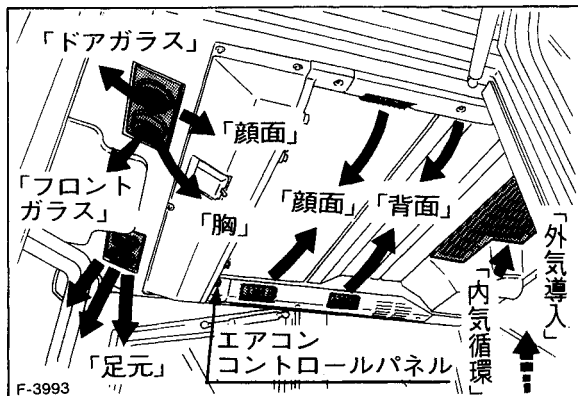
【Q_1，Q_2仕様】

リヤウインド下はサッシになっています。左端のハンドルをつまんで，右へ引いてください。

■サイドウインド

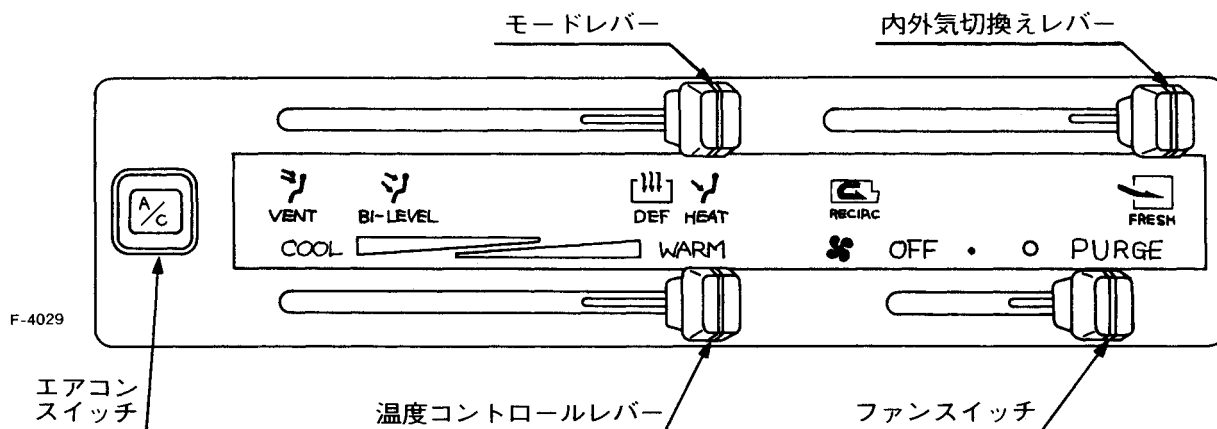
サイドウインドハンドルを手前に引き，外へ押出すと開きます。

〔Q_1，Q_2仕様〕……………………………後ろ開き
〔Q仕様〕……………………………………前開き

エアコンの取扱い[Q₁, Q₂仕様]

■空気の流れ

キャビン内の空気の流れ及び外気導入は，下図のとおりです。6ヵ所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。

重 要

＊洗車時は外気導入口に，直接放水しないでください。

■コントロールパネルの説明

◆モードレバー

使う目的に応じて位置を選んでください。

●換気

VENT （顔面 胸元） （夏期は扇風機として使えます。エアコンをつけたときは，冷房する位置。）

●頭寒足熱

BI-LEVEL （胸元 足元） （顔が涼しく足元が暖かい，快適な空調が得られます。）

●くもり取り

DEF （フロントガラス） （ウインドガラスのくもりを取るときの位置。）

●通常暖房

HEAT （足元） （暖房するときの位置です。）

◆**内外気切換えレバー**

●**内気循環**

（レバーをこの位置にすると外気は入りません。いやな臭いやほこりが入るときは，この位置にします。）

●**外気導入**

（レバーをこの位置にすると外気が入ってきます。暖房するときは，この位置にします。）

◆**温度コントロールレバー**

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風，左に寄せると冷風が出ます。

◆**ファンスイッチ**

風量が3段階に切換えられます。PURGE は最も風量の多い位置です。

◆**エアコンスイッチ**

エアコンを使うときは，このスイッチを押して**"ON"**にします。**"ON"**のとき，インジケータランプが点灯します。

■取扱操作方法

◆**暖房**

室内を暖房するとき，，， にセットします。暖かくなりすぎるときは のスピードを下げるか，温度コントロールレバーを左に寄せてください。外の空気が汚れているときはに切換えますが，ガラスがくもりやすくなるので，長時間の使用は避けてください。

◆**除湿暖房**

室内の除湿をするときは，各レバーを，， にセットし，エアコンスイッチ A/C を**"ON"**にしてください。

◆**デフロスト**

フロントガラスのくもり及び凍結除去するときは，，， にセットし，吹出口(前2ヵ所)をフロントガラスに向けてください。

◆**換気，冷房**

換気したいときは ，， にセットします。冷房するときはをにしたのち，エアコンスイッチ A/C を**"ON"**にしてください。

◆**頭寒足熱**

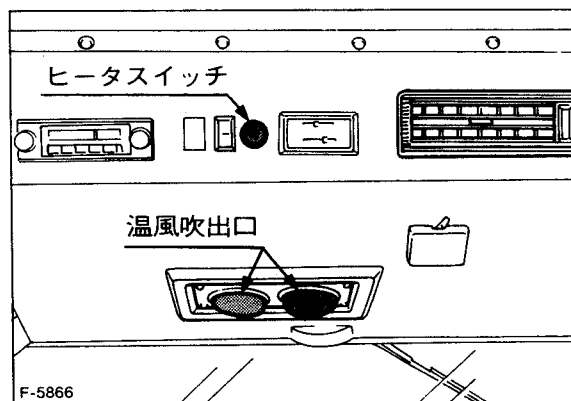
顔が涼しく，足元が暖かい快適な状態を得るには，，， にセットし，エアコンスイッチ A/C を**"ON"**にし，温度コントロールレバーは中間位置を使用してください。

ヒータ・クーラの取扱い【Q仕様】

■ヒータの取扱い操作方法

◆**ヒータスイッチ**

ブロアモータの回転を調節します。室内の温度によって使い分けてください。

1段目……ヒータファンが作動します。
　　　　　風量は弱です。
2段目……風量は強です。

◆**風向調整**

温風の方向は，吹出口により自由に調整できます。デフロスタ(フロントガラスのくもり止め)として使用する場合，吹出口をフロントガラスの方向に向けてください。

■クーラの取扱い操作方向

◆クーラスイッチ

●風量調整とクーラのメインスイッチを兼用しています。

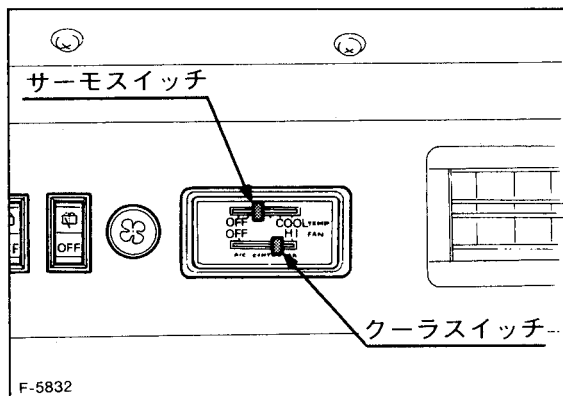
●風量を(弱)(中)(強)の3段階に調整できます。

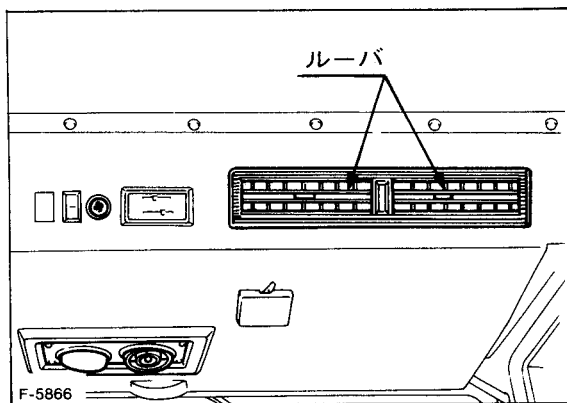
●クーラを止めるときはOFFにします。

◆サーモスイッチ

●冷風の温度を調整します。

●OFFの位置からCOOL側へ移動するほどよく冷えます。

●OFFにするとクーラは止まり，このときクーラスイッチがONしていますと風のみ出ます。

◆風向調整

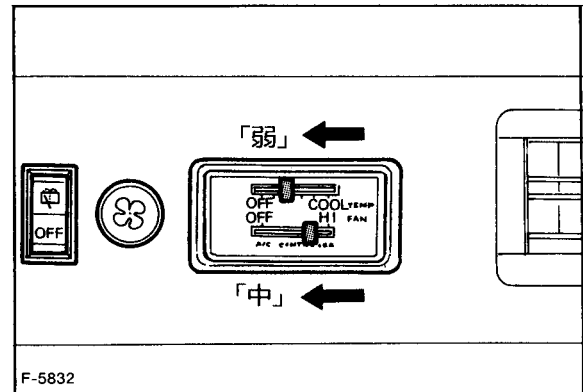
冷風の風向は，ルーバにより自由に調整できます。

●クーラシーズンオフの場合

ルーバを閉じると冷却器にゴミが混入しませんので閉じておいてください。

■クーラ使用上の注意

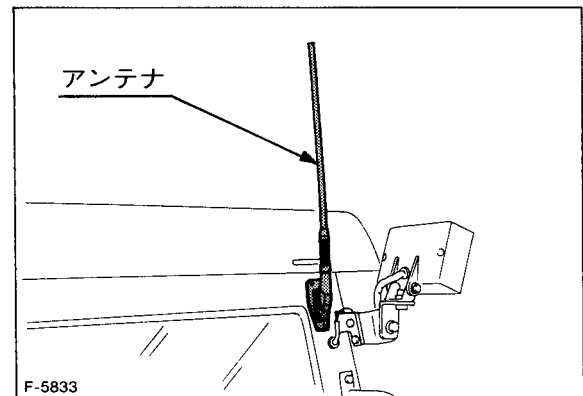
(1)クーラを弱くする場合

まず，クーラスイッチ(風量調節)を**"中"**にしてください。

そしてさらにクーラを弱くしたいときはサーモスイッチを**"弱"**の方に移動してください。

(2)換気について

冷房中タバコを吸うと目が痛いことがありますが，これは車内の空気の乾燥で目の粘膜も乾き気味になって，刺激に弱くなるためです。

一時換気して煙を追い出してください。

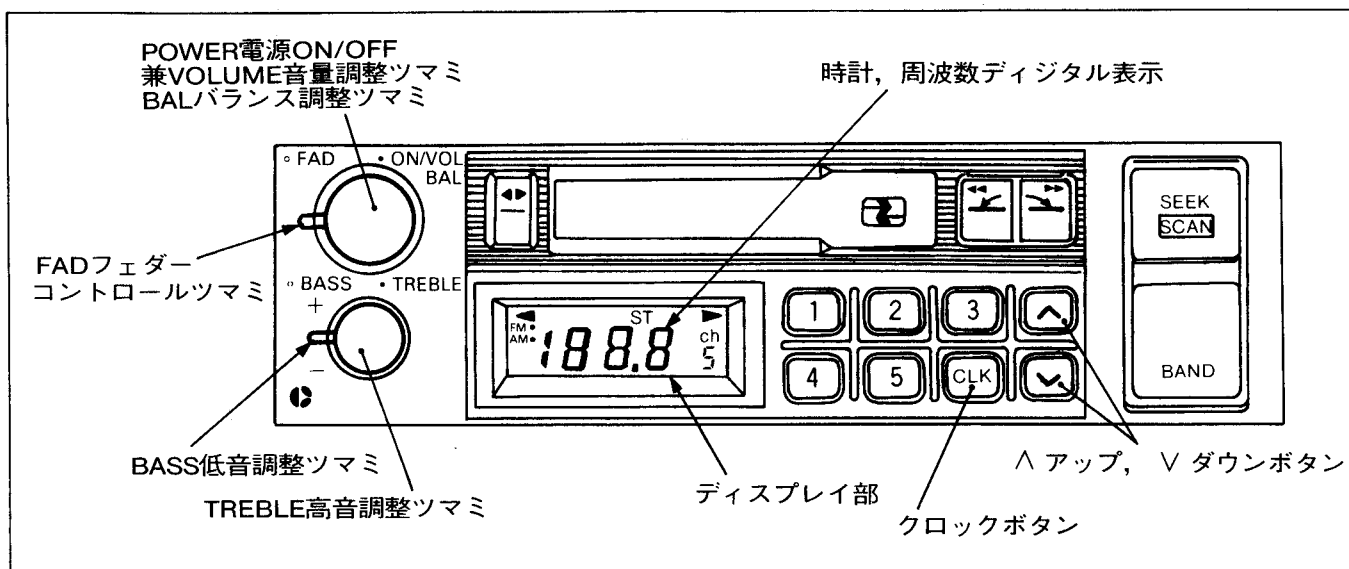
アンテナの取扱い

重　要

＊アンテナは角度調節できませんので動かさないでください。

AM/FMラジオ付カセットプレーヤの取扱い【Q1,Q2仕様】

注　意

＊運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

■スイッチ・ツマミの取扱い

◆POWER電源ON/OFF 兼VOLUME音量調整ツマミ

ツマミを時計方向( )に回すと電源ONとなり，イルミ照明が点灯します。さらに回すと音量が増大します。反時計方向( )に回すと音量が減衰し，電源OFFとともにイルミ照明が消えます。

◆BAL バランス調整ツマミ

ツマミを引き時計方向( )に回すと右側スピーカの音量が強調され，反時計方向( )に回すと左側スピーカの音量が強調されます。
調整後はツマミを押し,元に戻して使用してください。

◆FAD フェンダーコントロールツマミ

リヤーの２スピーカ方式のため，ツマミを反時計方向( )に回してご使用ください。

補　足

＊未使用のスピーカ位置にフェダーノブを回しますと音が出ません。又，中間位置ではノイズを発生しますので必ず使用スピーカの位置にセットしてご使用ください。

◆BASS 低音調整ツマミ

ツマミの中間位置( )に対して時計方向( )に回すと低音が強調され，反時計方向( )に回すと低音が減衰されます。

◆TREBLE 高音調整ツマミ

ツマミ中間位置(クリック部分)に対して時計方向( )に回すと高音が強調され，反時計方向( )に回すと高音が減衰されます。

◆CLKクロックボタン

通電中にクロックボタンを押すと時計表示となります。再度クロックボタンを押すか，あるいはチューナ部の操作をすると消えます。

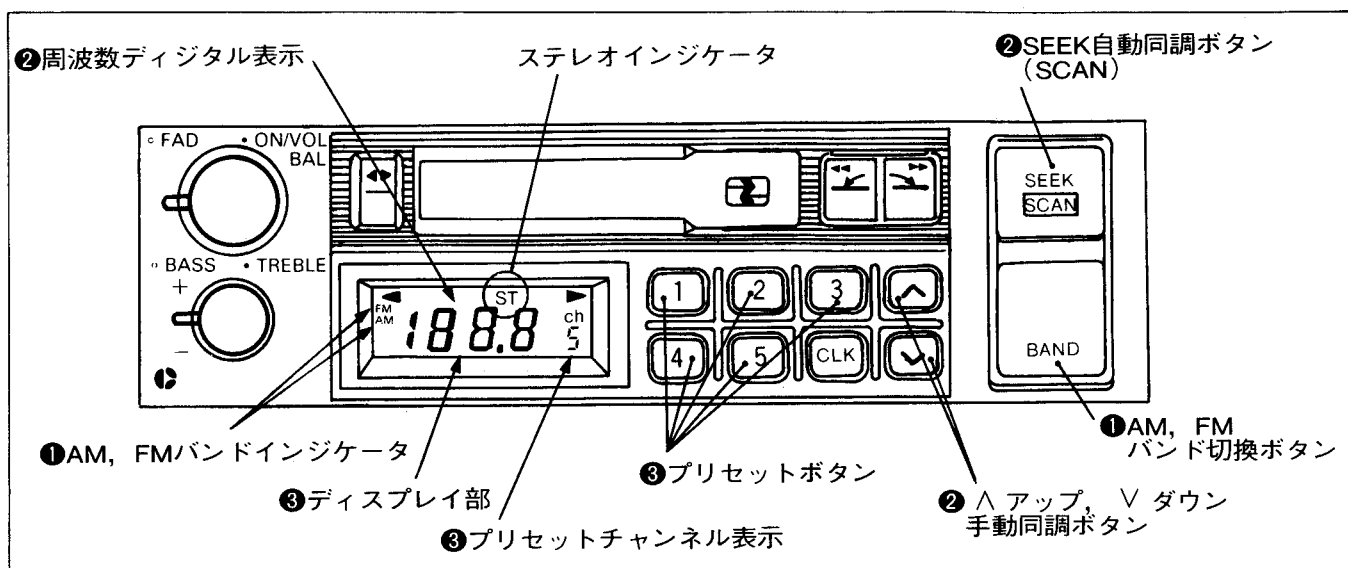
◆時計表示の合わせ方

CLK ボタンを押しながら ∨ ボタンを押すと，時計表示が変わります。

CLK ボタンを押しながら ∧ ボタンを押すと，分表示が変わります。

◆異常動作時の対応

装着時，または日常使用時，万一各スイッチを押してもその機能が働かなくなった場合には，∧ ボタンと ∨ ボタンと CLK ボタンを３ヶ所同時に押してください。解除できます。

■ラジオを聞くには

◆BAND AM, FM バンド切換えボタン

電源スイッチをONにしバンド切換えボタンを押すとAM, FMのバンドが切換えられ, 受信バンドはバンドインジケータが表示します。

◆ST ステレオインジケータ

FMステレオ放送受信時に**"ST"**の文字を表示します。

次のいずれかのボタンを押して選局します

◆アップ, ダウン手動同調ボタン

∧ ボタンを押すと, 周波数のデジタル表示数が増加し, ∨ ボタンを押すと表示数が少なくなります。AM受信時は 9 kHzずつ移行し, FM受信時は, 0.1MHzづつ移行します。
ボタンを押し続けますと連続して移行します。

◆SEEK シーク(SCAN スキャン) 自動同調ボタン

このボタンを軽く押すと(2秒未満)シーク動作を, 2秒以上押すとスキャン動作を開始します。

●シーク動作

SEEKボタンを押すと周波数のデジタル表示数が増加し, 自動的に選局, 停止し, 受信を継続します。
シーク動作を繰返しお好みの局をお選びください。

●スキャン動作

SEEKボタンを2秒以上押すと自動選曲が始まり, 最初に止まった局でディスプレイ部が5回点滅した後, 自動的にスキャン動作が続けます。各局に5秒づつ停止しますのでお好みの局に停止している間にボタンを再度押してください。選局動作が止まります。

補　足

＊選曲中(デジタル表示数が動いているとき)に, SEEKボタンを押すと選曲を始める前の周波数に戻ります。

◆プリセットボタン

あらかじめ, このボタンにご希望の放送局をプリセットメモリしておきますと, ワンタッチで選局することができます。

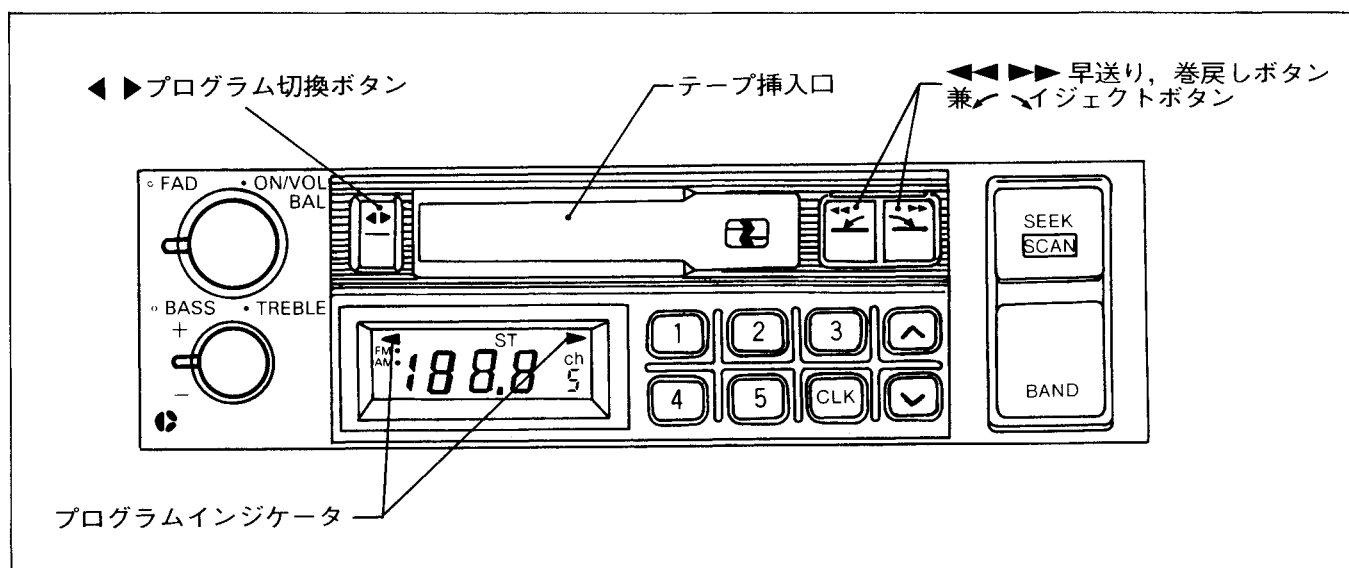
プリセットメモリの方法

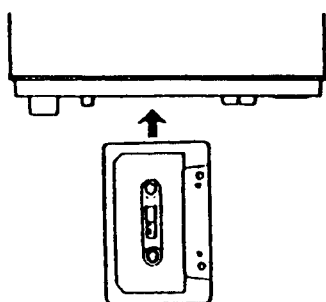
AM放送5局, FM放送5局をプリセットメモリすることができます。

●プリセット手順

文章及び図中番号順に操作します。

❶カセットテープを取出し, チューナ動作にした後, バンド切換えボタンを押し, AM放送かFM放送かを決めます。
❷同調(手動, 自動)ボタンで放送局を選局します。
❸プリセットボタンを2秒以上押し続けると, ディスプレイ部の周波数表示が点滅し, メモリされます。
以上で完了です。

■テープを聞くには

◆テープ挿入口

電源スイッチをONにしテープの見える面を右側にし，聞きたい面を上側にして挿入します。
挿入されると同時に再生を開始します。

◆◁ ▷プログラムインジケータ

テープの走行方向を２つのインジケータが表示します。

◆◁◁ ，▷▷ 早送り，巻戻しボタン

●早送りの場合

プログラムインジケータが ◁（左方向）点灯時は，◁◁（左側）ボタンを押します。▷（右方向）点灯時は，▷▷（右側）ボタンを押します。
ボタンを押すと，テープは早送りされます。

●巻戻しの場合

プログラムインジケータが ◁（左方向）点灯時は，▷▷（右側）ボタンを押します。▷（右方向）点灯時は，◁◁（左側）ボタンを押します。
ボタンを押すと，テープは巻戻しされます。
早送り，巻戻しを途中で解除する場合は，隣のボタンを軽く押します。

◆◁ ▷プログラム切換ボタン

●自動プログラム切換え

テープが終端に達すると，自動プログラム切換え装置が働き自動的に次のプログラムに切換わり，連続再生することができます。

●手動プログラム切換え

プログラム切換えボタンを押すと，プログラムインジケータの点灯方向が切換わり，再生途中でも自由にプログラムが切換えられます。

◆ イジェクトボタン

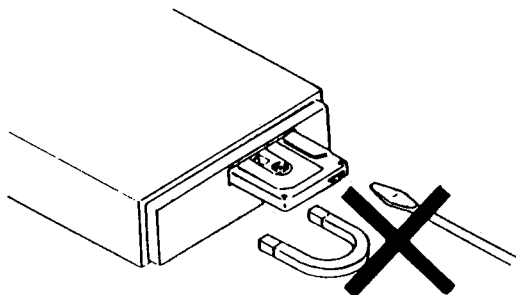
早送り，巻戻しボタンを同時に押してください。カセットテープが飛出します。

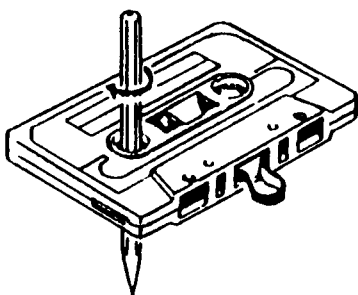
重 要

＊カセットテープを聞かない時は，必ずイジェクトボタンを押してテープを取出してください。

■取扱い上の注意

(1)本機は，水分や高音，多湿を嫌いますので，車内清掃や換気に十分ご注意ください。

(2)ヘッド及びカセットテープに，磁石やドライバーなどを絶対に近づけないでください。

F-6927

(3)カセットテープ挿入時にテープがゆるんでいますと誤動作を起こす場合がありますので，テープのゆるみを直してからご使用ください。

F-6626

(4)カセットテープは，水平にし，カセットテープの中央を押し挿入してください。

(5)C-120タイプのカセットテープは，テープ自身が非常に薄く，伸びたり，切れたりしますので，ご使用は避けてください。

(6)ラベルのはがれかかったカセットテープ，またケースが変形しているカセットテープは，メカニズムの故障の原因となりますので，ご使用は避けてください。

(7)ヘッドが汚れると高音域が低下します。いつも良い音質でお聞きいただくため，ヘッド表面を時々クリーニングしてください。市販のクリーニングテープを使用すると便利です。なお，クリーニングにはシンナやベンジンは絶対に使用しないでください。

(8)車内の温度に気をつけてください。
極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，適温で使用してください。また，車を降りられるときには，必ずカセットテープを本体から抜いてケースに入れて保管してください。

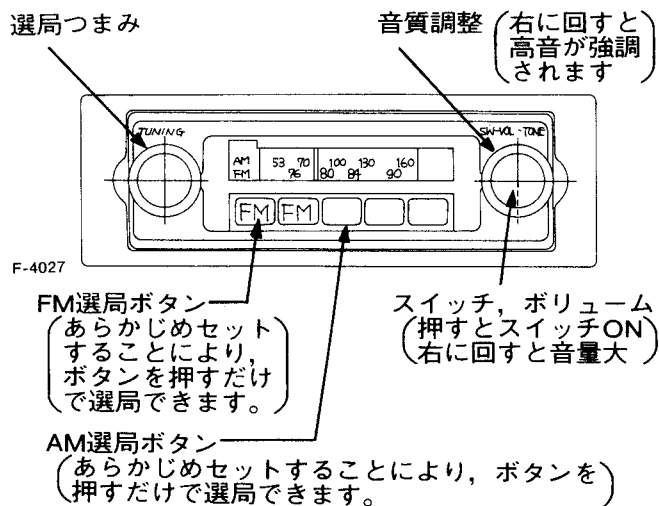
(9)本機操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また，運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞える程度でお楽しみください。

(10)本機のお手入れは，乾いた柔かい布で拭いてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また，汚れがひどい場合には柔かい布を水またはぬるま湯に浸し，軽く拭取ってください。

(11)カセットテープを直射日光に長時間あてないでください。高音，多湿の場所(ダッシュボード上やシートの上)への長時間放置もさけてください。

AM/FMラジオの取扱い【Q仕様】

注意

＊運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。

F-4027

その他装備品の取扱い

■ワイパ・ウォッシャスイッチ

【SQ_1，Q_1，Q_2仕様】

◆フロントワイパスイッチ

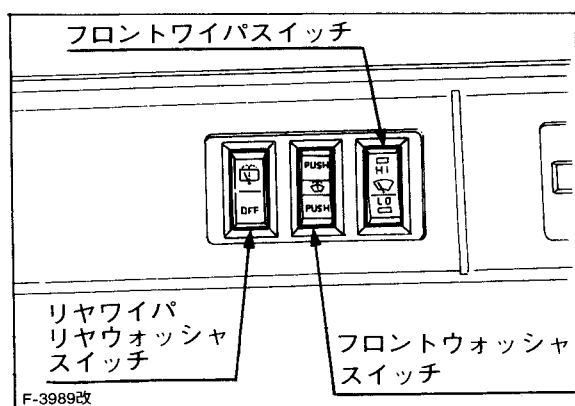
HI………高速で作動します。

LO………低速で作動します。

◆フロントウォッシャスイッチ

上下いずれかのPUSHを押している間のみ，フロントワイパスイッチに関係なくウォッシャ液が噴出します。

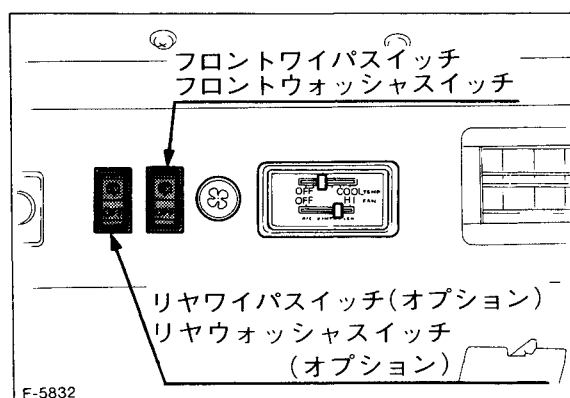
◆リヤワイパスイッチ【Q_1，Q_2仕様】
リヤウォッシャスイッチ

マークを1段押すとリヤワイパが作動します。さらに2段目を押すと，押している間のみ，リヤワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。

【Q仕様】

◆フロントワイパスイッチ
フロントウォッシャスイッチ

マークを1段押すとフロントワイパが作動します。さらに2段目を押すと，押している間のみ，フロントワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。

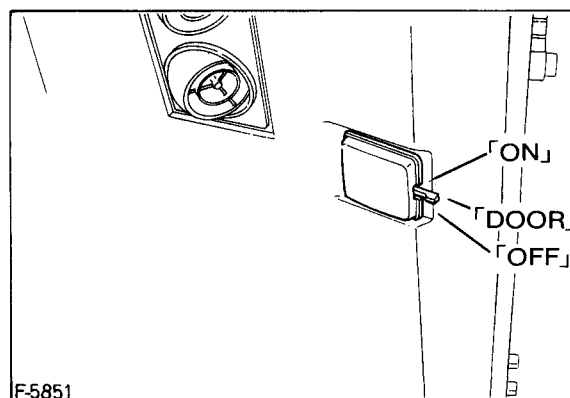
◆リヤワイパスイッチ(オプション)
リヤウォッシャスイッチ(オプション)

マークを1段押すとリヤワイパが作動します。さらに2段目を押すと，押している間のみ，リヤワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。

■ルームランプ

OFF …………常時消灯。ドアを開けてもランプは点灯しません。

DOOR…………ドアを開けるとランプが点灯し，閉めるとランプは消灯します。

【Q_1，Q_2仕様】

ON …………ドアの開閉に関係なくランプが点灯します。

補　足

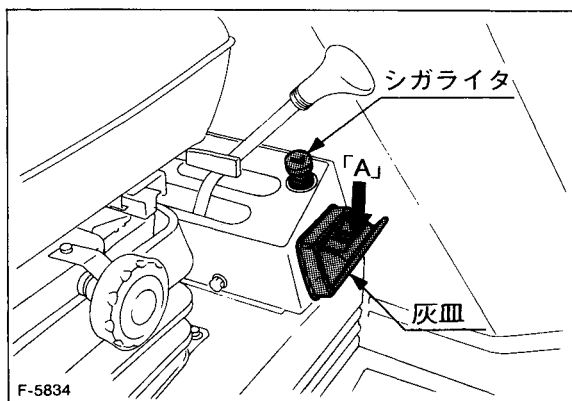
＊ドアは確実に閉じてください。

■シガライタ【Q₁，Q₂仕様】

シガライタはメインスイッチが“ACC”又は“ON”のとき，使用できます。

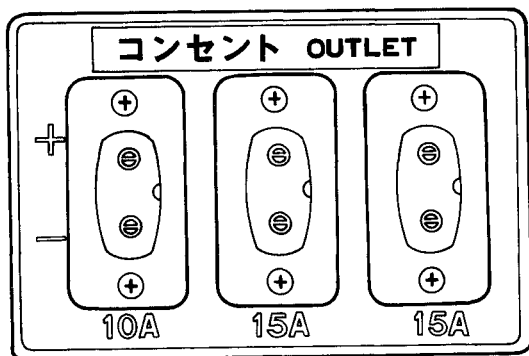
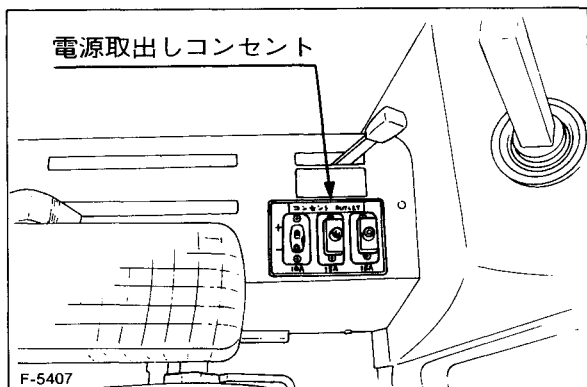
◆アッシュトレイ（灰皿）

(1)上部を手前に引出して使用します。
(2)清掃するときは，A部を押し下げて，手前に引出すと外れます。

F-5834

■電源取出しコンセント【Q₂仕様】

電源取出しコンセントが３ヵ所ついています。
フロントローダ操作ボックスなどの電源取出しにご使用ください。

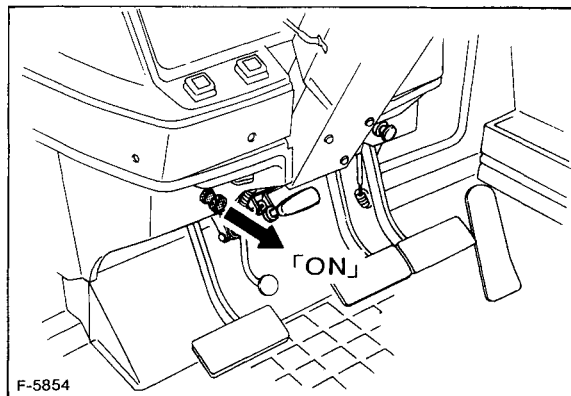
F-5407

F-5408

■リヤ・デフォッガ・スイッチ（熱線リヤスイッチ）【Q₂仕様】

リヤウインドガラスにくもりが発生したとき，スイッチノブを引くとスイッチランプが点灯し，ガラスのくもりがとれます。
再度押すとスイッチランプが消灯します。

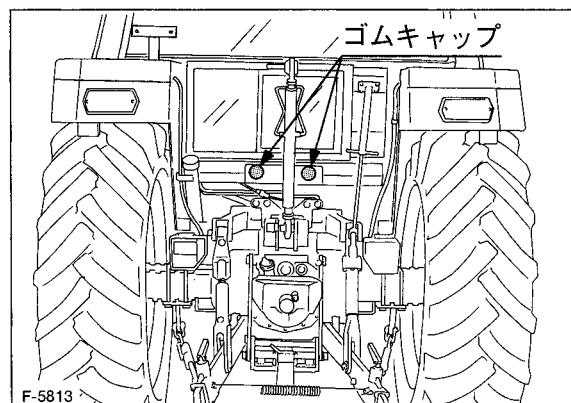
重　要

＊熱線に荷物などが当らないようにしてください。

F-5854

インプルメントの装着について

■グレイタスローダ・ブームスプレーヤ

ゴムキャップに穴を開け，操作コードホースをキャビン室内に導入してください。

F-5813

上手な運転のしかた

エンジンの始動について

 警　告

＊この取扱説明書前編の黄色のページの"安全に作業するために"の内容を必ずお読みください。
＊トラクタに貼ってある▲表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やPTO変速レバーが"中立"かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊PTOクラッチコントロールレバーも"OFF"(切)にしてください。
＊トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

重　要

＊雨中ではトラクタを放置しないでください。放置する場合は，マフラパイプから雨が入らないようカバーをしてください。

■始動のしかた

重　要

＊長期格納(１ヵ月以上)後に始動するときは，エンジン停止つまみを引き，セルモータを約10秒間回転させ，エンジン各部にオイルをゆきわたらせてください。

❶主変速レバー，及びシャトルレバーを**"中立"**にします。
❷PTOクラッチ操作レバーを**"OFF"**にします。
❸アクセルレバーを**"中程"**まで引きます。
❹クラッチペダルを**"踏込み"**ます。
❺メインスイッチにキーを差込み，**"ON"**位置に回します。
❻イージーチェッカの各ランプが点灯していることを確めます。
❼気温が０℃以下でエンジンが冷えているときは，キーを**"G"**位置に回し，グローランプが消灯するまで保持してください。
但し，外気温が－15℃以下のときは，始動を容易にするため消灯後更に15秒程度**"G"**位置に保持してください。
●エンジンが暖まっている場合**"G"**(予熱)は不要です。
❽メインスイッチキーを**"ST"**の位置に回します。
❾エンジンが始動したら，キーから手を離してください。自動的に**"ON"**にもどります。
❿クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま暖機運転しましょう。
⓫始動後，イージーチェッカの各ランプが消えたことを確めます。
(駐車ブレーキ警告灯は駐車ブレーキの解除後，消灯します。)

重　要

＊クラッチペダルを踏み，PTOクラッチ操作レバーを"OFF"にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。
＊セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。
＊エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障の原因になります。
＊寒冷時の始動直後約１分程度，青白煙を排出することがありますが，異常ではありません。また，それ以上に青白煙を排出し続ける場合でも，いったん負荷をかけて暖機し，マフラを十分に加熱すれば，ノズルのつまりなどの故障でない限り青白煙は消えます。
冷機時，アイドリング運転の繰返し，及び長時間にわたるアイドリング運転は青白煙排出の原因となりますので極力避けてください。

■寒冷時の始動のしかた

前に述べた❶～❽までの操作を行ないます。

(セルモータを約20秒まで回して始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから，再度❼❽の操作を繰返してください。
バッテリ及びセルモータを保護するために，30秒を越えない範囲で，セルモータを回してください。)

エンジンの停止について

❶エンジンを低速にした後，メインスイッチキーを**"OFF"**の位置にすると，エンジンは停止します。
(万一停止しないときは，エンジン停止つまみをいっぱい引張ると止まります。)
❷必ずキーは抜きましょう。

重 要

＊ M_1-46仕様はエンジンが停止して4～8秒後，カチッと音がしますが，これは停止ソレノイドが戻る音です。
＊エンジンを停止させるために引張った停止つまみは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで押戻しておいてください。
＊ M_1-100Sはエンジンの停止は，5分間アイドリング運転してからにしてください。
高速負荷運転後，急にエンジンを停止するとターボチャージャに悪い影響を与えます。

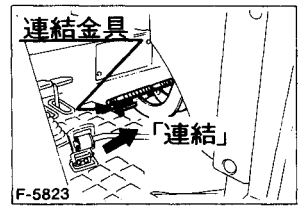
寒冷時の暖機運転とミッションオイルについて

このトラクタには油圧クラッチが採用されており，油圧オイルはミッションオイルを兼用しております。特に寒冷地では，気温が下がってオイルが冷えると，粘度が高くなって，始動時に，油圧の立上がりが遅かったり，正常な圧力が得られなかったりすることがあります。
このようなことをなくすため，下記のことを必ず守ってください。これを怠ると，油圧系統の故障を引起こし，油圧クラッチの損傷にもつながります。
(1)トラクタの始動時は必ず暖機運転を行なってください。特にES(電子シャトル)，D(デュアルスピード)仕様車については十分注意してください。

気 温	－10℃以上	－10℃～－20℃	－20℃以下
暖機運転時間	約5分	10～20分	20分以上

(2)寒冷地域(気温－15℃以下)ではミッションオイルとして，クボタ純オイルスーパーUDT(油圧駆動用)を使用していただくことをおすすめします。暖機運転は5分程度で済みます。**このオイルはそのまま夏期にも使用できます。**
(3)上記のミッションオイルを使用しても，気温が－20℃以下の場合は，10～15分の暖機運転を行なってください。

発進・走行のしかた

❶ブレーキペダルが左右**"連結"**されていることを確認してください。
❷作業機を上げます。
❸クラッチペダルを踏込み，主変速レバー，副変速レバー及びシャトルレバーを希望する位置に入れます。
❹エンジンを適当な速度に加速します。
❺駐車ブレーキレバーを下げ，クラッチペダルをゆっくり離します。

重 要

＊必ず駐車ブレーキを外してから走行してください。駐車ブレーキをかけたまま走行すると，故障します。
＊変速は必ずクラッチペダルをいっぱい踏込んで行なってください。主変速は走行中に変速できますが次の点にご注意ください。
＊ES(電子シャトル)，D(デュアルスピード)仕様車では，ミッション油温が低温の場合に，走行中の主変速操作が入りにくくなることがありますので，十分に暖機運転を行なってください。
＊ES(電子シャトル)仕様車では，ミッション油温が低温の場合に，前後進の急激な切換えを行なうとショックが大きくなることがありますので，避けてください。
＊クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。
＊速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
＊作業に応じた変速及びエンジン回転を選択してください。
＊クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。
＊トレーラけん引作業時などの発進は，低速度段で行ない，次に必要な車速段に入れて走行してください。(クラッチの寿命が長くなります。)
＊トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。【道路運送車両法の保安基準】
＊公道を走行するときは絶対に作業灯を消してください。作業灯を点灯したまま公道を走行すると他の交通車両の妨害となり，"道路運送車両の保安基準"第42条(灯光の色などの制限)に違反します。

警　告

＊トラクタを発進するときは，前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。また，キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
＊急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

停車のしかた

警　告

＊ES仕様(電子シャトル付)は変速ギヤーを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう，必ず駐車ブレーキをかけてください。

注　意

＊駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTOを“切”，作業機を“下げ”，変速レバーを“中立”，駐車ブレーキを“掛け”，エンジンを“停止”してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。
＊格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。火災の原因になります。
＊停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火するおそれがあります。
＊トラクタから降りるときは，ロータリなどのPTO作業機が完全に止まるまで待ってください。

❶エンジンを低速にします。
❷クラッチペダルとブレーキペダルを踏込みます。
❸トラクタ停止後，主変速レバーとシャトルレバーを**“中立”**にして，駐車ブレーキレバーを引いて駐車ブレーキをかけます。
❹作業機を取付けている場合は，作業機を下げます。
❺駐車ブレーキを確実にかけてください。
❻キースイッチを**“OFF”**にして，エンジンを停止します。

前輪駆動・倍速ターンの使い方

■前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に威力を発揮します。

(1)傾斜地・湿田・トレーラの運搬・フロントローダ作業時で，けん引力が必要な場合。

(2)砂地で作業をする場合。

(3)固いほ場でロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

(4)ほ場への出入り及び，あぜ越えを行なう場合。

注　意

＊舗装道路や高速走行時の前輪駆動は避けてください。思わぬ事故の原因にもなります。前輪駆動は必ず切ってDTランプが消えていることを確認してから走行してください。又，タイヤの摩耗を早める原因にもなります。
但し，M_1-100，115の全形式及びM_1-85Hの倍速付の場合は，走行時ブレーキ性能向上のため，左右ブレーキペダルを連結した状態でブレーキを踏むと自動的に前輪駆動が入ります。

■倍速ターンの使い方

警　告

＊倍速ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に倍速ターンスイッチを“DT入”又は“DT切”に切換えてください。

＊倍速ターンは，畑，水田などのロータリ耕作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

重　要

＊プラウなどの速度の速い作業には，使用しないでください。

＊フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

クリープ速度の使い方（オプション）

クリープ速度は，使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。

次のことに注意してお使いください。

(1)使用できる作業
- ●ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
- ●ロータリで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
- ●プランタによる移植作業。
- ●農業用トレンチャによる作業(農業用に限る)。
- ●車への積み・降ろしをするとき。

(2)使用できない作業(故障の原因になります)
- ●湿田での沈没状態から脱出する作業。
- ●けん引・トレーラ作業。
- ●フロントローダ作業。
- ●フロントブレード作業(除雪作業)。
- ●土木作業。
- ●ほ場への出入り。

(3)クリープ速度を使用するときは，必ず次のことを守ってください。
- ●変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
- ●発進は，必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
- ●停止は，必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

重　要

＊クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。あまり強く踏むと故障の原因になります。

＊クリープ速度では,けん引作業をしないでください。超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。

デフロックの使いかた

デフロック装置は，下記のような場合に役立ちます。

■デフロック装置を使うとき

(1)ほ場への登り降りに片車輪がスリップして直進できないとき。
(2)フロントローダ作業で前・後輪の片側がスリップした場合。
(3)ほ場の一部の軟弱なところに片車輪が入り込みスリップして，走行不可能なとき。
(4)プラウ作業の場合に車輪がスリップするとき。

重 要

＊デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてください。
＊ペダルを離すと，デフロックは自動的に外れますが，抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏むか，ステアリングハンドルを左右に軽く回してください。

注 意

＊デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

ブレーキ取扱い上の注意

トラクタを動かす前に必ず5～6回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
ブレーキオイル管の空気が完全に抜けているか確認します。

ほ場への出入り時の注意

警 告

＊左右のブレーキペダルは，必ず“連結”しておいてください。
＊ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。
＊ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。
＊傾斜地で作業する場合は転倒しやすくなりますので，前後左右のバランスに注意して作業してください。

(1)登り始めは，作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。
トラクタの前・後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。
常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
(2)4 WDは，あぜなどバックで上がると格段に能力が増します。

トラックへの積み・降ろし

注　意

＊アユミ板は，十分な強度・幅・長さ(傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの4倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。

＊積み・降ろしは，あらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを**"連結"**しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

パワーステアリングの取扱い

注　意

＊パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作は大変軽くなりますので，道路走行は慎重に行なってください。

重　要

＊パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。
ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。
なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。

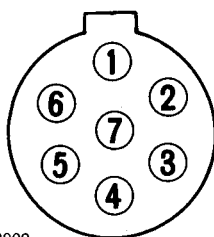
＊ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。

＊ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音(リリーフ音)が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。(短い時間ではかまいません。)
また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。

＊不必要なハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。

＊冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

トレーラ用カプラ(オプション)

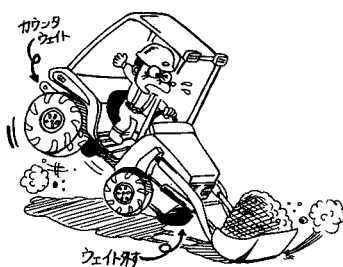
(1)トレーラと連結時に用いる電源カプラは別途購入してください。(オプション)
(2)電源は右図のとおりです。

F-2009

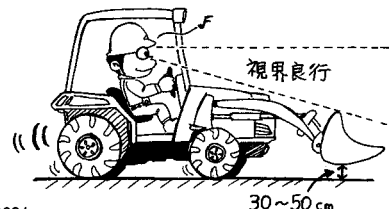
①アース
②尾灯(8W)
車幅灯(8W)
駐車灯(8W)
③方向指示器左(23W)
④制動灯(23W×2)
⑤方向指示器(23W)
⑥予備
⑦後退灯(10W)

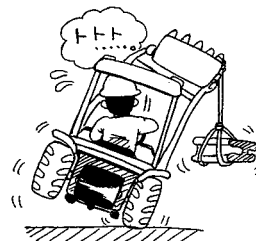
ローダ作業を安全に行なうために!

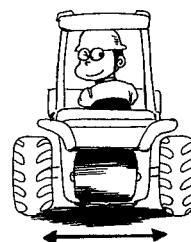
ローダ作業時の転倒事故を防止するために，次のことがらを必ず守ってください。

1. トラクタ後部にカウンタウエイトを取付ける!
トラクタの後部に，3点リンクを利用して適正量のカウンタウエイトを取付け，前・後輪のバランスを保つようにしてください。

適正カウンタウエイト量(ロアーリンク先端)	
TL55 TLH65 TLH85	600kg
TLH85G TLH85GH	800kg
TLH115	1000kg

F-9824

2. 運搬はローダを低く下げてゆっくり走行する!
運搬・走行するときは，積荷の高さを地上から20～30cmにし，速度も5km/時以下で走行してください。特に傾斜地・悪路では，速度をひかえめに慎重に走行してください。

F-9824

3. 片持ち作業をしない!
片持ち作業はトラクタ横転の原因になりますので，荷物は左・右に片寄らないようにバランスよく載せてください。

F-9824

4. 後輪トレッドはできるだけ広げる!
作業時はトラクタの安定性を増すため，後輪トレッドはできるだけ広げてください。

F-9824

5. フロントローダ作業中は倍速DTを絶対に使用しないでください。

★以上，ローダ作業での転倒事故を未然に防いでいただくために，主だった注意事項を挙げました。これ以外にもローダの**“取扱説明書”**をよく読んで安全に作業をしてください。

運転中の作動点検

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

◆イージーチェッカが点灯したときの処置
すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。

◆オーバヒートしたときの処置

 注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

オーバヒート(水温計の針が**"H"**にあるとき)したときは，
❶作業を中止し，
❷エンジンを約５分間アイドリング回転してから，
❸エンジンを停止し安全ポイントに注意して，次の点検・整備をしてください。
(1)冷却水の量(不足)，及び水もれがないか。
(2)防虫網およびラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
(3)ファンベルトのゆるみがないか。

◆次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。
(1)回転が急に下降したり上昇したりする。
(2)突然，異常な音をたてた。
(3)排気色が急に黒くなった。
(4)運転中，オイルランプが点灯した。
●点検整備は，購入先にご相談のうえ，その指示にしたがってください。

トラクタ使用前の点検について(日常点検)

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は毎日欠かさず行なってください。

注　意

＊火気厳禁

＊点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。

＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

＊トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。

＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹き出してヤケドをすることがあります。

＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日の異常箇所　参照ページ

(2)トラクタの回りを歩いて
- タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷……77ページ
- タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
- 油もれ及び水もれ
- エンジンオイルの量及び汚れ……70ページ
- ミッションオイルの量及び汚れ……71ページ
- 冷却水の量……68ページ
- ブレーキオイルの量……71ページ
- エアークリーナのバキュエータバルブの清掃……76ページ
- プレクリーナの清掃……77ページ
- セパレータ(燃料フィルタ)内の水の排出【M_1-55, 60, 65, 75, 85】……76ページ
- セディメンタ(燃料フィルタ)内の水の排出【M_1-100, 115】……76ページ
- 車体各部の損傷，及びボルト・ナットのゆるみ
- 各ランプ類の損傷……3ページ
- ナンバプレートの汚れ，損傷……3ページ
- 防虫網の清掃……69ページ

(3)運転席に座って
- ブレーキペダル，クラッチペダルの遊びと作動……79～81ページ
- 駐車ブレーキの作動……81ページ
- ハンドルの作動
- バックミラーの汚れ及び損傷

(4)メインスイッチを入れて
- 燃料計の作動……4ページ
- 燃料は十分か
- ランプ類及びイージーチェッカの点灯及び汚れ……5, 7ページ
- メータ類の作動……6ページ
- ホーン，ウインカランプの作動……5, 6ページ

(5)エンジンを始動して
- イージーチェッカの消灯……7ページ
- 排気ガスの色
- ブレーキの利き，片利き

トラクタの簡単な手入れと処置

注　意

＊給油及び点検整備するときは，❶トラクタを平たんな広い場所に置き，❷作業機を降ろし，❸駐車ブレーキをかけ，❹エンジンを止め，❺キーを抜き，安全を確認してから行なってください。そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

＊トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ・配線・マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

定期点検箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，お買いあげいただいた購入先にご相談ください。
次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	点検項目	アワーメータ表示時間(下記時間めごとに交換)																		購入日から		参照ページ
		35	50	60	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	1年	2年	
1	エンジンオイルの交換			◎			○				○				○				○			70
2	エンジンオイルフィルタカートリッジの交換			◎							○								○			74
3	ミッションオイルの交換とマグネットフィルタの掃除			◎											○							71
4	油圧オイルフィルタカートリッジの交換			◎			○				○				○				○			74
5	マグネットフィルタの掃除	◎		◎			○				○				○				○			74
6	ラインフィルタの交換			◎			○				○				○				○			75
7	前部デフケースのオイル交換			◎											○							72
8	前輪ケース左・右のオイル交換			◎											○							72
9	グリースの注入		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			73
10	クラッチペダルの遊び点検		◎			○			○			○			○			○				79
11	ブレーキペダルの遊び点検					○			○			○			○			○				81
12	ブレーキの空気抜き					○			○			○			○			○				81
13	クラッチの空気抜き【M_1-100・115】					○			○			○			○			○				80
14	駐車ブレーキレバーの遊び点検					○			○			○			○			○				81
15	トーインの点検					○			○			○			○			○				82
16	バッテリの電解液量の点検					○			○			○			○			○				83
17	ラジエータホースの締付バンドのゆるみ点検					○			○			○			○			○				83
18	燃料タンクの水抜き					○			○			○			○			○				65
19	クラッチハウジングの水抜き		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			82
20	油圧・燃料パイプ取付ねじのゆるみ点検		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			83

【注】◎はならし運転の35時間，50時間，60時間後に必ず行なってください。

No.	点検項目	アワーメータ表示時間(下記時間めごとに交換)																		購入日から		参照ページ
		35	50	60	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	1年	2年	
21	ファンベルトの張り点検						○				○				○				○			80
22	燃料フィルタの交換										○								○			75
23	前部デフケース前後遊びの調整 【4WD】														○							80
24	ブレーキオイルの交換	購入先で交換及び点検をしてもらってください。													○ ※							
25	バルブクリアランスの点検																		○			
26	燃料噴射ノズルの噴射圧の点検																		○			
27	エンジン冷却系統(ラジエータ内部)の洗浄																		○			69
28	エンジン冷却水の交換(不凍液使用の場合)																				○	68
29	エアークリーナエレメントの交換																			○ 6回清掃ごと		76
30	パワーステアリングゴムホースの交換																				○	83
31	燃料パイプの交換																				○	83
32	ラジエータホースの交換																				○	83
33	ブレーキホースの交換																				○	83
34	クラッチホースの交換 【M_1-100・115】																				○	83
35	マスタシリンダのシリンダキットの交換	車検時に購入先で，充てん及び交換してもらってください。																			○ ※※	
36	イコライザのイコライザキットの交換																				○	
37	ブレーキシール1・2の交換																				○	
38	クラッチシール1・2及びダストシール 【M_1-100・115】																				○	
39	操向装置 ナックルアーム，キングピン，タイロッドの点検																		○			
40	車体各部のボルト，ナット及びピン類の点検																			○		
41	ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検と交換	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			84
42	内気フィルタの詰まり 【Q_1・Q_2仕様】						○				○				○							85
43	外気フィルタの詰まり 【Q_1・Q_2仕様】						○				○				○							85
44	エアコンコンデンサの詰まり 【Q・Q_1・Q_2仕様】						○				○				○							86
45	エアコンベルトの張り 【Q・Q_1・Q_2仕様】						○				○				○							86
46	エアコン配管，ホースの点検 【Q・Q_1・Q_2仕様】																			○		86
47	ウォッシャ液の補充 【Q・Q_1・Q_2仕様】																					86

【注】 ※ M_1-100・115では，ブレーキとクラッチ操作オイルは兼用となっています。
※※ M_1-100・115では，クラッチ用マスタシリンダキットの交換も必要です。

給油(水)一覧表

No.	給油(水)項目	容量(ℓ) M1-46	M1-55	M1-60	M1-65	M1-75	M1-85	M1-85H	M1-100S	M1-100	M1-115	備考
1	燃料	60	80			105			120	150		ディーゼル軽油
2	冷却水	8	11.5			14.5			15	14.4	14.9	清水(不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。)
3	不凍液	4.4	6.3			8.0			8.3	7.9	8.2	−40℃まで
4	ウォッシャ液〔キャブ仕様〕	2.7ℓ							—	2.7ℓ		自動車用ウォッシャ液
5	エンジンオイル	10.5	13.0			16.3			—	20.8		クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30 CC級又はCD級(98ページ参照)
		—							16.3	—		クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30スーパーCD又はD10W30スーパーCD CC級使用不可，CD級以上のみ使用
6	ミッションオイル(油圧オイル)	45			50			53				クボタ純オイルUDT又はスーパーUDT※ (98ページ参照)
7	ブレーキオイル(タンク・配管)	0.3								0.4 (クラッチ操作用と兼用)		クボタ純ブレーキオイルBP-32又はクボタ純オイルUDT又はスーパーUDT※ (98ページ参照)
8	前部デフケース	4.5					7.5		12			クボタ純オイルUDT又はスーパーUDT※ (98ページ参照)
9	前輪ケース右・左	各3.5					各4.6					(No. 8と同じ)
10	各操作レバー支点	注油										クボタ純オイルM90 (99ページ参照)

11 グリースの注入	注入箇所		容量	使用グリース
・3点リンク	6		外部にはみ出すまで	シャーシグリース(99ページ参照)
・前輪ケースサポート	2		外部にはみ出すまで	シャーシグリース(99ページ参照)
・前車軸受部	2		外部にはみ出すまで	シャーシグリース(99ページ参照)
・バッテリターミナル	2		少量	シャーシグリース(99ページ参照)
・ステアリングジョイント軸	1		少量	シャーシグリース(99ページ参照)
・クラッチレリーズハブ	1	——	分解時に補給	シャーシグリース(99ページ参照)

【注】 ※ M1-100・115は寒冷地においてクボタ純オイルスーパーUDTの使用を推奨します。

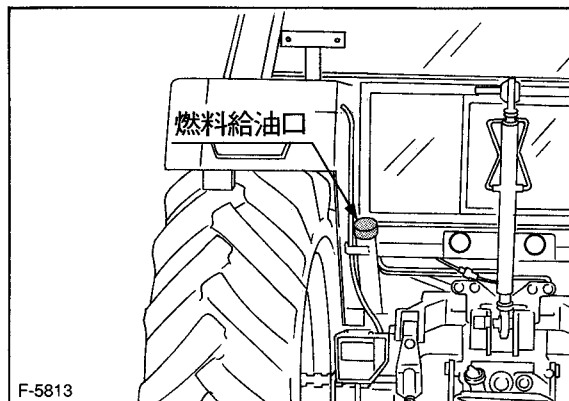
燃料について

注　意

＊燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊火気厳禁

■使用燃料

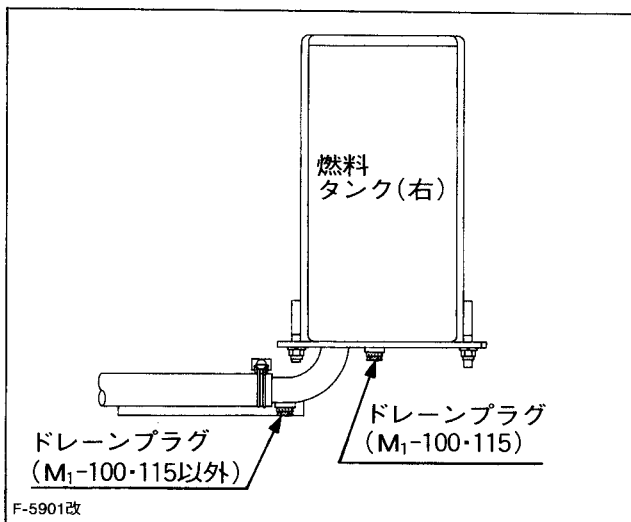
●ディーゼル軽油を使用してください。

F-5813

重　要

＊燃料中にゴミや砂及び水が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，注意してください。
＊燃料キャップが締まっているか確認してください。

■燃料タンク水抜きのしかた

●燃料タンク下部のドレーンプラグをゆるめ，沈澱している不純物や水分を排出し，元通りに締めます。

F-5901改

重　要

＊水分が多く含まれている悪い燃料を使用した場合は，水抜きの間隔は更に短かくしてください。
＊トラクタを長期格納後使用する前に行なってください。

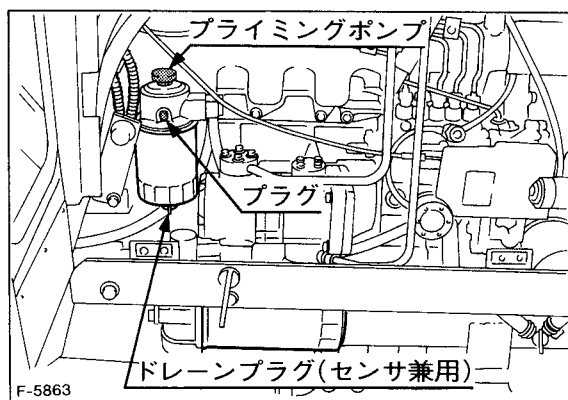
燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは，
●燃料フィルタ及び配管を取外したとき
●燃料フィルタの水抜きをしたとき
●燃料切れが起きたとき
●トラクタを長時間使用しなかったとき
に行なう必要があります。

■フィルタエレメントの交換
フィルタの水抜き
燃料切れ及び配管を外した場合

【M_1-46仕様】

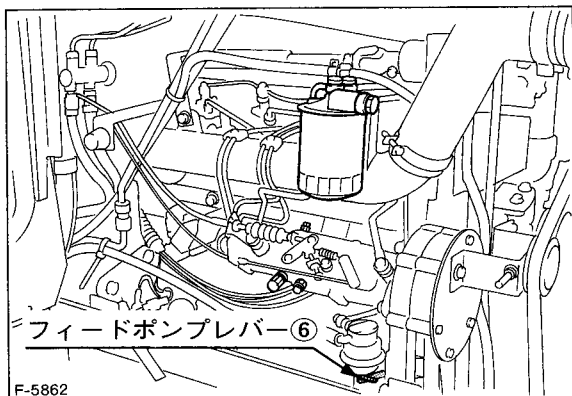
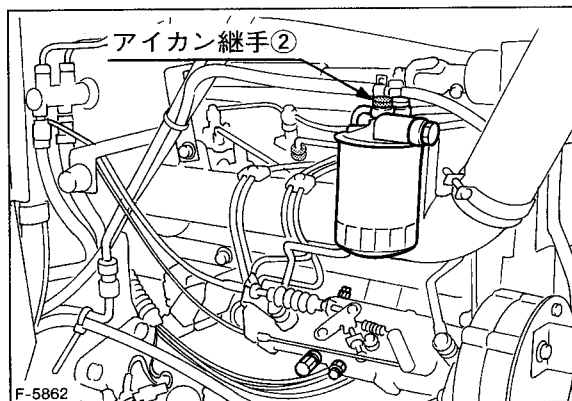
❶フィルタ上部の空気抜きプラグを，約2回転ゆるめます。
❷フィルタ上部のプライミングポンプで燃料タンクから燃料を吸い上げます。
❸空気抜きプラグから出る燃料にアワがなくなったら，プラグを締付けます。
❹再度プライミングポンプを数回押します。
❺アクセルレバーを**“中程”**まで引き，エンジンを始動します。アクセルをふかす操作を数回繰り返し，空気の抜けたことを確認してエンジンを止めます。

F-5863

■フィルタエレメントを交換した場合(フィルタの水抜きをした場合)

【M1-55,60,65,75,85,85H,100S】

インジェクションポンプにエアーを送らないで，フィルタ内のエアー抜きを行ないます。

(インジェクションポンプ，配管などにエアーが入っていないこと。)

❶フィードポンプレバー⑥を上下に動かし，燃料が圧送されていることを確認します。
燃料が圧送されていない(手ごたえが少ない)場合は,ポンプの作動が一番大きく感じられる位置まで,スタータを瞬時入れて，クランク軸を少し回転させます。

❷フューエルフィルタのアイカン継手②を約2回転ゆるめます。

❸フィードポンプレバー⑥をゆっくり上下に動かし，アイカン継手②から気泡のない燃料が出てくれば，アイカン継手②を締付けます。

❹アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し，中速回転(約1500rpm)位置に戻します。

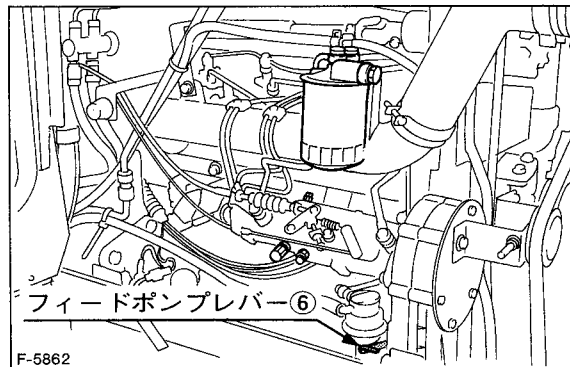
❺エンジンをふかす操作をし，燃料系統の中に残っている微量のエアーを追い出します。

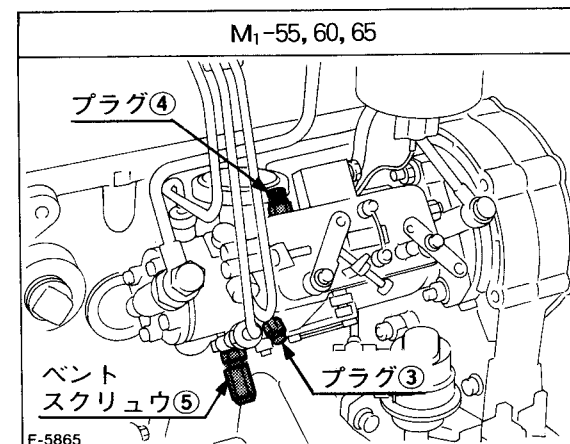
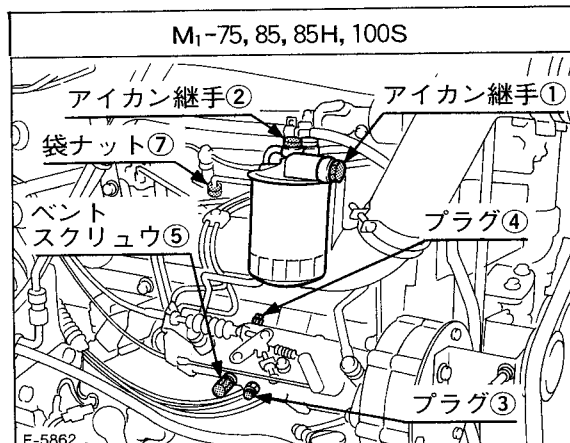
❻以上の操作後，まだエアーが抜けずにエンストする場合は，**“■燃料切れ及び配管を外した場合”**の手順でエアー抜きを行ないます。

■燃料切れ及び配管を外した場合

【M1-55,60,65,75,85,85H,100S】

エアー抜きは燃料の流れに従って❶→❷→❸→❺→❹の順序で行ないます。

❶フィードポンプレバー⑥を上下に動かし，燃料が圧送されていることを確認します。燃料が圧送されていない(手ごたえが少ない)場合は，ポンプの作動が一番大きく感じられる位置まで，スタータを瞬時入れて，クランク軸を少し回転させます。

❷メインスイッチを**“ON”**にします。(停止ソレノイドバルブに通電し燃料が流れるようにします。)

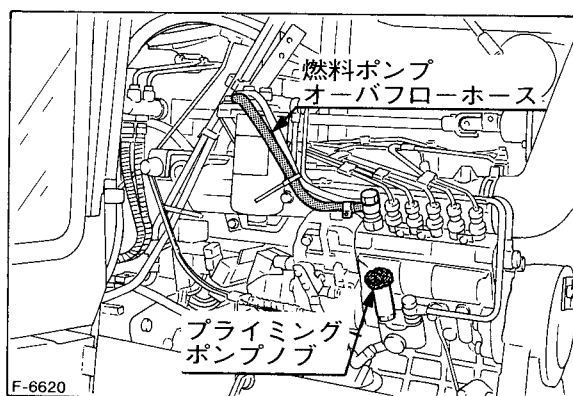
❸フィルタのアイカン継手①②，インジェクションポンプのプラグ③④をそれぞれ約2回転とベントスクリュウ⑤をスパナでゆるめ，指で回して止まるまで(6～7回転)ゆるめます。

❹フィードポンプレバーをゆっくり上下に動かし，アイカン継手①から気泡のない燃料が出てくれば，まずアイカン継手①を締付けます。
❺つづけてフィードポンプレバーをゆっくり上下に動かし，アイカン継手②とプラグ③から気泡のない燃料が出れば，アイカン継手②とプラグ③を締付けます。
❻アクセルレバーを最高回転位置にし，スタータでエンジンを回転させ，ベントスクリュウ⑤から勢いよく燃料が出てくれば，ベントスクリュウ⑤を締付けます。（スタータを連続10秒間回せば30秒間休む，この操作を２～３回繰り返します。）
❼アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し，アクセルレバーを中速回転(約1500rpm)位置に戻します。（スタータを連続10秒間回しても始動しない場合は，30秒間休み，この操作を再度１～２回くり返します。）
❽プラグ④から気泡のない燃料が出てくれば，プラグ④を締付けます。
❾エンジンをふかす操作をし，燃料系統の中に残っている微量のエアーを追い出します。
❿以上の操作後，まだエアーが抜けずにエンストする場合は，上記の❶～❾の手順で再度エアー抜きを行ないます。このとき，次の操作を追加してください。
- ❸項でインジェクションパイプの袋ナット⑦を全部ゆるめます。
- ❻項でベントスクリュウ⑤を締付け後，インジェクションパイプから勢いよく燃料が出てくれば袋ナット⑦を締付けます。

■フィルタエレメントの交換 フィルタの水抜き 燃料切れ及び配管を外した場合

【M_1-100·115】

❶タンクに燃料を満たし，燃料コックを開く。
❷プライミングポンプノブをゆるめ，上下に動かす。手応えがあれば燃料が圧送されている。
❸いつまでも手応えがない場合は，エンジン停止つまみを引いたままセルモータを瞬時回し，クランク軸を少し回転させて❷の作業を行なう。
❹❷の作業を続けながら，燃料ポンプオーバフローホースを指でつまむ。燃料が流れ出すと，指に脈動を感じる。この状態になれば空気抜きは完了している。
❺プライミングポンプノブを締付ける。

重　要

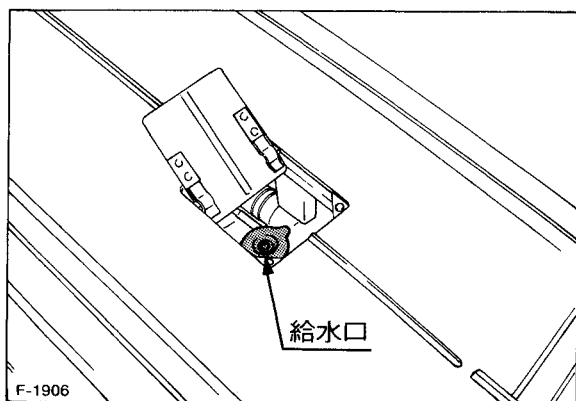
＊空気抜き完了後は，必ずプライミングポンプノブを締付けておいてください。燃料もれの原因となります。

❻アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し，アクセルレバーを中速回転(約1500rpm)位置に戻します。（スタータを連続10秒間回しても始動しない場合は，30秒間休み，この操作を再度１～２回くり返します。）
❼エンジンをふかす操作をし，燃料系統の中に残っている微量のエアーを追い出します。
❽以上の操作後，まだエアーが抜けずにエンストする場合は，上記の❶～❼の手順で再度エアー抜きを行ないます。

冷却水について

 注　意

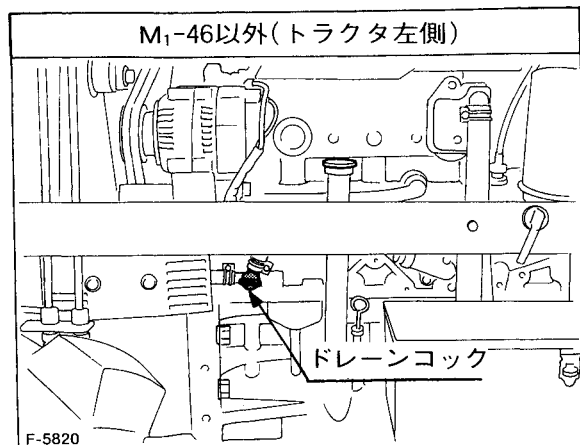
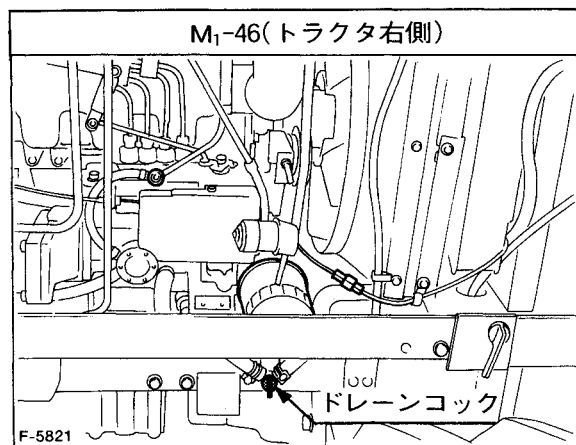
＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

◆点検

"給水口のすぐ下まで"あるか調べ，少ない場合は補給してください。

◆交換

(1)冷却水を抜くときは，ドレーンコックを開けると同時に，ラジエータキャップも開けてください。
締めたままでは，少し出るだけで完全には排出されません。

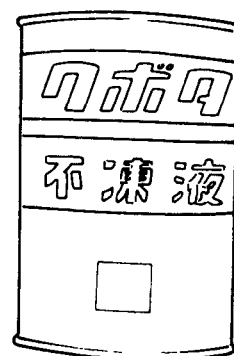
(2)水道の水でラジエータ内を洗浄してから，冷却水を給水してください。

(3)ラジエータキャップの締め方が不完全な場合，また，座面にすき間のある場合は，冷却水が漏れて早く減ります。

■不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が０℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合しラジエータに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。
〔工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。〕

重　要

＊冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。なお，混合比はメーカーや気温によっても異なりますので，メーカの取扱説明書に従ってください。

＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。

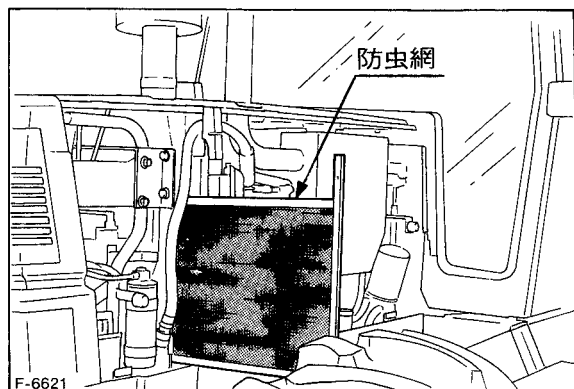
＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとスラッジが生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。

＊クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は２年間です。
必ず２年で交換してください。

■防虫網の清掃

注　意

＊エンジンを必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると，ラジエータの防虫網に草の実や昆虫が付着し詰ることがあります。
こんなときは防虫網を清掃してください。

■ラジエータコアーの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は，水道水(圧力水)で流してください。

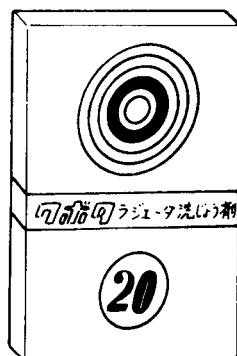
重　要

＊ヘラやドライバなど固いもので清掃してはいけません。特殊フィンを傷めラジエータの機能をなくす原因になります。
＊エアークリーナ内に水が入らないように注意して，清掃してください。

■ラジエータから水漏れした場合

(1)少しの水漏れの場合は，**クボタラジエータセメントNo.40**を使用すれば止まります。
(2)水漏れが激しい場合は，お買いあげいただいた購入先にご相談ください。

■ラジエータの洗浄

洗浄には，**クボタラジエータ洗じょう剤No.20**を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。
●800時間使用ごと
●不凍液を混入するとき
●不凍液混入から水だけに変えるとき
などに使用してください。

各部への給油と交換

重 要

＊点検するときは，トラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。

＊使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ギヤーオイルは，必ず“クボタ純オイル”を使用してください。

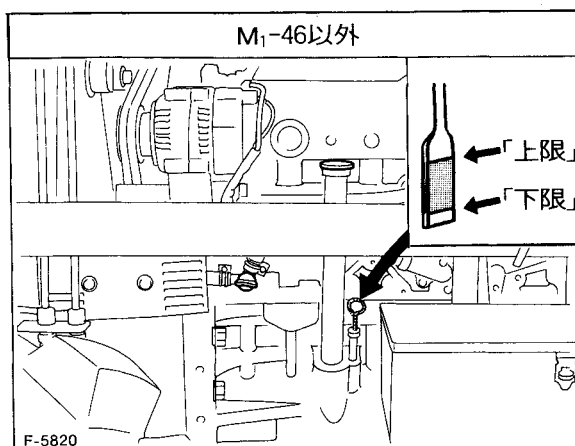
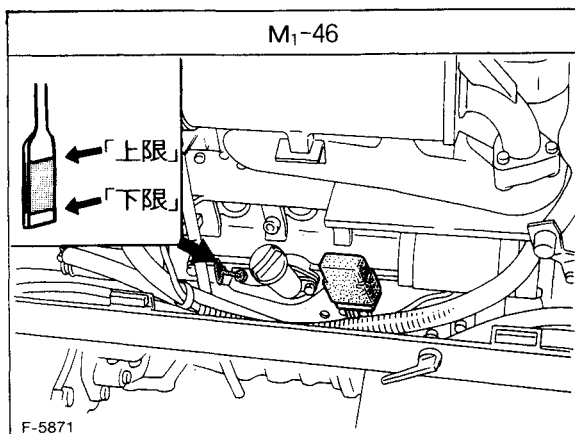
■エンジンオイル

◆点検

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

(1)オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，ゆっくり差込んでから再び抜き**“下限と上限の間”**にオイルがあるかを調べます。

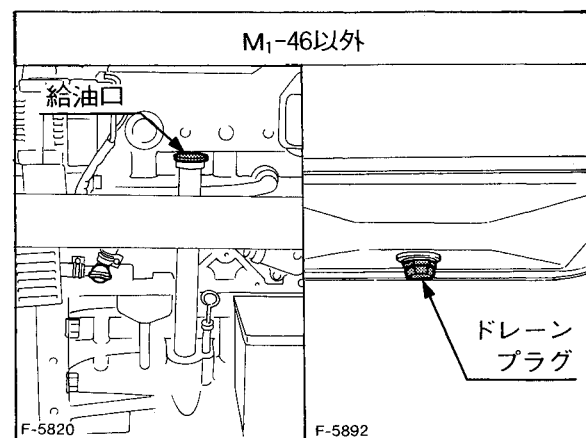
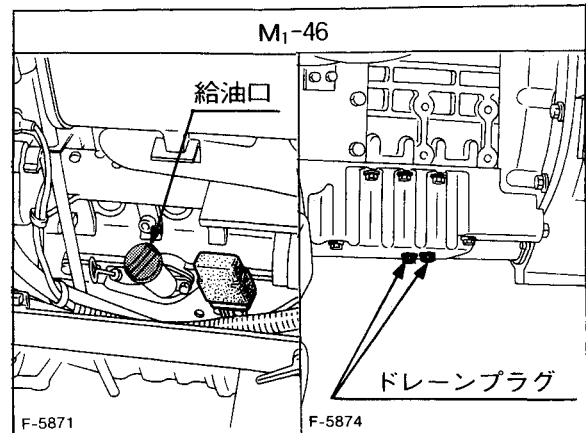
(2)下限以下の場合は補給が必要ですが，上限以上には入れないでください。

重 要

＊オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めて約5分以上たってから点検してください。
そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

◆交換

注 意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

ドレーンプラグを外して古いオイルを抜き，給油口から新しいオイルを規定油面まで入れてください。

重 要

＊今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度No.の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
注ぎ足し使用は絶対しないでください。

＊気温により次のように使いわけてください。

15℃以下	D10W30(オールシーズン用)
15℃以上	D30，又はD10W30

＊冬期は必ずD10W30を使用してください。

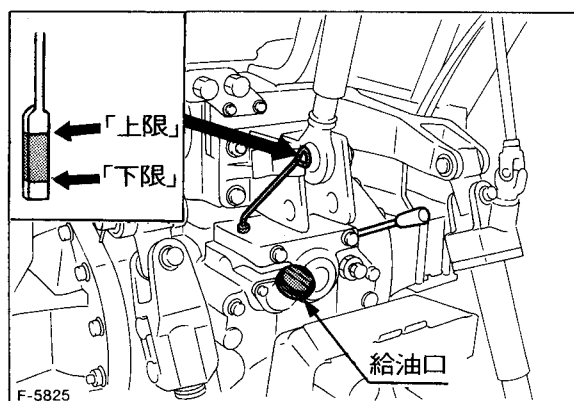
＊M1-100S（ターボ付）はD30スーパーCD又はD10W30スーパーCDを使用してください。

■ミッションオイル

◆点検

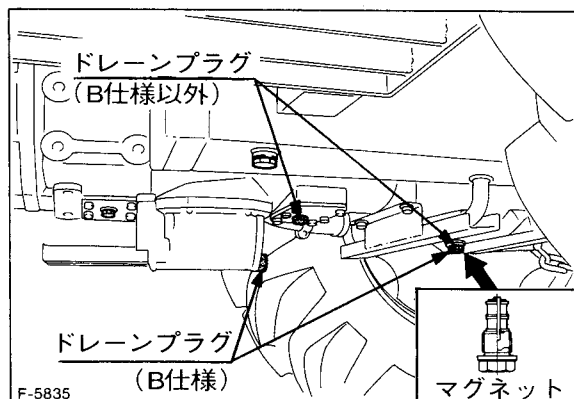
＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

(1)オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**"下限と上限の間"**にあるか調べます。

(2)下限以下の場合は補給が必要ですが，上限以上には入れないでください。油洩れの原因になります。

＊オイル量は，トラクタを平担なところに止め，ゲージ通り正確に給油してください。

◆交換

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグ(２ヵ所)を外してオイルを抜きます。

❷オイルゲージの刻み線の上までオイルを入れます。

❸エンジンを始動して２～３分運転してから止め，再度油量を点検して規定量まで補給してください。

マグネットプラグを外してオイルを抜いたとき，同時にプラグに付いた鉄粉をふきとってください。

※M_1-85H・100S・100・115はミッドケース下部にもマグネットプラグがあります。

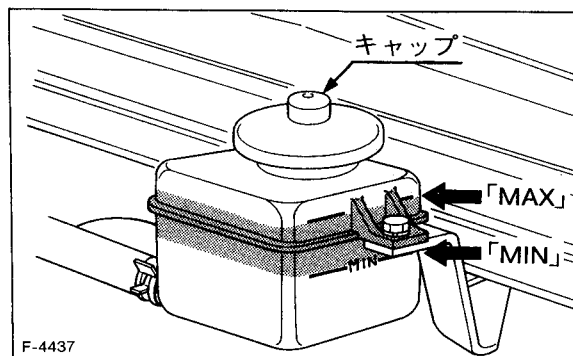
■ブレーキオイルの点検

【M_1-100･115以外】

■ブレーキ・クラッチオイルの点検

【M_1-100･115】

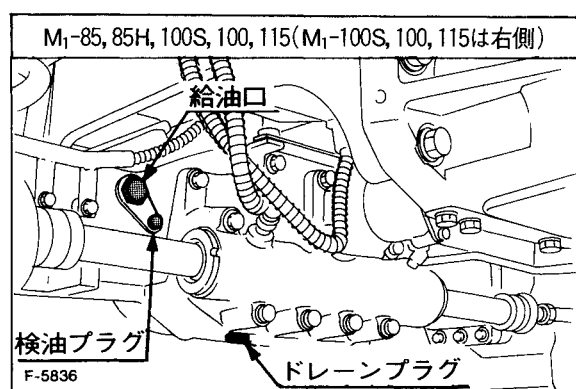
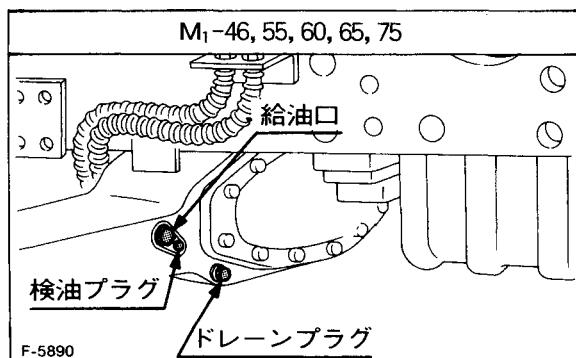
(1)**"MAXとMINの間"**に液面があるか調べます。

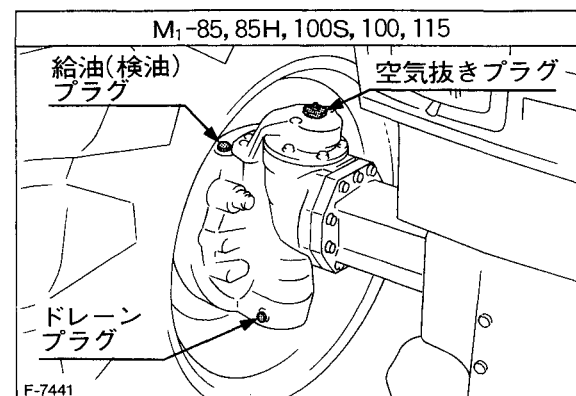
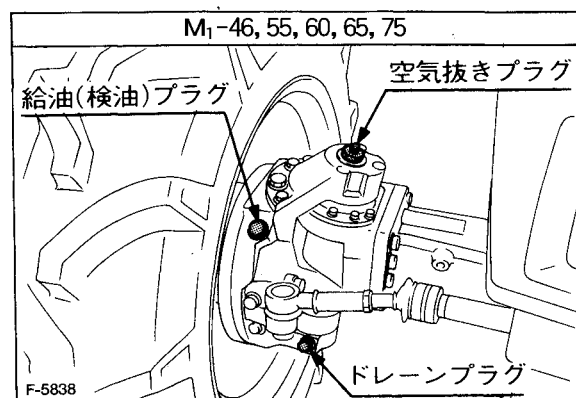
(2)**"MIN"**以下の場合はブレーキ系統のオイル洩れを点検し，補給してください。但し，M_1-100･115ではクラッチ系統も点検してください。

＊必ずクボタ指定のブレーキオイル(鉱物油系)を使用してください※。

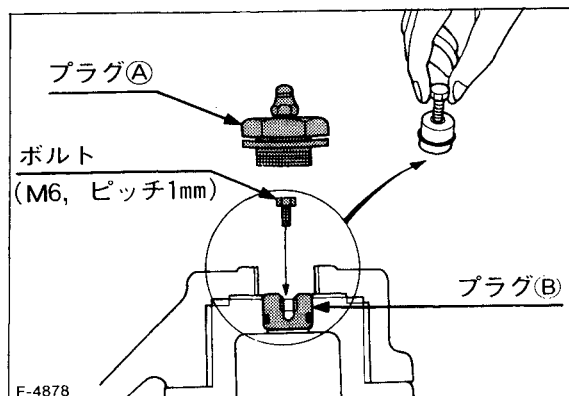
＊ブレーキオイルは，必ず使用中のオイルと同じオイルを補給してください。異なるメーカや種類のオイルを補給して，混合使用は絶対にしないでください。特に市販の自動車用ブレーキオイルが混入すると，ブレーキやクラッチが作動不能となるおそれがありますので十分注意してください。
誤って混入した場合ただちに指定のブレーキオイルで洗浄して，マスターシリンダからブレーキピストンまでのシール部品をすべて交換してください。

※M_1-100・115は寒冷地においてクボタ純オイルスーパーUDTの使用を推奨します。

■前部デフケースのオイル交換

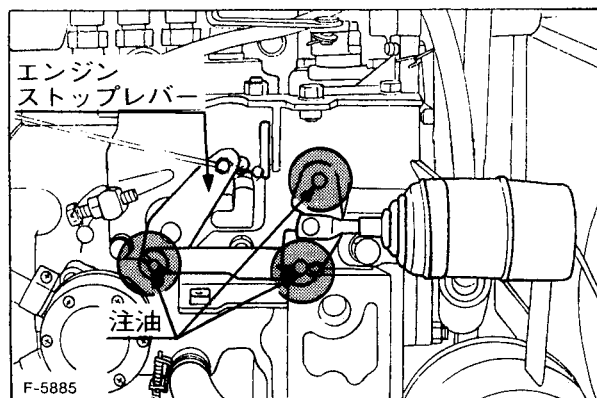
ドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを抜き，給油口から新しいオイルを規定量入れてください。

■前輪ケース左・右のオイル交換

左右のドレーンプラグと給油プラグ，空気抜きプラグを外してオイルを抜き，給油口から新しいオイルを規定量入れてください。

◆空気抜きプラグの外しかた

プラグⒶを外し，ボルトをプラグⒷにねじ込み，そのボルトを持ってプラグⒷを引抜いてください。

■停止ソレノイドリンクへの注油

【M_1-46】

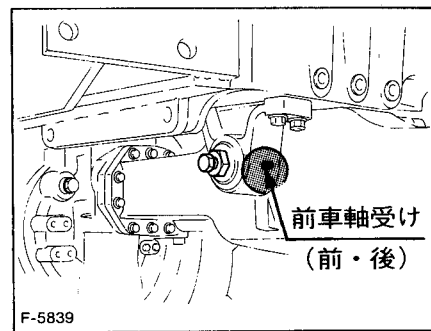
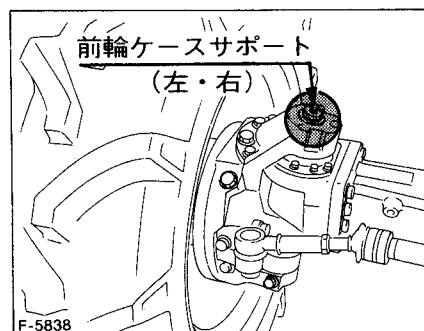
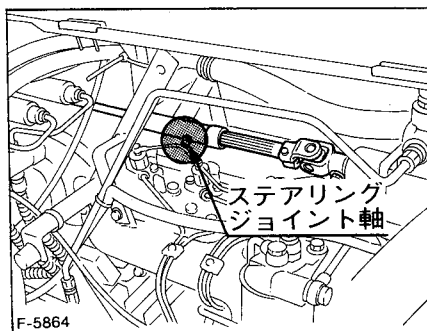
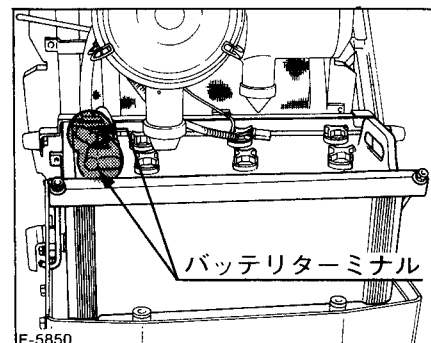
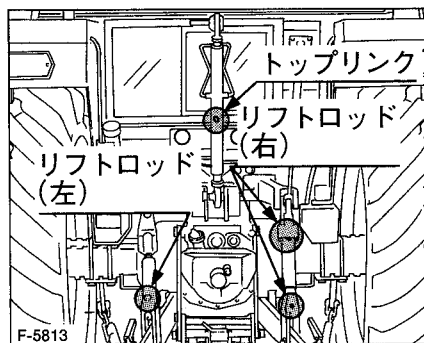
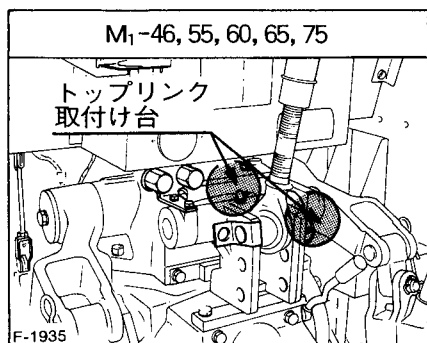
ソレノイドリンクへの注油及び清掃は，１年に１回使用前及び長期格納時に行なってください。

＊注油後，アクセルレバーをアイドリングの位置にして，エンジンストップつまみが手で軽く動くことを確認し，更にエンジンを始動してメインスイッチ **"OFF"** でエンジンンが停止するか確認してください。

重　要

＊この部分は，メインスイッチによるエンジン停止を行なう機構ですので，水田などに入って泥などが侵入したときは，適宜清掃を行なってください。

グリース注入について

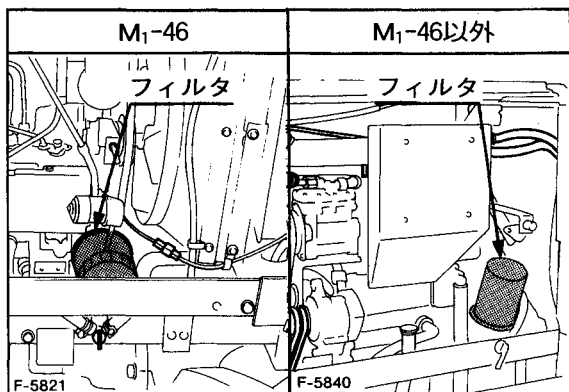
通常のグリースアップは，定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし，代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**“クボタ推奨グリース”**を使用してください。(99ページ参照)

■各部へのグリース注入———シャーシグリースを少量注入します。

フィルタの交換と洗浄

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

 注　意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

オイルフィルタは，カートリッジタイプです。
このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

❶フィルタレンチでフィルタを取外します。
❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❸エンジンオイルを規定量まで補給します。
❹約5分間運転し，オイルランプの作動に異常がないかまた，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
❺再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給する必要があります。

■油圧オイルフィルタ（カートリッジ）の交換

 注　意

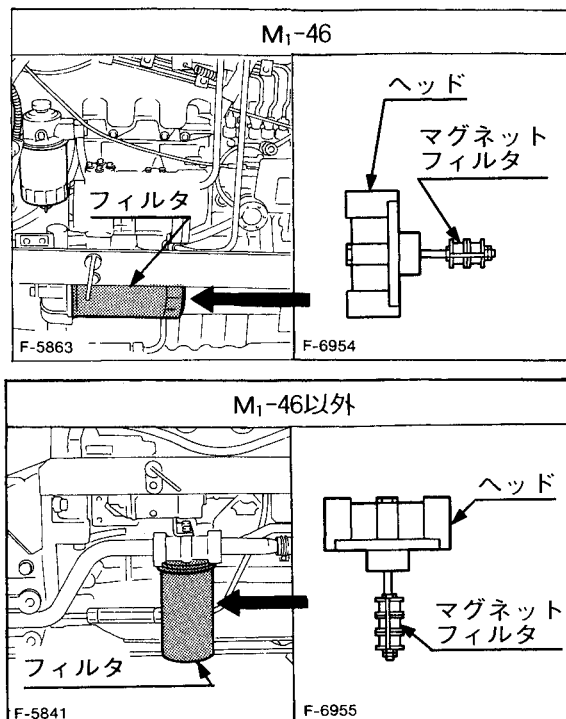
＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

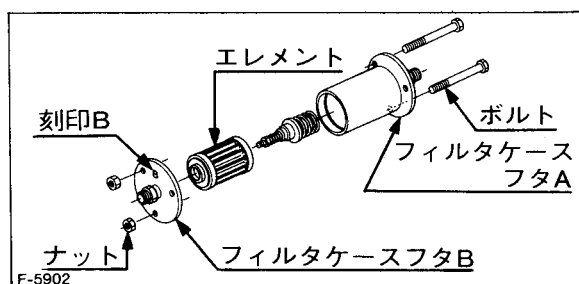
❶フィルタレンチで取外します。
❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❸約2分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。

◆マグネットフィルタの掃除

カートリッジを外して中のマグネットフィルタに付着したゴミをふき取ってください。

重　要

＊ヘッド（フィルタブラケット）よりマグネットフィルタを外さないでください。

■ラインフィルタエレメントの交換

(1)フィルタ前後の油圧パイプ接手用袋ナットをはずします。
(2)フィルタ取付けナット(3個)をはずし，フィルタ完備をはずします。
(3)フィルタケース用ナットをはずし，フィルタを分解し，エレメントを交換します。
(4)組み付けは逆の順序で行ないます。この時，フィルタケースの刻印**“B”**側に，**“ナット”**が来るように**“ボルト”**を通します。
(5)組み付け後，油もれがないか運転確認をしてください。

重 要

＊エレメント交換の際，ケース内にゴミ，ホコリなどを浸入させないよう十分注意してください。

■燃料フィルタ

◆フィルタの水抜き【M_1-46】

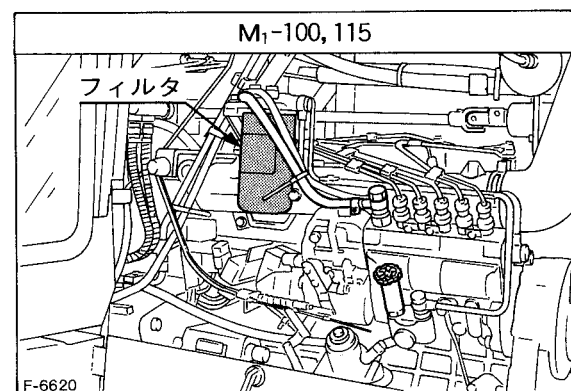
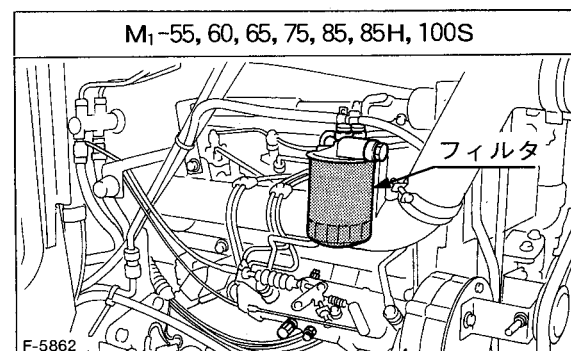
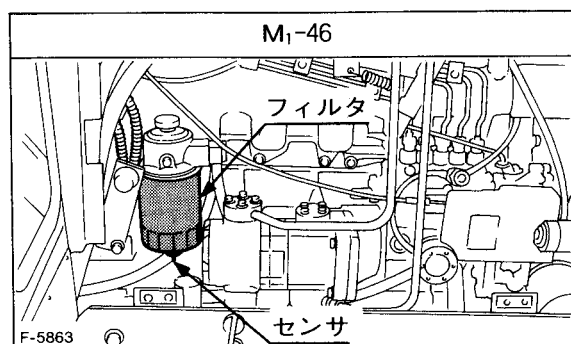
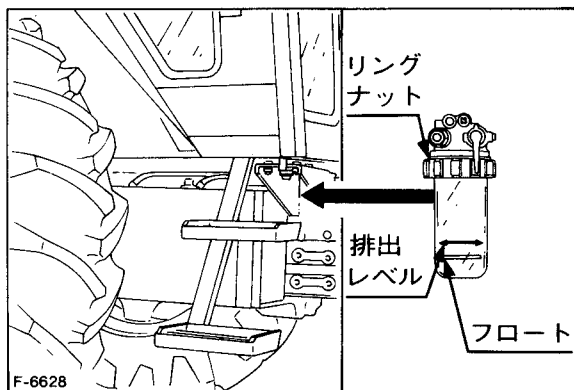
❶フィルタ下部のセンサを1～2回転ゆるめ，水を排出してください。(約150cc)
❷センサを元どおりに組付けます。
❸エアー抜きを行なってください。(65ページ参照)

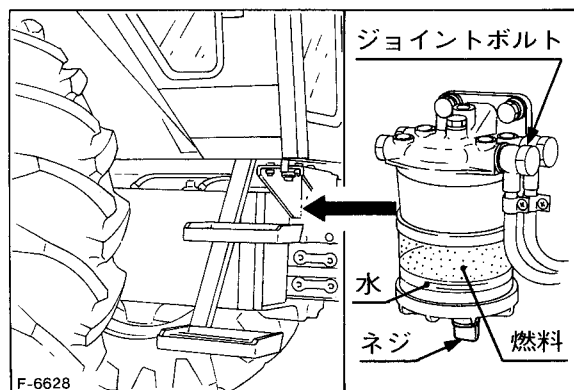
◆燃料フィルタの交換

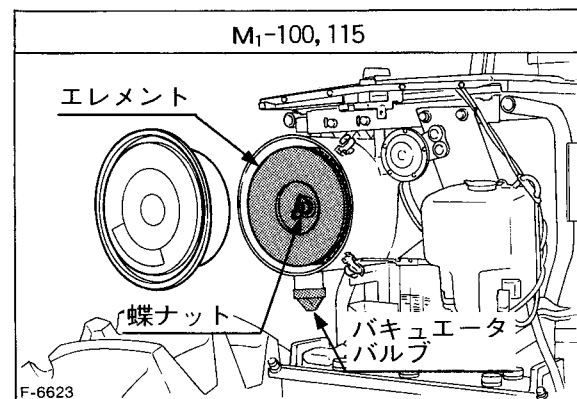
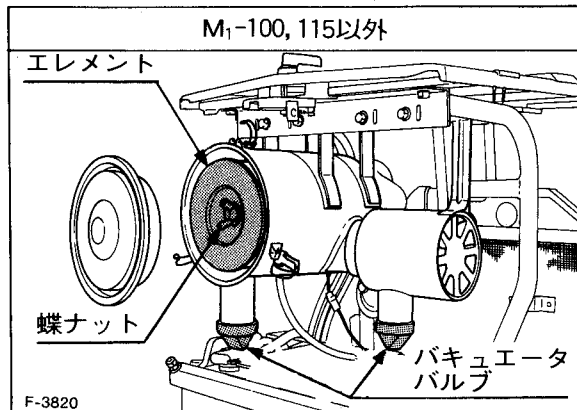
❶セディメンタ用センサをはずしてください。【M_1-46】
❷フィルタレンチでフィルタをはずしてください。
❸組付けはパッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で十分に締付けてください。
❹センサ(ドレーンプラグ兼用)を元どおり取りつけてください。【M_1-46】

M_1-46

M_1-55, 60, 65, 75, 85, 85H, 100S

M_1-100, 115

◆セパレータの水の排出
【M_1-55, 60, 65, 75, 85, 85H】

❶分離された水がたまると赤色のフロート(浮き輪)が浮き上ります。フロートが排出レベル(←→印)に達した時はリングナットをゆるめてカップを取りはずし排出してください。
❷この時エレメントを破らないように注意して清掃してください。
❸カップ再セット後はフィードポンプレバー(P. 66 F-5862図参照)を押してカップの中に燃料を充満させてください。この時充満した後も更にレバーを10～15回押してください。

◆セディメンタからの水の排出
【M_1-100S, 100, 115】

❶水が分離されているか調べてください。
(目視して燃料と水の層ができているか調べる。)
❷水が分離されている時は下のネジをゆるめて排出し水が抜けて燃料が流れ出るようになったらネジを締めます。この時ジョイントボルトを少しゆるめると排出が早くできますが排出後は必ず締め付けてください。
❸たくさん排出した時(100cc以上)はプライミングポンプを(P. 67 F-6620図参照)を押してセディメンタ内に燃料を充満させてください。

■エアクリーナエレメントの清掃・交換
(1)乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
(2)バキュエータバルブを開き，大きなゴミを取除いてください。【M_1-100S以外】

◆エレメントの清掃
清掃方法は，エレメントの注意書にくわしく書いてありますので，参照してください。
乾いたちりやほこりの場合，エレメントを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。
(エアーの圧力は7 kgf/㎠を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)
エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，洗浄剤をご使用ください。

【参考】
エレメント洗浄剤

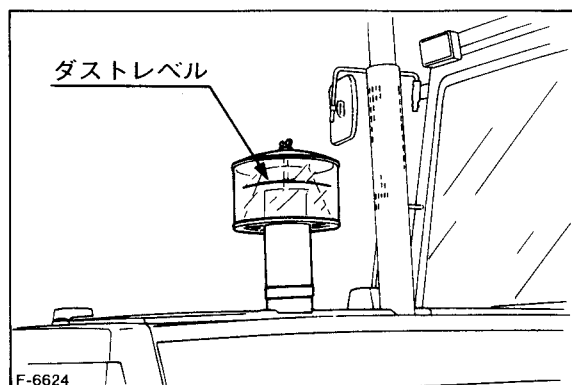
品名	ND－1500（日本ドナルドソン製）
品番	15221－8665－1

重　要

＊エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。

◆エレメントの交換
エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。

■プレクリーナの清掃
【M_1-100・115】

ダストレベルまでゴミが堆積しておれば，プレクリーナをはずし清掃してください。

タイヤについて

 警 告

＊タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。)

■タイヤの適正空気圧(　)内はローダ装着時

前　輪(kgf/cm²)		後　輪(kgf/cm²)	
8.3-20 8.3-22 8.3-24	2.4 (2.8)	12.4-28 12.4-32 12.4-36 13.6-28 13.9-36 14.9-28 16.9-28 16.9-30 16.9-34 18.4-30 18.4-34	1.2
9.5-20 9.5-22 9.5-24	2.0 (2.4)		
11.2-24	1.8 (2.0)		
★9.5R24 ★11.2R24 ★12.4R24	1.4 (1.6)	★13.6R36 ★13.6R38 ★16.9R34	1.4
12.4-24 13.6-24	1.6 (1.8)	14.9-38 18.4-38	1.4
		★18.4R38	1.4
14.9-24	1.4 (1.6)	12.4-38 13.6-38 16.9-38	1.6
★14.9R24	1.4 (1.6)		

★印はラジアルタイヤを示します。

■タイヤの適正空気圧(ターフ仕様)

(kg/cm²)

	前　輪	後　輪
M_1-55DTT1(W) M_1-65DTT1(W)	2.0	1.6
M_1-55DTT2 M_1-65DTT2	1.4	0.8
M_1-55DTTW M_1-65DTTW	1.4	1.0

＊後輪がダブルタイヤのときは，外側のタイヤの空気圧は上表より0.1～0.2kg/cm²少なくしてください。

■後輪ダブルタイヤ取付要領

作業を始める前に，必ずお読みください。

 注　意

＊安全のために，車輪に必ず歯止めを使用してください。

❶トラクタのエンジンを止め，駐車ブレーキを引いてください。

❷後輪取付けナット①を1個おきに4個取外し，皿バネ③はそのまま使用し，付属のダブルタイヤ取付け金具②を取付け，締付けます。

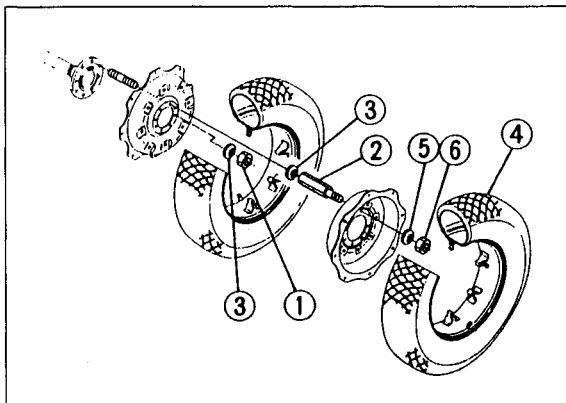
……締付けトルク　35〜41kg・m

❸残り4個のナットを取外し，❷と同じ要領でダブルタイヤ取付け金具②を取付け，締付けます。

❹作業している側のタイヤをジャッキアップして浮かし(追加するタイヤが取付けられる程度)，追加するタイヤ④を②に取付け，付属の皿バネ⑤，先程外したナット⑥を取付け，締付けます。

……締付けトルク　35〜41kg・m

❺ジャッキを取除き，外側タイヤの空気圧が内側タイヤの空気圧より，0.1〜0.2kg/cm²程少なくなるように調整してください。

❻反対側も同じ要領で，外側タイヤを取付けてください。

■その他

(1)ダブルタイヤ仕様では，道路運送車両の保安基準に適合しませんので，公道走行はしないでください。

(2)本機は小型特殊自動車としての要件を備えておりますので，運転はそれ相当の運転技術を持っている方が行なってください。

(3)特にダブルタイヤ仕様での運転は，幅に対する感覚が変わりますので十分注意してください。

(4)ターフタイヤ仕様でのフロントローダ作業はしないでください。

(5)ターフタイヤ仕様についても **"定期点検実施要領"** に基づき，点検・整備を実施してください。

■タイヤ液体注入法

畑地や粘土質でのプラウ作業など，牽引力を必要とする場合，ウエイトを用い牽引力を高める方法があります。ウエイトの代用としてタイヤに水又は，塩化カルシウム溶液等の液体を注入し，牽引力を高める方法もあります。水を使用すると，0℃で凍るため，冬期には適しません。塩化カルシウムは，凝固を防ぐばかりでなく，約20％水溶液の密度が増すため，水より効果があります。

塩化カルシウム溶液の注入要領については購入先等にご相談ください。

各部の点検・調整

■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで40～50mm【M_1-100・115以外】
	ペダルで10～15mm【M_1-100・115】

重　要

＊遊びが適正でないと，クラッチ切れ不良・伝動不良を起し，損傷につながります。

＊クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

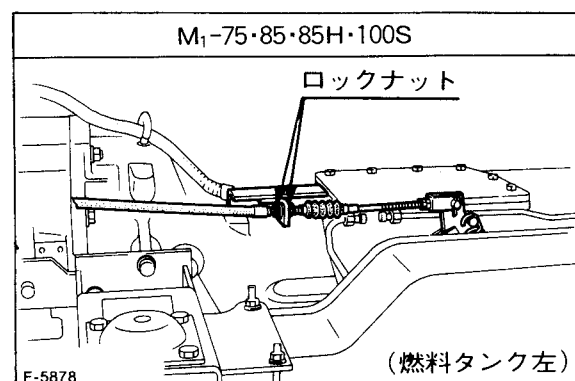
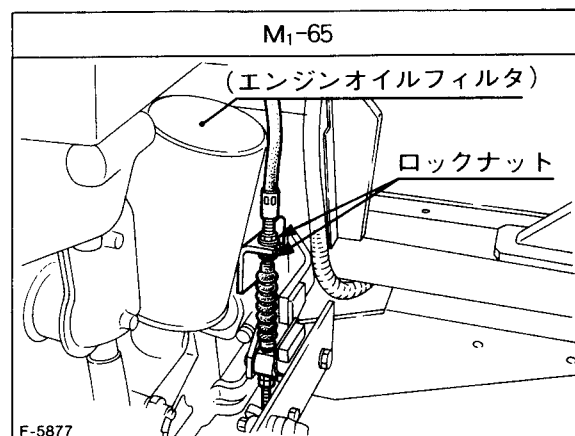
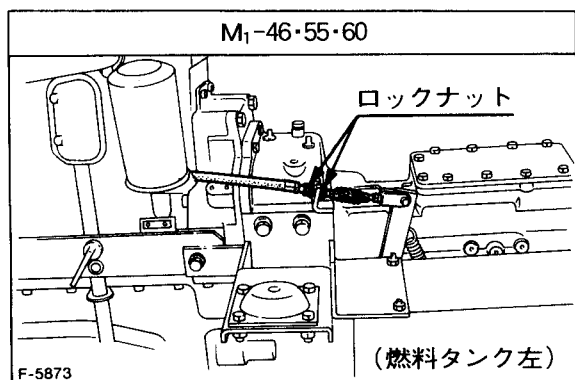
◆調整方法【M_1-100・115以外】

❶ロックナットをゆるめ，ワイヤを調節します。

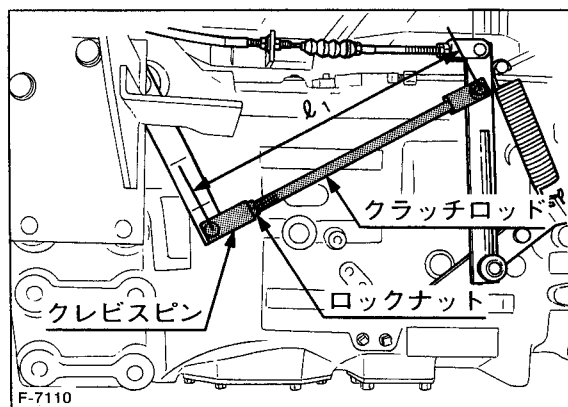
❷元どおりに組付け，遊び量を確認します。

M_1-46・55・60

M_1-65

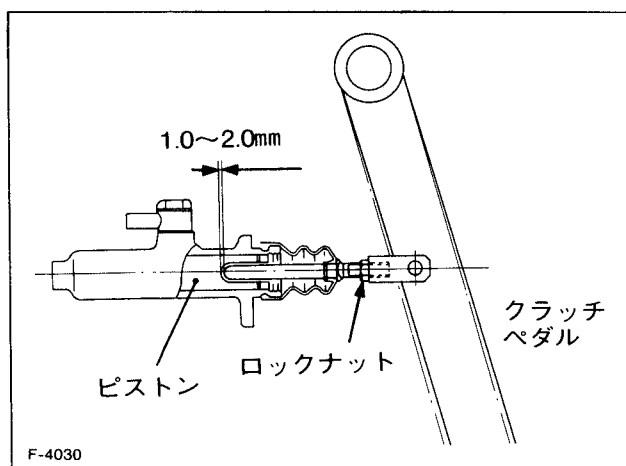
M_1-75・85・85H・100S

上述❶❷の調整でも遊びが不足する場合，下図のロックナットをゆるめクレビスピンを回し，クラッチロッド(ℓ_1)を短くし適正な遊び量を確保してください。

重　要

＊初回50時間，以降150時間ごとに遊びを点検・調整して頂くのが基本ですが，使用方法により更に早期に調整を必要とすることがあります。従って，クラッチペダルの遊びには十分注意を払い，遊びが基準値を下回った場合，そのまま使用せず必ず調整してください。

◆調整方法【M_1-100・115】

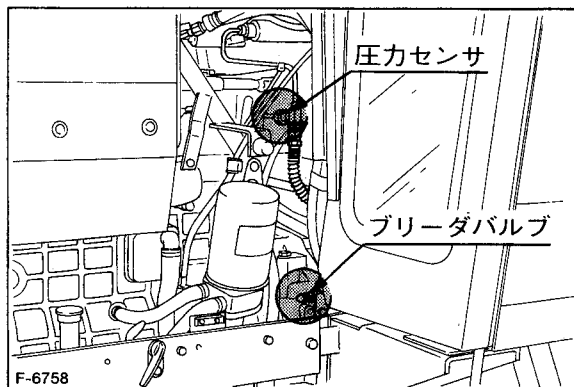
❶ロッドのロックナットをゆるめ，ロッドがピストンに突き当る位置を探します。

❷その後，ロッドを回して**"遊び"**をつくります。
ロッドを**1回転すると，ペダルで約7mm**動きます。

❸ロックナットを締付けます。

■油圧クラッチの空気抜き

【M1-100·115】

❶クラッチペダルを踏込み，クラッチハウジング左上部のブリーダバルブを開き，空気を流出させ，ブリーダバルブを閉じ，ペダルをいっぱい戻します。

❷この方法で流出するオイルの中からアワが消えるまで繰返します。

重　要

＊油圧クラッチのオイルは，油圧ブレーキオイルと兼用しています。オイル量の確認は，ブレーキオイルタンクで行なってください。

＊油圧系の故障又は空気抜きが不十分な場合，クラッチペダルを踏込んだ時，圧力センサが作動しエンジンが自動的に停止します。

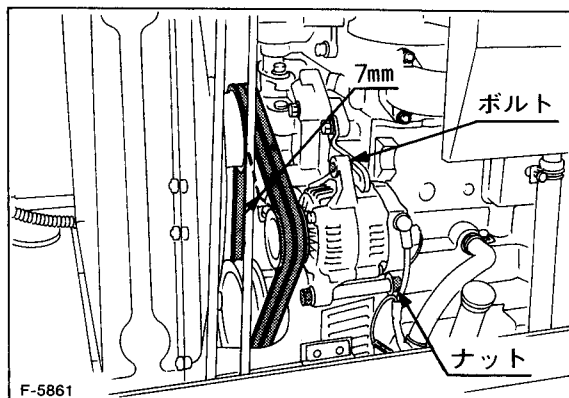
＊この様な時は，すぐ購入先へ御相談ください。

＊この場合，エンジンの再始動ができませんのでトラクタの一時的な移動が必要な場合は，クラッチマスターシリンダ下部の圧力センサのコード端子を抜けばエンジン始動が可能です。
ただし，停止は必ずエンジンキーストップで行なってください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約10kgの力で押えて，約7mmたわむ程度

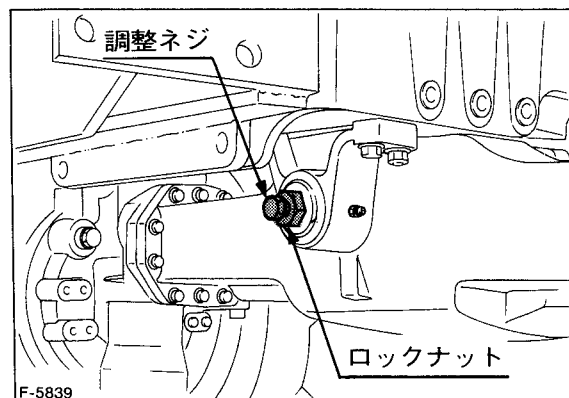
◆調整方法

ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。

■前部デフケース前後遊びの調整

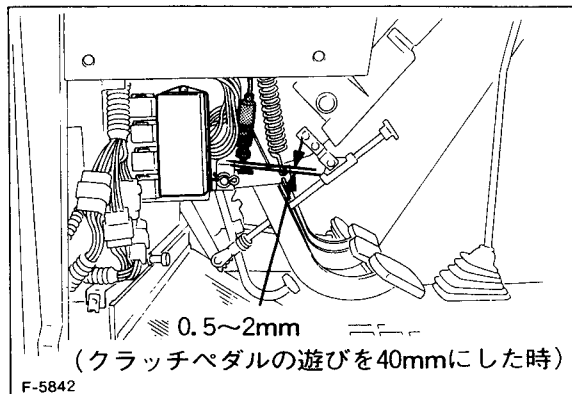
【4WD仕様】

前部デフケースの調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆調整方法

前輪タイヤ(両輪)を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ネジを締込み(締付けトルク200～300kgf·cm)，ロックナットで固定します。

■セーフティスイッチの点検・調整

セーフティスイッチの調整が適正でないと，スタータの始動不良やスイッチの損傷につながります。クラッチペダルの点検・調整と同時に，必ず調整してください。

F-5842

■油圧ブレーキの点検・調整

警　告

＊点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。

＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。
常に作動状態に注意してください。

＊調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず"５㎜以内"にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。
ブレーキが片ぎきになると傷害事故を引起こすおそれがあります。

遊び量	ペダルで７〜14㎜

(1)**"遊び量"**とは，マスタシリンダのピストンとロッドの**"すき間"**です。

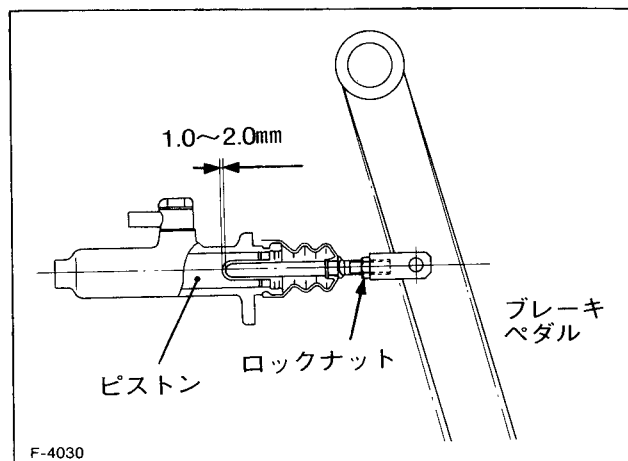
(2)**"踏込み量"**とは，ブレーキが効く位置までの距離です。

◆調整方法

❶ロッドのロックナットをゆるめ，ロッドがピストンに突き当る位置を探します。

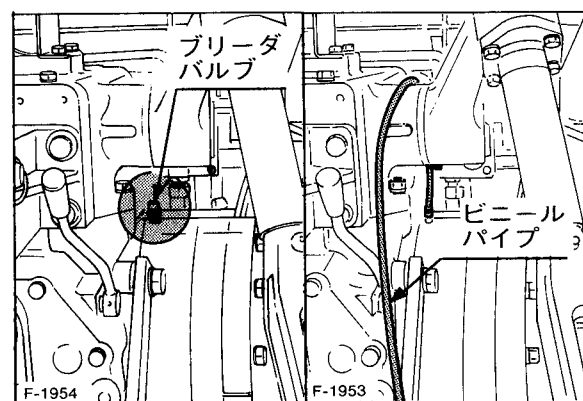
❷その後，ロッドを回して**"遊び"**をつくります。
ロッドを１**回転すると，**ペダルで約８㎜動きます。

❸ロックナットを締付けます。

F-4030

■ブレーキの空気抜き

❶ブレーキペダルを踏込み，後車軸箱上部のブリーダバルブを開き，空気を流出させ，ブリーダバルブを閉じ，ペダルをいっぱい戻します。

❷この方法で流出するブレーキオイルの中からアワが消えるまで繰返します。

F-1954　F-1953

■駐車ブレーキレバーの点検・調整

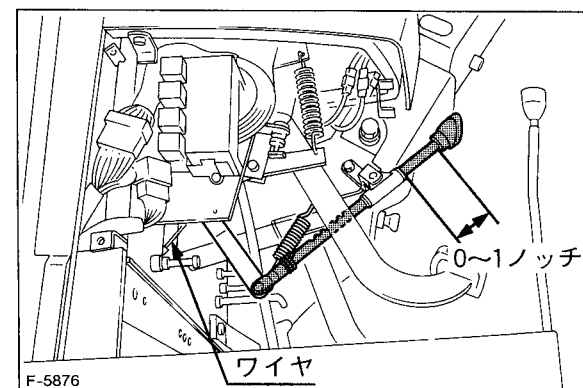
遊び量	0〜1ノッチ （引きずりの無い事）

◆調整方法

❶駐車ブレーキレバーを解除します。

❷ロックナットをゆるめ，ワイヤを調節します。

❸元どおりに組付け，遊び量を確認します。

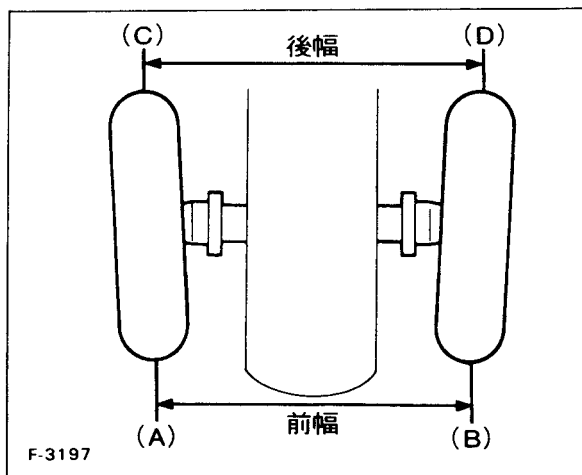
F-5876

■トーインの点検・調整

 注　意

＊トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆点検

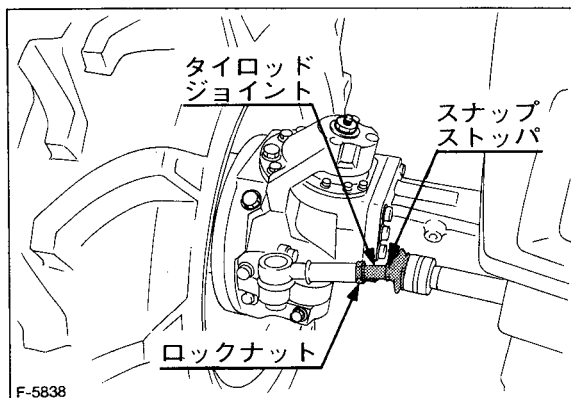
前輪の前幅Ⓐ Ⓑと後幅Ⓒ Ⓓを測り，Ⓒ Ⓓ－Ⓐ Ⓑ＝1～10㎜になっているかを調べます。

F-3197

◆調整

①スナップストッパを取外してロックナットをゆるめます。

②タイロッドジョイントのネジ部を回して調整します。

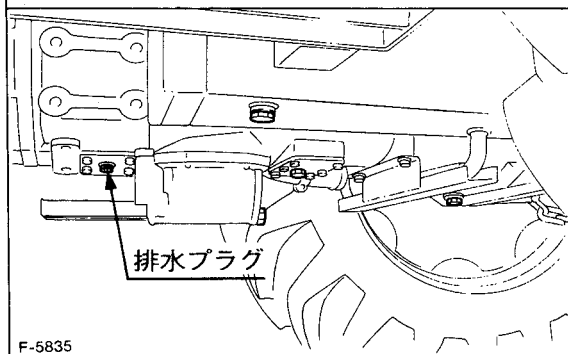
③調整後はナットを確実に締付けておいてください。

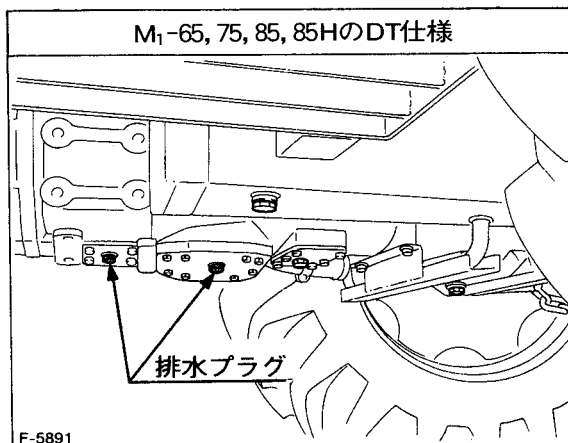
F-5838

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合,又は50時間使用ごとに,クラッチハウジング底の排水プラグを外して，水の浸入がないことを確認してください。

もし水が入っていれば、完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。

M_1-46, 55, 60, 100S, 100, 115全型式，
M_1-65, 75, 85B, D, ES仕様，85HB, D, DES仕様

F-5835

M_1-65, 75, 85, 85HのDT仕様

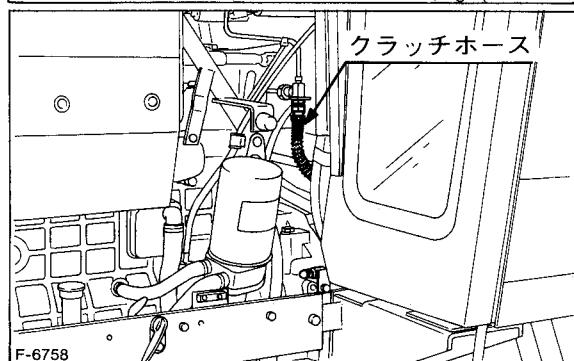
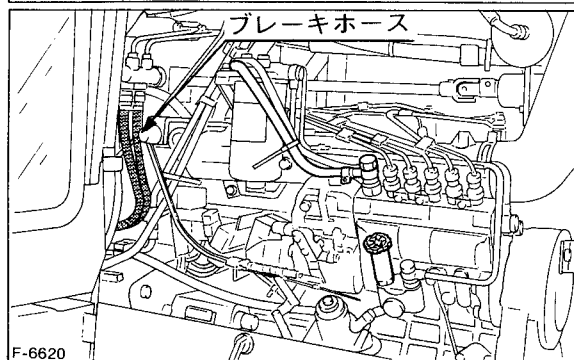
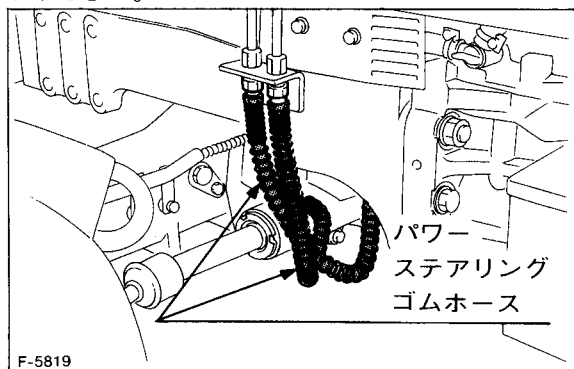
F-5891

パイプ系統について

 注　意

＊パイプ類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料パイプ及びラジエータ・パワーステアリング・ブレーキ・クラッチ〔M_1-100・115〕ホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付バンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

(1)パイプ類や締付バンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。

(2)パイプ類を交換する場合は，必ず空気抜きを行なってください。

重　要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

電気系統について

■バッテリ液の点検

 警　告

＊バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。
状況により医師の診断を受けてください。

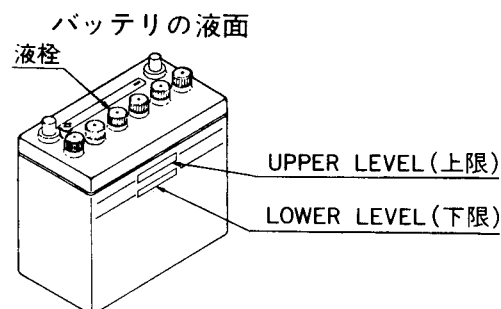
＊バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを“OFF”(切)位置にしておいてください。

＊バッテリを取外すときは，短絡(ショート)事故を防ぐため，最初にバッテリ⊖コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ⊖コードを接続してください。

＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。
バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

バッテリの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ります。液面が少ないときは蒸留水の補給が必要です。

◆バッテリの取付け、取外し

 注　意

＊バッテリを取外すときは、バッテリ⊖コードを最初に外し、次に⊕コードを外してください。

＊取付けるときは、必ず⊕側から取付けます。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。

重　要

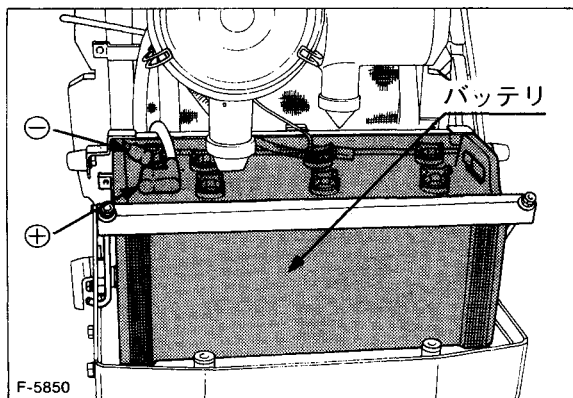
＊バッテリ液が不足するとバッテリを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。

＊新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式のバッテリを使用してください。

＊バッテリを外し、再度取付けるときにはバッテリの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。

◆補充電のしかた

＊バッテリを充電しているときは、タバコを吸ったり、火を近づけないでください。バッテリは充電中可燃ガスが発生し、引火爆発のおそれがあります。

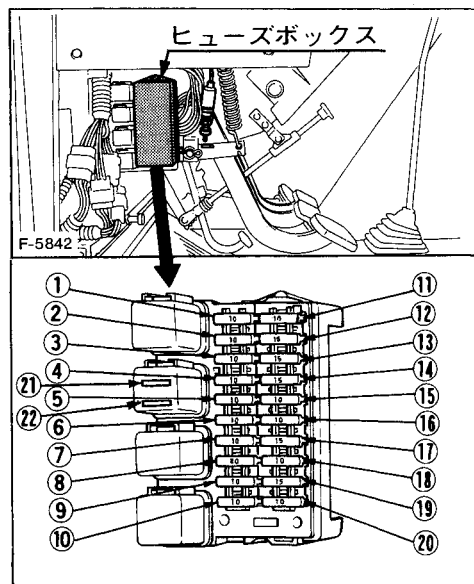
1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
2. バッテリコードを接続するときは、⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は、バッテリの⊕を充電器の⊕に、バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがわないように注意してください。

■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください
＊バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
(2)ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
(3)各スイッチが確実に作動すること。

■ヒューズの交換

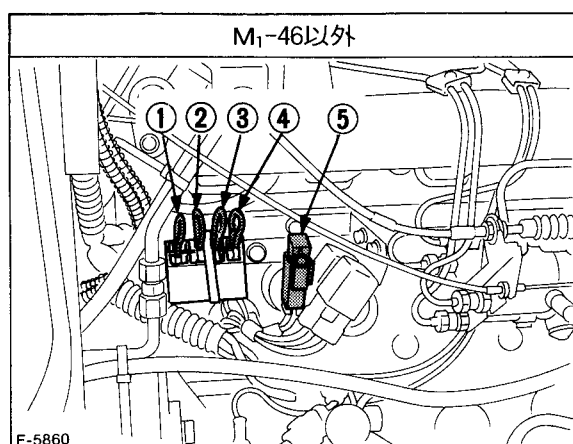
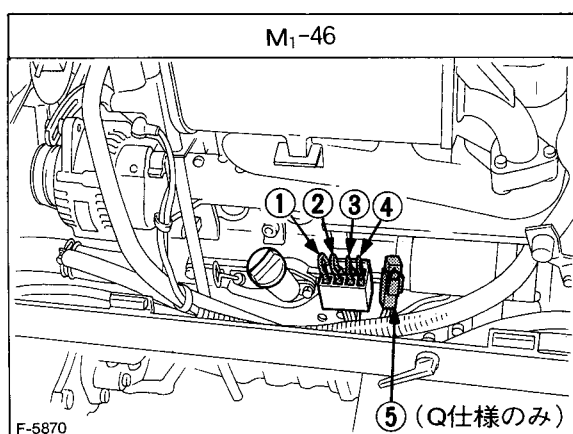
図のように22本のヒューズが入っています。(仕様により異る)ヒューズが切れた場合は，同容量のヒューズと交換してください。

◆保護回路

ヒューズ番号	容量(A)	保護回路
ヒューズ①	10	4WD,倍速,デュアルスピード
②	15	電源取出(ローダ)
③	10	パネルメータ,エンジンコントロール
④	10	ホーン,フラッシャ,バックランプ
⑤	10	エアコンスイッチ
⑥	20	エアコン,ファンコントロール
⑦	10	テール,ラジオ,照明車幅,時計照明,ACスイッチ照明
⑧	10	ハザードランプ
⑨	10	ヘッドランプ左
⑩	10	ヘッドランプ右
⑪	10	モンロオートドラフト
⑫	10	電子シャトル
⑬	15	電源タップ(1)
⑭	15	電源タップ(2)
⑮	10	電源タップ(3)
⑯	15	ワイパ
⑰	10	ラジオ,時計
⑱	15	シガライタ
⑲	15	作業灯前
⑳	15	作業灯後
㉑	15	フュエルコントロールリレー
㉒	15	リヤデフォッガー

■ヒュージブルリンク

■スローブローヒューズの交換

表のように2種類のヒュージブルリンクとスローブローヒューズを使用しています。(仕様により異る)切れた場合は，同容量のものと交換してください。

		M_1-46		M_1-46仕様以外			
		ROPS	Q	ROPS	Q	Q_1	Q_2
ヒュージブルリンク	①	赤(0.85)		赤(0.85)	—	—	赤(0.85)
	②	緑(0.5)		緑(0.5)	緑(0.5)	緑(0.5)	緑(0.5)
	③	緑(0.5)		緑(0.5)	緑(0.5)	緑(0.5)	緑(0.5)
	④	緑(0.5)		緑(0.5)	緑(0.5)	緑(0.5)	赤(0.85)
スローブローヒューズ	⑤	—	65A	—	65A	75A	75A

■ランプ類の交換

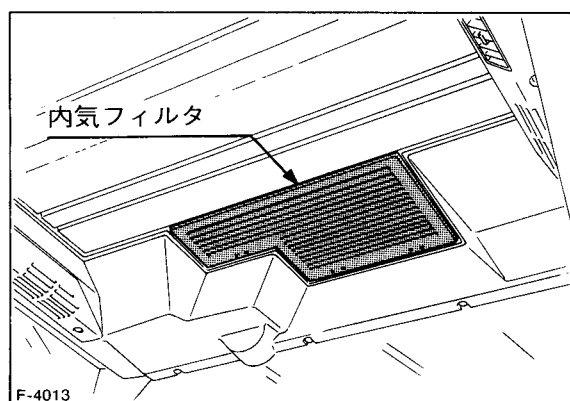
(1)ヘッドランプとリアーコンビネーションランプは，ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。

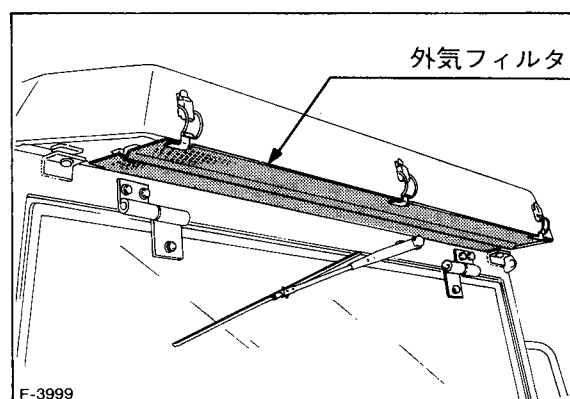
(2)その他のランプ
レンズを外し，バルブを交換します。

ヘッドランプ	60W/60W	尾灯 駐車灯(後)	8W
方向指示灯(前横)	21W	制動灯	23W
方向指示器(後)	23W	後退灯	15W
車幅灯 駐車灯	5W		
作業灯	55W		

キャブ装備品の点検・調整

■内気フィルタ【Q_1，Q_2仕様】

内気フィルタを下へ引いて取外して点検し，詰まっていれば清掃してください。

■外気フィルタ【Q_1，Q_2仕様】

カバーを外し，中の外気フィルタを取外して点検し，詰まっていれば清掃してください。

■フィルタの清掃

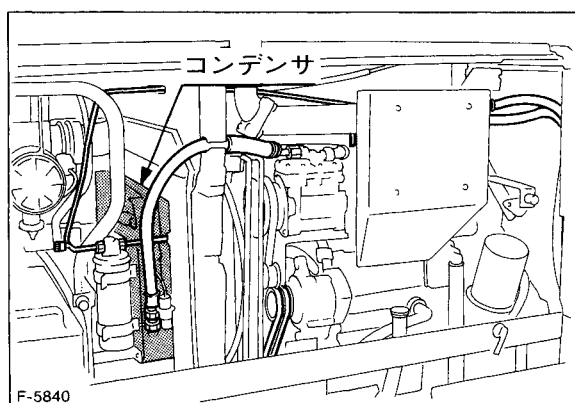
清掃方法は，フィルタの注意書にくわしく書いてありますので，参照してください。
乾いたちりやほこりの場合，フィルタを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。
(エアーの圧力は7 kg/cm²を越えないように注意し，ノズルとフィルタの間は適当にあけてください。)

重 要

＊フィルタは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。

■エアコン(クーラ)コンデンサの詰まり

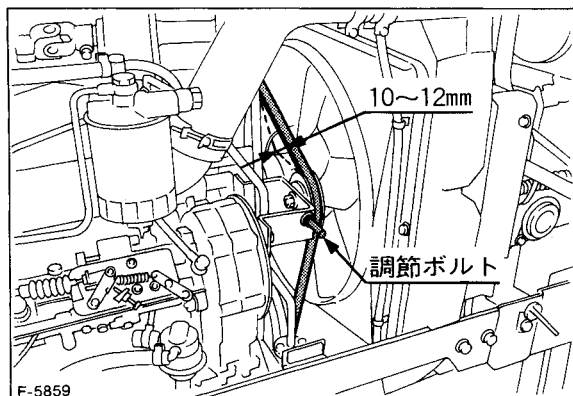
コンデンサフィンにゴミが詰まっていれば水道水などで取除いてください。

F-5840

■エアコン(クーラ)ベルトの張り

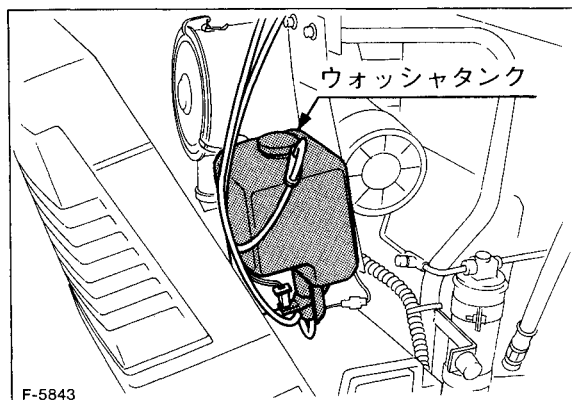
注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

プーリ間のベルトを指で押し点検します。10kgで10～12mmが適正です。

F-5859

■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。

F-5843

重 要

＊凍結を避けるため清水のみの使用はしないでください。

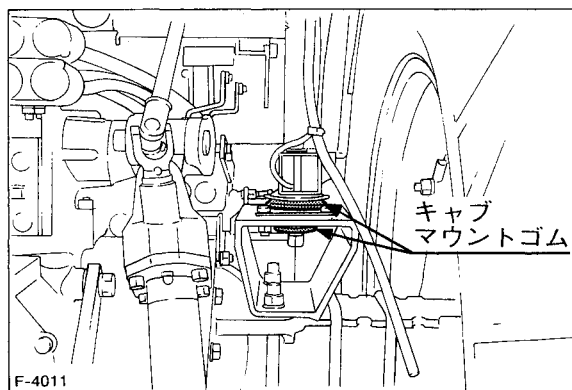
■エアコン配管，ホースの点検

■クーラ・ヒータ配管，ホースの点検

各配管及びホースの損傷を点検してください。

■キャブマウントゴムの点検

マウントゴムに亀裂，へたりがないか点検し，異常があれば交換してください。

F-4011

長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

(1)不具合箇所は整備しておいてください。

(2)エンジンオイルを交換し，2000回転/分以上で10～15分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。その後も１～２ヵ月ごとに同様に防錆運転をしてください。

(3)定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。

(4)各部のボルトやナットのゆるみを点検し，ゆるんでいれば締付けておいてください。

(5)車体のさびやすい部分には，グリースかエンジンオイルを塗っておいてください。

(6)ウエイトは取外しておいてください。

(7)タイヤの空気圧は標準より多いめにしておいてください。

(8)エンジンは，必ずエンジンストップつまみをいっぱい引張って止めておいてください。

(9)冷却水は抜いておいてください。

(10)作業機は，外すか地面に降ろしておいてください。

(11)バッテリは，トラクタから外して充電し，液面を正しく調整してから，日光の当らない乾燥したところに保管するか，バッテリのターミナルから配線を外してください。

(12)バッテリは，保管中でも自己放電しますから，１ヵ月に１回，補充電をしてください。

(13)格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがなく，雨のかからない乾燥した場所を選び，シートをかけるようにしましょう。

(14)戸外に置いておくときは，雨水がマフラから入らないようにしてください。

(15)燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，タンク内のサビの原因になります。

重　要

＊洗車するときは，エンジンを止めてから行なってください。
もしエンジンをかけて行なう場合は，特にエアークリーナの吸入口から，水が入らないように注意してください。エンジンに水が入ると，故障の原因になります。

＊洗車するときは，ヘッドランプの裏側(キャップ)に水がかからないように注意してください。キャップの通気孔からランプ内に水が入ることがあります。

 注　意

＊シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
火災を起こす原因になります。

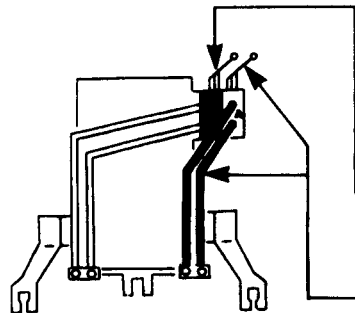
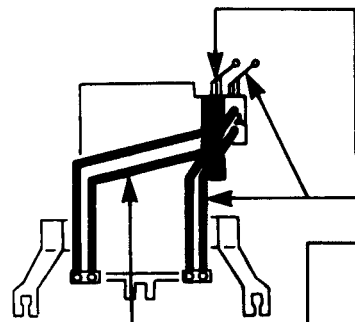
＊格納時は，必ず“OFF”の位置でキーを抜いておいてください。

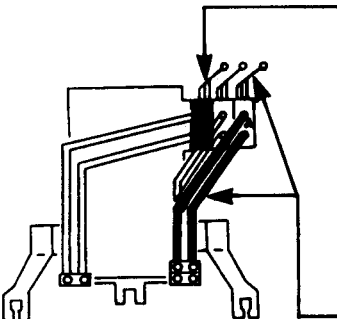
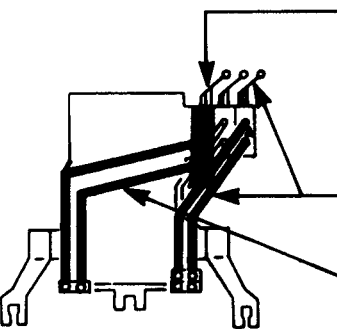
エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　　　象	原　　　　　因	処　　　　　置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	(1)燃料タンクを点検し，沈澱している不純物や水分を除く。 (2)燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	(1)パイププラグ・袋ナット及び締付バンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 (2)空気抜きをする。(65ページ参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	(1)ラジエータに熱湯をそそぐ。 (2)気温によってオイルの使い分けをする。(冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	(1)バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	(1)燃料を補給する。 (2)燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
	(2)エアークリーナの目詰まり。	(1)エレメントを清掃する。
	(3)フィードポンプ入口※のフィルタの目詰まり。(M_1-100，M_1-115) ※M_1-100Sはセディメンタ出口	(1)フィードポンプ入口※のアイカンツギテボルト内にあるフィルタを外し，ゴミの詰まりがないか点検する。 ※M_1-100Sはセディメンタ出口
突然停止した場合	(1)燃料不足	(1)燃料を補給する。 (2)燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
排気色が悪い場合	(1)燃料が悪い。	(1)良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	(1)正規のオイル量にする。
水温計の指針がレッドゾーンを示すとき	(1)冷却水が100℃以上になったため。	(1)冷却水の量(不足)及び水もれの点検 (2)ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 (3)ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない	(1)前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終っている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部にしめりが残っている。 (2)ノズル不良 (3)燃料不良	(1)負荷をかけてマフラを十分に加熱する。 冷機時アイドリング運転の繰返し，及び長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。 (2)ノズルの点検 (3)良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，お買いあげいただいた購入先にご相談ください。

付　表

アタッチメント・部品一覧表

分類	品名	品番	適応機種								備考
			M_1-46	M_1-55 M_1-60	M_1-65	M_1-75	M_1-85	M_1-85H	M_1-100S	M_1-100 115	
ウエイト	フロントウエイトアッシ	99881-1200-3	○	○	○	○	○	○	○	○	取付け台 ウエイト25kg×4枚含む ボルト4枚用，6枚用
		33740-1200-2				○	○	○	○	○	取付け台 ウエイト45kg×4枚含む ボルト4枚用
	前部ウエイト取付け台アッシ	99881-1700-3	○	○	○	○	○	○	○	○	取付け台ボルト含む
	前部ウエイト単体	99651-1211-0	○	○	○	○	○	○	○	○	25kg
	ボルト(ゼンブ　ウエイト)	35452-2181-0	○	○	○	○	○	○	○	○	(ウエイト8枚用)
	後輪ウエイトアッシ (板金ディスク用)	99881-1500-0	○	○	○	○	○	○			ウエイト50kg×4枚 取付けボルト
	後輪ウエイトアッシ (鋳物ディスク用)	99871-1500-0				○	○	○	○	○	
	後輪ウエイト単体	99881-1511-0	○	○	○	○	○	○	○	○	50kg
補助車輪	折りたたみストレーク	99882-2300-0	○	○							12.4－32
		99892-2300-0			○	○					12.4－36
		99862-2300-0					○	○			13.9－36
	反転ストレーク	99886-2300-0	○	○							12.4－32
		99696-2300-0			○	○					12.4－36
		99866-2300-0					○	○			13.9－36
その他	トレーラ用ハーネスアッシ(メス側)	33740-9743-2	○	○	○	○	○	○	○	○	トレーラ側オスカプラは 33740-9751-0
	作業灯アッシ	33740-9760-0	○	○	○	○	○		○		ROPS仕様
		33780-9760-0	○	○	○	○	○			○	Q仕様
	プレクリーナキット	36910-9775-0				○	○	○			
		35880-9775-0							○		
	クリープキット	33660-9727-0	○	○	○						
		33740-9727-0				○	○				
		33758-9727-0						○	○		
		33860-9727-0								○	
	アシストシリンダキット	33550-9791-0	○								ROPS，Q仕様
		33660-9791-0		○	○						ROPS，Q，Q_1，Q_2仕様
		33740-9791-0				○	○	○			ROPS，Q，Q_1，Q_2仕様
		33860-9791-0							○	○	
	モンローキット	33660-9496-0	○	○	○						
		33700-9496-0				○					
		33740-9496-0					○	○	○		
	ラジオキット	33740-4630-2	○	○	○	○	○		○		ROPS仕様
	フロントウインドキット	33740-4600-0	○	○	○	○	○		○		ROPS仕様
	スペシャルキット	33650-9771-0		○	○	○	○				スペシャル仕様のみ
	├ラジオキット	33650-9772-0		○	○	○	○				スペシャル仕様のみ
	├作業灯キット	33650-9773-0		○	○	○	○				スペシャル仕様のみ
	└ワイパキット(リヤ)	33650-9774-0		○	○	○	○				スペシャル仕様のみ
	フェンダキット(フロント)	33890-9775-0							○	○	
	メカオートキット	33650-9250-0		○							スペシャル仕様のみ
	メカオートキット	33670-9250-0			○						スペシャル仕様のみ

補助コントロールバルブの追加と必要部品

(1) 2連装備にする場合

	適応形式				
	M_1-46·55·60·65	M_1-75·85S	M_1-85	M_1-85H·100S	M_1-100·115
単動バルブ	36919-8231-0				
複動バルブ	99883-9311-0				
複動セルフキャンセル付デテントバルブ	35820-8254-0				
補助コン操作レバー2アッシ（2連目用の配管を含む）	33660-9711-0		33740-9711-0	33758-9711-0	33860-9711-0

※フローティングバルブを取付ける場合

フローティングバルブ	99861-2180-0				
2連目用レバーアッシ	33660-9711-0		33740-9711-0	33758-9711-0	33860-9711-0
フローティングバルブ用配管	33660-9713-0		36719-9713-0		

(2) 2連装備から3連装備にする場合

	M_1-46·55·60·65	M_1-75·85S	M_1-85	M_1-85H·100S	M_1-100·115
単動バルブ	36919-8231-0				
複動バルブ	99883-9311-0				
複動セルフキャンセル付デテントバルブ	35820-8254-0				
補助コン操作レバー3アッシ（3連目用の配管を含む）	33660-9712-0	33740-9712-0		33758-9712-0	33860-9712-0

※フローティングバルブを取付ける場合

フローティングバルブ	99861-2180-0				
補助コン操作レバー3アッシ	33660-9712-0	33740-9712-0		33758-9712-0	33860-9712-0
フローティングバルブ用配管	33660-9713-0		36719-9713-0		

補　足

＊モンロー付の場合，補助コントロールバルブの3連装備はできません。また，モンロー付で補助コントロールバルブを2連装備する場合の，レバーアッシは，補助コン操作レバー2アッシではなく，レバー3アッシを使用してください。

■補助コントロールバルブの概要（オプション品）

(1)単動バルブ，複動バルブ

補助コントロールレバーを**“上げ”**または**“下げ”**に操作し，レバーから手を放すと**“中立”**に戻ります。

(2)セルフキャンセル付デテントバルブ（複動バルブ）

補助コントロールレバーを**“上げ”**または**“下げ”**に操作すると，そのレバーの位置が保持され，作業機が定位置にくると自動的にレバーが**“中立”**に戻ります。

後方を気にしなくてもよいのでハンドル操作に集中でき，リバーシブルプラウ等に効果を発揮します。

※作業機の回路圧が150kg/㎠になるまでレバーは保持され，それ以上圧力が上昇すると“中立”に戻ります。

(3)フローティングバルブ

このバルブは複動バルブで，**“下げ”**さらに**“フロートポジション”**があるバルブです。

補助コントロールレバーを**“フロートポジション”**に操作すると，レバーの位置が保持され，作業機のシリンダピストンは外部からの負荷によって自由に伸縮します。

■補助コントロールチェックバルブキット（オプション品）

補助コントロールバルブ使用時，作業機側の圧力を確実に保持する必要がある場合は，下記補助コントロールチェックバルブキットがありますのでご利用ください。

部品名称		品番	適応機種		
			M_1-46・55・60・65	M_1-75・85・85H	M_1-100S・100・115
チェックバルブ取付け台キット		33860-9380-0	○	○	○
チェックバルブ配管キット	1連用	33860-9381-0	○	○	○
	2連用	33860-9382-0			○
		33740-9382-0	○	○	
	3連用	33860-9383-0			○
		33740-9383-0		○	

(1)本キットは補助コントロールバルブが単動及びフローティングの場合は使用できません。

必ず複動状態で使用してください。

また，単複切換えバルブの場合は複動にして使用してください。

(2)M_1-46～65は3連用は取付け不可能です。

主要諸元(標準仕様)

型		式	M1-46DT	M1-55DT	M1-60DT	M1-65DT
駆動方式			4輪駆動			
エンジン	名称		クボタF2402(-DI-1)	クボタD3202	クボタD3502	
エンジン	形式		水冷4サイクル5気筒立形ディーゼル	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル		
エンジン	総行程容積(cc)		2437	3247	3499	
エンジン	シリンダ内径×行程(mm)		87×82	105×125	109×125	
エンジン	最大出力(馬力/回転毎分)		46/2600	55/2400	60/2400	65/2400
エンジン	最大トルク(kg·m/回転毎分)		16.3/1600	21.1/1200	22.9/1200	25.1/1200
エンジン	トルクライズ(%)		28	29		
エンジン	始動方式		セルモータ式			
エンジン	使用燃料		ディーゼル軽油			
エンジン	燃料タンク容量(ℓ)		60	80		
エンジン	エンジンオイル容量(ℓ)		10.5	13		
エンジン	冷却水容量(ℓ)		8	11.5		
車両寸法	全長(mm)		3570			3670
車両寸法	全幅(mm)		1760			
車両寸法	全高(mm)		2425	2475	2480	2520
車両寸法	軸距(mm)		1970	2015		2115
車両寸法	輪距	前輪(mm)	1360, 1400(2段) (1220～1400オプション)	1360, 1400(2段) (1220～1400オプション)		1210～1400 (4段)
車両寸法	輪距	後輪(mm)	1220～1920(8段)			
車両寸法	最低地上高(mm) (クロスメンバ)		340	355		405
重量(kg)			2250	2450	2770	2580
走行装置	タイヤサイズ(標準)	前輪	8.3－20－6PR	8.3－22－6PR		8.3－24－6PR
走行装置	タイヤサイズ(標準)	後輪	12.4－28－6PR	12.4－32－6PR	12.4－32－6PR(ハイラグ)	12.4－36－6PR
走行装置	クラッチ方式		乾式単板シングル(PTO油圧湿式)			
走行装置	かじ取り方式		全油圧形パワーステアリング			
走行装置	制動装置		二系統左右独立,湿式ディスク油圧式			
走行装置	差動方式		かさ歯車式(デフロック付)			
走行装置	変速方式		主変速：シンクロメッシュ　副変速：コンスタントメッシュ			
変速段数(段)			前進12　後進12		前進18　後進18	前進12　後進12
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)			2.9	3.0		
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール,ドラフトコントロール,ミックスコントロール			
作業機昇降装置	ポンプ容量(ℓ/分)		35			
作業機昇降装置	装着方式		JIS Ⅰ,Ⅱ形			
作業機昇降装置	最大持上げ力(kg)		2000(アシストシリンダ付2500)(リフトロッド中間点ロアリンク先端での全ストローク) 2000(アシストシリンダ付2500)(リフトロッド最短ロアリンク先端での全ストローク)			
作業機昇降装置	けん引装置		高さと方向を調整できるスイングドローバ			
PTO軸	軸寸法		JIS 35			
PTO軸	ライブPTO	回転方向	右回転			
PTO軸	ライブPTO	PTO標準回転速度(回転/分) 1段	540(エンジン2194) 640(エンジン2600)	540(エンジン2016) 643(エンジン2400)		
PTO軸	ライブPTO	PTO標準回転速度(回転/分) 2段	1000(エンジン2521) 1031(エンジン2600)	1000(エンジン2381) 1008(エンジン2400)	―― ――	1000(エンジン2381) 1008(エンジン2400)
PTO軸	グランドPTO	回転方向	右回転			
PTO軸	グランドPTO	PTO回転速度(トラクタ走行1mにつき) 1段	1.75回転 (タイヤ12.4－28)	1.58回転 (タイヤ12.4－32)		1.47回転 (タイヤ12.4－36)
PTO軸	グランドPTO	PTO回転速度(トラクタ走行1mにつき) 2段	2.83回転 (タイヤ12.4－28)	2.48回転 (タイヤ12.4－32)	――	2.31回転 (タイヤ12.4－36)
安全フレーム			4柱式			

型式	M1-75DT	M1-75AT	M1-85DT	M1-85HDT	M1-100SDT	M1-100DT	M1-115DT
駆動方式	4輪駆動						
エンジン 名称	クボタV4302		クボタV4702		クボタV4702-T(ターボ)	クボタF5402	クボタF5802
エンジン 形式	水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル					水冷4サイクル5気筒立形ディーゼル	
エンジン 総行程容積(cc)	4329		4665			5411	5832
エンジン シリンダ内径×行程(mm)	105×125		109×125			105×125	109×125
エンジン 最大出力(馬力/回転毎分)	75/2400		85/2400		100/2400	100/2400	115/2400
エンジン 最大トルク(kg・m/回転毎分)	28.6/1200		32.5/1200		37.7/1400	37.5/1200	43.1/1200
エンジン トルクライズ(%)	28				26.2	25.8	26.5
エンジン 始動方式	セルモータ式						
エンジン 使用燃料	ディーゼル軽油						
エンジン 燃料タンク容量(ℓ)	105	85	105		120	150	
エンジン エンジンオイル容量(ℓ)	16.3					20.8	
エンジン 冷却水容量(ℓ)	14.5				15	14.4	14.9
車両寸法 全長(mm)	3840		3865	4130	4185	4210	4355
車両寸法 全幅(mm)	1760		1890	1890	1980	2050	2095
車両寸法 全高(mm)	2520		2540	2570	2600	2690	2715
車両寸法 軸距(mm)	2240		2300	2565		2565	2690
車両寸法 輪距 前輪(mm)	1210～1400(4段)	1220～1460(5段) ATストローク240	1320～1510(4段)		1640, 1740(2段)		
車両寸法 輪距 後輪(mm)	1220～1920(8段)	1270～1920(7段) 〈1270～1520ATのみのトレッド〉 ATストローク250	1320～1920(7段)		1510～1990(5段)	(1480)1550～2160(7段)	
車両寸法 最低地上高(mm)(クロスメンバ)	405		420		450	555	570
重量(kg)	2950	3250	2980	3500	3480	3950	4130
走行装置 タイヤサイズ(標準) 前輪	9.5－24－6PR				12.4-24-6PR	13.6-24-6PR	14.9-24-6PR
走行装置 タイヤサイズ(標準) 後輪	12.4-36-6PR	12.4-38-6PR	13.9－36－6PR		16.9-34-6PR	16.9-38-8PR※	18.4-38-8PR※
走行装置 クラッチ方式	乾式単板シングル(PTO油圧湿式)						
走行装置 かじ取り方式	全油圧形パワーステアリング						
走行装置 制動装置	二系統左右独立，湿式ディスク油圧式						
走行装置 差動方式	かさ歯車式(デフロック付)						
走行装置 変速方式	主変速：シンクロメッシュ　副変速：コンスタントメッシュ						
変速段数(段)	前進12　後進12				前進24　後進24	前進12　後進12	
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)	3.1			3.6			3.8
作業機昇降装置 制御方式	ポジションコントロール，ドラフトコントロール，ミックスコントロール						
作業機昇降装置 ポンプ容量(ℓ/分)	41.5						
作業機昇降装置 装着方式	JIS Ⅰ，Ⅱ形	JIS Ⅱ形	JIS Ⅰ，Ⅱ形		JIS Ⅱ形		
作業機昇降装置 最大持上げ力(kg)	2600(アシストシリンダ付3300)(リフトロッド中間点 ロアリンク先端での全ストローク) 2800(アシストシリンダ付3500)(リフトロッド最短 ロアリンク先端での全ストローク)				3700(リフトロッド中間点 ロアリンク先端での全ストローク) (ダブルアシストシリンダ付：4500)		
作業機昇降装置 けん引装置	高さと方向を調整できるスイングドローバ						
PTO軸 軸寸法	JIS 35						
PTO軸 ライブPTO 回転方向	右回転						
PTO軸 ライブPTO PTO標準回転速度(回転/分) 1段	540(エンジン2035) 637(エンジン2400)						
PTO軸 ライブPTO PTO標準回転速度(回転/分) 2段	(M1-75ATはなし) 1000(エンジン2389) 1005(エンジン2400)						
PTO軸 グランドPTO 回転方向	右回転						
PTO軸 グランドPTO PTO回転速度(トラクタ走行1mにつき) 1段	1.55回転(タイヤ12.4-36)	——	1.51回転(タイヤ13.9－36)		1.43回転(タイヤ16.9-34)	1.30回転(タイヤ18.4-34)	1.25回転(タイヤ18.4-38)
PTO軸 グランドPTO PTO回転速度(トラクタ走行1mにつき) 2段	2.44回転(タイヤ12.4-36)	——	2.38回転(タイヤ13.9－36)		2.25回転(タイヤ16.9-34)	2.05回転(タイヤ18.4-34)	1.96回転(タイヤ18.4-38)
安全フレーム	4柱式	SQ_1キャブ標準	4柱式	Q_1,Q_2キャブ標準	4柱式	Q_2キャブ標準	

【注】※ M_1-100, 115は最大タイヤサイズ

〔 〕内はカスタムキャブ(Q)仕様

型式	M_1-55DTT1	M_1-55DTT1W	M_1-55DTT2	M_1-55DTTW	M_1-65DTT1	M_1-65DTT1W	M_1-65DTT2	M_1-65DTTW
駆動方式	4輪駆動							
エンジン 名称	クボタ D3202				クボタ D3502			
エンジン 形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル							
エンジン 総行程容積(cc)	3247				3499			
エンジン シリンダ内径×行程(mm)	105×125				109×125			
エンジン 最大出力(馬力/回転毎分)	55/2400				65/2400			
エンジン 最大トルク(kg·m/回転毎分)	21.1/1200				25.1/1200			
エンジン トルクライズ(%)	29							
エンジン 始動方式	セルモータ式							
エンジン 使用燃料	ディーゼル軽油							
エンジン 燃料タンク容量(ℓ)	80							
エンジン エンジンオイル容量(ℓ)	13							
エンジン 冷却水容量(ℓ)	11							
車両寸法 全長(mm)	3570				3670			
車両寸法 全幅(mm)	1680	2510	2130	2300	1680	2510	2240	2400
車両寸法 全高(mm)	2435		2360	2330	2430		2355	2325
車両寸法 軸距(mm)	2015				2115			
車両寸法 輪距 前輪(mm)	1400		1545		1400		1545	
車両寸法 輪距 後輪(mm)	1320～1920(7段)	1800	1490, 1650	1750	1320～1920(7段)	1800	1600, 1760	1850
車両寸法 最低地上高(mm)(クロスメンバ)	315		240	210	315		240	210
重量(kg)	2440	2740	2440[2570]	2555[2685]	2570	2870	2570[2700]	2685[2815]
走行装置 タイヤサイズ 前輪	9.5-18-6PR		29×12.00-15-4PR		9.5-18-6PR		29×12.00-15-4PR	
走行装置 タイヤサイズ 後輪	13.6-28-6PR		475/65 D20-4PR	355/80 D20-4PR	13.6-28-6PR		475/65 D20-4PR	355/80 D20-4PR
走行装置 クラッチ方式	乾式単板シングル(PTO油圧湿式)							
走行装置 かじ取り方式	全油圧形パワーステアリング							
走行装置 制動装置	二系統左右独立，湿式ディスク油圧式							
走行装置 差動方式	かさ歯車式(デフロック付)							
走行装置 変速方式	主変速：シンクロメッシュ，副変速：コンスタントメッシュ							
変速段数(段)	前進12,後進12							
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)	3.0							
作業機昇降装置 制御方式	ポジションコントロール,ドラフトコントロール,ミックスコントロール							
作業機昇降装置 ポンプ容量(ℓ/分)	35							
作業機昇降装置 装着方式	JIS Ⅰ,Ⅱ形							
作業機昇降装置 最大持上げ力(kg)	2000(アシストシリンダ付2500)(リフトロッド中間点 ロアリンク先端での全ストローク) 2000(アシストシリンダ付2500)(リフトロッド最短 ロアリンク先端での全ストローク)							
作業機昇降装置 けん引装置	高さと方向を調整できるスイングドローバ							
PTO軸 軸寸法	JIS 35							
PTO軸 ライブPTO 回転方向	右回転							
PTO軸 ライブPTO PTO標準回転速度(回転/分) 1段	540(エンジン2016),643(エンジン2400)							
PTO軸 ライブPTO PTO標準回転速度(回転/分) 2段	1000(エンジン2381),1008(エンジン2400)							
PTO軸 グランドPTO 回転方向	右回転							
PTO軸 グランドPTO PTO回転速度(トラクタ走行1mにつき) 1段	1.67回転		1.82回転	2.00回転	1.67回転		1.82回転	2.00回転
PTO軸 グランドPTO PTO回転速度(トラクタ走行1mにつき) 2段	2.62回転		2.85回転	3.14回転	2.62回転		2.85回転	3.14回転
安全フレーム	クボタ SF55(4柱式)				クボタ SF65(4柱式)			

■速度表

（km/時）

	副変速	主変速	M_1-46	M_1-55 M_1-60	M_1-65 デュアル変速		M_1-75，M_1-85，M_1-85H デュアル変速	
					Hi	Lo	Hi	Lo
前・後進	クリープ（オプション，M_1-60は標準）	1	0.21	0.23	0.24	0.18	0.24	0.18
		2	0.30	0.32	0.33	0.25	0.32	0.24
		3	0.36	0.43	0.47	0.35	0.45	0.34
		4	0.47	0.52	0.55	0.41	0.53	0.40
		5	0.65	0.72	0.73	0.55	0.70	0.52
		6	0.80	0.97	1.04	0.78	1.00	0.75
	L	1	1.2	1.3	1.4	1.0	1.4	1.0
		2	1.6	1.8	1.9	1.4	1.8	1.3
		3	2.0	2.4	2.6	1.9	2.5	1.9
		4	2.6	2.9	3.1	2.3	3.0	2.2
		5	3.6	4.0	4.1	3.1	3.9	2.9
		6	4.5	5.4	5.8	4.3	5.6	4.2
	H	1	6.1	6.7	7.1	5.3	6.9	5.2
		2	8.3	9.2	9.4	7.0	9.0	6.7
		3	10.3	12.5	13.4	10.0	12.9	9.6
		4	13.5	14.9	15.9	11.9	15.3	11.4
		5	18.5	20.4	20.9	15.6	20.1	15.0
		6	22.8	27.8	29.7	22.2	28.7	21.4
		6	27.4（エンジン最高回転時キングタイヤのとき）	31.8（エンジン最高回転時キングタイヤのとき）	33.4（エンジン最高回転時キングタイヤのとき）	25.0（エンジン最高回転時キングタイヤのとき）	34.0（エンジン最高回転時キングタイヤのとき）	25.4（エンジン最高回転時キングタイヤのとき）

（km/時）

	副変速	主変速	M_1-100S・100(18.4-34) デュアル変速		M_1-115(18.4-38) デュアル変速	
			Hi	Lo	Hi	Lo
前・後進	クリープ（オプション）	1	0.27	0.20	0.29	0.22
		2	0.36	0.25	0.38	0.27
		3	0.49	0.37	0.52	0.40
		4	0.60	0.44	0.64	0.47
		5	0.79	0.58	0.84	0.61
		6	1.1	0.81	1.1	0.87
	L	1	1.5	1.2	1.6	1.2
		2	2.0	1.4	2.1	1.5
		3	2.7	2.1	2.9	2.2
		4	3.3	2.5	3.6	2.6
		5	4.4	3.2	4.6	3.4
		6	6.0	4.6	6.4	4.8
	H	1	7.7	5.8	8.2	6.1
		2	10.0	7.5	10.8	8.0
		3	14.4	11.8	14.9	11.2
		4	17.1	12.8	18.3	13.6
		5	22.5	16.8	23.0	17.8
		6	31.0	23.1	32.9	24.6
		6	32.8（エンジン最高回転時キングタイヤのとき）	24.5（エンジン最高回転時キングタイヤのとき）	34.0（エンジン最高回転時キングタイヤのとき）	25.6（エンジン最高回転時キングタイヤのとき）

＊キャブ仕様の輪距（後輪）は，安全のため1400mm以上で使用してください。
1400mm未満で使用するときは，必ず後輪ウエイトを付加してください。

■速度表(ターフ仕様)

(km/時)

	副変速	主変速	M_1-55DTT1 M_1-55DTT1W	M_1-55DTT2 M_1-55DTTW	M_1-65DTT1 M_1-65DTT1W	M_1-65DTT2 M_1-65DTTW
前・後進	クリープ(オプション)	1	0.25	0.21	0.25	0.21
		2	0.35	0.29	0.33	0.28
		3	0.47	0.39	0.47	0.39
		4	0.56	0.47	0.56	0.47
		5	0.77	0.64	0.74	0.62
		6	1.05	0.88	1.05	0.88
	L	1	1.41	1.18	1.41	1.18
		2	1.93	1.61	1.86	1.55
		3	2.63	2.20	2.63	2.20
		4	3.14	2.62	3.13	2.62
		5	4.29	3.58	4.12	3.45
		6	5.84	4.88	5.84	4.88
	H	1	7.24	6.06	7.23	6.05
		2	9.90	8.28	9.52	7.96
		3	13.49	11.28	13.49	11.28
		4	16.08	13.44	16.06	13.43
		5	21.97	18.37	21.13	17.66
		6	29.94	25.03	29.94	25.03

標準付属品

品　　名	数量／台					備　　考	
	M_1-46 M_1-55 M_1-65	M_1-60	M_1-75	M_1-85 M_1-85H	M_1-100 M_1-115		
8－9　スパナ	1	—	1	1	1		
10－11　スパナ	1	—	1	1	1		
12－14　スパナ	1	—	1	1	1		
13－17　スパナ	1	—	1	1	1		
17－21　スパナ	1	—	1	1	1		
19－22　スパナ	1	—	1	1	1		
24－27　スパナ	1	—	1	1	1		
24－35　ボックス　スパナ	1	—	1	1	1		
300㎜　モンキー　レンチ	1	—	1	1	1		
ドライバ	1	—	1	1	1	＋，－差替え式	
プライヤ	1	—	1	1	1		
ハンマ	1	—	1	1	1		
ジャッキ　本体	1	—	1	1	1		
ジャッキ　ハンドル	1	—	1	1	1		
ジャッキ　ハンドル軸	1	—	1	1	1		
グリース　ガン	1	—	1	1	1		
エアーゲージ	1	—	1	1	1		
ヒュージブル　リンク(0.5)	1	1	1	1	1	キャブ・ROPS仕様	
ヒュージブル　リンク(0.85)	1	—	1	1	1	ROPS仕様	
スローブローヒューズ	1	1	1	1	1	キャブ仕様(M_1-46除く)	
ストッパ	2	2	2	—	—	前輪切れ角調整用	
カラー	—	—	—	2	2		
メインスイッチ　キー　アッシ	1	1	1	1	1	キー2コ	
取扱説明書	1	1	1	1	1		
サービスブック	1	1	1	1	1		
調整カラー　(22×28)	2	2	2	2	—	JIS 1 形用	ロアーリンク用
カラー	2	2	2	2	—	JIS 2 形用	
調整カラー　(19×25)	—	—	1	1	—	JIS 1 形用	トップリンク用
トップリンク後ピン	—	—	1	1	—	JIS 1 形用	
	1	1	—	—	—	JIS 2 形用	
セット　ピン	1	1	1	1	—		

オイル・グリース一覧表

■エンジンオイル　必ず下表の指定オイルを使ってください。

日本石油	クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30 ターボ付エンジンは D30スーパーCD又はD10W30スーパーCD
コスモ石油	
ジャパンエナジー	
昭和シェル石油	
富士興産	

■ミッションオイル　必ず下表の指定オイルを使ってください。

日本石油	クボタ純オイルUDT 又はスーパーUDT
コスモ石油	
ジャパンエナジー	
昭和シェル石油	
富士興産	

クボタ純オイルスーパーUDTは油圧駆動用としてすぐれたオイルです。
特に寒冷地は低温性能のよいクボタ純オイルスーパーUDTを使用してください。

■前部デフケース・前輪ケースオイル

下表以外のオイルを使用するときは，お求めの営業所又はスタンドにお聞きください。

日本石油	クボタ純オイルUDT 又はスーパーUDT
コスモ石油	
ジャパンエナジー	
昭和シェル石油	
富士興産	

■ブレーキオイル(M_1-46, 55, 60, 65, 75, 85, 85H, 100S)
ブレーキ・クラッチオイル(M_1-100, 115のみ)

日本石油	クボタ純ブレーキオイル　BP-32

又は

日本石油	クボタ純オイルUDT 又はスーパーUDT
コスモ石油	
ジャパンエナジー	
昭和シェル石油	
富士興産	

寒冷地は低温性能のよいクボタ純オイルスーパーUDTを使用してください。
クボタ指定のブレーキオイルは鉱物油系です。鉱物油系以外，特に市販の自動車用ブレーキオイルが誤って混入するとブレーキ，クラッチが作動不能となる恐れがありますので必ず指定のオイルを使用してください。

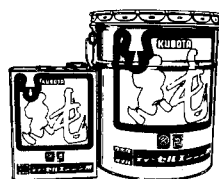
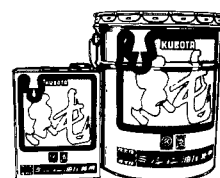
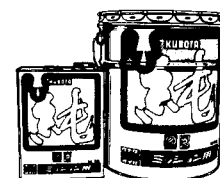
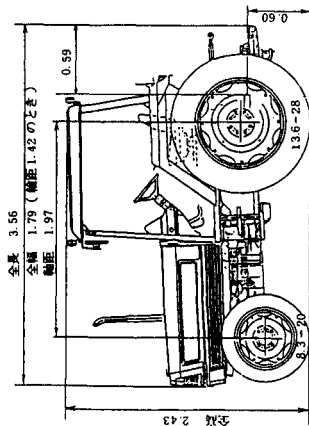
■グリース

メ　ー　カ	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日本石油	エピノックグリースAP No.2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEP No.2	ロードマスターNo.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEP No.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	シャーシーグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシーグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	シャーシーグリースNo.2	ホイールベアリングHDグリースNo.2
ゼネラル石油	シャーシーグリースNo.2	WBグリースNo.2
キグナス石油	シャーシーグリースNo.2	MPグリースNo.2

■エアコン

冷媒ガス	R134a
コンプレッサオイル	ND-OIL8

農用トラクター(乗用型)検査成績表

昭和63年12月27日
生物系特定産業技術研究推進機構

合格番号　88032　　型式名　クボタ M1−46DT
依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

I　主要諸元・構造

1. 機体の大きさ　寸法（m）・質量（kg）

全長 3.56
全幅 1.79（輪距1.42のとき）
軸距 1.97
0.59
全高 2.43
0.60
8.3−20
13.6−28
950　付加重錘無（合計 2388）　1438

2. 機　　関
   種類：水冷4サイクル5気筒ディーゼル
   呼称出力： 33.8 kW｛46 PS｝
   定格回転数： 2600 rpm
   シリンダ内径×行程： 87×82 mm
   総行程容積：2.437 l
   燃焼室形式：直接噴射式
   過給機の有無：無
3. 伝動装置
   主クラッチ形式：乾式単板
   主変速：6段
   副変速：2段
   前進：12段（1.2〜23.7 km／h）
   後進：12段（1.2〜23.8 km／h）
4. 主PTO
   規格：6スプライン直径35 mm
   回転数（機関定格のとき）： 640 / 1031 rpm
   PTOクラッチ形式：独立形
5. 作業機昇降装置
   形式：油圧式
   制御方式：ポジション及びドラフトコントロール
   油圧外部取出口：PT $\frac{1}{2}$，2個
   作業機装着装置：3点リンク1，2形
6. 輪　　距
   前輪：1.36〜1.40 m（2段階）
   後輪：1.32〜1.92 m（7段階）
   試験時：前輪 1.40 m，後輪 1.42 m
7. かじ取装置
   形式：全油圧式

II　検査成績

1. PTO性能（最大出力時）

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
31.8 kW｛43.2 PS｝	263 g/kW·h｛193g/PSh｝	630 rpm	28 %

図1　PTO性能曲線

2. けん引性能（コンクリート上）

速度段	けん引力	けん引出力	速　度
1 速	17.75 kN｛1810 kgf｝	5.50 kW｛7.48 PS｝	1.12 km/h
8 速	11.96 kN｛1220 kgf｝	26.5 kW｛36.0 PS｝	7.96 km/h
9 速	9.81 kN｛1000 kgf｝	26.5 kW｛36.0 PS｝	9.72 km/h

3. 作業機昇降装置性能

揚力（圧力	17.46 MPa｛178 kgf/cm²｝のとき）	
	下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
アシストシリンダ付	21.48 kN｛2190 kgf｝	18.00 kN｛1835 kgf｝
アシストシリンダ無	16.28 kN｛1660 kgf｝	13.63 kN｛1390 kgf｝

ポンプ性能（最大出力時）

流　量	圧　力	出　力
33.3 l/min	18.34 MPa｛187 kgf/cm²｝	10.1 kW｛13.8 PS｝

4. 騒音（運転者の耳もと）：92 dB (A)
5. 静的横転倒角：41°
6. 最小旋回半径（ブレーキ使用時）：2.81 m
7. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

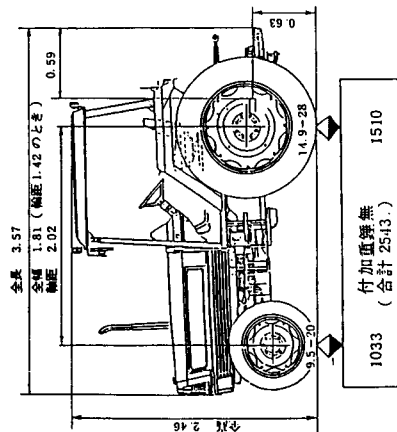
III　付　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（昭和62年3月5日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター(乗用型)検査成績表

昭和[illegible]年12月27日
生物系特定産業技術研究推進機構
4輪駆動

合格番号　88033

型式名　クボタ M1－55DT
依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

I　主要諸元・構造

1. 機体の大きさ　寸法（m）・質量（kg）

2. 機　関
   - 種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル
   - 呼称出力：40.5 kW｛55 PS｝
   - 定格回転数：2400 rpm
   - シリンダ内径×行程：105×125 mm
   - 総行程容積：3.247 l
   - 燃焼室形式：直接噴射式
   - 過給機の有無：無
3. 伝動装置
   - 主クラッチ形式：乾式単板
   - 主変速：6段
   - 副変速：2段
   - 前進：12段（1.3～28.0 km／h）
   - 後進：12段（1.3～28.2 km／h）
4. 主PTO
   - 規格：6スプライン直径35 mm
   - 回転数（機関定格のとき）：643 / 1008 rpm
   - PTOクラッチ形式：独立形
5. 作業機昇降装置
   - 形式：油圧式
   - 制御方式：ポジション及びドラフトコントロール
   - 油圧外部取出口：PT 1/2，2個
   - 作業機装着装置：3点リンク1,2形
6. 輪　距
   - 前輪：1.36～1.40 m（2段階）
   - 後輪：1.32～1.92 m（7段階）
   - 試験時：前輪 1.40 m，後輪 1.42 m
7. かじ取装置
   - 形式：全油圧式

II　検査成績

1. PTO性能（最大出力時）

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
39.4 kW｛53.6 PS｝	278 g/kW·h｛204 g/PSh｝	638 rpm	25 %

図1　PTO性能曲線

2. けん引性能（コンクリート上）

速度段	けん引力	けん引出力	速　度
1 速	20.20 kN｛2060 kgf｝	6.66 kW｛9.06 PS｝	1.19 km/h
7 速	18.44 kN｛1880 kgf｝	30.4 kW｛41.1 PS｝	5.94 km/h
8 速	13.53 kN｛1380 kgf｝	31.7 kW｛43.1 PS｝	8.42 km/h

3. 作業機昇降装置性能

揚力（圧力 17.46 MPa｛178 kgf/cm²｝のとき）	下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
アシストシリンダ付	21.48 kN｛2190 kgf｝	18.00 kN｛1835 kgf｝
アシストシリンダ無	16.28 kN｛1660 kgf｝	13.63 kN｛1390 kgf｝

ポンプ性能（最大出力時）

流　量	圧　力	出　力
33.3 l/min	18.34 MPa｛187 kgf/cm²｝	10.1 kW｛13.8 PS｝

4. 騒音（運転者の耳もと）：94 dB（A）
5. 静的横転倒角：40°
6. 最小旋回半径（ブレーキ使用時）：2.90 m
7. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

III　付　記

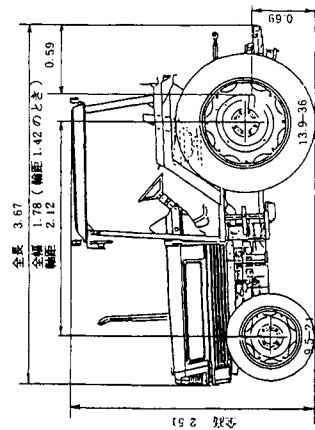
本機は，高性能農業機械導入基本方針（昭和62年3月5日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター(乗用型)検査成績表

合格番号　88034　　型 式 名　クボタ Ｍ１－65DT
依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　主要諸元・構造

1. 機体の大きさ　寸法（m）・質量（kg）

全長 3.67
全幅 1.78（輪距 1.42 のとき）
軸距 2.12
0.59
全高 2.51
9.5－24
13.9－36
0.69

1130	付加重錘無（合計 2767）	1637

2. 機　　関
   種類：水冷４サイクル３気筒ディーゼル
   呼称出力：47.8 kW｛65 PS｝
   定格回転数：2400 rpm
   シリンダ内径×行程：109×125 mm
   総行程容積：3.499 l
   燃焼室形式：直接噴射式
   過給機の有無：無
3. 伝動装置
   主クラッチ形式：乾式単板
   主変速：６段
   副変速：２段
   前進：12段（1.4～30.2 km／h）
   後進：12段（1.4～29.8 km／h）
4. 主ＰＴＯ
   規格：６スプライン直径35 mm
   回転数（機関定格のとき）：643 / 1008 rpm
   ＰＴＯクラッチ形式：独立形
5. 作業機昇降装置
   形式：油圧式
   制御方式：ポジション及びドラフトコントロール
   油圧外部取出口：PT ½，２個
   作業機装着装置：３点リンク１，２形
6. 輪　　距
   前輪：1.33～1.52 m（４段階）
   後輪：1.32～1.92 m（７段階）
   試験時：前輪 1.42 m，後輪 1.42 m
7. かじ取装置
   形式：全油圧式

Ⅱ　検査成績

1. ＰＴＯ性能（最大出力時）

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
45.2 kW {61.5 PS}	272 g/kW·h {200 g/PSh}	638 rpm	20 %

図１　ＰＴＯ性能曲線

2. けん引性能（コンクリート上）

速度段	けん引力	けん引出力	速　度
１速	23.93 kN｛2440 kgf｝	8.90 kW｛12.1 PS｝	1.33 km/h
７速	19.12 kN｛1950 kgf｝	35.2 kW｛47.8 PS｝	6.62 km/h
８速	14.32 kN｛1460 kgf｝	35.8 kW｛48.7 PS｝	9.00 km/h

3. 作業機昇降装置性能

揚力（圧力 17.46 MPa｛178 kgf/cm²｝のとき）	下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
アシストシリンダ付	21.48 kN｛2190 kgf｝	18.00 kN｛1835 kgf｝
アシストシリンダ無	16.28 kN｛1660 kgf｝	13.63 kN｛1390 kgf｝

ポンプ性能（最大出力時）

流　量	圧　力	出　力
33.3 l/min	18.34 MPa｛187 kgf/cm²｝	10.1 kW｛13.8 PS｝

4. 騒音（運転者の耳もと）：95 dB (A)
5. 静的横転倒角：39°
6. 最小旋回半径（ブレーキ使用時）：3.15 m
7. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

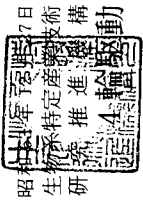
Ⅲ　付　　記

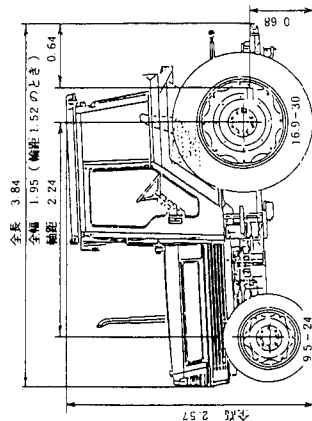
本機は，高性能農業機械導入基本方針（昭和62年３月５日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第Ⅱ類に属するものである。

農用トラクター(乗用型)検査成績表

昭和63年[illegible]7日
生物系特定産業技術
研究推進機構

合格番号　88035

型式名　クボタ M1－75DT　4輪駆動
依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ　寸法(m)・質量(kg)

2. 機　関
   種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
   呼称出力：55.2 kW {75 PS}
   定格回転数：2400 rpm
   シリンダ内径×行程：105×125 mm
   総行程容積：4.329 l
   燃焼室形式：直接噴射式
   過給機の有無：無
3. 伝動装置
   主クラッチ形式：乾式単板
   主変速：6段
   副変速：2段
   前進：12段(1.4～28.6 km/h)
   後進：12段(1.4～29.0 km/h)
4. 主PTO
   規格：6スプライン直径35 mm
   回転数(機関定格のとき)：637 / 1005 rpm
   PTOクラッチ形式：独立形
5. 作業機昇降装置
   形式：油圧式
   制御方式：ポジション及びドラフトコントロール
   油圧外部取出口：PT $\frac{1}{2}$，2個
   作業機装着装置：3点リンク1，2形
6. 輪　距
   前輪：1.33～1.52 m(4段階)
   後輪：1.42～1.92 m(6段階)
   試験時：前輪1.42 m，後輪1.52 m
7. かじ取装置
   形式：全油圧式

Ⅱ 検査成績

1. PTO性能(最大出力時)

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
52.4 kW {71.2 PS}	267 g/kW·h {196 g/PSh}	1000 rpm	20 %

図1　PTO性能曲線

2. けん引性能(コンクリート上)

速度段	けん引力	けん引出力	速　度
1速	25.30 kN {2580 kgf}	8.60 kW {11.7 PS}	1.22 km/h
7速	23.14 kN {2360 kgf}	38.9 kW {52.9 PS}	6.05 km/h
8速	17.85 kN {1820 kgf}	41.6 kW {56.5 PS}	8.34 km/h

3. 作業機昇降装置性能

揚力(圧力 17.65 MPa {180 kgf/cm²} のとき)	下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
アシストシリンダ付	30.11 kN {3070 kgf}	25.79 kN {2630 kgf}
アシストシリンダ無	21.97 kN {2240 kgf}	20.84 kN {2125 kgf}

ポンプ性能(最大出力時)

流　量	圧　力	出　力
37.5 l/min	17.95 MPa {183 kgf/cm²}	11.3 kW {15.3 PS}

4. 騒音(運転者の耳もと)：79 dB(A)
5. 静的横転倒角：37°
6. 最小旋回半径(ブレーキ使用時)：3.14 m
7. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

Ⅲ 付　記

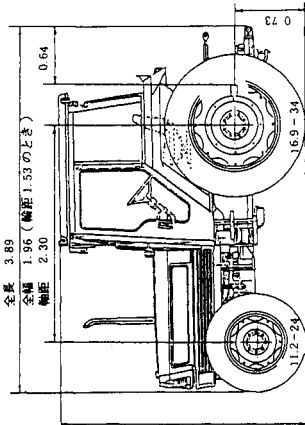
本機は，高性能農業機械導入基本方針(昭和62年3月5日農林水産大臣公表)に定められたトラクターの第Ⅱ類に属するものである。

農用トラクター(乗用型)検査成績表

昭和63年12月□7日
生物系特定産業技術研究推進機構

4輪駆動

合格番号　88036

型 式 名　クボタ M１－85DT
依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　主要諸元・構造

1. 機体の大きさ　寸法（m）・質量（kg）

2. 機　　関
   種類：水冷４サイクル４気筒ディーゼル
   呼称出力：62.5kW｛85 PS｝
   定格回転数：2400 rpm
   シリンダ内径×行程：109×125 mm
   総行程容積：4.665 l
   燃焼室形式：直接噴射式
   過給機の有無：無
3. 伝動装置
   主クラッチ形式：乾式単板
   主変速：６段
   副変速：２段
   前進：12段（1.4～30.6 km／h）
   後進：12段（1.5～31.0 km／h）
4. 主ＰＴＯ
   規格：６スプライン直径35 mm
   回転数（機関定格のとき）：637 / 1005 rpm
   ＰＴＯクラッチ形式：独立形
5. 作業機昇降装置
   形式：油圧式
   制御方式：ポジション及びドラフトコントロール
   油圧外部取出口：PT ½，２個
   作業機装着装置：３点リンク１，２形
6. 輪　　距
   前輪：1.32～1.51 m（４段階）
   後輪：1.40～2.01 m（６段階）
   試験時：前輪 1.51 m，後輪 1.53 m
7. かじ取装置
   形式：全油圧式

Ⅱ　検査成績

1. ＰＴＯ性能（最大出力時）

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
59.6 kW ｛81.0 PS｝	271g/kW·h ｛199g/PSh｝	996 rpm	19 %

図１　ＰＴＯ性能曲線

2. けん引性能（コンクリート上）

速度段	けん引力	けん引出力	速　度
1 速	30.89 kN ｛3150 kgf｝	11.1 kW ｛15.1 PS｝	1.30 km/h
7 速	25.79 kN ｛2630 kgf｝	47.7 kW ｛64.9 PS｝	6.66 km/h
8 速	19.22 kN ｛1960 kgf｝	48.6 kW ｛66.1 PS｝	9.11 km/h

3. 作業機昇降装置性能

揚力（圧力 17.65 MPa｛180 kgf/cm²｝のとき）	下部リンクヒッチ点揚力	フレーム上の揚力
アシストシリンダ付	30.11 kN ｛3070 kgf｝	25.79 kN ｛2630 kgf｝
アシストシリンダ無	21.97 kN ｛2240 kgf｝	20.84 kN ｛2125 kgf｝

ポンプ性能（最大出力時）

流　量	圧　力	出　力
37.5 l/min	17.95 MPa ｛183 kgf/cm²｝	11.3 kW ｛15.3 PS｝

4. 騒音（運転者の耳もと）：81 dB (A)
5. 静的横転倒角：38°
6. 最小旋回半径（ブレーキ使用時）：3.42 m
7. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

Ⅲ　付　　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（昭和62年3月5日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第Ⅳ類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	90031	型式名	クボタ M1−100DT
		依頼者名	株式会社 クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

平成　生物系特定産業技術研究推進機構

■ ４輪駆動
■ 大型特殊自動車
■ 機関呼称出力：73.6 kW {100 PS}／ 2400 rpm
■ 走行速度段数：前進24段　後進24段（シャトル変速）
■ ＰＴＯ変速段数：２段
■ グランドＰＴＯ付き
■ パワーステアリング付き
■ 旋回時前輪増速機構付き※

※オプション装備

Ⅰ　主要諸元・構造

1. 機体の大きさ

■ 全長：4.23 m（前輪タイヤ〜下部リンク後端）
■ 全幅：2.05 m（前輪最外側）
　試験時の前輪輪距 1.64 m
　試験時の後輪輪距 1.55 m
■ 全高：2.69 m（安全キャブ上端）
■ 質量：3955 kg（付加重錘なし）
　前輪1542 kg　後輪2413 kg
■ 軸距：2.57 m
■ 輪距：前輪 1.64，1.74（2段階）
　後輪 1.55，1.68，1.83，1.96，2.03，2.16（6段階）
■ タイヤ：前輪 13.6−24−6ＰＲ
　後輪 16.9−38−8ＰＲ
■ ＰＴＯ軸高さ：0.78 m
■ ＰＴＯ軸端〜下部リンク後端：0.66 m

2. 機関

■ 種類：水冷４サイクル５気筒ディーゼル
■ 呼称出力：73.6 kW {100PS}　2400 rpm
■ 総行程容積：5.411 l
■ 燃焼室形式：直接噴射式
■ 過給機：なし

3. 伝動装置

■ 主クラッチ形式：乾式単板
■ 主変速：6段
■ 第1副変速：2段
■ 第2副変速：2段
■ 前進：24段（1.2〜31.6 km／h）
■ 後進：24段（1.2〜32.1 km／h）
■ デフロック装置：あり（前後輪）

4. ＰＴＯ

■ クラッチ形式：独立型
■ 規格：6スプライン軸径 35 mm
■ 回転数（機関定格回転数のとき）：637，1005 rpm

5. けん引装置

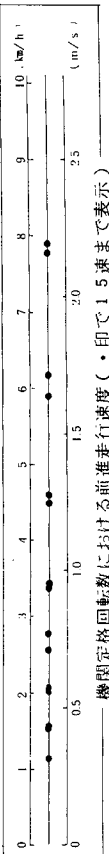
■ 形式：スウィングドローバ

6. 作業機昇降装置

■ 制御方式：ポジション及びドラフトコントロール
■ 油圧外部取出口：ＰＴ1/2，2個
■ 作業機装着装置：３点リンク２形

7. かじ取装置

■ 形式：油圧式（全油圧式）

機関定格回転数における前進走行速度（・印で１５速まで表示）

Ⅱ　検査成績

1. ＰＴＯ性能

■ トルクバックアップ比：1.25
■ 弾性値：2.50
■ 最大出力時：

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
67.0 kW {91.1 PS}	266 g／kW・h {196 g／PSh}	1000 rpm	17 %

2. けん引性能（コンクリート上）

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	31.13 kN {3174 kgf}	15.9 kW {21.6 PS}	1.84 km/h（4速）
7.5 km／hに最も近い速度段	27.55 kN {2809 kgf}	54.9 kW {74.6 PS}	7.17 km/h（14速）
最大けん引出力	20.82 kN {2123 kgf}	56.3 kW {76.5 PS}	9.73 km/h（16速）

3. 作業機昇降装置性能

■ リリーフ弁設定圧力：19.6 MPa {200 kgf／cm²}
■ 油圧ポンプ性能：

条件	流量	圧力	出力
最大出力	41.6 l/min	18.1 MPa {185 kgf/cm²}	12.6 kW {17.1 PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	41.8 l/min	17.7 MPa {180 kgf/cm²}	12.3 kW {16.7 PS}

■ 揚力（リリーフ弁設定圧力の90%圧力時換算）
アシストシリンダ１個の時

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	29.71 kN {3030 kgf}
フレーム上	29.86 kN {3045 kgf}

アシストシリンダ２個の時（オプション）

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	35.75 kN {3645 kgf}
フレーム上	31.82 kN {3245 kgf}

4. 騒音（運転者の耳もと）：79 dB(A)

※ 調速レバー位置
　実線：全開位置
　点線：標準ＰＴＯ回転数で最大出力の得られる位置

図　ＰＴＯ性能曲線

5. 静的横転倒角：38°

6. 最小旋回半径（コンクリート上）

ブレーキ使用時：3.74 m

7. 安全装備

可動部・高温部の防護カバー
昇降部の落下防止装置、その他の装置

8. その他

旋回時前輪増速機構は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0〜100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%又は油圧ポンプ最大出力時圧力のどちらか低い方の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5 km／hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

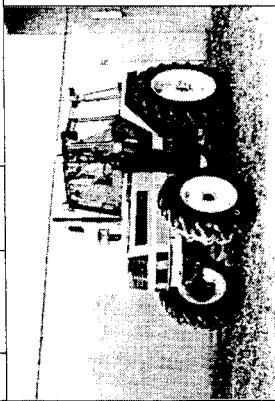
Ⅲ　付記

本機は、高性能農業機械導入基本方針（平成２年３月20日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第Ⅳ類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号			
90032	型式名	クボタ M1－115DT	平
	依頼者名	株式会社 クボタ	生
	住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	研

- ■4輪駆動
- ■大型特殊自動車
- ■機関呼称出力：84.6 kW {115PS}／2400 rpm
- ■走行速度段数：前進24段　後進24段（シャトル変速）
- ■PTO変速段数：2段
- ■グランドPTO付き
- ■パワーステアリング付き
- ■旋回時前輪増速機構付き※

※オプション装備

Ⅰ 主要諸元・構造

1. 機体の大きさ
- ■全長：4.36 m（前輪タイヤ～下部リンク後端）
- ■全幅：2.05 m（前輪最外側）
  - 試験時の前輪輪距 1.64 m
  - 試験時の後輪輪距 1.55 m
- ■全高：2.69 m（安全キャブ上端）
- ■質量：4038 kg（付加重錘なし）
  - 前輪1561kg　後輪2477kg
- ■軸距：2.69 m
- ■輪距：前輪 1.64，1.74（2段階）
  - 後輪 1.55，1.68，1.83，1.96，2.03　2.16（6段階）
- ■タイヤ：前輪 13.6－24－6PR
  - 後輪 16.9－38－8PR
- ■PTO軸高さ：0.78 m
- ■PTO軸端～下部リンク後端：0.66 m

2. 機　関
- ■種類：水冷4サイクル5気筒ディーゼル
- ■呼称出力：84.6 kW {115PS}　2400 rpm
- ■総行程容積：5.832 l
- ■燃焼室形式：直接噴射式
- ■過給機：なし

3. 伝動装置
- ■主クラッチ形式：乾式単板
- ■主変速：6段
- ■第1副変速：2段
- ■第2副変速：2段
- ■前進：24段（1.2～31.6 km/h）
- ■後進：24段（1.2～32.1 km/h）
- ■デフロック装置：あり（前後輪）

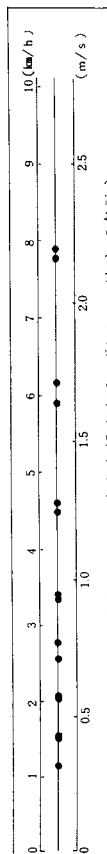
4. PTO
- ■クラッチ形式：独立型
- ■規　格：6スプライン軸径35 mm
- ■回転数（機関定格回転数のとき）：637，1005 rpm

5. けん引装置
- ■形式：スウィングドローバ

6. 作業機昇降装置
- ■制御方式：ポジション及びドラフトコントロール
- ■油圧外部取出口：PT1/2，2個
- ■作業機装着装置：3点リンク2形

7. かじ取装置
- ■形式：油圧式（全油圧式）

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (km/h)
0		0.5		1.0		1.5		2.0		2.5 (m/s)

機関定格回転数における前進走行速度（・印で15速まで表示）

Ⅱ 検査成績

1. PTO性能
- ■トルクバックアップ比：1.25
- ■弾性値：2.15
- ■最大出力時：

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
76.7 kW {104.3PS}	261 g/kW・h {192 g/PSh}	1005 rpm	16 %

2. けん引性能（コンクリート上）

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	33.80 kN {3447 kgf}	13.0 kW {17.7 PS}	1.38 km/h（2速）
7.5 km/hに最も近い速度段	31.76 kN {3239 kgf}	61.4 kW {83.5 PS}	6.96 km/h（14速）
最大けん引出力	23.69 kN {2416 kgf}	64.5 kW {87.7 PS}	9.80 km/h（16速）

3. 作業機昇降装置性能
- ■リリーフ弁設定圧力：19.6 MPa {200 kgf/cm²}
- ■油圧ポンプ性能：

条件	流量	圧力	出力
最大出力	41.6 l/min	18.1 MPa {185 kgf/cm²}	12.6 kW {17.1 PS}
リリーフ弁設定圧力の90%	41.8 l/min	17.7 MPa {180 kgf/cm²}	12.3 kW {16.7 PS}

- ■揚力（リリーフ弁設定圧力の90%圧力時換算）

アシストシリンダ1個の時

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	29.71 kN {3030 kgf}
フレーム上	29.86 kN {3045 kgf}

アシストシリンダ2個の時（オプション）

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	35.75 kN {3645 kgf}
フレーム上	31.82 kN {3245 kgf}

4. 騒音（運転者の耳もと）：81 dB(A)

※ 調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図 PTO性能曲線

5. 静的横転倒角：38°
6. 最小旋回半径（コンクリート上）
   ブレーキ使用時：3.77 m
7. 安全装備　可動部・高温部の防護カバー、昇降部の落下防止装置、その他の装置
8. その他　旋回時前輪増速機構は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%又は油圧ポンプ最大出力時圧力のどちらか低い方の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5 km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

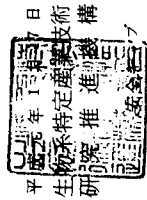
Ⅲ 付　記

本機は、高性能農業機械導入基本方針（平成2年3月20日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第Ⅳ類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成元年1月17日
生物系特定産業技術研究推進機構

合格番号　88040　型 式 名　**クボタ IC65**

依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名　依頼者に同じ
住　　所

Ⅰ　装着可能トラクター

1. 型 式 名
クボタM1－65DT

2. 主要諸元

型　式　名	：	クボタM1－65DT
種　　類	：	4輪駆動
質量(キャブ付き) kg	：	2995
軸　距 mm	：	2115
機関出力／回転数 kW{PS}／rpm	：	47.8{65}／2400

Ⅱ　構造の概要

1. 構造及び装着方法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介して，クラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），後窓，側窓を装備。

2. 主要寸法　※

座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	98.5 cm
フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	144.5 cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるキャブの内幅		：	117.0 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	120.0 cm
ステアリングホイールの中心からキャブ右側までの距離		：	65.5 cm
ステアリングホイールの中心からキャブ左側までの距離		：	67.5 cm
ステアリングホイールリムからキャブまでの最短距離		：	34.5 cm
戸口の幅	（上部）	：	66.5 cm
	（中部）	：	70.5 cm
	（下部）	：	28.0 cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	：	136.5 cm
	（最高位ステップから）	：	163.5 cm
	（最低位ステップから）	：	187.5 cm
キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	255.5 cm
	（排気管上端まで）	：	241.0 cm
キャブの全幅	（フェンダーを含む）	：	162.0 cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	27.5 cm

※ 1. クボタM1－65DT，タイヤサイズ：前輪9.5－24　後輪16.9－30 装着時
2. トラクターシートの銘柄型式：タチエス，M1－Ⅱ
3. ステアリングホイールのチルトは下から3段目に調節。

3. 主要材料
主　フ　レ　ー　ム：　STKR41，STK41，SS41，SPHC
装着ブラケット：　SS41
組立・装着ボルト：　SCM435，S45C

4. 主な装備
換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後），シートベルト（2点式）

Ⅲ　検査成績

1. 強度試験
1) 衝撃試験は，キャブの後方右側，前方左側，側方左側に対して実施。衝撃エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（キャブ付き）の質量は3100kg，軸距は2115mm。
衝撃エネルギー：　後方衝撃：5.89kJ{600kgf・m}前方衝撃：3.67kJ{374kgf・m}
　　　　　　　　　側方衝撃：11.57kJ{1180kgf・m}
圧　壊　力：　62.00kN{6322kgf}

2) 試験後のキャブの永久変位
後部（前方へ）：右側 6.0cm，左側 3.5cm　　前部（後方へ）：右側－6.0cm，左側－3.0cm
側部（右側方へ）：前側 9.5cm，後側 12.0cm　　上部（下方へ）：前部 右側4.0cm，左側1.5cm　後部 右側 1.0cm，左側－1.5cm

3) 側方衝撃試験時のキャブの瞬間最大変位と残留変位との差：11.0cm

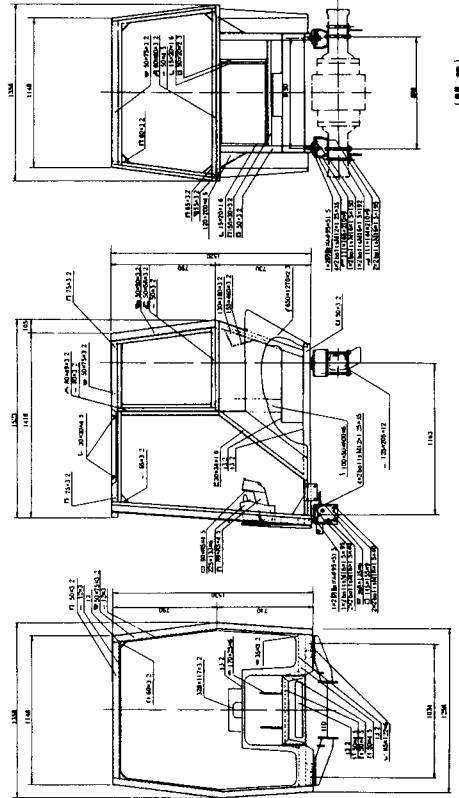
2. キャブ内の騒音（7.5km／hに近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）
77dBA〔クボタ M1－65DT〕

Ⅳ　付　図

Ⅴ　付　記

－

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成元年 1 月[illegible]7日
生物系特定産業技術研究推進機構

合格番号 88041	型式名	クボタ IC85
	依頼者名	久保田鉄工株式会社
	住　　所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
	製造者名	依頼者に同じ
	住　　所	

Ⅰ　装着可能トラクター

1. 型式名
   クボタ M1－85 DT　　　クボタ M1－75 DT

2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

型式名	：	クボタ M1－85 DT	クボタ M1－75 DT
種類	：	4輪駆動	4輪駆動
質量（キャブ付き） kg	：	3510	3245
軸距 mm	：	2300	2240
機関出力／回転数 kW{PS}／rpm	：	62.5{85}／2400	55.2{75}／2400

Ⅱ　構造の概要

1. 構造及び装着方法
   供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介して，クラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），後窓，側窓を装備。

2. 主要寸法　※

座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	100.5 cm
フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	144.0 cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるキャブの内幅		：	117.0 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	120.0 cm
ステアリングホイールの中心からキャブ右側までの距離		：	65.5 cm
ステアリングホイールの中心からキャブ左側までの距離		：	67.5 cm
ステアリングホイールリムからキャブまでの最短距離		：	33.5 cm
戸口の幅	（上部）	：	66.0 cm
	（中部）	：	70.0 cm
	（下部）	：	27.5 cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	：	137.0 cm
	（最高位ステップから）	：	164.5 cm
	（最低位ステップから）	：	188.5 cm
キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	263.5 cm
	（排気管上端まで）	：	246.0 cm
キャブの全幅	（フェンダーを含む）	：	182.0 cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	27.5 cm

※ 1. クボタ M1－85 DT，タイヤサイズ： 前輪 11.2－24　後輪 16.9－34 装着時
2. トラクターシートの銘柄型式： タチエス，M1－Ⅱ
3. ステアリングホイールのチルトは下から3段目に調節。

3. 主要材料
   主フレーム： STKR41，　STK41，　SS41，　SPHC
   装着ブラケット： SS41
   組立・装着ボルト： SCM435，　S45C

4. 主な装備
   換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後），シートベルト（2点式）

Ⅲ　検査成績

1. 強度試験
   1) 衝撃試験は，キャブの後方右側，前方左側，側方左側に対して実施。衝撃エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（キャブ付き）の質量は3550 kg，軸距は2300 mm。
   衝撃エネルギー： 後方衝撃： 7.97 kJ{813kgf・m}　前方衝撃： 3.84 kJ{392kgf・m}
   　　　　　　　　側方衝撃： 12.90 kJ{1315kgf・m}
   圧壊力： 71.00 kN{7240 kgf}
   2) 試験後のキャブの永久変位
   後部（前方へ）：{右側 3.5 cm／左側 0 cm}　前部（後方へ）：{右側 －3.5 cm／左側 0.5 cm}
   側部（右側方へ）：{前側 11.0 cm／後側 15.0 cm}　上部（下方へ）：前部{右側 1.0 cm／左側 －0.5 cm}　後部{右側 －1.5 cm／左側 2.0 cm}
   3) 側方衝撃試験時のキャブの瞬間最大変位と残留変位との差： 13.5 cm
2. キャブ内の騒音（7.5 km／h に近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）
   76 dBA〔クボタ M1－85 DT〕　　76 dBA〔クボタ M1－75 DT〕

Ⅳ　付図

Ⅴ　付記

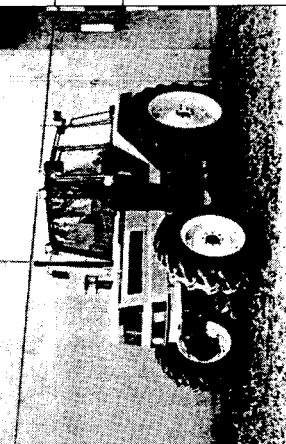
―

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：クボタIC115

合格番号：90037
種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東
　　　　　1丁目2番47号
製造者名：依頼者に同じ
住　　所：

Ⅰ　装着可能トラクター

1. 型式名

クボタM1－115DT　　クボタM1－100DT

2. 主要諸元

■型式名		クボタM1－115DT	クボタM1－100DT
■種類		4輪駆動	4輪駆動
■質量(キャブ付き)	kg	4040	3955
■軸距	mm	2690	2565
■機関出力／回転数	kW{PS}／rpm	84.6 {115}／2400	73.6 {100}／2400

Ⅱ　構造の概要

1. 構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介して，クラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），後窓，側窓を装備。

2. 主な装備

換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後），シートベルト（2点式）

3. 主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材(内張下面)までの高さ		99.0 cm
■フートプレートから屋根部材(内張下面)までの高さ		143.5 cm
■座席基準点上方90cmの高さにおけるキャブの内幅		103.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		120.5 cm
■戸口の幅	(上部)	66.5 cm
	(中部)	71.5 cm
	(下部)	27.5 cm
■戸口の高さ	(フートプレートから)	137.0 cm
■最低位ステップの高さ		54.0 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	(キャブ上端まで)	270.5 cm
■キャブの全幅	(フェンダーを含む)	182.0 cm
■座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		30.0 cm

※1. クボタM1－115DT(タイヤサイス：前輪13.6－24　後輪16.9－38)に装着時。
2. トラクターシートの銘柄型式：タチエス，M1－4
3. ステアリングホイールのチルトは中央位置，コラムは最短位置に調節。

4. 主要材料

■主フレーム：STKR41，STK41，SS41，SPHC
■装着ブラケット：SS41
■組立・装着ボルト：SCM435，S45C

Ⅲ　検査成績

1. 強度試験

1) 衝撃試験は，キャブの後方右側，前方左側，側方左側に対して実施。

■基準質量：4110 kg
■基準軸距：2690 mm
■衝撃エネルギー：後方衝撃 12.63 kJ {1288 kgf・m}　前方衝撃 4.06 kJ {414 kgf・m}
　　　　　　　　　側方衝撃 14.55 kJ {1484 kgf・m}
■圧壊力：82.20 kN {8384 kgf}

2) 試験後のキャブの永久変位

■後部(前方へ)：右側 8.0 cm　左側 0 cm
■前部(後方へ)：右側 −8.0 cm　左側 0.5 cm
■側部(右側方へ)：前側 13.0 cm　後側 17.5 cm
■上部(下方へ)：前部　右側 0.5 cm　左側 −0.5 cm
　　　　　　　　後部　右側 3.0 cm　左側 −1.0 cm

3) 側方衝撃試験時のキャブの瞬間最大変位と残留変位との差：10.0 cm

2. 騒音 ※

■ 80 dBA〔クボタM1－115DT〕　79dBA〔クボタM1－100DT〕

※ 7.5 km／hに近い速度段における無負荷走行時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ　付記

強度試験はコードⅠによって実施した。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成元年 1 月　日
生物系特定産業技術研究推進機構

合格番号　88042　型式名　**クボタ SF55**

依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名　依頼者に同じ
住　　所

Ⅰ　装着可能トラクター

1. 型式名

クボタ M1－55 DT　　クボタ M1－46 DT

2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

型式名	：	クボタ M1－55 DT	クボタ M1－46 DT
種類	：	4輪駆動	4輪駆動
質量（フレーム付き） kg	：	2545	2385
軸距 mm	：	2015	1970
機関出力／回転数 kW{PS}／rpm	：	40.5{55}／2400	33.8{46}／2600

Ⅱ　構造の概要

1. 構造及び装着方法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の4柱式であり，前部は防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部に，後部はフェンダー・防振ゴム・取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

2. 主要寸法　※

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ		：	104.5 cm
フートプレートから屋根部材（上面）までの高さ		：	146.5 cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅		：	103.5 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	－ cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離		：	68.0 cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離		：	70.0 cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離		：	50.0 cm
戸口の幅	（上部）	：	－ cm
	（中部）	：	62.5 cm
	（下部）	：	33.5 cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	：	141.0 cm
	（最高位ステップから）	：	182.0 cm
	（最低位ステップから）	：	－ cm
フレーム装着時のトラクターの全高	（キャノピー上端まで）	：	246.0 cm
	（排気管上端まで）	：	236.0 cm
フレームの全幅	（フェンダーを含む）	：	158.0 cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	23.0 cm

※ 1. クボタM1－55DT，タイヤサイズ：　前輪 9.5－20，後輪 14.9－28 装着時
2. トラクターシートの銘柄型式：　タチエス，M1－0
3. ステアリングホイールのチルトは下から3段目に調節。

3. 主要材料

主フレーム：　STKR41，SS41
装着ブラケット：　SS41
組立・装着ボルト：　S45C

4. 主な装備

キャノピー，シートベルト（2点式）

Ⅲ　検査成績

1. 強度試験

1) 衝撃試験は，フレームの後方右側，前方左側，側方左側に対して実施。衝撃エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は2650 kg，軸距は2015 mm。

衝撃エネルギー：　後方衝撃：　4.57 kJ{466kgf・m}　前方衝撃：3.49 kJ{356kgf・m}
側方衝撃：　10.25 kJ{1045kgf・m}
圧壊力：　53.00 kN{5404kgf}

2) 試験後のフレームの永久変位

後部（前方へ）：{右側 2.5cm，左側 0cm}　前部（後方へ）：{右側－2.5cm，左側 1.0cm}
側部（右側方へ）：{前側 13.0cm，後側 14.0cm}　上部（下方へ）：前部{右側0cm，左側0cm}　後部{右側 1.5cm，左側－2.0cm}

3) 側方衝撃試験時のフレームの瞬間最大変位と残留変位との差：　8.5 cm

2. フレーム内の騒音（7.5km／hに近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）

92 dBA〔クボタM1－55 DT〕　　91 dBA〔クボタ M1－46 DT〕

Ⅳ　付図

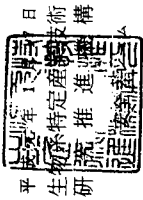
Ⅴ　付記

—

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成元年 1 月 [illegible] 日
生物系特定産業技術研究推進機構

合格番号　88043　　型 式 名　**クボタ SF65**

依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　　所　大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号
製造者名　依頼者に同じ
住　　所

Ⅰ　装着可能トラクター

1. 型 式 名

クボタ　M1－65 DT

2. 主要諸元

型　式　名	：	クボタ　M1－65 DT
種　　類	：	4輪駆動
質量（フレーム付き）　kg	：	2755
軸　　距　mm	：	2115
機関出力／回転数　kW｛PS｝／rpm	：	47.8｛65｝／2400

Ⅱ　構造の概要

1. 構造及び装着方法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の４柱式であり，前部は防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部に，後部はフェンダー・防振ゴム・取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

2. 主要寸法　※

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ		：	106.0　cm
フートプレートから屋根部材（上面）までの高さ		：	147.0　cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅		：	104.0　cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	－　cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離		：	69.5　cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離		：	71.5　cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離		：	51.0　cm
戸口の幅	（上部）	：	－　cm
	（中部）	：	67.0　cm
	（下部）	：	33.5　cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	：	141.5　cm
	（最高位ステップから）	：	167.0　cm
	（最低位ステップから）	：	191.5　cm
フレーム装着時のトラクターの全高	（キャノピー上端まで）	：	251.5　cm
	（排気管上端まで）	：	242.0　cm
フレームの全幅	（フェンダーを含む）	：	158.5　cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	26.0　cm

※ 1. クボタM1－65DT，タイヤサイズ：　前輪　9.5－24　後輪　13.9－36　装着時
2. トラクターシートの銘柄型式：　タチエス，M1－0
3. ステアリングホイールのチルトは下から3段目に調節。

3. 主要材料

主フレーム：　STKR41，SS41
装着ブラケット：　SS41
組立・装着ボルト：　S45C

4. 主な装備

キャノピー，シートベルト（2点式）

Ⅲ　検査成績

1. 強度試験

1）衝撃試験は，フレームの後方右側，前方左側，側方左側に対して実施。衝撃エネルギーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は2855 kg，軸距は 2115 mm。

衝撃エネルギー：　後方衝撃：　5.42 kJ｛553 kgf・m｝前方衝撃：3.57 kJ｛364 kgf・m｝
　　　　　　　　　側方衝撃：10.85 kJ｛1107 kgf・m｝
圧　壊　力：　57.10 kN｛5823 kgf｝

2）試験後のフレームの永久変位

後部（前方へ）：｛右側 4.5cm，左側 3.0cm｝　前部（後方へ）：｛右側－4.5cm，左側－3.0cm｝

側部（右側方へ）：｛前側 11.5cm，後側 11.5cm｝　上部（下方へ）：前部｛右側 2.0cm，左側 1.5cm｝　後部｛右側 0.5cm，左側－2.0cm｝

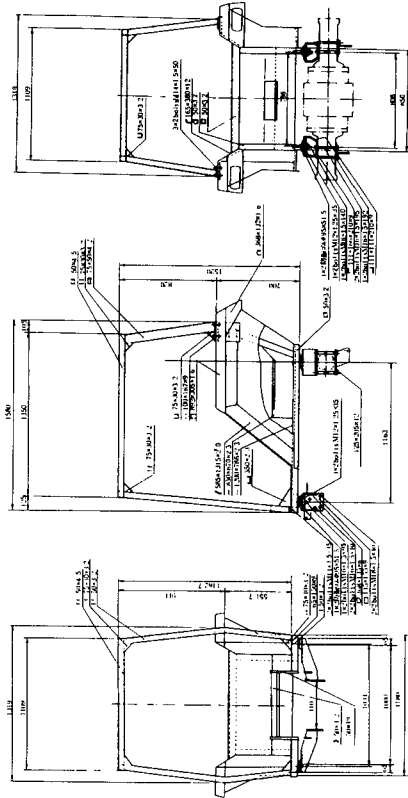
3）側方衝撃試験時のフレームの瞬間最大変位と残留変位との差：　10.5 cm

2. フレーム内の騒音（7.5km／hに近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）

93 dBA〔クボタM1－65DT〕

Ⅳ　付　図

Ⅴ　付　記

－

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

合格番号 88044　型式名　**クボタ SF85**

依頼者名　久保田鉄工株式会社
住　所　大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名　依頼者に同じ
住　所

Ⅰ 装着可能トラクター

1. 型式名

クボタ M1－85DT　　クボタ M1－75DT

2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

型式名	：	クボタ M1－85DT	クボタ M1－75DT
種類	：	4輪駆動	4輪駆動
質量（フレーム付き） kg	：	3220	2930
軸距 mm	：	2300	2240
機関出力／回転数 kW{PS}／rpm	：	62.5{85}／2400	55.2{75}／2400

Ⅱ 構造の概要

1. 構造及び装着方法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の4柱式であり，前部は防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部に，後部はフエンダー・防振ゴム・取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

2. 主要寸法 ※

座席基準点から屋根部材（上面）までの高さ		：	105.0 cm
フートプレートから屋根部材（上面）までの高さ		：	146.5 cm
座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅		：	103.5 cm
ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	－ cm
ステアリングホイールの中心からフレーム右側までの距離		：	69.5 cm
ステアリングホイールの中心からフレーム左側までの距離		：	71.5 cm
ステアリングホイールリムからフレームまでの最短距離		：	50.5 cm
戸口の幅	（上部）	：	－ cm
	（中部）	：	67.5 cm
	（下部）	：	33.5 cm
戸口の高さ	（フートプレートから）	：	141.5 cm
	（最高位ステップから）	：	167.5 cm
	（最低位ステップから）	：	191.5 cm
フレーム装着時のトラクターの全高	（キャノピー上端まで）	：	259.5 cm
	（排気管上端まで）	：	246.5 cm
フレームの全幅	（フェンダーを含む）	：	158.0 cm
座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	27.0 cm

※ 1. クボタ M1－85DT，タイヤサイズ： 前輪 11.2－24　後輪 16.9－34　装着時
2. トラクターシートの銘柄型式： タチエス，M1－0
3. ステアリングホイールのチルトは下から3段目に調節。

3. 主要材料

主フレーム： STKR41，SS41
装着ブラケット： SS41
組立・装着ボルト： S45C

4. 主な装備

キャノピー，シートベルト（2点式）

Ⅲ 検査成績

1. 強度試験

1) 衝撃試験は，フレームの後方右側，前方左側，側方左側に対して実施。衝撃エネルキーと圧壊力の算出に用いたトラクター（フレーム付き）の質量は 3325 kg，軸距は 2300 mm。

衝撃エネルギー： 後方衝撃： 7.47 kJ{762kgf・m}　前方衝撃： 3.76 kJ{383kgf・m}
側方衝撃： 12.23 kJ{1248kgf・m}

圧壊力： 66.50 kN{6781kgf}

2) 試験後のフレームの永久変位

後部（前方へ）：右側 4.0 cm，左側 1.5 cm　前部（後方へ）：右側－4.0 cm，左側－1.0 cm

側部（右側方へ）：前側 6.5 cm，後側 8.0 cm　上部（下方へ）：前部 右側 0 cm，左側－0.5 cm　後部 右側 1.0 cm，左側－2.0 cm

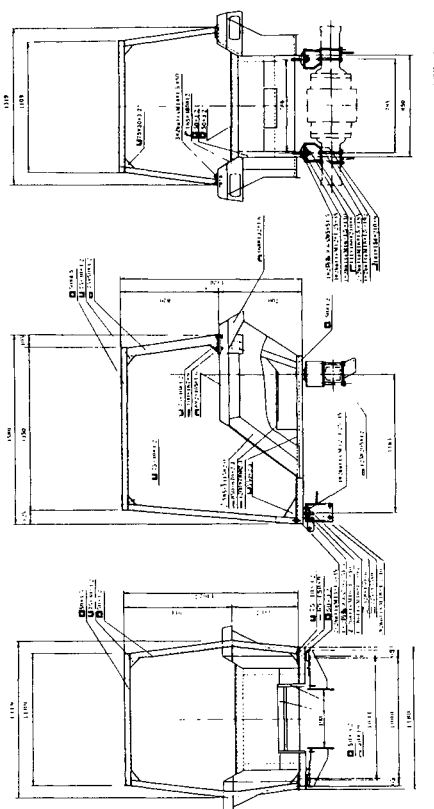
3) 側方衝撃試験時のフレームの瞬間最大変位と残留変位との差： 8.5 cm

2. フレーム内の騒音（7.5km／hに近い速度段における無負荷走行時，運転者の耳もと）

93 dBA〔クボタM1－85DT〕　92 dBA〔クボタM1－75DT〕

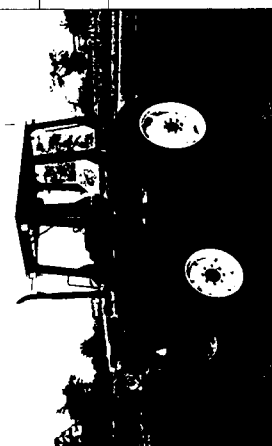
Ⅳ 付図

Ⅴ 付記

―

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：クボタCQ55

合格番号：89013
種　　類：安全キャブ

依頼者名：久保田鉄工株式会社
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名：依頼者に同じ
住　　所：

Ⅰ　装着可能トラクター

1. 型式名
クボタM1－55DT　　クボタM1－46DT

2. 主要諸元

■型　式　名		クボタM1－55DT	クボタM1－46DT
■種　類		4輪駆動	4輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	2735	2540
■軸　距	mm	2015	1970
■機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	40.5{55}/2400	33.8{46}/2600

Ⅱ　構造の概要

1. 構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介して，クラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），後窓，側窓を装備。

2. 主な装備
暖房装置，冷房装置，電動ワイパー（前），シートベルト（2点式）

3. 主要寸法※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		112.0cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		152.0cm
■座席基準点上方90cmの高さにおけるキャブの内幅		112.0cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		128.0cm
■戸口の幅	（上部）	65.5cm
	（中部）	72.5cm
	（下部）	29.0cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	135.0cm
■最低位ステップの高さ		52.0cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	250.0cm
■キャブの全幅		133.5cm
■座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		26.0cm

※1. クボタM1－55DT（タイヤサイズ　前輪9.5－20　後輪14.9－28）に装着時。
2. トラクターシートの銘柄型式　タチエス，M1－1
3. ステアリングホイールのチルトは下から3段目に調節。

4. 主要材料
■主フレーム：STKR41，SS41，SPHC
■装着ブラケット：SS41
■組立・装着ボルト：SCM435，S45C

Ⅲ　検査成績

1. 強度試験
1）衝撃試験は，キャブの後方右側，前方左側，側方左側に対して実施。
■基準質量：2800kg
■基準軸距：2015mm
■衝撃エネルギー：後方衝撃　4.82kJ{ 492 kgf・m}　前方衝撃　3.55kJ{362 kgf・m}
　：側方衝撃　10.69kJ{1090 kgf・m}
■圧壊力：56.00kN{5712 kgf}
2）試験後のキャブの永久変位
■後部（前方へ）：右側　1.5cm　左側　－0.5cm
■前部（後方へ）：右側　－1.5cm　左側　0.5cm
■側部（右側方へ）：前側　13.0cm　後側　11.0cm
■上部（下方へ）：前部　右側　0.5cm　左側　0cm
　後部　右側　2.0cm　左側　－2.0cm
3）側方衝撃試験時のキャブの瞬間最大変位と残留変位との差：8.5cm

2. 騒音※
■81dBA〔クボタM1－55DT〕　82dBA〔クボタM1－46DT〕
※7.5km／hに近い速度段における無負荷走行時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ　付記

強度試験はコードⅠによって実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：**クボタCQ65**

合格番号：89014
種　類：安全キャブ

依頼者名：久保田鉄工株式会社
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名：依頼者に同じ
住　所：

Ⅰ　装着可能トラクター

1. 型式名
クボタM1－65DT

2. 主要諸元
■型　式　名　：クボタM1－65DT
■種　類　：4輪駆動
■質量（キャブ付き）　kg：2890
■軸　距　mm：2115
■機関出力／回転数　kW(PS)/rpm：47.8(65)/2400

Ⅱ　構造の概要

1. 構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介して，クラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），後窓，側窓を装備。

2. 主な装備
暖房装置，冷房装置，電動ワイパー（前），シートベルト（2点式）

3. 主要寸法※
■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ　：114.0cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ　：152.5cm
■座席基準点上方90cmの高さにおけるキャブの内幅　：113.0cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅　：125.0cm
■戸口の幅　（上部）　：66.0cm
（中部）　：72.5cm
（下部）　：28.0cm
■戸口の高さ　（フートプレートから）　：134.5cm
■最低位ステップの高さ　：49.5cm
■キャブ装着時のトラクターの全高　（キャブ上端まで）　：256.5cm
■キャブの全幅　：133.5cm
■座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離　：27.5cm

※1. クボタM1－65DT（タイヤサイズ・前輪9.5－24　後輪16.9－30）に装着時。
2. トラクターシートの銘柄型式　タチエス，M1－1
3. ステアリングホイールのチルトは下から3段目に調節。

4. 主要材料
■主フレーム：STKR41，SS41，SPHC
■装着ブラケット：SS41
■組立・装着ボルト：SCM435，S45C

Ⅲ　検査成績

1. 強度試験
1）衝撃試験は，キャブの後方右側，前方左側，側方左側に対して実施。
■基準質量：2995kg
■基準軸距：2115mm
■衝撃エネルギー：後方衝撃　5.69kJ(580 kgf・m)　前方衝撃　3.63kJ(370 kgf・m)
：側方衝撃　11.26kJ(1149 kgf・m)
■圧壊力：59.90kN(6110 kgf)
2）試験後のキャブの永久変位
■後部(前方へ)：右側　2.5cm　左側　－0.5cm
■前部(後方へ)：右側　－2.5cm　左側　0.5cm
■側部(右側方へ)：前側　16.5cm　後側　14.5cm
■上部(下方へ)：前部　右側　2.0cm　左側　0.5cm
後部　右側　3.0cm　左側　－2.0cm
3）側方衝撃試験時のキャブの瞬間最大変位と残留変位との差　7.0cm

2. 騒音※
■83dBA〔クボタM1－65DT〕
※7.5km／hに近い速度段における無負荷走行時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

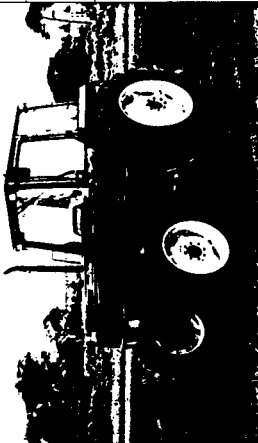
Ⅳ　付　記

強度試験はコードⅠによって実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：クボタCQ85

合格番号：89015
種類：安全キャブ

依頼者名：久保田鉄工株式会社
住所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名：依頼者に同じ
住所：

Ⅰ 装着可能トラクター

1. 型式名
クボタM1－85DT　クボタM1－75DT

2. 主要諸元

		クボタM1－85DT	クボタM1－75DT
■型式名		クボタM1－85DT	クボタM1－75DT
■種類		4輪駆動	4輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	3395	3125
■軸距	mm	2300	2240
■機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	62.5{85}/2400	55.2{75}/2400

Ⅱ 構造の概要

1. 構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介して，クラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア(両側)，後窓，側窓を装備。

2. 主な装備
暖房装置，冷房装置，電動ワイパー（前），シートベルト（2点式）

3. 主要寸法※
■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ：114.0cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ：152.0cm
■座席基準点上方90cmの高さにおけるキャブの内幅：113.0cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅：125.0cm
■戸口の幅（上部）：66.0cm
（中部）：72.0cm
（下部）：29.0cm
■戸口の高さ（フートプレートから）：134.5cm
■最低位ステップの高さ：57.5cm
■キャブ装着時のトラクターの全高（キャブ上端まで）：264.0cm
■キャブの全幅：133.5cm
■座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離：25.0cm

※1. クボタM1－85DT（タイヤサイズ：前輪11.2－24 後輪16.9－34）に装着時。
2. トラクターシートの銘柄型式：タチエス，M1－1
3. ステアリングホイールのチルトは下から3段目に調節。

4. 主要材料
■主フレーム：STKR41，SS41，SPHC
■装着ブラケット：SS41
■組立・装着ボルト：SCM435，S45C

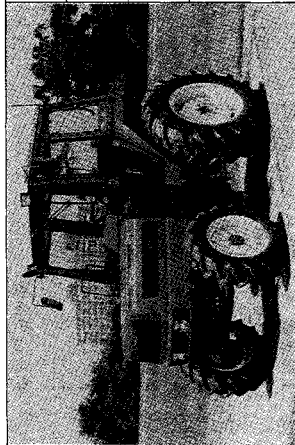
Ⅲ 検査成績

1. 強度試験
1）衝撃試験は，キャブの後方右側，前方左側，側方左側に対して実施。
■基準質量：3420kg
■基準軸距：2300mm
■衝撃エネルギー：後方衝撃 7.69kJ{784 kgf･m} 前方衝撃 3.79kJ{386 kgf･m}
：側方衝撃 12.51kJ{1276 kgf･m}
■圧壊力：68.40kN{6977 kgf}
2）試験後のキャブの永久変位
■後部(前方へ)：右側 3.5cm　左側 －0.5cm
■前部(後方へ)：右側 －3.5cm　左側 1.0cm
■側部(右側方へ)：前側 17.5cm　後側 15.0cm
■上部(下方へ)：前部 右側 0.5cm　左側 1.0cm
後部 右側 3.0cm　左側 －2.5cm
3）側方衝撃試験時のキャブの瞬間最大変位と残留変位との差：8.0cm

2. 騒音※
■82dBA〔クボタM1－85DT〕　81dBA〔クボタM1－75DT〕
※7.5km／hに近い速度段における無負荷走行時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付記

強度試験はコードⅠによって実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：クボタ IC60

合格番号：96043

種　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型式名
クボタ M1－60SDT

2．主要諸元

■型式名		：	クボタ M1－60SDT
■種類		：	4輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	：	2799
■軸距	mm	：	2015
■機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	：	44.1{60}/2400

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備
シートベルト（2点式），換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	104.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	144.0 cm
■座席基準点上方90cmの高さにおけるキャブの内幅		：	105.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	119.0 cm
■戸口の幅	（上部）	：	62.5 cm
	（中部）	：	70.5 cm
	（下部）	：	27.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	136.5 cm
■最低位ステップの高さ		：	51.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	248.5 cm
■キャブの全幅		：	135.5 cm
■座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	26.5 cm

※1．クボタ M1－60SDT（タイヤサイズ：前輪 9.5-20　後輪 14.9-28）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：タチエス，M1－0
3．ステアリングホイールのチルトは上から4段目に調節。

4．主要材料
■主フレーム：STKR 400，STK 400 または SS 400，SS 400，SPHC，SS 400 または SPHC
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：SCM 435，S45C

Ⅲ　検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，キャブの後部右側，前部左側，側部左側に対して実施。
■基準質量：2800 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　3.92 kJ {400 kgf·m}
前部負荷　1.90 kJ {194 kgf·m}
側部負荷　4.90 kJ {500 kgf·m}
■圧壊力：56.00 kN {5710 kgf}
2）試験後のキャブの永久変位
■後部（前方へ）：右側　3.0 cm　左側　1.5 cm
■前部（後方へ）：右側　－5.0 cm　左側　－3.0 cm
■側部（右側方へ）：前側　6.0 cm　後側　8.0 cm
■上部（下方へ）：前部 右側　－1.5 cm　左側　－2.0 cm
後部 右側　－1.0 cm　左側　－3.5 cm
3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差：11.0 cm

2．騒音 ※
■　82 dBA〔クボタ M1－60SDT〕

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ　付　記

強度試験はコードⅠにより実施した。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

本　　　　社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
東　京　本　社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北　海　道　支　社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東　北　支　社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中　部　支　社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九　州　支　社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札　幌　支　店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)	662-2121
仙　台　支　店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東　京　支　店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大　阪　支　店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡　山　支　店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福　岡　支　店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺　製　造　所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇　都　宮　工　場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑　波　工　場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-5112
枚　方　製　造　所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	北海道北広島市大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011)	376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
株式会社クボタアグリ東北				
秋　田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙　台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東　京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新　潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金　沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大　阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米　子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)	33-5011
岡　山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高　松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福　岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊　本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番　33760—9971—2